

設置の趣旨等を記載した書類

目次

1. 設置の趣旨及び必要性	1
1. 1 新潟大学創生学部を設置の趣旨及び必要性	1
(1) 設置の趣旨と基本理念	1
(2) 人材育成ニーズの多様化に対する新たな教育改革の必要性	2
1. 2 新潟大学におけるこれまでの教育改革	2
1. 3 新潟大学に「創生学部」を設置する意義ー学士課程教育改革の2つの方向性ー	3
1. 4 新潟大学に創生学部を設置する優位性	4
(1) 学位プログラム化の推進による教育の質保証	5
(2) 新潟大学学士力アセスメントシステム (NBAS) の開発・導入	5
(3) 初年次導入教育の確立と主体的学修の促進	5
(4) 地域社会・産業界との連携による教育推進と国際交流の活性化	6
2. 創生学部が育成する人材像	6
2. 1 創生学部のディプロマポリシー	6
2. 2 創生学部の特徴	8
(1) 課題発見・課題解決能力の育成を重視した教育課程の編成	8
(2) 学生の志向性に応じて選択可能な22の領域学修科目パッケージ	8
(3) 学生が自分の学士力 (最終的な学修成果) を自ら証明する学位授与方式の導入	8
(4) 少人数教育と充実した教育・学修サポート	8
2. 3 高校生及び社会のニーズと学生定員 (学生確保と卒業後の進路)	9
(1) 高校生の本学部への進学に向けた意向	9
(2) 社会の創生学部卒業生受け入れに向けた意向	9
(3) 学生定員の考え方	9
2. 4 卒業後の進路	10
3. 教育組織の名称及び学位の名称	10
3. 1 教育組織の名称	10
3. 2 学位の名称	12
4. 教育課程の編成の考え方及び特色	12
4. 1 ディプロマポリシーに対応した教育課程編成 (カリキュラムポリシー) の基本的な方針	12
4. 2 科目区分による教育課程編成の考え方	15
4. 3 創生学部での教育課程と他の教育プログラムとの違い・特色のまとめ	20
(1) 本学の主専攻プログラム (学士課程学位プログラム) との学修構造の違い	20
(2) 領域学修科目パッケージでの履修 (創生学部学生) と主専攻プログラムのカリキュラム全体での履修 (主専攻プログラム学生) との違い	21
(3) 創生学部の教育課程における総合力育成に対する領域学修の位置づけ	22

(4) 創生学部教育課程の特徴のまとめ.....	23
4. 4 学生が自ら設計（選択）した教育課程により，それぞれ特徴づけられる人材像.....	24
(1) ディプロマポリシーと学生が設定する到達目標.....	24
(2) 選択する領域学修により育成される人材像の特徴.....	25
5. 教員組織の編成の考え方及び特色	26
5. 1 教員組織の構造化.....	26
5. 2 教員組織の特色.....	28
5. 3 教員組織の研究分野.....	30
6. 教育方法，履修指導方法及び卒業要件	30
6. 1 教育課程について（授業の方法，学生数，配当年次）	30
6. 2 CAP 制及び他大学における授業科目の履修等	33
6. 3 4年間を通した履修指導.....	33
6. 4 卒業要件（学位認定）	35
(1) 学位認定に関する基本的考え方.....	35
(2) 卒業要件及び履修方法.....	37
7. 施設・設備等の整備計画	38
(1) 校地，運動場の整備計画.....	38
(2) 校舎等施設の整備計画.....	38
(3) 図書等の資料及び図書館の整備計画.....	38
8. 入学者選抜の概要	39
8. 1 アドミッションポリシー.....	39
8. 2 選抜方法	39
9. 地域・企業実習等の学外実習の具体的計画	41
10. 管理運営	43
(1) 審議機関	43
(2) 教授会等の教員会議.....	43
(3) 事務組織	44
11. 自己点検・自己評価	44
(1) 全学的実施体制.....	44
(2) 実施方法，結果の活用，公表及び評価項目等.....	44
12. 情報の公表	44
(1) 新潟大学の取組.....	44
(2) 創生学部の取組.....	45
13. 教育内容等の改善を図るための組織的な研修等	45
(1) 新潟大学の取組.....	45
(2) 創生学部の取組.....	46
14. 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制	47
(1) 教育課程内の取組について.....	47
(2) 教育課程外の取組について.....	48
(3) 適切な体制の整備について.....	48

1. 設置の趣旨及び必要性

1. 1 新潟大学創生学部設置の趣旨及び必要性

(1) 設置の趣旨と基本理念

新潟大学は、世界に開かれた海港都市の進取の精神に基づき、「自律と創生」を全学の理念に掲げ、人文学部、教育学部、法学部、経済学部、理学部、医学部、歯学部、工学部、農学部の 9 学部から成る日本海側ラインに位置する大規模総合大学である。環東アジア地域を基点に世界を見据え、教育と研究及び社会貢献を通じて、世界の平和と発展に寄与することを全学の目的としている。本学では地域や世界の着実な発展に貢献できる人材育成を目指し、従来型の学問分野に準拠した学部教育から、育成すべき人材像に即した人材育成プログラムによる学士課程教育への転換を目指した改革を行ってきた。

これまでの改革の中で、学問分野準拠型の教育プログラムで育った学生の進路が、当該プログラムが想定している範囲を越えて多様化していること、また、学生の履修行動に変化が認められ、学修の目的が必ずしも学修成果の獲得でなく、単位取得と卒業が自己目的化している危惧が認められることなどの課題が明らかになってきた。そこで、それら新潟大学における人材育成上の課題を解決し、学生による学修中心の学士課程教育への改革を加速することを目的として、従来と異なる新たなカリキュラム構造を持つ「創生学部」を設置することとした。【資料 1】

創生学部の設置の目的は、新潟大学の既存学部の学問体系（ディシプリン）に依拠した「到達目標達成型」学位プログラム（主専攻プログラム）の豊富な教育資源（授業科目とその体系性）を活用して、学生が自らのキャリア形成をイメージし、オーナーシップを持って学修する「到達目標創生型」学位プログラムによる教育を実現することにある。創生学部のコアカリキュラムは、学生の学修における主体性の確立をサポートする授業科目や課題解決型学修中心の授業科目による「リテラシー学修」を中心に据え、ともすると受動的学修者に留まりがちな学生を、4 年間の学修の中で自己の人材価値を能動的に高めていくことが出来る学修者（以下「自己創造型学修者」とする）に転換することを中核の目的とする。ここでの「リテラシー」は、複数の領域の見地から物事を「視る力」、異なる環境（状況）に「適応する力」、他者と協働するプロジェクト等を「コーディネートする力」といった生涯にわたって学修し続けるために必要な能力を総称した用語として定義する。

大学において、学生が何らかの専門領域分野の知識と技能を身につけることの重要性は誰もが認めるところである。また、専門領域分野の学修無しに今日の社会で必要なリテラシーの重要な要素である「知識を活用する力」は育まれない。したがって、創生学部では、新潟大学の既存学部から提供される 22 分野の領域学修科目パッケージによる専門領域の学修が組み込まれている。学生は、体系的に配置された領域学修科目を履修することにより、いずれかの専門領域について一定程度の知識と技能を身につけるとともに、リテラシー学修の中でその活用を試みることになる。

新潟大学では、これまで、学生の主体的学修を支援するための諸施策を実施してきた。創生学部では、本学が教育改革を通じて培ってきた、初年次教育改革による問題解決型学修、主専攻プログラムによる専門領域の体系的学修カリキュラムの整備、後述する NBAS（新潟大学学士力アセスメントシステム：Niigata University Bachelor Assessment System）によるラーニングアドバイスのサポート機能といった様々な実績としくみを活用して、集約的な学生指導を実現する。

（２）人材育成ニーズの多様化に対する新たな教育改革の必要性

知識基盤社会の到来により、社会から求められる人材も多様化している。とりわけ産業界からは、「他者と協働しながら価値の創造に挑み、未来を切り開いていく力を身に付けた人材」として付加価値の高い人材の育成が望まれている（平成 27 年「産業競争力会議 雇用・人材・教育WG（第 4 回）」）。それは、急激な時代変化と今後進んでいく 18 歳人口の減少の中で、将来的に我が国の成長を支える人材の生産性を如何に高めるかという社会の切実な要請であり、人材を送り出す大学教育に課せられた重要な課題である。そこでは、経済社会との関係だけではなく、高等学校から大学への接続の観点も意識されなければならない。初等中等教育から高等教育まで一貫した形で、「知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力」や「主体性をもって多様な人々と協働する態度」といった新しい学力観を育む教育システムの要請が高まっている（平成 26 年「新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体的改革について（答申）」）。今日の大学で、学生の主体性を伸長する契機としての「学事暦の柔軟化」と「ギャップターム」の活用による社会人基礎力等に代表される汎用的能力の涵養が強く求められていることは、学生に対して、知識・技能の習得に留まらず「学修する動機」を考察することを求める大学教育への転換の必要性を含意している。

このような人材育成への要請の高まりは、高等教育機関に対する社会からの高い期待であると認識できる。そもそもは、高等教育機関における教育の前提として、主体的かつ能動的な学修者という学生像があったはずであるが、現在の学生の実態はそれをアприオリに前提とすることを許さないのも事実である。したがって、我々はその前提となるべき学生像に叶う学生を育てる必要性に気づきつつも、そのことを実現できていない反省を深く持っていた。近年、高大接続の重要性が指摘され、ギャップターム導入などの可能性が検討されるに至っているのは、同様の状況認識に発するものと考えられる。創生学部はその課題を設置目的の中心に据えた教育体制の整備を企図したものである。ユニバーサル化した大学における多様な背景をもった学生を、自己創造型学修者として社会に送り出すことに焦点を絞った教育課程の設置は、極めて重要かつ喫緊の課題であると考えている。

1. 2 新潟大学におけるこれまでの教育改革

新潟大学における学士課程教育構造化への基盤整備として平成 14 年から平成 16 年にかけて行われたのが、教員人事組織と教育組織との分離による「教育研究院」の設置である。新潟大学の教員は人文社会・教育科学、自然科学、医歯学の 3 つの学系で構成される教育研究院のいずれかに所属する。「学部」は、教育研究院から派遣された教員が担当する学生が所属する教育組織と再定義された。併せて、同時期に授業科目の「全学科目化」を進め、専門科目と全学共通科目（教養科目）の科目区分を撤廃するとともに、授業科目に学問分野と水準を示すコードを振り、ナンバリング機能を有する「分野・水準表示法」として運用している。学部の教育的需要を踏まえて全学組織である「教育・学生支援機構」が授業科目を開設し、科目担当者は学系が供給するものとしたことで、授業科目の体系的管理と人事組織である教育研究院の教育的機能を明確化した。これらの基盤の上に、平成 18 年以降、従来の学部教育を「到達目標達成型教育プログラム」である「主専攻プログラム」から構成される「学士課程教育」に組み換えた。主専攻プログラムは、学部のもとに設置さ

れ、その内容は「人材育成のねらい（人材育成目標）」、「学習到達目標」、「授業科目リスト（カリキュラムマップ）」などを含む「主専攻プログラム規格」によって規定されている。具体的には、本学における学士力として四つの教育目標領域（「知識・理解」、「分野固有の能力」、「汎用的能力」、「態度・姿勢」）を設定し、主専攻プログラムごとに教育目標領域に対する到達目標を記述し、カリキュラムマップにより教育課程の体系性を確保することで、人材育成目標を構造基準とする学位プログラムとして再編成した。さらに、平成 25 年度には、新潟大学学士力アセスメントシステム（NBAS）を開発し、学修成果の可視化と学生の自律的学修を支援する学修ポートフォリオとして整備した。このシステムは、学生が自分の学修成果を省察し、それに基づいて次期の学修をデザインすることを支援する「教育から学修へ」という学士課程教育のパラダイムシフト実現に向けた取組である。NBAS には「学修成果の可視化」と「学修過程の蓄積」の機能が実装されている。学生は「学修成果の可視化」の機能の活用により、学生に公開されているカリキュラムマップを基礎に算出される学修到達度を確認でき、「学修過程の蓄積」の機能の活用より、自分の学修資源を管理する学修ポートフォリオを作成できる。学生はこれらの機能を活用しながら確かなエビデンスに基づいて自らの学修履歴を省察し、教員からの助言を受けながら次期学修の見通しを組み立てていくことになる。

以上の教育改革は、中央教育審議会でも議論されてきた「学士力」の参考指針（平成 20 年「学士課程教育の構築にむけて（答申）」）の方向性と軌を一にするものであり、「プログラムとしての学士課程教育概念の未定着」（平成 24 年「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて（答申）」）といった課題に対する枠組みを提案するものである。今回の創生学部は、以上の学士課程における改革の成果を基に、入学してくる学生の変化、さらに社会の人材育成ニーズの多様化に対応した新規の教育システムの構築を企図するものである。

1. 3 新潟大学に「創生学部」を設置する意義—学士課程教育改革の 2 つの方向性—

本学では、主専攻プログラム整備の取り組みを通して、プログラムが育成する卒業生の学修成果を担保する努力を行ってきた。プログラムが育成する人材の具体的能力をコンピテンシーレベルで明確化し、それぞれのコンピテンシーを育成するために配置されている授業科目をカリキュラムマップの形式で明示することによって、教養的な能力と専門的な能力を敢えて区別することなく、コンピテンシーと授業科目との関係を明らかにし、学士課程の有機的一貫教育の実現を目指している。そのことが、本学の学士課程教育における「到達目標達成型」の学位プログラムの推進という 1 つの教育改革の方向性である。

主専攻プログラムの最大の特長は、学問分野を教育プログラム構築の軸に据えて、「専門分野の能力をもって社会で活躍する人材」の具体的資質・能力が明確な人材を育成することにある。従来型の学問分野に準拠した学部学科におかれた主専攻プログラムの教育改革の方向性は、プログラムが定めた学習の到達目標に学生が達することに対する支援を強化する方向での改革である。

あらかじめ定められた到達目標に向かって学修できる人材、また、実際に専門分野で一定程度の能力を備えた人材が、社会で要求される人材タイプの 1 つであることは確かである。一方、精密に専門領域にカスタマイズされた人材では、多様化・複雑化する社会に対応しきれなくなるであろうことも懸念される。こうした状況を改善するための 1 つの方策として、本学がこれまで進めてきた到達目標達成型プログラムとは別のもう 1 つの教育改

革の方向性の具体化である、創生学部設置の着想に至った。創生学部の基本構想には、学生自らが学修目的を設定し、それを更新しながら学び続けることを課すような教育プログラムの導入が根底に存在する。創生学部では、学問的枠組みという所与の前提を排して、柔軟な思考や創造性といった「汎用的な能力」を中心に据え、現象に対して学生自身の主体的選択によって複眼的に学問的視点を導入する新たな発想による教育課程を編成することによって、グローバル化した社会において将来的に生じうる課題の解決に資する人材養成を志向している。つまり、学生の学修への主体的選択を尊重し、解決すべき課題を中心に学修を進める「到達目標創生型」の学位プログラムである。本学部設置は、4年間、恒常的に学生に主体的選択学修を意識させることによって、課題解決に向けて主体的に学修内容を選択して学修できる人材を育成することを企図している。【資料2】

創生学部の教育は、9つの学部を擁する大規模総合大学である本学のこれまでの教育改革の所産を総動員し、個別の学問分野の教育資源を融合的に活用するものであり、全学協働体制によって初めて実現できる人材育成システムである。後述する創生学部の教育課程は創生学部専任教員が担当する授業科目と既存学部から提供される領域学修科目のシステムティックな組み合わせによって編成されている。様々な専門領域を背景に持つ教員集団が人材育成という共通目的に向かって協働することを通じて機能する新たな学位プログラムを設置することは、既存の主専攻プログラムの基本構造を明確化し洗練させる契機となることも考えられるため、教育改革の2つの方向性の真の到達点は、実は同じ場所になるのかもしれない。その意味で、この2つの方向の改革を1つの大学で行うことによって、相互補完的な教育効果を生むことも期待できる。【資料3】

各学部の到達目標達成型プログラムでの学修においても、創生学部で行おうとしている学修スタイルが重要な要素となり得ることも確かである。しかし、現実に新潟大学の42の主専攻プログラムで個別にこのような学修スタイルのコースを実現するためには多くの準備が必要であることを考えたとき、新潟大学では新たな学部を創設し、そこでの教育成果を既存学部に波及させるという手段を執ることが効果的であると判断した。

また、創生学部においては、学生が専門領域における学修成果を異なる領域の学修者とぶつけ合うことにより、確認し、活用する機会が、導入・転換教育科目に始まり「プロジェクトゼミⅠ、Ⅱ」「ソリューションラボⅠ、Ⅱ」に至る体系的な授業シリーズとして提供される。社会の中では、異なる専門を持つ人々が協働して課題解決に当たることは極めて当然のことである。創生学部では、学生が専門領域学修を行う過程で、他の専門領域の学生との切磋琢磨の中での気づきで自らの学修を確認し、それを課題解決に適用していくことになり、「使える知識を自ら獲得する技能」を体得した「自己創造型学修者」として社会のリーダー人材に成長していくことが期待できる。

1. 4 新潟大学に創生学部を設置する優位性

これまでの教育改革の実績を踏まえて、以下の3つ観点から、本学に創生学部を設置する優位性を以下に示す。

（１）学位プログラム化の推進による教育の質保証

新潟大学では、教養科目と専門科目の区分を撤廃した「全学科目化」の利点を活用し、従来の教養教育と専門教育を有機的に統合した到達目標を具体的なコンピテンシーレベルで表現し、その目標に即して授業科目を編成した主専攻プログラムの枠組みがすでに整備されている。さらに、「本学の学生が身につけるべき能力（全学版）」に基づいたディプロマポリシー（学位授与の方針）、カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）、アドミッションポリシー（入学者受入れの方針）の一体的な見直しを「プログラムシラバス」を活用して継続的に行うことにより、「到達目標達成型主専攻プログラム」の強化を進めている。

創生学部は単一の学問領域に依拠しない「到達目標創生型」の学位プログラムであるが、「到達目標達成型主専攻プログラム」の整備と無縁ではない。また、創生学部の「到達目標創生型プログラム」は、すべてを学生の主体性に委ねて、学問領域の学修を軽視しているわけではない。「教育課程の編成」において詳述するが、創生学部の学生が自らの目的に則して選択して履修する「領域学修科目パッケージ」は、これまで整備してきた構造的なカリキュラム構造を持つ主専攻プログラムから提供される 22 のパッケージであり、本学の主専攻プログラムの整備の成果を基盤として、学生に一定の学修成果を保証しながら専門領域の学修を提供するシステムとなっている。

（２）新潟大学学士力アセスメントシステム（NBAS）の開発・導入

新潟大学では、学生の主体的学修を支援するために、平成 25 年度より、新潟大学学士力アセスメントシステム（NBAS）の開発・導入を実施してきた（【資料 4】）。NBAS には「学修成果の可視化」と「学修過程の蓄積」の機能があり、学生は半年ごとに可視化された学修成果を踏まえて、「アセスメントシート」と呼ばれるシートに自らのその時点での学修成果に対する自己認識をまとめ上げる。その作業を通して、学生は学修成果を省察し、教員からの助言を得ながら次の学修の見通しを組み立てていくことができることになる。

創生学部に所属する学生は、自らが主体的に目標を設定し、それを実現していくことが求められる。NBAS は、学修を進めていく学生の学修の振り返り（リフレクション）を支援するためのツールであり、学生の主体的選択をサポートする学修支援システムとして有効性は高い。とりわけ、学生が、エビデンスを踏まえて、自らの学修成果を他に主張する際に、NBAS は極めて有効な武器たり得る。

（３）初年次導入教育の確立と主体的学修の促進

新潟大学では、現在、主体的学修を充実させる枠組みとして全学的な初年次教育改革に取り組んでいる。学事暦の柔軟化により平成 29 年度からはセメスター制からクォーター制（2 学期 4 ターム制）へ移行する。学事暦を柔軟化することで、海外留学や学外学修の機会の確保とアクティブラーニング等の学修の重点化を図るとともに、学外での学修を授業科目として教育課程に位置付けることによって教育の責任と質保証を担保する。この初年次教育改革への取り組みは、平成 27 年度に採択された文部科学省「大学教育再生加速プログラム（AP）（テーマⅣギャップターム）（平成 27 年度～平成 31 年度）」によって加速されている。

創生学部では、グローバル化した社会において将来的に生じうる課題の解決に資する人材を育成する観点から、広い視野を持って課題にアプローチする人材の養成に取り組む。

高等学校においても課題探求型等の教育が始められており、高等学校で醸成された「課題を自ら考えて把握し、解決する意識」を、大学においても更に伸ばす取り組みが必要となってきた。創生学部のカリキュラムには、1年次第2タームに学外学修が組み込まれているが、それにはAP事業での取り組みの成果として継続性をもって活用できる。初年次からの学外での学修を通じて学修への動機づけを高め、創生学部のリテラシーコア科目によって、課題意識の継続的な意識づけを図ることによって学士課程全体を通じた学修の教育効果をより高めることが期待できる。

（４）地域社会・産業界との連携による教育推進と国際交流の活性化

地方に位置する大規模総合大学として、本学がその地域性を活かし、環東アジアから世界で活躍できる人材を養成することは、新潟県内に留まらず、日本海側ライン、我が国の活性化に繋がるものと考えられる。

これまで、新潟大学では平成19年の学生支援GPの採択を契機に、「ダブルホーム制」と呼ぶ地域の教育力を活用して学生の汎用的能力を育む取り組みを行ってきた。これは、所属学部や学年を異にする学生集団が新潟の中山間地を含む地域等で地域文化に触れ地域の活動に参加するなどの取り組みを行う中で課題を発見し、その解決を通じて汎用的能力を育てていくことを支援する取り組みである。また、キャリアセンターでは、平成24年度に採択された大学間連携共同推進事業「産学協働教育による主体的学修の確立と中核的・中堅職業人の育成」事業として、地域企業との連携の下で、「大学が主導する企業課題探求型 長期・有償インターンシップ」を実施してきた。それら地域社会・産業界との連携による地域の教育力を活用した教育実践によって培ってきた連携関係を活用することにより、創生学部の学生に対して充実した地域でのフィールド学修の機会を提供できる。さらに、新潟大学では平成25年から文部科学省の支援の下、グローバル人材育成事業（GGJ）を展開しており、その中で実践的な英語運用の力を養うことの出来る先進的な英語教育プログラム（S.P.A.C.E. : Skills Program for Academic and Content English）を構築し、短期留学に始まる体系的な海外留学の制度化を進めている。創生学部においては、S.P.A.C.E.で整備された実践的英語教育開発の成果を活用するとともに、学生は、海外留学の推進などのGGJの成果を全面的に活用できる。

こうした実績を踏まえ、新潟大学は平成27年度文部科学省「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）（平成27年度～平成31年度）」に採択された。COC+事業では、地域志向科目の必修化とあわせて、4つの関連事業（「インターンシップ改革」、「地域活性化／産業振興」、「教育の国際化」、「国際交流」）を推進するとともに地域社会と学生の関わりを重要視し、本学が真に地域の要請に応えるという相互の信頼を基盤とする強固な連携を展開できる組織体制の構築が進められている。相互の信頼関係の上に整備された、新潟全域を一つのキャンパスとして学修するダイナミックな教育環境を、創生学部は十全に活用し、教育を展開することができる。

2. 創生学部が育成する人材像

2. 1 創生学部のディプロマポリシー【資料5－1】【資料5－2】

創生学部では、学生自らが学修目的を設定し、それを更新しながら学び続けることを重要視している。その教育理念は、学生の学修への主体的選択を尊重し、解決すべき課題を中心に学修を進める「到達目標創生型」の学位プログラムを通して、恒常的に学生に主体的選択

学修を意識させることによって、課題解決に向けて主体的に学修内容を選択して学修できる人材を育成することである。

すなわち、1. 1の(1)で述べたように、社会の中軸で活躍する人材である「自己創造型学修者」を社会に送り出すことを主要な教育目的としている。

21世紀は知識基盤社会と云われている。そこで重要なのは、単に知識を保持していることや保持している知識を活用することではない。知識そのものが不斷に変化していく社会の中で活躍するために重要な能力は、多面的社会状況の中から課題を抽出し、その解決に必要な知識を特定し、獲得し、課題に適用して、課題解決、あるいは次の課題の設定に繋げていくことが出来る能力である。そして、そうした作業を他者とともに進めていける能力である。それらの能力を備えた学修者を「自己創造型学修者」と呼ぶ。

創生学部では、自己創造型学修者として必要な資質をディプロマポリシーとして以下の4点を設定した。

- (i) 課題を発見し、その解決に向けて主体的に学修する態度・姿勢
- (ii) 課題解決に必要な分析力・論理的思考力
- (iii) 他者と協働できる自己表現力を有し、問題解決をコーディネートする能力
- (iv) 専門領域の知識を有するとともに、多面的な視点から複数分野の知識を選択的に統合し、課題解決の場をデザインする能力

創生学部の教育理念に基づき設定されたディプロマポリシーを「どのような力を身につけた者に卒業を認定し、学位を授与するかを定める基本的方針であり、学生の学修成果の目標となるもの」として整理し、その達成のための教育課程を編成している。【資料5-2】に示すように、ディプロマポリシーを学生の学修成果の到達基準として機能させるために、ディプロマポリシーの能力指標として「ディプロマ評価の観点」を明示化した。学生はディプロマポリシーが示す内容を具体的な能力基準として意識し、ディプロマポリシーに叶う到達目標を教員の指導の下に設定し、学修を進めていくことになる。なお、創生学部で明示化したディプロマ評価の観点については、全米カレッジ・大学協会(Association of American Colleges and Universities (AAC&U))が提供する VALUE (Valid Assessment of Learning in Undergraduate Education) ルーブリックを参照基準として採用していることから、両者は類似性をもった能力構造に基づいて設計されているということが出来る。ここで示されるルーブリックは、学生の学修成果における基本的な評価基準を明確化するものであるが、学生の成績評価を目的としたものではなく、学生の総括的な学修成果を評価し、議論することを目的としたものである。VALUE ルーブリックでは、「問題解決 (Problem solving)」や「学修の統合と応用力 (Integrative and applied learning)」など15の項目に関するルーブリックが公表されている。これらのルーブリックは、創生学部のディプロマポリシー評価における参照基準であるが、創生学部の教育理念を踏まえて、より適切なルーブリックとなるように教員集団での議論によって修正改善を加えた。学位認定に関するアセスメント時には、ルーブリック等の評価ツールを用いることによって、学生の学修成果は学位を授与するに値するものとして、その質が保証されることになる。

以上のような方針のもとで育成される人材像は、社会の様々な分野で、指導者・牽引者としてチームを先導していく人、コーディネーターとしてチーム全体をまとめる人、チームの一員として確かな役割を果たす人など、それら全ての場面で機能していく専門職業人としての素地を有することが期待される。その具体は、グローバルな場面、あるいはロー

カルな場面、官庁や地方自治体あるいは様々な業種の企業などで、企画・調整の役割を担っていただける人材である。また、様々なステークホルダーと協働して、おかれた状況下で柔軟に仕事を果たしていく人材、あるいは大学院に進学してさらに特定専門分野での研鑽を積んで、新規の領域を開拓していく先導的研究者としての活躍も十分期待できる。

2. 2 創生学部の特徴

ディプロマポリシーに掲げた能力を育成するために、創生学部の教育において強調すべき点を以下に示す。

(1) 課題発見・課題解決能力の育成を重視した教育課程の編成【資料6】

創生学部では、特定の学問分野をカリキュラムの指導原理とせず、課題発見・課題解決のための「リテラシー」育成を中核科目の編成の指導原理とする。そのため、学修意識の転換を促す初年次の学外学修に始まり、PBL を大幅に取り入れた授業科目群を体系的に配置した。同時に、課題分析に必要な「数的感覚」を養うデータサイエンス科目、グローバルなコミュニケーション能力を強化する先進的英語教育科目（S.P.A.C.E.）を設置した。

(2) 学生の志向性に応じて選択可能な22の領域学修科目パッケージ

全学の教育資源を活用して、22の専門領域を体系的に学修することが出来る授業科目パッケージを整備し、学生が自らの学問的関心に合わせてそれらの一つを選択して、全学サポートを受けながら学修することが可能な体制を整えた。同時に、他学部の学生とともに学修することにより、多角的視点に触れることが期待できる。そのため、専任教員の1/3は専門学部を兼担し、創生学部の学生の領域学修科目パッケージの学修を支援する。すなわち、学部に関じない、全学に開かれた教員組織により運営される学部である。

(3) 学生が自分の学士力（最終的な学修成果）を自ら証明する学位授与方式の導入【資料5-3】

自らが設定した到達目標に達していることを、ディプロマポリシーと授業科目の関係を意識しながら学生自らが学修成果をもとに検証・証明し、その内容を提出することにより、学位授与を行う。学生自らが自分の学修成果を常に意識することで、最終的には学修成果の質保証を果し、その結果として単位取得の実質化を図ることが出来る。

(4) 少人数教育と充実した教育・学修サポート【資料7-1】【資料7-2】【資料7-3】

初年次から卒業時までの4年間を通じた少人数ゼミによる学習指導体制を整備している。ゼミを、学修目標が差別化された異学年の学生が参加する「学年縦断型ゼミ」として運営することにより、異学年学生の交流を促進し、学生が常に自らのロールモデルに接して学修を進めることが出来る状態を作り出す。また、NBAS（新潟大学学士力アセスメントシステム：Niigata University Bachelor Assessment System）を活用した半年単位で実施される「セメスターアセスメント」において、学生は教員との対話を通じて、自らの学修成果を不断に確認しながら「履修指導」、「学修相談」、「到達目標の修正改善と学修成果の確認」等の教員からのサポートを得て、学修の質を高めていく。

2. 3 高校生及び社会のニーズと学生定員（学生確保と卒業後の進路）

この点に関する具体的根拠を用いた見通しは、「学生の確保の見通し等を記載した書類」で述べるが、ここでは、学生定員の設定に関連して、概要を述べる。

（1）高校生の本学部への進学に向けた意向

本学進学生徒数の多い新潟県と隣県の高校の2年生（総数 69 校 7,664 名）にアンケートを行った結果は以下のとおりである。

○受験意向：「受験したいと思う」 1,867 件（24.4%）

○入学意向：「入学したいと思う」 1,754 件（22.9%）

受験したい生徒は全体の 1/4 であり、その中で入学希望生徒は 94%である。調査対象の生徒の 4 人に 1 人は創生学部での学びに関心を示しており、合格した場合多くの生徒が創生学部で学びたいと考えていると推察される。すなわち、社会的課題を中心に据えた上で、複数の領域から専門的な学びを主体的に選択する学修スタイルへの一定程度の理解とニーズが存在するものと考えられる。この点からも、創生学部設立の方向性は高校生の志向にも適合し、十分な入学志願者の確保が可能であると判断できる。

（2）社会の創生学部卒業生受け入れに向けた意向

本学の学生を過去に受け入れた企業等（総件数 336 件）を対象に、創生学部で育成される人材の必要性について、アンケート調査を行った結果は以下のとおりである。

○採用意向：「採用したいと思う」 291 件（全体のうち 86.6%）

○毎年の採用想定人数：採用予定人数総計 153～157 名程度（人数未確定と回答した企業で各 1 名を採用した場合を想定すると 350 名程度）

「1 名」：64 件

「2 名」：22 件

「3 名」：10 件

「4 名」：0 件

「5 名～9 名」：1 件

「10 名以上」：1 件

「人数は未確定」：193 件

以上を勘案すると、創生学部で育成する人材像は、企業の求める人材像と一致しており、社会のニーズに対応した人材育成プログラムであり、創生学部の卒業生は社会で活躍の場を得ることが可能であると判断される。

（3）学生定員の考え方

創生学部の入学定員は 65 名としている。上記のデータからは、学生定員はそれ以上であっても、十分な選抜が行うことができ、また、就職先等の進路も十分確保できていることになる。しかし、創生学部の教育特色は、少人数ゼミや PBL などを中心としたものであることから、以下の 2 つの観点から入学定員を 65 名と設定することとする。

第 1 の観点は専任教員 18 名によって少人数教育を実現し、十分な教育効果を得られる教育規模である。創生学部のコアカリキュラムはリテラシーコア・課題解決実践科目に代表

されるゼミ形式及び PBL 系のアクティブラーニング科目から構成されており、それらの科目を専任教員のうち 10 名の教員が担当する（教員組織の構造化と専任教員の役割については「5. 教員組織の編成の考え方及び特色」にて詳述する）。リテラシーコア・課題解決実践科目を構成する重要な授業科目に複数の必修のゼミ科目（基礎ゼミⅠ～Ⅳ、プロジェクトゼミⅠ・Ⅱ）がある。後述のように専任教員 2 名 1 組で 1 つのゼミを担当することが計画されており、学生は 5 つのゼミに分かれて学修することになる。さらに、「基礎ゼミⅠ～Ⅳ」では、1～2 年次の学生を、それぞれ差別化された学修成果を得る目的で混在させる計画となっている。2 人の教員が担当するゼミの適正規模はこれまでの教育経験と教育効果の点から 30 名程度が上限と考えられる。したがって、創生学部の適正な学生定員は 150 名（30×5）が上限であり、その半数の 75 名程度が適当となるが、より充実した少人数教育を実現するという観点で 65 名と定めた。

第 2 の観点は、既存学部から提供される授業科目への履修規模の適切性である。後に述べるように、創生学部の学生は、専門の領域の知識等を既存の学部（主専攻プログラム）が提供する「領域学修科目パッケージ」から提供されることになる。したがって、領域学修科目パッケージが受け入れ可能な人数の観点からも、適正な入学者数を検討する必要がある。既存学部では、当該教育プログラムの所属学生数に即した形で、授業科目を開講している。創生学部の学生がそれらの授業科目に参加すると、その数が既存学部の授業の聴講者数に上乗せされることになる。各授業科目で、教室の使用等の物理的制約及び教育効果の点で 10%程度の上乗せが上限となることを踏まえると、人文学部、法学部、経済学部、理学部、工学部、農学部で受け入れ可能な総数は 130 名程度となるが、学生の領域学修科目パッケージの選択はある程度偏ることが想定される。創生学部の 65 名という学生数はその半数程度であり、十分既存学部で提供される授業科目での受け入れが可能であると考えられる。

2. 4 卒業後の進路

詳細は、「学生の確保の見通し等を記載した書類」で述べるが、創生学部で育成する能力・意識を有する人材は、どの分野においても需要が高く、また、専門性も多岐にわたるため幅広い範囲の就職先（活躍先）を想定している。また、領域での学修を更に深めて専門性を高めたい学生も多いと予想される。想定している職種としては、民間企業の企画・開発・分析などの部門、公務員として企画調整に当たる人材などがある。また、大学院でさらに研鑽を積んで研究者や高度専門職業人として社会で活躍することも想定している。

3. 教育組織の名称及び学位の名称

3. 1 教育組織の名称

本教育組織の名称は、創生学部（College of Creative Studies）、創生学修課程（Creative Studies Course）とする。

新潟大学は、人文学部、教育学部、法学部、経済学部、理学部、医学部、歯学部、工学部、農学部の 9 学部を置き、それぞれの学問分野を軸とした教育研究を行っている。一方、創生学部は多様な学修目的を持った学生が集う組織で、学生自らが学修の到達目標を創出しその達成を目指して学修していく態度・姿勢・スキルを養うための構造化したカリキュラムが、創生学部の中核となっている。

創生学部の学生には、大規模総合大学である新潟大学の多様な専門分野の学修を可能に

する領域学修科目パッケージが提供され、学生は自らの学修目標に即した学問分野を選択し学修を行うことになる。したがって、創生学部は他の 9 学部の学問的蓄積の上に成立する学部といえよう。

また、既存学部の学生は、学部が定める到達目標に叶う学修成果を得ることをもって卒業することになるが、創生学部の学生は自らの学修成果が自分で設定した到達目標に達したことを自ら説明できるエビデンスを学修成果報告書としてまとめ上げ、それをもって学位の質保証を行い、卒業することになる。

本学部の学修スタイルがリベラルアーツ系の学修に似ていることは事実である。そのような場合に、しばしば使われる名称は「教養」である。そもそものリベラルアーツは、人を諸々の制約から解放するために必要な実践的な知識・学問のことであり、今日的には、大学で誰もが身に付けるべき基礎教養を意味するものとされている。しかし、本学部での学修は必ずしもそのような基礎教養を網羅的に修得することを目的としていない。学生が履修できるように多様な学問分野が提供されているのは確かだが、それらの中から自らの学修目標に即した学問分野を選択し、学修をデザインすることを学生に求める本学部には、「教養」の名は必ずしも相応しいものとは言えず、むしろ「教養」を冠することは創生学部の内実について誤解を招く可能性があるように思われる。

本学部の一番の特徴は、学生自身が学修のオーナーシップを自らの手中に持ち、自らの学修目標を自分で創っていく学修スタイルにある。したがって、そこでの学修成果の大きな共通項目は「生涯学習スキルの獲得」であり、輩出する人材イメージが「自己創造型学修者」であることを考えると、自らを切り拓いていく学修のプロセスの中で、社会の諸課題へのソリューションを創りあげていくことが含意され、「自己創造型学修者を作り出すこと」そして、社会の諸問題への「解決策を作り出すこと」を意味する「創生」を冠することが適切と判断したものである。

創生学部が学修目標を自ら作りながら学修し、自らを自己創造型学修者に作り上げていく学修課程であるという観点で、カリキュラムとしては、「スタディスキルズ」「リフレクションデザインⅠ」「フィールドスタディーズ」「リテラシー基礎」などの導入・転換教育科目を初年次に配置した。さらに、その趣旨を学生に明確に示すために総論科目として「創生学修入門」を設けた。それらの科目は、2年次以降の「リテラシー応用」「リフレクションデザインⅢ・Ⅳ」「ソリューションラボⅠ・Ⅱ」に体系的に接続するとともに、「基礎ゼミⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」「プロジェクトゼミⅠ・Ⅱ」の継続的なゼミ形式の授業科目で補強するカリキュラムを構築している。

以上から教育課程の名称としては、「新たな人材価値を創り出す学修を行う教育課程」という意味から「創生学修」課程とし、その教育組織全体については「創生学部」とすることが相応しいと判断した。

新潟大学の教育理念が「自律と創生」であることを考慮すれば、「創生学部」は本学の新規の意欲的教育システムを象徴する名称としてさらに適切であると考えられる。なお、「創生」は、「地域創生」あるいは「地方創生」という新たな地域人材を養成する学部の名称として近年少なからず存在しているが、本学部の「創生」はそれらとは一線を画するものである。他方、理工学部の学科として「創成科学科」が設けられている例があり、そこでは「理系ジェネラリスト」を養成することがうたわれている。その学科の特色と本学部のそれとはある程度相通じるものがあるが、本学部は理系に閉じない点でそれとは異なっている。さらに、近年では「未来創成学部」の設置を計画している大学があることが報じられ

ている。それらは、いわゆるグローバル人材養成を目的としている点で、本学のものとは異なるが、特定学問分野を意味しない名称ということでは共通している部分がある。

海外では University of California, Santa Barbara に College of Creative Studies (CCS; 創生学部) がある。そのミッション (※1) には、CCS provide undergraduates with the intellectual environment and advice that allows them to undergo the transition quickly from consumers of knowledge to colleagues in the act of human creativity in the arts and sciences. (CCS は、学生が出来るだけ早く、知識の消費者から知識の創造者へ転換できるよう、知的環境と助言を提供する。) とあり、創生学部が目指していることと一致している。また、The State University of New York at Buffalo の International Center for Creativity ではマイナープログラムとして、Creative Studies (創生学修課程) を用意しており、そこで挙げられているコアコンピテンシー (※2) は創生学部の専門領域学修を除いたカリキュラムコア科目群の目指すコアコンピテンシーとほぼ一致している。

※1) <https://ccs.ucsb.edu/what-is-ccs/mission-statement>

※2) <http://creativity.buffalostate.edu/creative-studies-minor>

3. 2 学位の名称

本学部の教育課程上の特徴は、特定の学問分野を指導原理とせず、課題発見・課題解決のための「リテラシー」育成をカリキュラム編成の中核に据えている点にある。そのため、本学部の学生は自らが学修の到達目標を創生しその達成を目指して学修していく過程において、領域学修科目パッケージで学修する学問分野を主体的に選択し、関心に即した課題を発見、分析して、そこに多面的な視点から複数分野の知識を選択的に統合していくことになる。

最終的な学修成果は、学生自身の視点に基づき、領域学修を通じて得られる「学問知」とリテラシーコア・課題解決実践科目を通じて獲得される「実践知」の両方を統合させ、課題解決の場をデザインし、実行する能力をもって証明していくことになることを踏まえ、学士(学術)(Bachelor of Arts)がもっとも相応しいものと考えている。

なお、本学部で学ぶ学生は文系のみならず理系の専門性を身につける学生もいる。とすると B.A. は文系の印象を持たれかねないが、米国においては B.A. は文系のみならず理系の専門性を有する学生にも授与される学位であり (<http://cas.nyu.edu/page/majorminors> ; <https://my.sa.ucsb.edu/catalog/2012-2013/UndergraduateEducation/UndergraduateDegreeelist.aspx>), 国際通用性の観点から、本学部の学士(学術)の英文表記として適切なものと判断した。

4. 教育課程の編成の考え方及び特色

4. 1 ディプロマポリシーに対応した教育課程編成(カリキュラムポリシー)の基本的な方針

創生学部では、学生を「自己創造型学修者」として社会に送り出すことを主眼としており、そのために 2. 1 で示した以下のディプロマポリシーを設定している(表 1)。

表 1 創生学部におけるディプロマポリシー

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> (i) 課題を発見し、その解決に向けて主体的に学修する態度・姿勢 (ii) 課題解決に必要な分析力・論理的思考力 (iii) 他者と協働できる自己表現力を有し、問題解決をコーディネートする能力 (iv) 専門領域の知識を有するとともに、多面的な視点から複数分野の知識を選択的に統合し、課題解決の場をデザインする能力 |
|--|

これら4つの能力を養成するために、創生学部では以下のカリキュラムポリシー及び授業科目区分を定め、教育課程を編成する（表2、表3）。カリキュラムポリシーは、「ディプロマポリシーの達成のために、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める」ものとして整理した。創生学部では、「ディプロマポリシー」に基づき、学生が主体的に到達目標を設定し、学修者のオーナーシップによって目標達成を実現していくことを理想としている。そのため、【資料5-2】に示すように、創生学部のディプロマポリシーのもとで、ディプロマポリシーを評価する観点として能力・スキルベースの「ディプロマ評価の観点」を明示し、明示された能力を育成することに寄与する授業科目を体系的に教育課程上に配置した。【資料5-2】に、ディプロマポリシーとカリキュラムポリシーとの関係、さらにカリキュラムポリシーの下で設定された授業科目区分に属する「主な対応授業科目」が示されている。また、ディプロマポリシーと授業科目の関係については、【資料5-3】に示すように、4つのディプロマポリシーに対して授業科目ごとにどのような能力育成を想定しているのかが数値化され、重み付けされている。学生は、授業科目の成績と重み付け数値を活用したグラフによって、自身の学修到達度を確認することができる。同時に、教育を提供する教員は、プログラム全体のなかで個々の授業科目が能力養成のどの部分を担うのかを認識し、他の授業科目と関連し合いながら組織的に教育を展開し、評価の方向性を共有するためのツールとして活用することができる。

【資料5-2】【資料5-3】では、創生学部の学位プログラムとしての基本的構造が可視的に確認できる。これらによって、ディプロマポリシーと授業科目の関連を教員が認識することが出来るとともに、それに基づいて組織的な教育を展開し、プログラム共通の考え方として活用できることから、プログラムの評価・改善サイクルの指標としての機能も期待される。

表 2 創生学部におけるカリキュラムポリシー

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・リテラシー（複数の領域の見地から物事を「視る力」、異なる環境（状況）に「適応する力」、他者と協働するプロジェクト等を「コーディネートする力」）養成のための汎用的能力・課題解決力を涵養する授業科目を中核に据える。そのために、課題把握・分析・実践（統合）のための「リテラシーコア・課題解決実践科目（区分）」を設ける。 ・生涯にわたって学び続けることができる主体性とスキルを涵養するために学修に対する動機を高く維持する授業科目を初年次から配置する。そのために、学修への動機づけと能動性を高める「導入・転換教育科目（区分）」を設ける。 |
|---|

- ・多面的な視点から学問領域の知識を統合する上で、必要となる専門領域の知識・技能を修得するための領域別授業科目を2年次から4年次に配置する。そのために、専門領域の知識・理解を修得するための「**領域学修科目（区分）**」を設ける。
- ・学修成果の質保証を厳格に行い、学生自らの学士力を総括的に評価するための授業科目を4年次に配置する。そのために、学修成果と学位の質保証のための「**学修成果総括科目（区分）**」を設ける。

以上の授業科目（区分）を体系的に配置し、4年間を通じたラボワーク及び「リフレクションデザインⅠ～Ⅳ（後述する授業科目）」を通じて、学生の主体的選択によって学修をデザインできるカリキュラムを編成する。

表3 創生学部における「科目区分」とそれに関連するディプロマポリシー

科目区分	関連するディプロマポリシー
(1) 導入・転換教育科目	主に (i) に関連
(2) 基礎科目	主に (ii), (iii) に関連
(3) リテラシーコア・課題解決実践科目	(i), (ii), (iii), (iv) すべてに関連
(4) 領域学修科目	主に (iv) に関連
(5) 学修成果総括科目	すべてのディプロマポリシーに対する評価に関連

上記の表3に関して、ディプロマポリシーと関連する科目区分における代表的な授業科目との対応関係を表4に示す。また、これらの学年進行に対する位置付けのイメージを【資料6】に示す。

表4 「ディプロマポリシー」とそれに関連する科目区分及び代表的な授業科目

ディプロマポリシー	科目区分	代表的な授業科目
(i) 課題を発見し、その解決に向けて主体的に学修する態度・姿勢	(1) 導入・転換教育科目	創生学修入門, スタディスキルズ, リフレクションデザインⅠ, フィールドスタディーズ（学外学修）, リテラシー基礎, 基礎ゼミⅠ～Ⅱ
	(3) リテラシーコア・課題解決実践科目	リテラシー応用 A～E, 基礎ゼミⅢ～Ⅳ
(ii) 課題解決に必要な分析力・論理的思考力	(2) 基礎科目	情報処理・データ分析, データサイエンス基礎 全学共通科目

	(3) リテラシーコア・課題解決実践科目	データサイエンス実践 A～C, リテラシー応用 A～E, 基礎ゼミⅢ～Ⅳ
(iii) 他者と協働できる自己表現力を有し、問題解決をコーディネートする能力	(2) 基礎科目	英語, 初修外国語, 全学共通科目
	(3) リテラシーコア・課題解決実践科目	実践英語集中科目 (S.P.A.C.E.) リテラシー応用 A～E, 基礎ゼミⅢ～Ⅳ
(iv) 専門領域の知識を有するとともに、多面的な視点から複数分野の知識を選択的に統合し、課題解決の場をデザインする能力	(4) 領域学修科目	リフレクションデザインⅡ, 領域概説 A～F, 領域学修科目
	(3) リテラシーコア・課題解決実践科目	プロジェクトゼミⅠ～Ⅱ, ソリューションラボⅠ～Ⅱ
(i) ～ (iv)	(5) 学修成果総括科目	リフレクションデザインⅢ, リフレクションデザインⅣ

4. 2 科目区分による教育課程編成の考え方

科目区分ごとに、その具体的趣旨と代表的な科目の開設目的を示すことにより、教育課程の概要を述べる。

(1) 導入・転換教育科目(区分)；学修する目的の確認と学外学修などを活用した意識転換を行い、主体的に学修する態度・姿勢を養う1年次の必修科目である。

- ・ 初年次の学生に必要なことは、高等学校とは異なる大学での学びについて理解し、4年間の見通しを持った上で、大学での学修に必要な基礎的なスキルや知識を身に付けることである。そこで、1年次第1タームに履修する**創生学修入門及びリフレクションデザインⅠ**では、まず新潟大学並びに創生学部の理念、創生学部特有の到達目標創生型の学修システムを理解し、4年間の学修を計画する。また、学修の振り返りと学修デザインのために用いるNBAS（新潟大学学士力アセスメントシステム）の概要を理解し、活用できるようにする。同様に第1タームに履修する**スタディスキルズ（大学学習法）**は、大学における一般的な学習法を理解し、学修のための基礎的なスキルを身につけることを目的としている。
- ・ **フィールドスタディーズ（学外学修）**は、学外のフィールドに出て行き、そこでの種々の課題に関する理解を深める科目である。1年次第2タームという早い段階に実際の現場で社会の課題を体感させ、動機づけを高めることを意図している。また、1年次第3タームに履修する**リテラシー基礎**では、PBL形式の学修方法の基本を学んだ上で、社会の課題と学問分野の関係の概略を認識させることで、その後の学修方針を考える基礎とすることを目的としている。いずれも創生学部の到達目標創生型の学修スタイルへの転換を意図した科目となっている。
- ・ **基礎ゼミⅠ～Ⅱ**；基礎ゼミは、Ⅰ～Ⅳまでの4つの授業を1年次から2年次まで連続して受講し、学年を縦断した学生同士での課題把握等のグループ学習を行う科目である。その中で、1年次第1～2タームに履修する**基礎ゼミⅠ**では主にグループ活動の

基本的態度・姿勢を修得すること、第3～4タームに履修する**基礎ゼミⅡ**ではプレゼンテーション力を身につけることに重点を置いてグループ学習を行う。

なお、学生の相互刺激によるコミュニケーション等の能力向上を図るため、「基礎ゼミⅠと基礎ゼミⅢ」、「基礎ゼミⅡと基礎ゼミⅣ」は同時に開講し、1, 2年生合同のゼミとする。また、基礎ゼミⅠ～Ⅳでは、2年間を同一の担当教員、学生メンバーで履修するのではない。それぞれの授業ごとに異なる教員・メンバーと接し、多くの考えに触れることができるように、ゼミの編成は教員側で指定する。具体的には、全員が基礎ゼミⅠ～Ⅳで異なるゼミに所属をし、且つ、授業ごとにメンバーが異なるように、在籍番号順に指定を行い、配属する。

また、基礎ゼミⅠを担当した教員が、その学生の1年次から2年次までの担当教員（担任）となる。学生は学修方針、個別に定める到達目標、また、以下に示す領域学修科目パッケージの選択などについて担当教員（担任）からアドバイスを受ける。

(2) 基礎科目（区分）；リテラシーコア科目や領域学修科目を学ぶための基礎としての科目（自然系専門基礎科目、語学科目、さらに課題解決に関連して自由に選択する全学共通科目を含む）である。

- ・ ディプロマポリシー（iii）に対応する言語運用能力を含む自己表現力の基礎として、**英語4単位、初修外国語2単位**の総計で6単位を、語学系の基礎の必修科目として履修する。なお、これらは1,2年次を中心に履修し、リテラシーコア・課題解決実践科目区分のS.P.A.C.E.による実践的英語科目履修のための基礎とする。
- ・ ディプロマポリシー（ii）で挙げている分析力涵養の基礎として、**情報処理・データ分析、データサイエンス基礎**を必修で履修する。**情報処理・データ分析**では、主に分析スキルに重点を置き、簡単なデータ分析・集計がパソコンを用いて可能になることを目指す。一方、**データサイエンス基礎**では、分析の基礎となる統計学的な知識に重点を置いて講義を行い、理論的な背景を理解することを目指す。なお、これらは、リテラシーコア・課題解決実践科目区分のデータサイエンス実践A～Cの内容につながっている。
- ・ **全学共通科目（自由科目）**は、自らの設定した到達目標をもとに、履修する科目を主体的に選択できるように設定されている枠組みの科目である。履修については、まず、**領域学修科目パッケージの履修要件となる科目**（例えば、自然系専門基礎科目）を早い段階に優先的に履修することが想定される。この際、基礎ゼミなどで教員のアドバイスを受けて履修科目を検討し、決定する。また、高年次にわたって、自らのキャリアを考えて必要と思われる科目を履修する。この場合も、担当教員との相談の上、履修計画を立てる。これらは、卒業要件では自由科目となる。

(3) リテラシーコア・課題解決実践科目（区分）；リテラシーコア科目と、課題解決実践科目に分けてそれぞれを小項目として示す。

リテラシーコア科目；汎用的能力を中心とした課題把握、分析解決能力などの涵養を縦糸にした体系的な学修のための科目と、自分の強みを伸長させるインテンシブな英語学習、数的感覚を養成する科目である。

- ・ **データサイエンス実践A～C**もしくは**実践的英語科目（S.P.A.C.E.）**のいずれかを選

択必修として2年次に履修する。**データサイエンス実践A～C**は、課題解決のためのスキルを身につけるために必修とした情報処理・データ分析、データサイエンス基礎の内容をさらに発展させ、データを分析する能力や、データを読む多様な観点を身につける科目である。また、**実践的英語科目(S.P.A.C.E.)**は語学(英語)運用能力をさらに高めたい学生に向けた授業であり、グローバル人材を育成するための新しい実践英語教育プログラムとして設定されている科目である。

なお、上記二つの選択は学生の希望を優先するが、偏りが生じた場合は定員(半数)を定め、成績を勘案して履修者を決定する。なお、希望した科目が履修できなかった場合も、全学科目の中から同様の内容を扱う授業科目の履修を指導することで、不利益が生じないように配慮する。

- ・ **リテラシー応用A～E**(5科目)は、多分野のそれぞれ異なる専門性を有する専任教員による課題把握・分析・解決に関するPBLで構成され、多様な学問的アプローチに触れることを通して多面的な視野を身につけることができるよう、設計されている。このため、5科目の中で4科目(8単位)以上を修得することを卒業要件とする。具体的には、創生学部で設定される学修テーマ(例:人口問題、科学技術、資源・エネルギー等)に対して、様々な分野の教員が、各自の専門分野を背景に、それぞれの分野での課題の理解、把握、分析、解決のためのアプローチ(手法)について、PBLを用いて講義・演習を行う。この科目を中心に、学生は、能動的に考える力、基礎的な課題把握・分析のためのスキル、課題を多面的に把握し分析する能力を身につける。
- ・ **基礎ゼミⅢ～Ⅳ**は、導入・転換科目の基礎ゼミⅠ、Ⅱに続き、課題把握等の取り組みを1、2年次のグループで行う科目である。2年次第1～2タームで履修する**基礎ゼミⅢ**では、グループで協働して学修内容をまとめる力、第3～4タームで履修する**基礎ゼミⅣ**ではグループ活動をマネジメントする力を身につけることに重点をおいた指導を行う。

課題解決実践科目；プロジェクト参加型学修などで課題解決を実践的に行う科目(卒業研究などに対応)である。

- ・ 3年次に履修する**プロジェクトゼミⅠ,Ⅱ**は、4年次に行う課題解決実践にむけた準備段階のゼミである。**プロジェクトゼミⅠ**では、文献講読などを中心に行い、課題に対して批判的な思考力を身につけることを目的とする。また、**プロジェクトゼミⅡ**では、4年生と一緒に課題解決実践に参加することにより、その運営の仕方を学ぶとともに、次年度の活動の計画を行うことに焦点を当てた学修を行う。
- ・ 4年次に履修する**ソリューションラボⅠ,Ⅱ**では、専任教員の指導の下、他の領域学修を履修した学生とも協働したり、議論を行ったりすることを通して、課題解決プロジェクトを遂行する(卒業研究・論文に相当する)。ソリューションラボでは、チームもしくは個人で一つの問題に取り組み、一つの成果としてまとめあげる経験を通して、課題解決に資する企画力と実践力を身につける。その成果のまとめと発表によって、統合的に課題解決に向かう能力が評価される。

なお、プロジェクトゼミへの配属は、基本的には学生の希望を優先するが、セメスターアセスメントや事前に行う配属希望先の調査などを通して、偏りやミスマッチが生じないように配慮を行う。希望が偏る場合はGPAなどの成績を用いて調整する。4年次のソリューションラボへの配属も、同様に調整する。(同じ担当教員の下での履修も

許可する。)

(4) 領域学修科目(区分); 専門領域を学ぶために各学部(主専攻プログラム)から提供される科目である。学問領域ごとの授業科目として主専攻プログラムからパッケージ化されて提供される。一定の到達目標を定め、構造化したカリキュラムとなっている。

- ・ 学生は、教員のアドバイスの下で一つの専門領域を選び、指定された専門科目(領域学修科目パッケージ)の中から総計で40単位以上を修得する。

領域学修科目パッケージは、学生の幅広い学修への志向性に応えるために、全学をあげて整備し、学生の主体的な選択のための自由度を確保している。人文学部、法学部、経済学部、理学部、農学部、工学部から総計22の領域学修科目パッケージが整備され、学生はそこから1つを選択して履修することができる。これらは、本学で免許取得を目的とする3つの学部を除く、6学部の主専攻プログラムから提供されている。学問分野が近い主専攻プログラムでは、複数のプログラムから1つのパッケージが提供されているものもあるが、基本的には6学部で提供できるすべての学問分野に対応するパッケージが用意されている。領域学修科目パッケージの科目は「教育課程等の概要」に示す。

このカリキュラムマップなどにより構造化され、各主専攻プログラムの到達目標との対応関係が明確になっている科目群を活用することにより、各科目で身につく能力が確認でき、パッケージの構造も理解できるため、学生も自ら学修計画が立てやすく、また、履修した科目全体での学修成果の確認も確実なものとなる。また、各パッケージの担当教員は、主専攻プログラム担当教員集団であり、パッケージの管理運営に関する責任体制も整えられている。

また、各領域学修科目パッケージでは、履修のための要件と、学修成果としてパッケージ履修により身につく能力(学修成果)とを定めている。パッケージごとの要件を【資料8】に示す。また、学修成果については、4.4の人材像の特徴と合わせて【資料13】に掲載している。なお、学問領域の知識を活用する課題解決実践科目を4年次で履修するために、領域学修は2年次～3年次を中心に、遅くとも4年次第2タームまでの間に学ぶカリキュラムとしている。

これらの領域学修科目は、基本的にそれぞれの主専攻プログラム向けに既に開講されている科目であり、創生学部の学生が、主専攻プログラムの学生と一緒に履修する事になる。従って、科目はその主専攻プログラム担当の教員が実施しており、創生学部の学生も、その主専攻プログラムの学生用の科目の履修基準、成績判定基準に沿って対応・評価されることになる。なお、本学の授業科目は全学科目化され、すべての学生が履修できる体制をとっているため、同一科目名の授業科目の評価は、どの学部の学生が履修しても同様の基準で行われている。評価については、全学で統一した対応である。

学生の領域学修科目パッケージの履修に際しては、表5のように定員を定める。これは、創生学部の学生が主専攻プログラム向けの科目を履修する事によって、科目への過大な影響が生じないようにするためである。従って、以下の定員は、各学部の学生数を考慮して案分した定員数である。

表5「領域学修科目パッケージ」を提供する学部(主専攻プログラム)ごとの履修定員

学部	人文	法	経済	理	工	農
パッケージ数	4	1	2	6	7	2
定員（概数）	各 5 名	15 名	各 10 名	各 3 名	各 5 名	各 5 名

なお、領域学修科目パッケージの履修選択は、基本的に学生の希望を優先するが、定員を超えた場合は、GPA などの成績を考慮して調整する。ただし、仮に希望した領域学修科目パッケージを選択できなかったとしても、全学科目化されている個々の科目の履修を制限するものではなく、学生が自由科目として任意の科目を主体的に学ぶことは可能である。

これらの領域学修科目パッケージを選択するための導入科目として、1 年次第 3 タームのリテラシー基礎で社会の課題と学問分野の関連付けや方向付けを行う。同じく、1 年次の第 3 タームでは、各パッケージの概要と達成目標（学修成果）を理解させることを目的としたリフレクションデザインⅡを履修する。また、1 年次第 4 タームで開講される領域概説 A～F では、それぞれの学問領域の具体的な研究等を概観し、学問と社会の課題解決とのつながりを理解させる。これらの理解と、担当教員等とのディスカッションが、領域学修についてのミスマッチのない選択を可能にする。

ここで、領域学修科目と他の科目群との関係を述べる。1. 1 でも述べたように、本学部では、リテラシー学修を中心に、複数の領域の見地から物事を「見る力」、異なる環境（状況）に「適応する力」、他者と協働するプロジェクト等を「コーディネートする力」を養成する。その際、自身が専門性を有することも不可欠であり、加えて異なる専門性を有する他者と協働する力が必要となる。学生は、リテラシー学修で広い視点と他者と協働する力を、領域学修科目でひとつの専門性を身につけ、課題解決実践科目において自分の専門的知識を活用して、専門の異なる他者と協働で課題解決に向かう力を身につけることになる。

具体的には、学生は、リテラシーコア・課題解決実践科目の中で、例えば、2 年次までの基礎ゼミや、2, 3 年次のリテラシー応用などを通じて、多面的な視点を身につける。3 年次でのプロジェクトゼミからは、課題分析や解決を計画する際に学修した領域の専門性を活かした統合的な学修となり、4 年次でのソリューションラボでは、学修した領域を中心に他の分野を学修した学生との議論の中で、いくつかの分野を統合して課題解決をコーディネートできる力を身につける。

(5) 学修成果総括科目（区分）；領域学修科目の学修成果を含む 4 年間の学修成果を統括的に評価し、学生自らのエビデンス（学修成果）をもって学位審査へ向かう準備を行う科目である。

- ・ 2 年次から 4 年次第 2 タームまでの間で履修する領域学修（40 単位）に対する成果を評価するために、領域学修科目パッケージの最後の段階（4 年次第 2 ターム）においてリフレクションデザインⅢ（1 単位）を履修する。このリフレクションデザインⅢは、社会の課題と領域学修で学んだ内容の関係をレポートにまとめ、発表することによって、単に単位の積み上げではなく、実際に領域学修で身につけた能力（後の【資料 13】に示す学修成果）をいかに有効に活用できるかが判断される。この科目は必修であり、この科目を認定されたことを持って領域学修の学修成果の質保証とする。

- ・ 創生学部では、学生は1年次に自らの到達目標を設定する。そして、最終的に身につけた能力がその目標に達しており、学位に叶うものであることを、学生自身がこれまでの学修過程及びその成果をまとめることを通して示す。これは、4年間の学修成果の総括的評価に相当し、そのための科目として、リフレクションデザインⅣ（1単位）を4年次に開設している。そこでは、自らが身につけた汎用的能力や専門的能力をNBASのポートフォリオ、リフレクションなどでの蓄積を用いて、専任教員の指導の下で「学修成果報告書」としてまとめ、提出する。また、【資料9】に示すように、学修成果報告書の作成段階では、第三者の「学修成果検証委員会」からのフィードバックを受けることを必須とし、客観的な視点からも認められうるものを目指す。この授業科目の単位認定が、学士課程全体での学修成果の質保証に対応する。

創生学部における基本的な学修構造を【資料10】に示す。この図はリテラシーコア・課題解決実践科目を中心に汎用的能力を身につけていく課程と、既存学部が提供する授業科目で構成される領域学修科目パッケージの選択・履修によって学生が主体的に学修をデザインしていく構造を表している。また、【資料11】には、まず1ページ目に、主にリテラシーコア科目を中心に、履修過程の概要を時系列で示し、それにより養成される能力、科目で喚起される興味、科目間の関連を示している。このページでは、具体的な学生像として心理学に興味を持った例を示しているが、リテラシーコア科目で養成される能力は基本的には同じである。一方で、創生学部では22の領域学修科目パッケージから1つを選択でき、さらに実践的英語科目のS.P.A.C.E.とデータサイエンス実践のいずれかを選択できる。従って、履修パターンとして44通りが想定され、この選択により、具体的な人材像が特徴付けられる。この選択により想定される領域学修科目の履修例を示し、さらにその結果どのような特徴を有する人材が育成されるかを示すことにより、創生学部の教育課程の多彩な特徴を現すことができる。そこで、まず、同資料の2ページ目に、1ページ目の内容をさらに具体化するための履修過程を示すカリキュラムツリー（履修パターン）構造と、入学時から卒業時までの履修内容の選択、ゼミ等での学修内容と成果、学生自身が定める到達目標を表すパターン構造を示し、これを活用したすべての領域学修科目パッケージの履修例（44通り）を、3ページ以降に示す。それぞれ、上部に具体的な科目の履修例を示し、下部には入学時（意識）から卒業時（進路）までのそれぞれの段階における履修内容の具体的な選択、学修した内容とその成果、さらには学生自身が定め、段階ごとにブラッシュアップされる到達目標の例を示している。すなわち、44パターンの選択で、学生がどのように特徴づけられた人材に成長して行くかの例示となっている。また、パッケージごとに、実践的英語科目のS.P.A.C.E.を選択した例と、データサイエンス実践を選択した例を別々に示している。なお、創生学部の学生にとって、既存学部が提供する授業科目で構成される領域学修科目パッケージは専門の基礎段階となる。そのため、特定領域の学問についてさらに専門性を身に付けることを望む学生には、それぞれの分野の大学院への進学を勧め、4年次などでこれらの例以上に領域学修科目を履修することを指導する。

4. 3 創生学部での教育課程と他の教育プログラムとの違い・特色のまとめ

（1）本学の主専攻プログラム（学士課程学位プログラム）との学修構造の違い

創生学部の教育課程と主専攻プログラムとの主な違いを表6に示す。

表 6 創生学部と既存学部（主専攻プログラム）の学修構造（スタイル）の主な相違点

	創生学部	主専攻プログラム
学修の到達目標	将来の社会参加意識を踏まえて、学生自らが、学部が設定しているディプロマポリシーに対応できる具体的な到達目標を設定。	プログラム側が社会の要請を考慮して設定したディプロマポリシーに即した具体的な到達目標を明示。
カリキュラム	汎用的スキル等を養うリテラシーコア科目を軸に自らの学び方を設計する。自らが設定した到達目標に即して、自分が学修する専門領域パッケージを選択する。	主専攻プログラムの学問領域で活躍できる人材の知識・スキル・態度など具体的な資質能力を設定し、それを持った人材を養成できるように設計されたカリキュラムを学生に提示（カリキュラムマップ）。
学修の軸	汎用的スキルを養う学修を軸に学修する。選択した学問分野学修の成果を異なる分野を学修している学生と協働で行う課題解決型学修により検証しながら、学修を進める。	学問分野を基盤として設計されたカリキュラムの下で学修。専門分野での学修の中で汎用的スキルの獲得・強化を期待する。
専門性の活用	分野横断（総合）的な課題解決実践の中で専門的知識の活用法を鍛え、そこでの気づきに基づいてさらなる専門性の強化を図ることにより、広範な社会で活躍する能力を身につける。	専門分野を深める中で、身につけた専門的知識の活用法を武器として社会で活躍する。

上表のように、学生の主体的な目標設定、選択を基本にしている点が、現行の主専攻プログラムとの違いである。もちろん、学生の選択などの際には、教員が丁寧なアドバイスを行うことが前提である。

科目区分の中では、リテラシーコア・課題解決実践科目が、創生学部のカリキュラム体系の中心となっており、その中で多面的に課題を把握し、解決する汎用的な能力の養成に主眼をおいている点が、特定の専門分野を中心に課題解決力などを身につける現行の主専攻プログラムと最も異なる点である。

（２）領域学修科目パッケージでの履修（創生学部学生）と主専攻プログラムのカリキュラム全体での履修（主専攻プログラム学生）との違い

創生学部の学生が行う専門領域の学修は、既存学部（主専攻プログラム）が提供する科目を活用して行う構造になっている。そこで、創生学部の学生と、主専攻プログラムの学生との履修内容の違いを述べる。

まず、創生学部の学生が学ぶ領域学修科目パッケージは、各主専攻プログラムでのカリキュラム体系の中の一部として位置づけられる。【資料 12】に例示するように、各主専攻プログラムで開講している科目から、主に基礎的な科目を中心に、領域学修科目パッケージは構成されている。その中でも根幹となる科目をパッケージの中の「基礎科目」に位置づ

けて構造化している。本学の一般の学部での卒業研究などを除いた専門性に係わる単位数は平均的に 80 単位程度と想定される。領域学修科目パッケージで履修を課している 40 単位は、一般学部の半分で、基礎的な部分を網羅した内容となる。一方、主専攻プログラムの科目のうち、領域学修科目パッケージとして指定されている以外の授業科目は、主にその専門分野の中で知識や技術を活用するための応用的な科目が多くなっている。すなわち、主専攻プログラムのカリキュラムで教育を受ける主専攻プログラムの学生は、領域学修パッケージに対応する基礎的な科目で身につけた内容を、同じ主専攻プログラムの中の応用的な科目で活用することになる。

これに対し、創生学部の学生は、ソリューションラボなどで、領域学修科目パッケージでの学修内容を踏まえて、分野横断（総合）的な課題解決の実践において学問的アプローチを適用していく。そのため、結果として特定分野の領域学修で学んだ内容を、その分野の中だけでなく様々な分野で活用する力を身につけていくことになる。この点が、創生学部と主専攻プログラムとの違いであり、総合的な課題解決をデザイン（調整、統合）する中で専門的知識・技能の活用法を身につけ、学生自身の視点でソリューションを創りあげていくのが創生学部の特徴である。なお、創生学部では領域学修科目 40 単位取得を卒業要件としているが、先にも述べたように、学生の意思によって、更に深い専門性を身につけることも可能である。課題解決の実践の中で気付きをえた学生は、さらなる専門領域の学修の必要性を意識し、専門領域学修を主体的に強化していく方向性をもち得る。その場合、学生は専任教員及び主専攻プログラム担当教員と相談し、キャリアを設計した上で、卒業要件単位数を超えて履修していくことになる。

この両者の違いを、新潟大学の主専攻プログラムの 4 つの教育目標領域（「知識・理解」、「分野固有の能力」、「汎用的能力」、「態度・姿勢」）を用いて述べると、創生学部では領域学修を通して主に「知識・理解」、「分野固有の能力」が養成され、「汎用的能力」、「態度・姿勢」はリテラシーコア・課題解決実践科目などで養成される。一方で、主専攻プログラムの学生は、「知識・理解」、「分野固有の能力」だけでなく「汎用的能力」、「態度・姿勢」も主に専門性の教育の中で身につける。従って、先に述べたとおり、創生学部の学生は修得した領域学修分野を超えて知識を汎用的に活用する力をより多く持つことになり、その結果として、多面的な視点から課題を把握し、解決に向かう志向が強い（自己創造型）人材として社会に出ることが期待される。

（３）創生学部の教育課程における総合力育成に対する領域学修の位置づけ

ここで、22 の領域学修科目パッケージ設定に関連し、総合的に課題解決をデザインできる人材を育成する創生学部の教育課程について、再度整理する。

- ① リテラシー学修において、様々な専門性を有する Type I 教員による基礎ゼミⅠ～Ⅳ、リテラシー応用 A～E など、課題を多面的に把握・分析する能力を身につける。
- ② ゼミなどでのグループ学習などを経て異なる専門指向を持つ他の学生と議論し、協働する力を身につける。
- ③ 自身の専門性として、主専攻プログラムをベースとした分野で、基礎的な知識・技能を修得する。
- ④ ソリューションラボⅠ、Ⅱなどで、自分の有する専門性を核に、他分野の専門性を有する学生と議論・協働して、統合的に課題解決をすることを通して、課題解決に資す

る企画力、コーディネート力、実践力を身につける。

このように、創生学部教育課程では、多角的な視点や多面的な考え方をリテラシー学修において身につけ、また、自身の専門性を持ちつつ、異なる専門性を持つ他者と協働して課題に取り組むことのできる人材を育成する。すなわち、他の主専攻プログラムとの違いは主に①、②、④にある。

また、創生学部では、異なる専門性を有する人との協働プロジェクトをコーディネートできる人材育成を目指しており、領域学修ではひとつの専門に関する知識などの確実な涵養を行う。それぞれの専門性の基礎を 40 単位で学ぶことを考え、主専攻プログラムベースの 22 パッケージとした。なお、先にも述べたが、主専攻プログラムでパッケージを管理することにより、責任体制を明確にでき、学生が安心して学べる環境を提供できることも利点である。

（４）創生学部教育課程の特徴のまとめ

他の教育プログラムとの違いを踏まえた創生学部教育課程の特徴を以下に示す。

① 課題発見・課題解決能力の育成を重視した教育課程の編成

- ・クォーター制を活用した初年次からの学外（地域、産業界）での集中的な学修プログラムによる学修意識の転換
- ・課題把握、解決能力を育成するための「リテラシー」育成の授業科目群
- ・課題を把握し、表現するために必要な「数的感覚」と「外国語運用能力」の強化
- ・関心の異なる学生とグループで行う「課題解決実践科目」によるコミュニケーション能力、コーディネート能力、統合力の育成

② 学生の学修志向性によって選択可能な‘22の領域学修科目パッケージ’

- ・学生の学問的関心に合わせて、全学サポートによる専門領域の授業科目（領域学修科目パッケージ）を選択
- ・他学部の学生とともに学修することを通じて多角的な視点を育成
- ・領域学修での学修内容を、分野横断（総合）的な課題解決実践の中で活用する方法を考えるカリキュラム構成

③ 学生の学士力（最終的な学修成果）を自らが証明する学修成果の質保証

- ・学部が定めるディプロマポリシーに基づいた到達目標を、学生自らが 1 年次に設定し、学年進行とともにブラッシュアップしつつ、それに合わせた学修計画を策定
- ・設定した到達目標に叶う学士課程の学修成果を、第三者評価を通じてアセスメント

④ 少人数教育と充実した教育・学修サポート

- ・初年次から卒業時までの 4 年間を通じた少人数制の学修指導
- ・異学年の学生との交流を促進する「学年縦断型ゼミ」の実施
- ・学修プロセスと学修成果を確認するシステム（NBAS）の活用

4. 4 学生が自ら設計（選択）した教育課程により、それぞれ特徴づけられる人材像

（１）ディプロマポリシーと学生が設定する到達目標

創生学部では、4. 1に示したディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーに基づき、教育課程が編成されている。この教育課程を通じて育成される人材像は以下のとおりである（表7）。

表7 創生学部の教育課程を通じて輩出される共通の人材イメージ

社会の様々な分野で以下の役割を担う人材としての活躍が想定される。 ・ 複数分野の知識を統合・デザインすることで、俯瞰的な視野からチームを牽引する人材 ・ 業種・業界に拘わらず企画・コーディネート能力を発揮して課題解決をサポートする人材 ・ 柔軟な発想でステークホルダーと協働し、価値創造にむけてチャレンジする人材 ・ 特徴的な学修スタイルを通じて研ぎ澄まされる感覚（創造性）を活かして新規領域・融合領域を開拓していく人材（研究者）

創生学部の学修過程では、学生自らによる選択が含まれるとともに、学生自らが到達目標を設定するため、最終的に育成される能力の具体的な特徴（人材像）は学生によって異なってくる。学生が行う到達目標の設定は、以下の様に共通のディプロマポリシーを上位概念としてそれぞれの項目に対応する具体的な到達目標を定める形式となる（表8）。

表8 ディプロマポリシーを参照して学生によって設定される到達目標イメージ

ディプロマポリシー	個人で定める具体的な到達目標（以下は例示）
（i）課題を発見し、その解決に向けて主体的に学修する態度・姿勢	・ ○○に関わる諸問題に多角的にアプローチを試み、主体的に取り組むことができる。
（ii）課題解決に必要な分析力・論理的思考力	・ 調査結果を統計的に扱い、分析し、その結果から、○○の課題などを説明できる。
（iii）他者と協働できる自己表現力を有し、問題解決をコーディネートする能力	・ 英語運用能力を1年次のTOEICスコアから20%以上向上させる。 ・ 自らの考えを的確に記述・表現・発表し、他者との建設的な討議を行うコミュニケーション能力を身につける。
（iv）専門領域の知識を有するとともに、多面的な視点から複数分野の知識を選択的に統合し、課題解決の場をデザインする能力	・ ○○学・○○学のそれぞれの学問分野の理論と方法論を身につける。 ・ ○○の多様性と共通性を理解し説明できる。 ・ ○○学的観点から課題把握・解決プロセスを提案し、他者と協働して、課題解決を企画できる。

創生学部における到達目標は、「学生自身がディプロマポリシーや能力・スキルベースの

ディプロマポリシー評価の観点（【資料 5－2】）に基づいて説明可能な目標」と定義する。設定された到達目標は、学生一人ひとりで具体的な内容については異なることになる。学生が設定する到達目標には、現実性と具体性を欠くケース（例えば、行為動詞で表現されないもの、測定可能でないもの、教育課程に関連しない抽象的なもの）などの個人差も想定されるため、到達目標の設定に関わるスキルを学修するための授業科目として、「6. 1」で後述する「創生学修入門」、「リフレクションデザインⅠ，Ⅱ」を配置し、教育課程上での指導を徹底する。学生は1年次第1タームの必修科目である「創生学修入門」で到達目標創生型の学修スタイルの概要を理解し、それに合わせて「リフレクションデザインⅠ」で到達目標設定にかかわるスキル教育を受けることで、到達目標設定のための最低限の知識と技術を習得する。この段階では、作成された到達目標の適切性と妥当性を十分に担保した状態にすることは困難であると予想されるため、教育課程以外の場面である「セメスターアセスメント（半年ごとに実施）」で担任教員2名が学生との面談を通じて、到達目標の適切性や内容的妥当性を1年次に時間をかけて整える。1年次第3タームには「リフレクションデザインⅡ」で領域学修科目に関する到達目標を設定するための講義が配置されている。この授業科目を通じて、学生自身が領域学修の分野を主体的に選択し、自分のキャリア形成を意識しながら、学修の計画を設定していくことになる。この際、学生はセメスターアセスメントや担任教員との教育課程外での対話を通じて、自らの到達目標を改善しながら学修を進めていくこととなる。このように学生は教育課程と教育課程以外での往還的指導を受ける【資料 7－2】。1年次に設定した目標も、リフレクションデザインⅠ～Ⅳやセメスターアセスメントを通じて2年次、3年次でブラッシュアップを行いながら、学修を進めていくことになる。具体的学修計画をサポートする到達目標の設定・改善を教員集団で絶え間なく行っていくことでディプロマポリシーに叶う人材を育成する（【資料 11】下部参照）。

なお、(i) から (iii) に挙げられている能力は、創生学部が学生が共通して履修するリテラシーコア・課題解決実践科目の学修を通して修得する能力である。そのため、これらに関する到達目標は学生間で共通性の高い内容になるものと考えられる。一方で、(iv) の専門領域の知識にかかわる部分は、選択する領域学修科目パッケージによる学修が影響するため、個々の学生によって大きく異なると考えられる。

そこで次に、それぞれ選択する領域学修で育成される人材像の特徴を示すこととする。なお、S.P.A.C.E.とデータサイエンス実践科目の選択も、学生によって異なり、選択した科目によって人材像の特徴もある程度異なることになると予想される。ただし、これらの科目の基礎の部分は、必修として学修しており、創生学部のすべての学生が基本的な能力を有すると考えられる。また、卒業要件として設定されている単位数も4単位のみであるため、領域学修（40単位）の違いほどの影響は少ないことが予想される。従って、S.P.A.C.E.とデータサイエンス実践の選択は、学生が課題に取り組む際の自分の強みとして現れる形になると考えられる。

（2）選択する領域学修により育成される人材像の特徴

領域学修科目パッケージごとに、育成される人材の特徴と、養成される能力が定義されている。これらは、提供する主専攻プログラムでパッケージ構築時に設定された内容である。学生はそれらに鑑み、具体的な個別の到達目標を設定する。以下にその1例を示す。最下欄には【資料 11】の履修例に対応した個別学生の入学から進路決定までの選択例も示

している。

1. 社会・地域文化学領域学修科目パッケージ

領域学修により育成される人材の特徴		社会学，文化人類学，民俗学，考古学，人文地理学，芸能論の領域において，地域文化学に関する一定の専門性を有しつつ，人間の営みを具体的な資料に基づいて広く深く理解する力を身に付け，地域文化学的観点から課題把握・解決プロセスを提案・実践できる人材
領域学修で期待される学修成果		・フィールドワークの重要性について理解し，フィールドワークに必要な技法を身につけ，実際に実施できる能力 ・フィールドワークによって得られた資料を整理し，分析することができる能力 ・過去から現在まで様々な地域において形成された社会と文化の多様なあり方について多角的に把握し，理解できる能力
履修例に対応した人材像	1-1	入学時：文系型一般入試（基礎学力があり，国内外の文化や経済に興味がある） スキル選択：S.P.A.C.E.を選択（国際志向） 領域選択理由：国内外の文化的観点からの地域活性化を志向 進路選択：地域を国外にも紹介し，活性化することを目指して観光関連で活躍
	1-2	入学時：推薦入試（高校での課題探求から，メディアと文化全般に関心がある） スキル選択：データサイエンス実践を選択（データの扱いや分析に関心） 領域選択理由：メディアによる産業活性化を志向 進路選択：身につけたデータの分析力を活かして情報メディア関連企業で活躍

同様に定めた22領域に関する人材像の特徴を【資料13】に示す。

5. 教員組織の編成の考え方及び特色

5. 1 教員組織の構造化

創生学部では，学部内での教育に留まらず，専門の学問領域は既存の学部（主専攻プログラム）で開講されている科目を利用して履修する全学協働体制で教育を実施する。そのため，他部局との教育上での連携が非常に重要になる。また，学部内での教育で中心となる科目区分はリテラシーコア科目であり，これまでの専門性の近い教員集団での教育とは異なり，多分野の教員集団による教育体制となる。

以上を考慮し，創生学部の専任教員の役割を大きく二つに区分し，構造化した組織とする。教員数は全体で18名であり，その構成は50歳代以上10名，40歳代6名，30歳代2名と幅広い年齢構成となっており，今後の継続性にも配慮している。なお，カリキュラム構成上の授業科目担当イメージとの対応関係を【資料14】に示す。

専任教員は，Type I 教員と Type II 教員で構成される。それぞれの役割（職務・特徴）を以下に示す。

① Type I 教員：リテラシーコア科目を中心に，学生の課題学修を主指導する専任教員（学

部長含む) 計 12 名 (以下「Type I 教員」と表記する) で、社会学、政治学、経営学、教育学、教育工学、心理学、生物学、環境解析学、電気工学、機械システム工学、科学技術論を専門とする教員各 1 名と、高大接続を考慮し高校教員から採用した教科教育を専門とする 1 名から構成される。主な職務は以下のとおりである。

- ・課題把握・分析などについて、PBL 等の手法を用い、多面的な見方を教授・指導
- ・初年次からゼミ指導を通じて、綿密なキャリア相談に対応
- ・専門性も含めて課題解決について講義・演習
- ・異なる専門性を身につけてきた学生を対象にグループでの課題解決実践を指導
- ・主な担当科目 (リテラシー学修の中心となる科目)

創生学修入門	創生学部 of 学修スタイルの理解
スタディスキルズ	大学学習法
リテラシー基礎	社会的な課題の基礎的な学修と、大括りの学問分野との関連
リテラシー応用	教員の専門性を背景に、課題の把握・分析
基礎ゼミ	他の講義と連携した課題探求ゼミ
プロジェクトゼミ	ソリューションラボの準備段階の学修
ソリューションラボ	卒業研究相当の課題解決実践
リフレクションデザイン I	学びの習慣の振り返りと創生学部での学修の基本的なデザイン
リフレクションデザイン IV	学修過程のまとめと学位申請準備

なお、「リテラシー応用」「基礎ゼミ」「プロジェクトゼミ」は 12 名中 10 名の教員が担当する。他 2 名は、学部長と専任教員 1 名であるが、学部長の役割については、本節の最後に示す。専任教員 1 名は、学部長・Type II 教員とともに既存学部と連携し、主専攻プログラムから提供される領域学修科目の調整を行うとともに、教育・学生支援機構との連携によって学外学修等の学外の学生受け入れ機関との調整にあたる。

② Type II 教員：主専攻プログラムでの領域学修をコーディネートし、Type I 教員と連携して、学生を指導する専任教員 計 6 名 (以下「Type II 教員」と表記) で、理学、農学、工学、人文科学、法学、経済学の各領域を背景にもつ教員である。それぞれ理学部、農学部、工学部、人文学部、法学部、経済学部の教育も兼担しており、創生学部と当該学部との連携の中心になる。主な職務は、以下のとおりである。

- ・創生学部学生が領域学修科目パッケージを選択する際に主専攻プログラム及び Type I 教員と連携・協働した指導助言
- ・当該学部に関わる領域学修科目パッケージの維持管理に関する助言
- ・当該学部に関わる領域学修科目パッケージへの学生の円滑な接続のための授業科目 (領域学修科目の導入科目) のコーディネート
- ・主に領域学修科目に関連する以下の授業科目の担当

リフレクションデザイン II	各領域学修の紹介他
領域概説	当該学部の専門性と社会の課題に関する講義など
リフレクションデザイン III	領域学修の成果の確認

創生学部をこれらの 18 名の教員で組織することにより、従来の学部とは異なる全学協働教育体制を機能させる。新たな構造を持った教育組織を十足的に機能させるために、学部長は全学的な教育体制と学部内教育体制全体を調整する。具体的には、創生学部内の運営面で学部教授会、教務委員会等の教員会議の統括・調整など既存学部の学部長と同様の業務に加え、領域学修科目パッケージの調整に関しては既存学部との連携が不可欠であることから全学協働教育体制の調整についても考慮する。

5. 2 教員組織の特色

創生学部においては、学部内及び全学との機能的な連携体制を如何に実現できるかが、教育組織として、非常に重要な点となる。上記のような教員組織の構造化の中で、学生は、Type I 教員との関わりから、基本的な学修に関するキャリア設計を行う。したがって、Type I 教員が最も学生に近い存在として、綿密な指導を行うこととなる。そのため、1 年生からゼミ配属を行い、その機会を十分に与える設計になっている。

学生は、様々な分野の Type I 教員と触れる機会から、多面的な視野が涵養される。一方で、専門性については、領域学修科目として学部の主専攻プログラムで開講されている科目を履修することによって身につける。そのため、主専攻プログラム担当の教員との連携も重要な鍵となる。

Type II 教員は、Type I 教員と連携して、さらに主専攻プログラム教員と協働して創生学部の学生の教育を実施することが、重要な職務となる。この Type II 教員は、学内資源の再配分によって創生学部専任教員となることから、既存学部との連携がスムーズに進むように考慮された配置になっている。また、Type II 教員は創生学部での従前の学部組織とは異なる新しい教育システムを既存学部での教育改革に活かすために、学部に情報提供することも職務の一つとなる。通常の学部とは異なり、創生学部は全学協働での教育体制で臨むため、学部長は全学の教育体制を把握し、創生学部の学生の全学での教育を調整し、円滑に実施することが重要となる。

上記の、創生学部と主専攻プログラムの連携関係の概略を以下に示す。図 1 に示すように創生学部では教務委員会がカリキュラムや学生の履修指導などについて対応するが、領域学修科目パッケージを提供している学部には、各主専攻プログラムからの代表者による領域学修科目パッケージ代表者会議を置き、学生の領域学修について対応する。この会議の議長は Type II 教員が務め、創生学部との協働をコーディネートする。さらに、各主専攻プログラムでは、プログラム会議において、創生学部の学生が領域学修科目パッケージの履修において順調な学修ができるように協議する。これらの情報は、パッケージ代表教員と Type II 教員を介して、創生学部教務委員会と共有し、学生の履修指導に活用する。更に詳しい模式図を【資料 15】に示す。

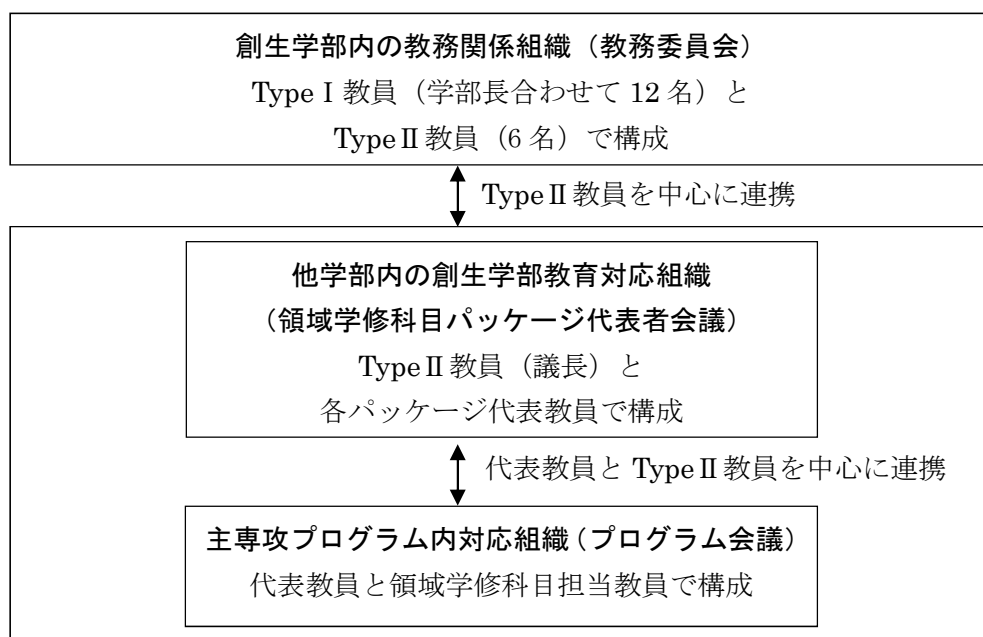


図 1 創生学部と他学部との連携

また、領域学修科目履修時の学生指導などに対する Type I 教員、Type II 教員、領域学修科目パッケージ代表教員、科目担当者の具体的な役割と連携例を図 2 に示す。このように、領域学修科目の履修においては、主専攻プログラムの教員が機能的に連携して教育にあたるため、創生学部の Type I と Type II で構造化した専任教員 18 名は、リテラシーコア科目などの教育を実施することで、十分な教育効果が得られる。

		領域学修科目パッケージ 選択時	パッケージ科目履修決定後 ・履修時の学修状況 ・履修上のトラブル等への対応	領域学修全体の評価 (リフレクションデザインⅢ)
創生学部	学生	履修希望について、Type I、II 教員に相談	・履修希望科目について、Type II 教員に相談 ・必要に応じて面談	リフレクションデザインⅢの履修 (領域学修科目を通じて得た学修成果を提出)
	Type I 教員	学生にアドバイス	・学生の学修状況の把握、助言 ・教務委員会等で学生の学修状況を共有	創生学部教務委員会 ・リフレクションデザインⅢの科目担当
	Type II 教員	学生に助言・指導	・学生に助言・指導 ・教務委員会等で検討 ・領域学修科目パッケージ代表教員に相談	
(主専攻 既存プログラム)	領域学修科目 パッケージ代表 教員	Type II 教員に助言	・主専攻プログラム内の聴講調整と履修支援 ・履修状況全体の把握と報告 ・主専攻プログラム内調整と連絡	・学修成果の評価のための助言
	科目担当教員		・授業科目担当 ・履修状況報告(調整・改善)	

領域学修科目パッケージ代表者会議

主専攻プログラム会議

図 2 領域学修科目パッケージの履修指導などにおける各教員の具体的な役割と連携例

5. 3 教員組織の研究分野

上述のように、創生学部は、一般的な学部の教員組織とは異なり、専門性が多様な教員で組織されている。本学は、教員組織の教育研究院において、人文社会・教育科学系、自然科学系、医歯学系に各教員が所属し、さらにその中で専門性に対応する系列に所属している。創生学部の専任教員もこれらの学系に所属し、その位置付けで研究等においても、他教員等と協働した活動を行うことになる。したがって、全学的な研究体制の中で、それぞれの分野を中心とする研究を行うことが基本となる。ただし、創生学部の教育上の位置付けからも明らかなように、創生学部では社会の課題に対し、多面的な取組みを行うことに重点が置かれ、卒業研究に当たるソリューションラボでも、学生は異なる専門を履修した学生と協働して課題解決に向かうプロジェクトを遂行する。それを指導する教員も、学生の多様な関心に対応できるように、実践的な課題を多面的に扱う研究を遂行していくことになると思われる。

6. 教育方法、履修指導方法及び卒業要件

6. 1 教育課程について（授業の方法、学生数、配当年次）

教育課程としては、リテラシーコア・課題解決実践科目における汎用的能力涵養に関する教育を中心として、専任教員がそれぞれの有する専門性を背景とした PBL 等を活用した教育（アクティブラーニング）を実施する構成としている。種々の専門性を有する教員を配置し、複数の講義を行うことは、上述のとおりである。学生はそこから、自らのキャリアを意識し、自らが身につける専門性を考えていくことになる。そして、領域学修科目で専門領域を選択するとともに、課題解決実践段階では領域学修で身につけた能力も活用した PBL 等を行う。また、その段階では、他の領域を学修した学生と協働して、課題解決に取り組み、多面的な視点からグループで解決法を考えることになる。

以下に、年次ごとに主に専任教員が担当する特徴的な講義と、指導方法について述べる。なお、特に学生数を示さない科目は、全員（65 名）が 1 クラスとして聴講する科目である。

【初年次：学外学修を活用した転換教育と学修設計】

創生学修入門／第 1 ターム（集中）：新潟大学及び創生学部の基本的な理念と、創生学部の新しい学修スタイルの概要を理解して、自己創造型学修を意識化するための科目である。この科目により、創生学部の特徴的な教育課程への適応を図る。

リフレクションデザイン I／第 1 ターム：初年次の導入教育として創生学部の教育理念を共有し、学士課程における学修を自らデザインするための手法を理解する科目である。複数名の Type I 教員で対応するが、その中で高校教員経験を有する教員が、高校での課題探求型教育などと創生学部での学修との関連について講義し、その接続についてグループディスカッションなどで考えさせる。また、他学部と異なる教育方法を、学部長などが教授し、さらに学生間のディスカッションにより、学修意識の転換を図る。

フィールドスタディーズ（学外学修）／第 2 ターム：地域、産業界（企業）などをフィールドとして、社会の課題を体感する科目である。5～10 名程度のグループで学修を行い、1 週間の中で連続する 3 日間は学外での課題探求、体験を行う。残りの 2 日間でグループでのディスカッションによる学内でのまとめと次の週の計画を策定する。

Type I 教員がファシリテーターとして、学外学修を指導・助言する。また、学外に出るための事前、事後学修も行う。

リテラシー基礎／第3ターム：Type I 教員のうち文系と理系で2名ずつが担当し、社会の課題とある程度広い分野での専門性との係わりを講義する。また、その後、PBL形式のグループワーク（5名程度）から、課題への対応の多様性を理解する。

リフレクションデザインⅡ／第3ターム：Type I 教員が中心となり、Type II 教員ならびに主専攻プログラムの教員とも連携しながら、領域学修と社会の課題の関連を理解させることが主な内容である。単なる領域学修科目の紹介ではなく、グループディスカッションなどを通じ、社会の課題と専門性との関係について自ら考えさせる形式で実施する。学生は、この科目を通じて領域学修科目パッケージの選択の方向性を考えるとともに、多分野の専門性と社会的課題との係わりを理解し、多面的な視野を身につける。

領域概説A～F／第4ターム：Type II 教員が担当する科目であり、各学部の専門性の概要と、その専門性と社会の課題との関連に関する議論を行う講義である。既存学部のうち6学部（人文学部、法学部、経済学部、理学部、工学部、農学部）に対応して6科目開講され、学生はこのタームでは2科目選択して履修する。原則としてType II 教員が講義を行うが、必要に応じて当該学部の学部担当の教員とも連携し、先端的な課題と専門性の係わりについても講義し、学生の興味を喚起する。

基礎ゼミⅠ，Ⅱ／第1～4ターム：2名の専任教員が協働で主催する5つのゼミに65名の学生が分かれて参加し、グループで課題解決を行う授業である。各教員の専門性に近い課題などをテーマに、各グループの学生全員で課題探求等を行い、グループ活動の基本的態度・姿勢を修得するとともに、プレゼンテーション力も養う。1，2年生の合同の形式でゼミ活動を進めるとともに、半年（セメスター）ごとに異なるゼミに参加し、教員も含め、多くの他者とコミュニケーションをとる機会を作る。1年生と2年生の学生が参加するため、教員2名の1ゼミあたり学生26名程度で構成される。

【2年次：基礎的段階のリテラシー学修と選択した学問領域の学修】

リテラシー応用A～E／第1，2ターム：10名のType I 教員が、2名で1つの科目を開講する。授業の内容は、各教員の専門性を背景にした社会の課題の把握・分析に関するPBL形式の学修であり、広い視野と考え方を身につけることを目的としている。第1タームから第2タームにかけて5科目が開講され、学生はそのうち4科目を2年次もしくは3年次に選択して履修する。2年生と3年生が同時に受講する形態をとるため、2年生はある程度学修の進んだ3年生の意見などを聞くことができ、一方で、3年生は2年生の考えの補足などを考えることにより、両者ともに立場の違う関係でのコミュニケーション力が養成される。

データサイエンス基礎、データサイエンス実践A～C／第1～4ターム：文系理系問わずにデータを用いた課題分析に関するスキルベースの科目であり、Type I 教員と他部署の教員が協働して講義にあたる。データサイエンス実践は、実践英語集中科目S.P.A.C.E.との選択必修としている。従って、ほぼ半数の30名程度の学生を対象とした講義・演習となる。

S.P.A.C.E.（Skills Program for Academic and Content English）実践英語科目／第1～4ターム：基礎科目の英語で身につけた英語運用能力を更に向上させ、特に海外での活

躍を希望する学生向けの科目である。データサイエンス同様にほぼ半数の 30 名程度の学生を対象とした講義・演習となる。なお、S.P.A.C.E.は、グローバル人材育成推進事業【資料 16】で開発された科目である。

領域学修科目パッケージ／第 1～4 ターム：創生学部の学生が、主専攻プログラムで開講されている専門領域の科目を履修する。すでに認可され、内容と担当教員の能力も保証されている学部・学科で開講されている科目を、主専攻プログラムの学生とともに履修する形式である。22 の領域学修科目パッケージに対し、創生学部の学生数は 65 名であり、一つの領域学修を平均的には 3 名程度の学生が選択することになる。しかし、学生の志向で決めるため、偏りが生じる可能性があるが、4. 2 で示した定員を上限として調整する。学生には第 2 希望なども考えさせ、偏りが出た場合に対応する。最終的には、学部教員会議で確認し、決定する。

なお、主専攻プログラムの科目は、そこに所属する学生向けに時間割が組まれているため、創生学部の科目との時間的なバッティングが生じることも予想される。そのため、Type II 教員が中心となり、主専攻プログラムの教員とも連携して調整を行う体制を整備している。また、そこでは主専攻プログラムで作成してあるカリキュラムマップ（到達目標と科目との関連性を表示）も用いることを予定している。これらを通して、科目の体系性に対する学生の理解を促進させ、基礎的な能力が無理なく身につけられるような履修計画の支援を行う。

基礎ゼミⅢ，Ⅳ／第 1～4 ターム：2 名の専任教員が協働で主催する 5 つのゼミに 65 名の学生が分かれて参加し、グループで課題解決を行う授業である。各教員の専門性に近い課題などをテーマに、学生全員で課題探求等を行い、グループ活動の基本的態度・姿勢を修得するとともに、プレゼンテーション力も養う。1 年次の基礎ゼミⅠ，Ⅱの項に書いたとおり、1，2 年生共同で活動を行うが、2 年次の**基礎ゼミⅢ，Ⅳ**では、課題を提案し、グループで協働して学修内容をまとめる力、グループ活動をマネジメントする力を身につけることにそれぞれ重点を置いて学修する。

【3 年次：実践的なリテラシー学修と領域学修】

リテラシー応用 A～E／第 1，2 ターム：2 年次の記載と同様である。10 名の Type I 教員が、2 名で 1 つの科目を開講し、各教員の専門性を背景にした社会の課題の把握・分析に関する PBL 形式の学修を行う。

領域学修科目パッケージ／第 1～4 ターム：2 年次の記載と同様である。創生学部の学生が、主専攻プログラムで開講されている専門領域の科目を履修し、専門性を身につけることを目的とする。

プロジェクトゼミⅠ，Ⅱ／第 1～4 ターム：Type I 教員が担当するゼミに分属し、4 年次に履修するソリューションラボ（卒業研究相当）での研究・課題解決に向けてより専門的な学修を行う科目である。第 1，2 タームのプロジェクトゼミⅠでは、文献講読を中心に、課題解決に関するグループ学修を行い、先行研究等の知見を理解することや、批判的思考力を養うことを目指す。第 3，4 タームのプロジェクトゼミⅡでは、ソリューションラボにつながる科目として、課題解決実践の基礎を学ぶ。その際、4 年生と一緒にプロジェクト等を進めることにより、チームでの課題解決活動の基本も学ぶ。

1 教員は、6～7 名程度の学生をゼミで指導する。ゼミ配属は、先にも述べたとお

り、学生の希望を優先するが、希望が偏る場合は GPA などの学修成果を基準にして調整する。

【4年次：領域学修の成果評価と課題解決実践と学修過程のまとめ・学位申請】

領域学修科目パッケージ／第1，2ターム：2年次の記載と同様である。

リフレクションデザインⅢ／第2ターム：領域学修での成果を確認し、学生の専門領域の能力を確認する科目である。領域学修の成果を用いて、教員が設定した社会の課題との関係性をまとめる。その発表会において、主専攻プログラム担当教員とも協働して、その能力（領域学修の応用力）を口頭試問等で確認する。この結果をもって、専門領域について一定程度の能力が付いたことの保証とする。

ソリューションラボⅠ，Ⅱ／第1～4ターム：専任教員の指導の下で、チームもしくは個人による研究・課題解決の実践を行う科目である。一つのラボに、異なった領域学修を経た学生が配属されるため、多面的な視野からのディスカッションが行われ、統合力などが涵養される。テーマは、教員と学生のディスカッションで決め、教員はファシリテーター的な役割として、学生の主体的な活動を支援する。1年間かけて研究・課題解決を実践し、その成果をまとめて発表することで、これまでの学修で身につけた能力が総括的に判断される点は、通常の卒業研究等と同じであるが、多面的な視点から複数の分野の知識を統合し、課題解決の実践の場で活用する点が創生学部の特徴である。なお、ラボの配属は、プロジェクトゼミ同様に、学生の希望を優先するが、希望が偏る場合は GPA などの学修成果を用いて調整する。

リフレクションデザインⅣ：4年間の学修の過程をまとめ、1年次に設定した学修目標に到達している点を、自らが身につけた汎用的能力や専門的能力を NBAS のポートフォリオ、リフレクションなどでの蓄積を用いて、専任教員の指導の下で「学修成果報告書」としてまとめ、提出する。また、作成段階では、第三者の「学修成果検証委員会」からのフィードバックを受けることを必須とする。一連のプロセスによって作成された「学修成果報告書」が評価対象となり、その評価（単位認定）をもって学士課程全体での学修成果の質保証を担保することになる。学位認定に係るプロセスは6．4で詳述する。

6．2 CAP 制及び他大学における授業科目の履修等

創生学部では、PBL など授業外の学修の比重が高くなるため、タームごとの履修にある程度柔軟性を持たせる必要がある。このため、第1，2及び第3，4タームを組にして、二つのターム（一つのセメスター）の合計で24単位を上限とする。また、他大学で履修した科目等は、科目の内容を確認して読み替えを行う。

6．3 4年間を通じた履修指導

創生学部では、基礎ゼミⅠ（1年次第1，2タームに履修）のゼミ担当教員（学生13名を2名の教員で担当）が、1年次から2年次までの間、担任となり、個別の履修指導などを行う。また、3年次ではプロジェクトゼミの担当教員が、4年次ではソリューションラボ担当教員が、同様に少人数の学生に対して指導を行う。このように、初年次から卒業時までの4年間を通じた少人数制の学修指導を行う。4年間のラボワーク（基礎ゼミから研究室活動）のイメージを【資料7-1】に示す。

そこでは、一般的な履修指導も行うが、創生学部の特徴として挙げられる自ら到達目標を定め、履修科目の設計が行われる点を考慮し、より丁寧な指導を行う。また、その中で、成績不良の学生へのサポートを含め、学生生活全般についても視野に入れた支援を実施する。以下に各年次での履修指導を示す。

1 年次（担任は基礎ゼミ I での担当教員）：第 1, 2 タームでは、まず、創生学修入門及びリフレクションデザイン I で、創生学部の特徴的な教育課程と独特の学修方法を理解させ、4 年間の学修計画、基本的な到達目標を設定するが、担任教員からも、それぞれの 4 年間の学修計画について助言を行う。具体的には、学生の学修方針、専門性（領域学修科目パッケージ）の選択などについて、綿密な指導を行う。

第 3～4 タームでは、リフレクションデザイン I、リフレクションデザイン II、領域概説などを参考に学生が領域学修科目パッケージの選択を行う。その際に担任は **Type II** 教員と連携し、助言を行う。**Type II** 教員は、領域学修科目パッケージ代表教員とも連携し、必要があれば、パッケージ代表教員から学生に直接説明する機会を作るなどの対応も行う。この際、領域学修科目パッケージ代表教員は、パッケージを構成する授業科目の履修順や、開講時期などを考慮したサポートを行うため、主専攻プログラム担当教員としての知識と経験が必須である。なお、各領域学修科目パッケージの選択については成績等を検討し履修調整を行うが、各パッケージの履修定員を超えないように配慮する。さらに、S.P.A.C.E.とデータサイエンス実践の選択もこの時期に行われるため、学生が自分の関心に沿って選択できるように、担任教員が学生の学修志向性を踏まえて助言する。

1 年次の最後の段階では、リフレクションデザイン I、リフレクションデザイン II、領域概説などを参考に、担任教員のアドバイスの下で学生が 2 年次以降の具体的な学修到達目標を設定する。領域学修科目パッケージ履修に関する目標については、**Type II** 教員と協働して指導する。その際、領域学修科目パッケージ代表教員からも、助言をもらう。個々に定めた学修到達目標は、創生学部教員会議（教務委員会）でその妥当性について確認し、必要に応じて修正後、決定する。

2 年次（担任は基礎ゼミ I での担当教員）：1 年間を通じて、担任は、リテラシーコア科目、領域学修科目の履修に関する相談を受け、助言を行う。担任は学生の履修状況を見ながらサポートをするが、5. 2 の表「履修指導などにおける各種教員の具体的な役割と連携例」にも示したように、領域学修科目パッケージでの学生の学修状況の把握や問題点への対応については、授業科目担当教員から領域学修科目パッケージ代表教員に情報をあげ、さらに創生学部 **Type II** 教員に伝えるという連携を通じて、情報を共有しながら適切に行う。円滑な連携と情報共有の精度を高めるために、既存学部（人文学部、法学部、経済学部、理学部、工学部、農学部）には「領域学修パッケージ代表教員会議」、各主専攻プログラムには領域学修科目パッケージ代表教員の下での「プログラム会議」を設け、定期的に開催する。これら各会議の情報を、創生学部教員会議（教務委員会）で確認・共有しながら、学生の履修指導や学生支援等に活用することで、全学協働体制による組織的な学生指導体制を実現する。

また、1 年次に設定した学修到達目標は、NBAS を用いたセメスターごとの学修成果の振り返りを通じて、担任の指導の下でブラッシュアップする。この際、領域学修などについては、**Type II** 教員が連携し、主専攻プログラムの領域学修科目パッケージ担当代表

教員からも助言をもらう点、及び、創生学部教員会議（教務委員会）で目標の妥当性について確認する点などは1年次と同様である。

3年次（担任はプロジェクトゼミ担当教員）：この段階からプロジェクトゼミの担当教員が担任となる。このプロジェクトゼミの選択は、基本的には、学生が興味を持つテーマ等をもとに行われる。なお、希望が偏った場合は、面談、成績をもとに振り分け、創生学部教員会議（教務委員会）で最終決定する。科目履修に関する学生への指導は2年次の場合と同じである。

第3、4タームでは、プロジェクトゼミⅡで、4年生と一緒に課題解決実践を行いながら、自らのテーマの絞り込みを行う。その際、担任は学生の関心領域を聞きながら、ソリューションラボのテーマ設定につながる学修計画について助言する。この段階で、ソリューションラボの選択が行われ、プロジェクトゼミでの発表等をもとに、所属ラボの決定に助言し、ラボの教員との橋渡しを行う。ただし、基本的にはプロジェクトゼミを自らの希望を元に決定しているので、継続して同じ教員の担当するソリューションラボに所属するケースも想定される。ソリューションラボ決定時に、偏りが生じる場合は、成績も考慮して、調整を行い、創生学部教員会議（教務委員会）で最終決定する。到達目標のブラッシュアップも、同様に担任の助言の下で行うが、最終段階として、4年次のテーマも考慮して設定する。

4年次（担任はソリューションラボ担当教員）：進路に合わせた履修等を行う。例えば、大学院への進学希望者には、進学後に必要とされる能力等を考慮した領域学修の履修指導を行い、さらに実験・実習など履修が望ましいと判断されるパッケージ外の科目についても、TypeⅡ教員やパッケージ代表教員と連携して4年次に履修を勧めるなど、卒業後の進路に合わせて対応する。また、課題解決実践の最終段階であるソリューションラボでの研究等の遂行、学修成果のまとめなどの指導も行う。TypeⅡ教員は、リフレクシオンデザインⅢでの領域学修の成果確認のための、レポートによるまとめの支援を行う。

担任は4年間の総括と卒業後を見据えた指導として、リフレクシオンデザインⅣにおいて、4年間の学修過程のまとめと、自分のキャリアの中に学修成果を位置づけてまとめるための指導・助言を行う。なお、担任としての指導については、教員の主観的対応に偏らないように、教員2名による指導体制をとり、創生学部教員会議（教務委員会）において、定期的な情報交換を行う。また、専門領域に関する指導・助言については、TypeⅡ教員が中心となり、担任とともに他学部の教員との連携も適宜行いながら、学生へ指導・助言を行うような体制を整えていく。この4年間を通した履修指導の概要をまとめた表を【資料17】に示す。

6. 4 卒業要件（学位認定）

（1）学位認定に関する基本的考え方

創生学部における学位認定は、基本的には学部で定めた科目区分ごとの卒業要件（単位数）を満たし、全体で126単位を取得していることを基準とする。しかし、2で述べた様に、単に単位を積み上げるのではなく、学位申請にむけて、学生が設定した到達目標に叶う学修成果を持っていることを学生自身が根拠を示しながら提示するという考え方で進める。学位認定、学位授与のプロセスは、下記の表に示すようなプロセスを経て、学生の学

修成果の質を担保する（表 9）。

表 9 学生の学修成果の総括的評価と学位授与の方式

	創生学部	学修成果検証委員会(教育戦略統括室)	評価の観点とフィードバック
構成	専任教員全員	教育戦略統括室教育プログラム評価部門及び各学部代表者1名からなる委員会を構成	ディプロマポリシー及びディプロマ評価の観点の共有
プロセス1	4年次必修科目「リフレクションデザインⅣ」で学生が学士課程全体の「学修成果報告書」を作成する。授業科目担当教員は学生への指導により報告書の作成を支援する。4年次セメスターアセスメント(教育課程外)でも、学修成果を第三者に説明できるようにサポートする。	学生が提出する「学修成果報告書」を評価の観点(「創生学部のディプロマポリシー」「本学の学生が身につけるべき能力」)に基づいて、学生が設定した到達目標とそれに対する学修成果に「論理性があるか」という観点でアセスメントを行い、フィードバック(コメント)を付与する。	評価観点1: 創生学部ディプロマポリシー 評価観点2: 本学の学生が身につけるべき能力(下記「参考情報参照」) 上記2点に基づき、提出内容の論理性を確認(特定の専門領域には依拠しない)
プロセス2	「リフレクションデザインⅣ」の授業科目内で、学修成果検証委員会からのフィードバックを踏まえた「学修成果報告書」の修正・改善を行い、提出 →リフレクションデザインⅣの評価は科目への取り組みと学修成果報告書の作成を持って認定とする(合否)	※[参考情報]本学の学生が身につけるべき能力 本学は、地域や世界の着実な発展に貢献することを目的とし、高い見識と良識をもって社会や時代の諸問題に的確に対応し、課題解決のために広範に活躍できる人材を育成する。そのため、各教育課程の中で以下の能力を養成する。	
プロセス3	創生学部教授会 ・学生から提出された「学修成果報告書」とこれまでの学修全般を勘案し、学位認定に関する審議を行う →教授会で学位認定を行い、学長が学位を授与する	・課題を発見し、それを解決する能力 ・課題解決に必要な知識・技能を主体的に学修する能力 ・課題に協働的に取り組むためのコミュニケーション能力	

創生学部においては、4年次必修科目である「リフレクションデザインⅣ」において学部が掲げるディプロマポリシーに依拠した学修成果の総括的指導を行うが、創生学部で達成される学修が本学全体の目指すべき学生像と合致しているか、それ以上であることが求められる。

そこで、学修成果検証委員会（教育戦略統括室）では、その評価の観点に創生学部のディプロマポリシーのみではなく、大学全体で掲げている「本学の学生が身につけるべき能力」も組み込み、大学における質保証の観点から、学生がまとめる学修成果報告書の論理性を確認（アセスメント）し、論理性の担保という観点でコメントをフィードバックする（表 9 「プロセス 1」）。

創生学部では、学修成果検証委員会のフィードバックを受けて、学生が自身の学修成果報告書の修正・改善を図り、最終的な学修成果報告書を提出することで、リフレクションデザインⅣの認定を評価（合否判定）する（表 9 「プロセス 2」）。

学位認定については、学部教授会において提出された学修成果報告書等を総合的に判定し、学位認定に関する審議を経て、学位を認められた者が学長から学位授与される（表 9 「プロセス 3」）

なお、学生の到達目標は、創生学部のディプロマポリシーを基本に、学生がセメスターアセスメントを通じて教員のアドバイスの下に設定し、2，3年次にブラッシュアップしていく。以下に具体的な要件を示す。

(2) 卒業要件及び履修方法

導入・転換教育科目，基礎科目，リテラシーコア・課題解決実践科目，領域学修科目，学修成果総括科目で，以下のとおり，所定の修得要件を満たすこと。また，全体で 126 単位以上履修していること。その中には以下の 2 項目も含まれる。

- 領域学修における学修成果が確認されていること（＝必修科目のリフレクションデザインⅢが認定されていること）
- 学修成果全体をまとめ，学生自らが設定した到達目標に叶うことを示し，学士としての能力が確認されていること（＝必修科目のリフレクションデザインⅣが認定されていること）

本学に 4 年以上在学し，かつ所定の単位を修得すること。

○導入・転換教育科目 17 単位

（創生学修入門 1 単位，スタディスキルズ，リフレクションデザインⅠ，リテラシー基礎，基礎ゼミⅠ・Ⅱ各 2 単位，フィールドスタディーズ 6 単位）

○必修基礎科目 10 単位

- ・英語 4 単位
- ・初修外国語 2 単位
- ・情報処理・データ分析 2 単位
- ・データサイエンス基礎 2 単位

○リテラシーコア・課題解決実践科目 28 単位

- ・スキル習得中心の科目 4 単位
（データサイエンス実践 A～C から 4 単位 または S.P.A.C.E. 科目から 4 単位）
- ・課題解決学習（PBL）中心の科目 24 単位
（基礎ゼミⅢ～Ⅳ各 2 単位，プロジェクトゼミⅠ・Ⅱ各 2 単位，ソリューションラボⅠ・Ⅱ各 4 単位，リテラシー応用 A～E から 8 単位）

○学修成果総括科目 2 単位

（リフレクションデザインⅢ・Ⅳ 各 1 単位）

○領域学修科目 46 単位

- ・領域基礎科目から 20 単位
- ・領域科目から 20 単位
- ・領域学修にかかわる必修科目 6 単位
（リフレクションデザインⅡ 2 単位，領域概説 A・E から 4 単位）

○自由科目 23 単位

- ・全学共通科目，フィールドスタディーズコーディネート，地域・国際交流 A，地域・国際交流 B 及び所定の単位を超えて修得したリテラシーコア・課題解決実践科目，領域学修科目から 23 単位

合計 126 単位以上

(履修科目登録の上限は、2 期 (2 ターム) の合計で 24 単位とする)

7. 施設・設備等の整備計画

(1) 校地、運動場の整備計画

本学には、主に人文社会・教育科学系及び自然科学系の学生が学ぶ五十嵐地区と、医歯学系の学生が学ぶ旭町地区の2箇所に主要キャンパスが置かれている。五十嵐地区は土地面積 589,540 m²、建物面積 227,895 m²、旭町地区は土地面積 168,167 m²、建物面積 208,664 m²を有しており、両キャンパスに9学部、7大学院研究科、各種教育研究支援施設、各種体育施設、課外活動施設、福利厚生施設、学生寮、国際交流会館、宿泊施設を整備している。また、地域社会への知的貢献を行うことを目的に、新潟駅南にサテライトキャンパス「ときめいと」を設置している。

また、「新潟大学キャンパスマスタープラン」に基づき、耐震性や老朽度、学生アンケート等を勘案して作成した整備計画により、キャンパス環境の整備を進めるとともに、施設維持のための「中長期修繕計画」を立て、計画的に防水改修をはじめ空調設備改修など、各種営繕を行い、キャンパスアメニティの向上を図っている。施設・設備のバリアフリー化については、車椅子対応エレベーター、多目的トイレ、自動ドア、スロープ等を随所に配置している。また、キャンパスのユニバーサル化として、専用駐車場、点字ブロック等の設備は整備済みである。安全・防犯面への配慮として、夜間及び休日の建物のオートロック化を行うとともに、各地区の主な歩車道に外灯を整備しており、主要部については朝まで点灯を行っている。特に、五十嵐地区・旭町地区・西大畑地区・長岡地区はLED外灯への改修を進めており、省エネにも配慮して整備を行っている。また、交通対策として、平成21年度に行った正門整備において、歩行者・自転車と自動車の通行路を分離した。さらに、平成25年4月よりキャンパス内を全面禁煙とし、快適なキャンパス環境の整備を進めている。

これらのことから、創生学部設置後も既存学部等と共有できるだけの十分な施設を備えている。

(2) 校舎等施設の整備計画

創生学部の施設整備にあたっては、既存のスペースを利用する。具体的には、総合教育研究棟、人文社会科学系棟及び自然科学系棟などに創生学部専用の施設・設備等(学生共用スペース、資料室、教員研究室、事務室)を整備するほか、五十嵐地区の各棟の講義室・演習室等の施設・設備等を共同で使用する。既存の共用施設・設備を利用することにより、他学部学生や大学院学生との相互交流が生まれ、両者にとって刺激を受けつつ、質の高い人材養成に資することが可能となる。

(3) 図書等の資料及び図書館の整備計画

本学は、教育研究上必要な図書館資料の収集、整理及び提供並びに学術情報を提供し、本学の学生及び職員の教育、研究、調査及び学習に資することを目的に、附属図書館を設置している。

附属図書館は、五十嵐地区に設置されている中央図書館と、旭町地区に設置されて

いる医歯学図書館から構成されている。両館とも、平日は午前8時30分から午後10時まで、土曜日、日曜日及び祝日は午前10時から午後10時（休業期間等は午後5時）まで開館している。図書・視聴覚資料は、附属図書館委員会で資料整備の方針等を決定し、全部局の教員による選定方法をとっているため、バランスのとれた蔵書構成となっている。また、シラバスに記載されている参考図書を優先的に購入することや、平成16年度から学生用図書購入費の約15%を学生が選定することにより、授業関連図書の充実を図っている。学術雑誌は、電子ジャーナルの形態で整備を進めており、電子ジャーナル経費を全学共通経費として確保し、平成25年度は17,124タイトルを数えている。視聴覚資料として、DVD、CD-ROM、CD、マイクロフィルム等を収集している。貸出冊数は年間約11万冊、貸出人数は年間6万～6万5千人で推移しており、平成23～24年度は増改修工事により若干低くなっていたが、平成25年4月のリニューアルオープンに伴い、運用を変更して貸出可能冊数を増加したこともあり、貸出冊数は年間13万冊、貸出人数は7万3千人と増加している。また、電子ジャーナルの平成25年度アクセス数は約43万件である。

附属図書館の効果的な活用と学部等の教育支援を充実するため、平成25年度にはラーニング・コモンズ等において、文献情報ガイダンス（36回、229人参加）や電子ジャーナル利用者講習会（2回、45人参加）を実施している。さらに、図書館職員がスタディスキルズ等の初年次教育授業や専門授業の1コマを担当して、情報検索法ガイダンス等の情報リテラシー教育（48回、2,444人履修）を行っている。

8. 入学者選抜の概要

8. 1 アドミッションポリシー

創生学部では、4. 1で述べたディプロマポリシーを設定し、それに対応したカリキュラムを構築している。従って、自ら学ぶ意思を有しており、課題に対する意識の高いことを入学時の要件とする。また、他者と協働で課題に取り組む上では、コミュニケーション能力や、基礎的な学力を有していることも重要である。これらの点から、創生学部のアドミッションポリシーとして以下の内容を設定する（表9）。

表9 創生学部のアドミッションポリシー

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">・課題探求・解決に関心を持ち、将来のキャリアを自ら見つけることに熱意のある人物・特定分野にとらわれない幅広い領域に興味関心を有し、基礎的な学力がある人物・他者とのコミュニケーションを積極的に行い、自己表現できる人物 |
|---|

8. 2 選抜方法

創生学部では、推薦入試及び一般入試（前期・後期）の形で、選抜を行う。アドミッションポリシーの冒頭に挙げたように、創生学部では課題探求・解決に高い関心を持った人を選抜することが基本である。しかし、高等学校では、課題探求型の授業等が始まったばかりであり、現時点で多くの高校生に課題探求の意識の高さを要求することは、困難な部分があると考えられる。そこで、創生学部の特徴や、高大接続改革プランの方向性も踏まえ、推薦入試において課題探求意欲を測る面接を実施し、選抜する方法を採用する。また、一般入試では、受験生の基礎学力の測定を中心とした従来型の選抜を行う。なお、入学後は文系理系問わずに幅広く学ぶことも、創生学部の特徴である。従って、センター試験の

受験科目の選択・配点では理系型と文系型で特徴を出した上で、総合点で全体を選抜する形を採用し、自身の得意な科目の能力をアピール出来る科目構成とする。

なお、推薦入試を含めて、いずれの選抜方法においても大学入試センター試験の受験を課し、一定の基礎学力を有していることを確認する。

各選抜方法の具体的な内容は、それぞれ以下のとおりである。

- ① 推薦入試：志望動機またはこれまでの課題探求活動のまとめなどの提出書類に関する面接を実施する。また、センター試験(国数英)の結果を総合して選考する。

8. 1のアドミッションポリシーにおける「課題探求意欲の高い人材」を中心に選抜する。

定員 10 名

- ② 前期日程試験：センター試験では、5教科7科目を基本とし、文系型では理科1＋地歴公民2，理系型では理科2＋地歴公民1を課す。

個別学力検査では、英語を必修とし、国語、数学からどちらかを選択する学力試験を行い、総合して選考する。

8. 1のアドミッションポリシーにおける「幅広い分野に関心を持ち、基礎学力が高い人材」を中心に選抜する。

定員 45 名

- ③ 後期日程試験：センター試験では5教科7科目を基本とし、文系型では理科1＋地歴公民2，理系型では理科2＋地歴公民1を課す。個別学力検査では面接を課す。

8. 1のアドミッションポリシーにおける「他者とのコミュニケーションを積極的に行い、表現力の高い人材」を中心に選抜する。

定員 10 名

【科目と配点割合】

- ① 推薦入試(600+300) 定員 10 名

大学入試センター試験(600)	個別試験 (300)
国 (200) 国語 必須 数 (200) 数Ⅰ，数Ⅰ・数A，数Ⅱ，数Ⅱ・数B，簿・会，情報から 1 外 (200) 英，独，仏，中，韓から 1	面接 (300) 志望動機またはこれまでの課題探求活動のまとめなどの提出書類に関する面接 (課題探求意欲)

- ① 前期日程 (750+400) 定員45名

大学入試センター試験 (750)	個別試験(400)
理系型〔5教科7科目〕 国 (100) 国語 必須 数 (200) 数Ⅰ・数A 必須 数Ⅱ・数B 必須 理 (200) 物，化，生，地学から 2	外 (200) 英 (コミュニケーション英語Ⅰ～Ⅲ・英語表現Ⅰ・Ⅱ) 国 (200) 国語総合・現代文B 数 (200) 数Ⅰ・数Ⅱ・数A・数

外 (150) 英, 独, 仏, 中, 韓から 1 地歴・公民 (100) 世 B, 日 B, 地理 B, 現社, 倫, 政経, 倫・ 政経から 1 文系型〔5教科 7科目もしくは8科目〕又は〔6教科 7科目もしくは8科目〕 国 (200) 国語 必須 数 (100) 数 I, 数 I・数 Aから 1 数 II, 数 II・数 B, 簿・会, 情報から 1 理 (100) 「物基, 化基, 生基, 地学から 2」 又は「物, 化, 生, 地学から 1」 外 (150) 英, 独, 仏, 中, 韓から 1 地歴・公民 (200) 世 B, 日 B, 地理 Bから 1 又は 2 現社, 倫, 政経, 倫・政経から 1 } から 2	B 英語を必修とし, 国, 数から 1科 目を選択
---	-------------------------------------

② 後期日程 (750+200) 定員10名

大学入試センター試験(750)	個別試験 (200)
理系型, 文系型 前期日程と同じ	面接 (200) 志望動機などに関する面接 (表現力とコミュニケーション 力)

9. 地域・企業実習等の学外実習の具体的計画

対象授業科目:「フィールドスタディーズ (学外学修)」

<授業科目の概要>

1年次の転換教育科目として,「産業界」や「地域」を現地の方々との協働による課題探求を通じて,大学での学修意識の転換と学修の動機づけを高める。初年次に4週間(実質12日間程度)のフィールドワークを中心とした体験的学修を通じて,日常生活に密接に関連する産業・地域構造の理解を図り,学生自身の学修目的の省察と学士課程全体の学修デザインの両方について主体的に考えることのできる態度・姿勢を育成し,2年次以降に履修する領域学修科目への関心の焦点化につなげる。

授業は事前学修(2週間),学外学修(4週間),事後学修(2週間)によって構成される。フィールドとの関係調整は,教育・学生支援機構との連携で全学的に推進する。学生5名程度を1つのグループとして,学外学修の企画書をデザインする。1グループにつき教員1名が対応し,「事前指導・事後指導」,「フィールドでの学修テーマ決めのコーディネート」,「学外学修全般のファシリテート」の役割を担う。

事前学修では,講義の序盤(第1～3回)を活用して学生とフィールド先とのマッチングを,実施する。授業科目の概要及び取り組みイメージを解説した後,学生の希望フィール

ド先を勘案し、学修の関心の方向性を共有できる学生グループを選定し、積極的に学外学修に取り組めるようにする。その後、学修目的の理解、学修設計、学修における危機管理、評価指標の設定などを学内の講義形式で行う。学修目標に照らして、学生グループは1つまたは複数のフィールドでの学修をデザインすることを可能とする。

学外学修では、現地の方々と「学修テーマ」の設定、学修テーマへの探求、プレゼンテーション等の一連の‘プロセス’を通じてフィールドの現状理解・分析を行い、現象を見る感覚を養うデザイン思考を深める。学外学修期間中の週2日間は、学内学修日としてフィールドスタディーズを補完する自主学習や他の講義科目を受講する日として授業外学修の時間を確保する。したがって、実質的な学外活動は4週間のうち12日間（週3日間×4週間）程度となる。

事後学修では、学生間でのディスカッションや自己評価を通じて、評価の手法の理解と批判的思考力を養い、大学での学修に対する興味を高める学修デザインを促進することを狙う。

<学外学修先の確保>

学外学修先とは、学生の派遣体制（危機管理を含む）及び受け入れ体制を事前に協議を進めている。初年次の学生が比較的長い時間をかけたフィールドワークによる学修であることから、学修の目的の趣旨を共有し、活動内容を協議していただける関係機関との協力関係を構築している。

新潟県、新潟市、阿賀町とは包括連携協定に加えて（【資料18】【資料19】【資料20】）、AP事業における学外学修に関する取り組みを平成27年度からすでに進めており、授業科目として積極的に教育課程に位置付けることを含めた連携・協力を得ている。主な学外学修先の候補として、新潟市西区役所（自治会・町内会その他地域コミュニティ団体など）、阿賀町役場（阿賀町地域全域）、大手情報サービス系企業（新日鉄住金ソリューションズ株式会社）が挙げられる（【資料21】【資料22】【資料23】）。

地域を学外学修先とした利点は、本科目が初年次必修科目であることから、特定領域の専門的観点ではなく、広く社会の現実にふれることができる点にある。新潟市西区地域が大学の所在地付近であるという地理的合理性と、地域の課題について1年次から主体的に考える機会を提供することで、学修への動機づけ向上や学年進行で必要となる学問的関心への接続・統合につながることを企図している。

産業界（企業）における学外学修については、1年次学生でかつ長期の受入という観点から、事前の十分な調整が必要となるが、産業界領域に高い関心をもった学生も想定されることから、これまでの大学連携の枠組みを活用することによって複数企業合同での学外学修先の確保と充実のために創生学部と全学支援組織の連携によって学外学修先の充実を図る。

学外学修先とは綿密な打ち合わせと調整を図った上で、受け入れ人数や学修テーマの検討を進める。また、学修先となるフィールドのニーズや課題に合わせて、単独または複数の学外学修先を組み合わせることでプログラムを編成することも想定している。

〔例〕学外学修組み合わせパターン

① 民間A社（1か所で学修を設計）

- ② A 町（1 か所で学修を設計）
- ③ A コミュニティ団体＋新潟市西区役所
- ④ A 町内会＋新潟市西区役所
- ⑤ B コミュニティ団体＋B 自治会

＜学外学修先との連携体制＞

学外学修に先立ち、学生グループに学修目的を含めた学修の企画書を作成する過程で学外学修先や担当教員との意見交換を行いながら、学修テーマを設定する。学外学修先との連絡調整は本学部担当教員だけではなく教育・学生支援機構教職員も連携して対応することで全学的な支援体制を構築し、学外学修先との良好な関係の構築と授業科目の継続性を担保する。

＜成績評価と単位認定方法＞

学生はあらかじめグループで設計した学修の企画書に基づき、学外学修先での学修状況に関する自己報告書を作成し、学外学修先担当者が確認する。学外学修を通じて得られた知見をグループで最終的にまとめ上げ、学外学修先でのプレゼンテーションを行うことで最終的な学修成果とする。

評価は以下の3点で行い、総合評価 60%以上の者に単位を認定する。

- ・フィールドの現状及び課題把握に関する理解（レポート形式）：30%
- ・チームで協働的に取り組む活動・提案（成果発表のプレゼンまたは報告書等）：40%
- ・課題への取り組み姿勢（学外者を含む第3者評価）：30%

10. 管理運営

（1）審議機関

新潟大学では、学部教育及び大学院教育を主として担当する教員で構成する教育研究院（「人文社会・教育科学系」、「自然科学系」、「医歯学系」の3学系からなる。）を設置し、学長のリーダーシップのもと各学系長による管理運営が基本となっており、創生学部の教員人事については、専門分野に応じた学系教授会議が所管することとしている。

（2）教授会等の教員会議

① 創生学部教授会

教授会は、創生学部の専任教員により組織し、毎月1回定例開催する。教授会は、創生学部の教学事項（学生の入学、卒業、学位の授与、学生の厚生補導など）について審議し、学長が決定を行うに当たり意見を述べる。

② 創生学部教務委員会

教務委員会は、創生学部専任教員により組織し、定例開催する。教務委員会では、教務・厚生（学生支援）全般、カリキュラムマネジメントについて協議する。創生学部の特徴である少人数教育を進めていく上で必要な学修サポート、領域学修科目パッケージの履修に関わる既存学部との調整については教務委員会が主導する。

(3) 事務組織

創生学部には、専任の事務職員を配置する。

1 1. 自己点検・自己評価

(1) 全学的実施体制

学則第2条に、教育研究水準の向上を図り、大学の目的及び社会的使命を達成するため、教育研究、組織及び運営並びに施設及び設備の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を公表することを定めている。

全学的な観点から行う自己点検・評価をはじめ第三者評価などについて協議するため、大学改革・大学評価委員会を置いている。また、全学的な点検・評価活動を支援することを目的として、経営戦略本部に専任教員を置く評価センターを設置している。

(2) 実施方法、結果の活用、公表及び評価項目等

新潟大学における点検・評価に関する基本方針を定めるとともに、学内各組織における自己点検・評価を確実に遂行するべく、平成22年度に自己点検・評価実施要領を策定している。同要領に基づき、各組織においては、自己点検・評価委員会、学務委員会などを活用して、国立大学法人評価に対応する各年度における計画の実施状況報告（年度中間と年度末）や、機関別認証評価に対応する学部・研究科等の現況チェック（年1回）を通じた自己点検・評価活動を行うとともに、組織が独自に行う自己点検・評価活動を展開している。なお、各組織からの報告に際して、根拠資料やデータの記載を求めるとともに、平成26年度に設置したIR推進室において収集している各種データを活用している。また、評価センターでは、評価担当者研修を開催し、自己点検・評価における観点やデータ・資料の重要性などに関する説明及び実例を用いた実践演習を行っている。

全学的な観点から行った自己点検・評価、国立大学法人評価及び認証評価の結果をはじめ、そこで明らかになった問題点などについては、大学改革・大学評価委員会において報告し、改善策について協議するとともに、各組織へフィードバックし、関係委員会などと連携して改善を行っている。

1 2. 情報の公表

(1) 新潟大学の取組

学則第3条に、本学の教育研究等の状況について、刊行物への掲載その他広く周知を図ることができる方法によって公表することを定めているほか、平成23年4月の学校教育法施行規則等の一部改正に関連する情報公開の促進に係る対応として、「新潟大学における教育関連情報に係る公表方針」を策定し、既に本学から発信している次の項目をはじめとして教育関連情報を見やすく整理し、本学ウェブサイトにて公表している。

掲載箇所：HOME>新潟大学における教育関連情報に係る公表方針

URL：http://www.niigata-u.ac.jp/education/education_disclose_policy.html

1. 大学の教育研究上の目的に関すること
2. 教育研究上の基本組織に関すること
3. 教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること
4. 入学者に関する受入方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業

又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

5. 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること
6. 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること
7. 校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること
8. 授業料、入学料その他の大学が徴収する費用に関すること
9. 大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

さらに、本学では、本学独自のシステムである以下の学士課程に係る取り組みを積極的に公表している。

1. 学生が修得すべき知識及び能力を明示する「主専攻プログラム」の展開
2. 主専攻プログラムで修得した知識、能力等を可視化し、学生自らが学修過程を分析することができる「新潟大学学士力アセスメントシステム (NBAS)」の構築

(2) 創生学部取組

創生学部の教育研究活動の状況は、上記に含めて、大学及び創生学部のホームページに掲載する。また、創生学部の「設置計画書」及び「履行状況報告書」をホームページで公開し、教育の質の維持・向上に努め、社会に対する説明責任を果たしていく。創生学部独自のホームページや紹介動画の作成を検討している。また、カリキュラムや教育内容・方法の特色、卒業要件の情報等を掲載したパンフレットを作成し、高校訪問、オープンキャンパス、高等学校教員との懇談会（新潟大学アドミッションフォーラム）等を通じて活用して高校生、保護者、高等学校教員等に情報を発信していく。

13. 教育内容等の改善を図るための組織的な研修等

(1) 新潟大学の取組

本学は、学則第46条及び大学院学則第23条に、授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施することを定め、本学の教育目標を達成するため、教育職員等の教育能力の向上を図ることを目的に、専任教員を置く大学教育機能開発センター（当該センターは教育戦略統括室FD・SD部門へ改組（H28.4）を教育・学生支援機構の下に設置している。

全学的な教育全般に関わるファカルティ・ディベロップメント（以下「FD」という。）は、大学教育機能開発センターを中心に実施しており、全学FD、新任教員研修等を継続的に開催している。全学FDは、全学的な教育課題を考えること、最新の大学教育の動向について情報共有することを主な目的としている。新任教員研修は、新任者全員を対象に、本学の教育方針及び各種ガイドライン等の周知を図ること、さらに、教育担当新任者を対象に、国際的に大学教員に求められる新しい学習観及び教授・学習法について理解を深めることを目的としている。特に、新任教員研修等において、講演形式だけではなくワークショップ形式のFDも導入されている。

全学レベルでは、平成17年度より、学習者中心にシフトした教育・学習改革に関わるプロジェクトを支援し、本学の教育改善を奨励することを目的に、学内公募による「授業改善プロジェクト」を実施している。1件30万円程度で毎年5件程度を採択している。採択されたプロジェクトは全学FD「学習・教育研究フォーラム」で報告することとなっており、

多様な観点から授業改善に取り組んでいる。また、学生及び教員の推薦と学生の授業評価アンケートの結果に基づく「学長教育賞」を設け、「学長教育賞授賞式」における受賞者による講演を全学 FD「学習・教育研究フォーラム」の一環として毎年行っている。受賞した教員の授業は、学部や学科 FD の授業観察、新任教員研修の参加者等に公開、利用されている。大学教育機能開発センターでは、これらの取組等を、ウェブサイトに掲載したり報告書を定期的に発行したりすることを通じて、良い授業実践の奨励及び授業改善の取組事例の共有を推進している。

学部・研究科ごとの課題に関わる FD は、各学部・研究科の FD 委員会、教務委員会等を中心に実施し、教員個人のレベル、学部・学科等のレベルの各レベルにおいて、教育目標の実現を目指して実質的な教育の質の向上や授業改善を目的とした議論が行われている。大学全体での FD 等の情報共有は、すべての主専攻プログラムの代表者が出席する「教育・学生支援調整会議」で行われる。特に、最近の学部 FD では、NBAS の導入に関連するテーマが多く扱われ、到達目標の見直しやカリキュラムマップの作成等の具体的な成果を「教育・学生支援調整会議」を活用して共有している。また、法学部、工学部と農学部の一部学科では、教員による授業参観を相互に行い、教育内容・方法について検討し、授業改善を進めており、授業評価アンケートでも総合的な満足度等が上昇している。

（２）創生学部の取組

創生学部では、クォーター制における学修機会の柔軟化を踏まえた授業内容の質的転換を図るとともに、能動的な学修を中心とした教育課程を編成していることを踏まえ、授業デザイン、授業改善を強化することが必要となる。特に、創生学部では、1 年次第 2 タームに必修となっている「フィールドスタディーズ（学外学修）」、1 年次からの少人数かつ学年縦断型のゼミ（「基礎ゼミ I ～IV」）、課題を中心とした PBL などのアクティブラーニング（「リテラシーコア・課題解決実践科目区分」に属する授業科目）が行われ、こうした授業科目では、いずれもグループ学修やワークショップ、フィールドワーク等の PBL 型の講義形式を積極的に取り入れることが必要となるため、創生学部専任教員は、自身の教育内容を常に改善し続けていくことが求められる。さらには、学生による到達目標設定、領域学修科目パッケージの選択、学修成果のまとめという取り組みも行われるため、学生に対するラーニングアドバイスの方法についても、専任教員が協働的に意識を高め、学生の主体性を発揮できる教育環境と指導体制の構築に努めることが重要である。

そのため、学部内の FD 推進組織と全学（教育・学生支援機構及び教育戦略統括室）との連携によって、以下の構造で教育改善等の取組を推進する。具体的には創生学部を担当する教員のみではなく職員も積極的に研修する仕組みをつくり、教職員対象の FD・SD を以下に示す〔大学全体〕〔学部全体〕〔教育課程（個々の授業科目）〕の 3 つの水準で企画し、継続的に実施することで個々の授業科目だけではなく、教育課程全体及び学部全体の改善を図る。

〔大学全体〕

- ・学位授与に関わる評価基準の共有化（教育戦略統括室と創生学部の連携）
- ・全学的な学士課程の質保証に関する枠組みの共有化（創生学部と既存学部の連携）

〔学部全体〕

- ・学部のコンセプトの共有
 - ―教育課程上の指導と教育課程外での指導の方向性
- ・専任教員（Type I，Type II）と兼任教員の役割についての研修
 - ―領域学修のサポートに係る教員間のコミュニケーション
 - ―専任教員と兼務教員の連携共有体制
- ・学生指導・学生支援に関するガイドライン研修
 - ―少人数指導に対応した教員コミュニケーション力
 - ―セメスターアセスメントでの指導内容・サポート
 - ―NBASを活用した履修指導・学生面談の効果的な活用
 - ―教員と職員の協働による学部運営に関する検討

〔教育課程（個々の授業科目）〕

- ・ディプロマポリシーと授業科目の関係の共有化
 - ―カリキュラムの体系性の確認と授業科目の配置の適切性の確認
 - ―授業評価アンケート，学生へのヒアリング等のエビデンスの活用
- ・「リフレクションデザインⅠ～Ⅳ」の運用と評価に関する研修
 - ―到達目標設定に向けたスキル教育の平準化
 - ―到達目標の修正・改善のためのサポート
 - ―到達目標に対する学修成果の適切性に関する検討
- ・「フィールドスタディーズ（学外学修）」における協働先との対応と学生指導法
 - ―フィールド先との連絡調整及び活用のマッチング体制
 - ―事前事後指導及び評価の手法
- ・「基礎ゼミ」「プロジェクトゼミ」「ソリューションラボ」の運営と評価に関する研修
 - ―ゼミ・ラボで取り上げる課題の検討・指導方法・評価の枠組み
 - ―グループ活動の指導法（アイスブレイク，グループディスカッションなど）の共有
- ・「リテラシー応用」の運営と評価に関する研修
 - ―育成すべき能力，講義で取り上げる領域のバランス，評価指標の検討

〔上記以外の共通的な研修：教育戦略統括室「FD・SD 部門」との連携で推進する活動〕

- ・国内外の能動的学修（PBL 等の導入）に関する先進事例の把握
- ・各種ハラスメント等の防止に関する研修
- ・研究倫理，知財等の取り扱いに関する研修

1 4. 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制

（1）教育課程内の取組について

創生学部では，教育課程全体を通じて，汎用的な能力を育成することを目指している。これは，社会的・職業的自立を図るために必要な能力の中核であり，大学での学修と社会での自立との間の懸け橋となるものである。たとえば，基礎ゼミなどで行うグループワークは，社会的・職業的自立につながるコミュニケーション能力やリーダーシップ・マネジメントの能力を涵養する機会ともなると考えられる。

また，1 年次第 2 タームで履修するフィールドスタディーズ（学外学修）では，日常生活

に密接に関連する産業・地域構造の理解を図ることを目的とし、学外（フィールド）へ出て学修を行うことが予定されている。その中で学生は、1年次第2タームという早い時期から社会との接点を持つと同時に、社会における課題などを発見し、その後の学修の方向付けにも役立つ経験をする事が可能になる。これは、学生のキャリア意識形成においても、重要な要素の一つであると考えられる。

さらに、創生学部では、初年次から卒業時までの4年間を通じた少人数ゼミによる学習指導体制を整備している。そのため、初年次からきめ細かい指導や相談対応が実現でき、学生の成長にあわせた支援が可能になると考えられる。このように、創生学部では、教育課程全体で社会的・職業的自立に関する指導が実現できるカリキュラムが整備されている。

（2）教育課程外の取組について

新潟大学では、教育課程外においても、様々な社会的・職業的自立につながる取り組みを行っている。その一つが「ダブルホーム制」と呼ばれる取り組みである。そこでは、所属学部や学年を異にする学生がグループを組み、新潟県内を中心とした様々な地域に出て行き、地域振興や農業、環境の保全・再生など、様々な地域活動を継続的に行っている。活動の中で学生は、地域に住んでいる高齢者から、自治体の職員、さらには地元の小学生まで、様々な年齢、立場、職業の人たちと交流することができ、キャンパス内では得難い経験を積むことができる。これは、学生の視野を広げるとともに、コミュニケーション能力などの汎用的能力を育むことにつながり、自身のキャリアを考える上でも、重要な要素となっている。【資料 24】

また、本学では「大学が主導する企業課題探求型 長期・有償インターンシップ」の取り組みも実施してきた。これは、平成24年度に採択された大学間連携共同推進事業「産学協働教育による主体的学修の確立と中核的・中堅職業人の育成」の事業として行われたもので、従来多く行われてきた短期・無償型のインターンシップとは異なる長期・有償型のインターンシップを、地域企業との連携の下で実施する取り組みである。従来のインターンシップに比べて、高い教育効果を生むことが示唆されており、学生の社会的・職業的自立に対する意識を高める上で、重要な取り組みの一つとなりうる。

（3）適切な体制の整備について

新潟大学では、教育・学生支援機構の下に、進路（進学・就職）に関して学生を支援し、社会貢献できる学生を送り出すことを目的とした「キャリアセンター」が設置されている。キャリアセンターには、センター長を含め3名の教員、4名のキャリアコンサルタント・スタッフ、7名の事務職員が配置されており、全学を対象とした各種キャリア形成支援事業を行っている。具体的には、「キャリア意識形成科目」【資料 25】の開講や、進路に関する各種情報提供、進路相談の実施に加え、年間70件を超える各種支援行事（セミナー、資格取得講座等）の開催など、質・量ともに充実したものとなっている。

また、創生学部では、初年次から卒業時までの4年間を通じた少人数ゼミによる学修指導体制を整備している。それらのゼミ形式の授業では、原則として教員が2名1組になり指導を行うため、複数の視点からのサポートや助言が可能になる。そのため、初年次から日常的にきめ細かい指導や相談が実現でき、学生の多様な進路に合わせた対応が可能になると考えられる。

資 料 目 次

資料 1	創生学部の概要－到達目標創生型学位プログラム－
資料 2	‘到達目標創生型学位プログラム’と‘到達目標達成型学位プログラム’との違いと特徴
資料 3	新潟大学の教育ビジョンと創生学部設置の背景
資料 4	新潟大学学士力アセスメントシステム（NBAS）の概要
資料 5－1	創生学部における 3 つのポリシー
資料 5－2	ディプロマポリシー，カリキュラムポリシー，授業科目の関係
資料 5－3	ディプロマポリシーと授業科目の対応表
資料 6	創生学部におけるカリキュラムポリシーと教育課程の編成
資料 7－1	4 年間を通じたラボ（ゼミ活動～研究室）ワークと関連する授業科目によって育成される能力
資料 7－2	「リフレクションデザインⅠ～Ⅳ」での指導と教育課程外（セメスターアセスメント）での指導体制の関係
資料 7－3	「セメスターアセスメント」を通じた履修指導及び到達目標の改善支援
資料 8	新潟大学創生学部領域学修科目パッケージ履修要件
資料 9	授業科目（リフレクションデザインⅣ）を活用した学修成果の総括的評価と学位授与方式

資料 1 0	創生学部における基本的な学修構造イメージ
資料 1 1	履修過程の概要と具体的な科目履修例
資料 1 2	「主専攻プログラム提供の授業科目」と「領域学修科目パッケージ」との対応
資料 1 3	22の領域学修科目パッケージの履修を通じて養成される人材像の特徴
資料 1 4	創生学部専任教員（Type I / Type II）の担当イメージ
資料 1 5	創生学部の教育組織と既存学部との連携
資料 1 6	S.P.A.C.E（Skills Program for Academic and Content English）
資料 1 7	少人数教育を通じた学生へのサポートと指導体制
資料 1 8	新潟県と新潟大学との連携に関する協定書
資料 1 9	新潟市と新潟大学との連携に関する協定書
資料 2 0	阿賀町と新潟大学教育・学生支援機構とのダブルホーム連携協定書
資料 2 1	学外学修受入承諾書（新潟市）
資料 2 2	学外学修受入承諾書（阿賀町）
資料 2 3	学外学修受入承諾書（企業）
資料 2 4	ダブルホーム制による、地域の教育力を生かした学生支援
資料 2 5	シラバス（キャリアを共に考えるー自己理解・他者理解）

創生学部概要—到達目標創生型学位プログラム—

資料1

設置の趣旨・必要性

- ・社会の人材養成ニーズの多様化:グローバル化した社会の課題に適切できる汎用的能力(論理的思考力,調整能力等)の育成強化
 - ・学生の学修中心の大学教育への転換: 学生が主体性をもって学修に向かうことのできる大学教育の新しいシステム構築の必要性
- ⇒ 学修テーマ(課題)を中心に据え,総合大学の教育資源(全学科目化による履修の弾力化)を活用した課題探求を主眼とする

養成する人材像

グローバル化した社会において将来的に生じる課題の解決に資する「**自己創造型学修者**」を養成する。本学部で育成される能力は以下の4点である。

- (i) 課題を発見し,その解決に向けて主体的に学修する態度・姿勢
- (ii) 課題解決に必要な分析力・論理的思考力
- (iii) 他者と協働できる自己表現力を有し,問題解決をコーディネートする能力
- (iv) 専門領域の知識を有するとともに,多面的な視点から複数分野の知識を選択的に統合し,問題解決の場をデザインする能力

特徴

1. ‘課題発見・課題解決能力’の育成を重視した教育課程の編成

- ・クォーター制を活用した初年次からの学外(地域,産業界)での集中的な学修プログラム
- ・課題把握,解決能力を育成するための「リテラシー」育成の授業科目群
- ・課題を把握し,表現するために必要な「数的感覚」と「外国語運用能力」の強化

2. 学生の学修志向性によって選択可能な‘22の領域学修科目パッケージ’

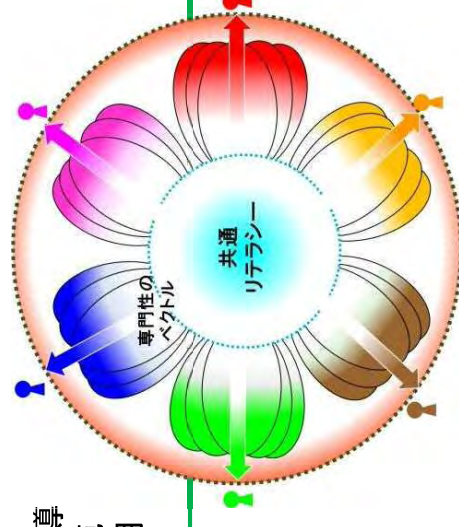
- ・学生の学問的関心に合わせて,全学サポートによる専門領域の授業科目群を整備
- ・他学部の学生とともに学修することを通じて多角的な視点を養う

3. 学生の学士力(最終的な学修成果)を自らが証明する学位授与方式

- ・学生自らが設定した到達目標に叶う学士課程の学修成果を第三者評価を通じてアセスメント

4. 少人数教育と充実した教育・学修サポートの整備

- ・初年次から卒業時までの4年間を通じた少人数制の学修指導
- ・異学年の学生との交流を促進する「学年縦断型ゼミ」の実施
- ・学修プロセスと学修成果を確認するシステム(NBAS)の活用



ガバナンス改革および資源の再配分

- ✓ 学部長は学長が指名
- ✓ 学生定員の見直しによる入学定員の設定(教育学部▲65)
- ✓ 資源の再配分により,教育組織は学内の再配置により10名,新規採用8名の合計18名で構成
- ✓ 現行の本部・機構を再編し,教育戦略統括室を活用した学位授与方式

‘到達目標創生型学位プログラム’と‘到達目標達成型学位プログラム’との違いと特徴

資料 2

学位プログラム	到達目標 ‘創生’ 型 (創生学部)	到達目標 ‘達成’ 型 (主専攻プログラム)
イメージ	自己創生型学修者	プログラムで目指す人材の輩出
特徴	✓ ディプロマポリシーに基づき、学生が到達目標を設定して学修をデザイン ✓ 学修デザインのための学修スキルを教育課程とラーニングアドバイザーで養成する指導体制	✓ 学生は、ディプロマポリシーに基づき、設定された到達目標に基づき学修 ✓ 到達目標を達成するための計画的な履修指導と学生相談体制
学生の指導体制 (教育課程内)	〔教育課程内：目標設定のスキル、学修デザイン〕 ✓ 創生学修入門：創生学部教育課程の理解、学修スタイルの確立 ✓ リフレクションデザインⅠ：到達目標の設定、記述スキル ✓ フィールドスタディーズ(学外学修)：学修企画書の作成 ✓ リフレクションデザインⅡ：領域学修科目の履修計画、学修計画書の作成 ✓ リフレクションデザインⅣ：4年間の学修成果の総括的評価としての「学修成果報告書」の作成 ✓ 基礎ゼミⅠ・Ⅱ：異学年の学生との交流を促進し、学生間のピアサポート	各プログラムによって異なるが、一般的な指導体制は以下の通りである。 〔教育課程内：学修スキル〕 ✓ <u>スタディスキルズ(大学学修法)</u>：学修スキル、プレゼンスキル等の導入教育
学生の指導体制 (教育課程外)	〔教育課程外：学生指導体制の強化〕 ✓ 基礎ゼミによる担任(1, 2年次)、プロジェクトゼミ(3年次)、リレーションラボ(4年次)担当教員が2名一組で学生指導を担当(通年) ✓ NBASのアセスメントシートを活用したセメスターアセスメント(学生面談・履修支援と次期学修デザイン支援)	〔教育課程外：学生指導体制〕 ✓ 学生規模に依存するが、文系学部では3年次以降の演習、理系学部では4年次から配属される卒業研究等の研究室指導体制で授業外での学生指導を担当 ✓ プログラムごとの定期的な面談・履修指導

新潟大学の教育ビジョンと創生学部設置の背景

【大学ビジョン】

「自律と創生」の教育理念のもと、本学が「未来のニーズに応える教育の拠点」となり、多様な価値観を育む自律的な学びの場を提供することにより、地域から国際社会まで広く活躍できる問題解決力の高い人材を育成する

【課題と背景】

＜社会の人材育成ニーズに基づく教育の質的転換＞

- 学生の学修のオーナーシップ確立のための教育体制の必要性
→ 初年次教育の抜本的見直しによる学修習慣の確立
- 主専攻プログラムの教育の到達目標と社会の人材育成ニーズとの乖離
→ 主専攻プログラムの見直しと入学定員の最適化
→ 学生の主体的選択によって学修を導く新しい発想の学位プログラム開発の必要性

【教育の特色・強み】

- 教育組織と人事組織の分離による全学出動体制の確立
- 全学科目化（「専門科目」「教養科目」の区分撤廃／分野・水準表示法導入）
- 到達目標達成型の主専攻プログラム
- 新潟大学学士力アセスメントシステム（NBAS）の構築
- 学士課程教育の質保証強化（DPの再定義）

【新潟大学の教育改革の2つの方向性】

【改革1】「到達目標達成型」の学位プログラム再編→「教育学部（新課程廃止）」「理学部、農学部、工学部（改組）」

学問（ディシプリン）体系に基づき、人材育成目標を定め、新潟大学の4つの教育目標領域（「知識・理解」「分野固有の能力」「汎用的能力」「態度・姿勢」）ごとの到達目標に基づき教育課程を編成し、学問を通じて修得された専門的知識・技能を活用することで、当該領域において優位性をもって社会で活躍できる人材育成を志向する。

【改革2】「到達目標創生型」の学位プログラム設置→「創生学部」設置

学問（ディシプリン）という所与の前提を排して、柔軟な思考や創造性といった「汎用的な能力」を中心に据え、現象に対して学生自身の主体的選択によって学問的視点を導入するという新たな発想による教育課程を編成し、グローバル化した社会において将来的に生じうる課題の解決に資する人材養成を志向する。

総合大学としての豊富な教育資源を活用しながら、学位プログラムの内容を不断に改善し、実効性のある教育体制を構築する。大学として、柔軟なプログラム選択を可能にする仕組みを構築し、学生自らがキャリア形成を踏まえ、**オーナージツプを持って学修する教育実施体制を実現する。**

- 学位プログラムに基づく学位認定を行う制度の充実
- 社会のニーズに応じたプログラム内容の見直し体制の確立
- 大学の将来像を見据えたプログラムの全学的検討ができる体制の構築

教学ガバナンス改革

- プログラムの実情に応じた大活入り試の導入
- 高大接続システム改革を意識した入学者選抜制度の調査分析
- 学外学修などを活用した初年次教育の充実

入試／初年次教育改革

- 主専攻プログラムと異なる学修軸をもつ学位プログラム設置
- 学生による学修の自己管理の強化を通じた学位認定制度の導入
- 既存主専攻プログラムの人材育成目標の再設定と定員の見直し

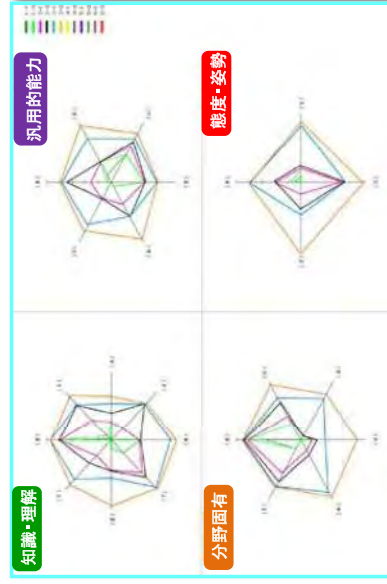
学士課程教育改革

新潟大学学士力アセスメントシステム (NBAS) の概要

資料4

NBASは本学の理念である「自律と創生」に立脚し、学生自らが「**可視化された学修成果**」に基づいて到達度を把握しつつ、「**学修過程の記録**」も用いて自らの学修を意味付け、次の学修をデザインすることを目指します。学生は、半年ごとに「**セメスターアセスメント**」を行い、卒業時には集大成としての卒業時アセスメントを行い、「**リフレクション**」を通じて自己の学修を振り返り、新潟大学を卒業する学生に相応しい資質・能力を身につけたことを自ら示します。

セメスターアセスメント



学修成果の可視化 (リーダーチャート)



学修過程の蓄積 (ポートフォリオ)

アセスメントシート

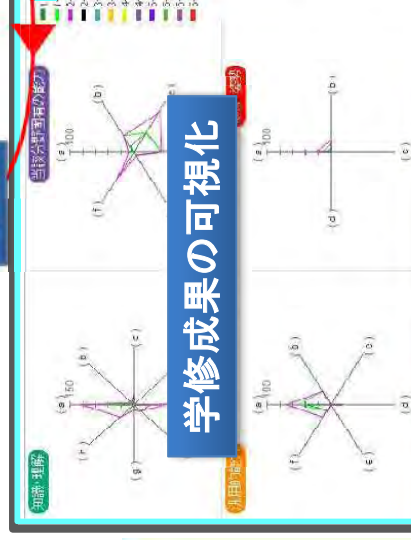
学期 (半年) ごとに「アセスメントシート」を作成

- ✓ 学生によるアセスメントシート作成
- ✓ 教員による助言, メンタリング

学生

教員

リフレクション



ダブルホームの活動 ホームは「エコ」をテーマに活動！

新潟県と学生支援課の協力を得て
グリーンカーテン作りを 2012年度から実施！

昨今エコがやりのエコがテーマの活動が盛りだくさん
今年はその反省を踏まえて
かまのグリーンカーテンに挑戦！

フリースペース

学生たちが昨年度の卒業生の送別会を企画した。ホームの担当は今年で3年目だが、学生の成長する姿を間近でみることでできるのは教員としての喜びだ。今年の学生たちがどんな失敗をして、どのようにそれを乗り越え成長するのか楽しみにしている。

リフレクション

学生と教員が協力を得て
グリーンカーテン作りを 2012年度から実施！

昨今エコがやりのエコがテーマの活動が盛りだくさん
今年はその反省を踏まえて
かまのグリーンカーテンに挑戦！

フリースペース

学生たちが昨年度の卒業生の送別会を企画した。ホームの担当は今年で3年目だが、学生の成長する姿を間近でみることでできるのは教員としての喜びだ。今年の学生たちがどんな失敗をして、どのようにそれを乗り越え成長するのか楽しみにしている。

リフレクション

学生と教員が協力を得て
グリーンカーテン作りを 2012年度から実施！

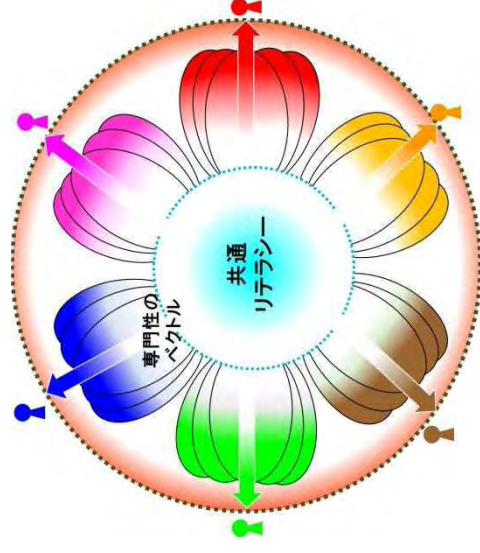
昨今エコがやりのエコがテーマの活動が盛りだくさん
今年はその反省を踏まえて
かまのグリーンカーテンに挑戦！

フリースペース

学生たちが昨年度の卒業生の送別会を企画した。ホームの担当は今年で3年目だが、学生の成長する姿を間近でみることでできるのは教員としての喜びだ。今年の学生たちがどんな失敗をして、どのようにそれを乗り越え成長するのか楽しみにしている。

創生学部における3つのポリシー

資料5-1



学位授与の方針(ディプロマポリシー)

- (i) 課題を発見し、その解決に向けて主体的に学修する態度・姿勢
- (ii) 課題解決に必要な分析力・論理的思考力
- (iii) 他者と協働できる自己表現力を有し、問題解決をコーディネートする能力
- (iv) 専門領域の知識を有するとともに、多面的な視点から複数分野の知識を選択的に統合し、問題解決の場をデザインする能力

教育課程編成の方針(カリキュラムポリシー)

- リテラシー育成のための汎用的能力・課題解決力を中核に据える(→「リテラシーコア・課題解決実践科目(区分)」)
- 生涯に渡って学修し続けることができる主体性と学修スキルを涵養するために学修に対する動機を高く維持する授業科目を初年次から配置する(→「導入・転換教育科目(区分)」)
- 多面的な視点から学問領域の知識を統合する上で、必要となる専門領域の知識・技能修得のための領域別授業科目を2年次から4年次に配置する(→「領域学修科目(区分)」)
- 学修成果の質保証を厳格に行い、学生自らの学士力を総括的に評価するための授業科目を4年次に配置する(→「学修成果総括科目(区分)」)

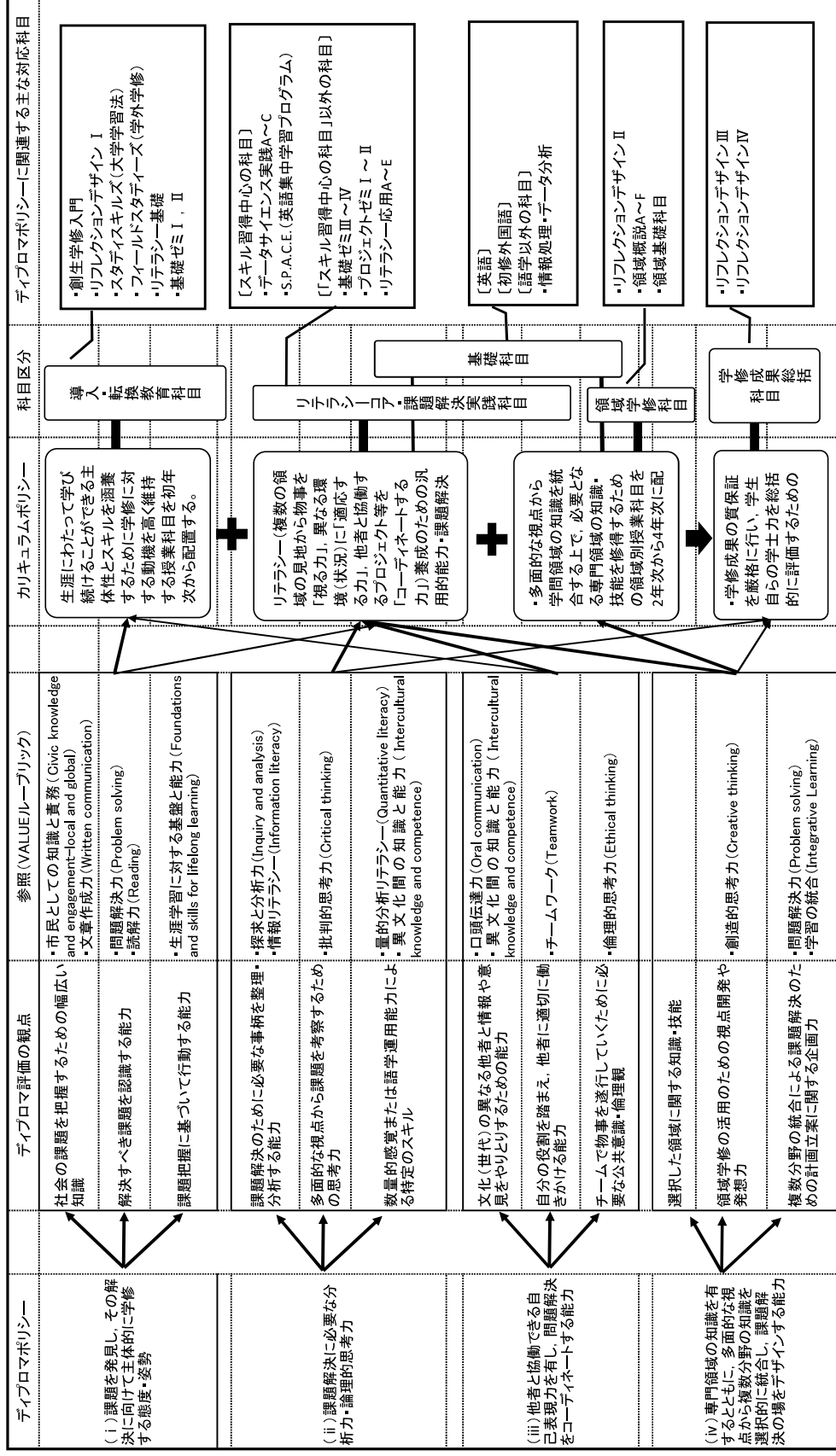
以上の授業科目(区分)を体系的に配置し、4年間を通じてラボワークおよび「リフレクシオンデザインⅠ～Ⅳ(授業科目)」を通じて、学生の主体的選択によって学修をデザインできるカリキュラムを編成する。

入学者受入の方針(アドミッションポリシー)

- ・課題探求・解決に関心を持ち、将来のキャリアを自ら見つけることに熱意のある人物
- ・特定分野にとらわれない幅広い領域に興味関心を有し、基礎的な学力がある人物
- ・他者とのコミュニケーションを積極的に行い、自己表現できる人物

ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、授業科目の関係

資料5-2



学生が設定する到達目標：ディプロマポリシー及びディプロマ評価の観点に基づき、「学生自身が説明ができる内容」を設定の原則とする(以下は「到達目標例」)

- 課題の内容について論理的に説明できる
- 課題に対してデータ解析等の解決法を理解できる
- 課題にアプローチするための具体的な手法を活用できる
- 語学を活用して外国人と意見交換(ディスカッション)ができる
- チームの利点を活かして他者と協働しながら課題を分析できる
- 具体的な現場社会(例えば、新潟地域の活性化)に関する課題を統計データを活用して把握できる
- 他者と協働した議論を通じて課題解決のための企画・立案ができる
- 選択した専門領域について、基礎的内容について説明できる
- 選択した専門領域の知識と課題解決との関連について説明できる
- 複数分野の知識を統合して、課題解決について、多面的な視点から説明できる

ディプロマポリシーと授業科目の対応表

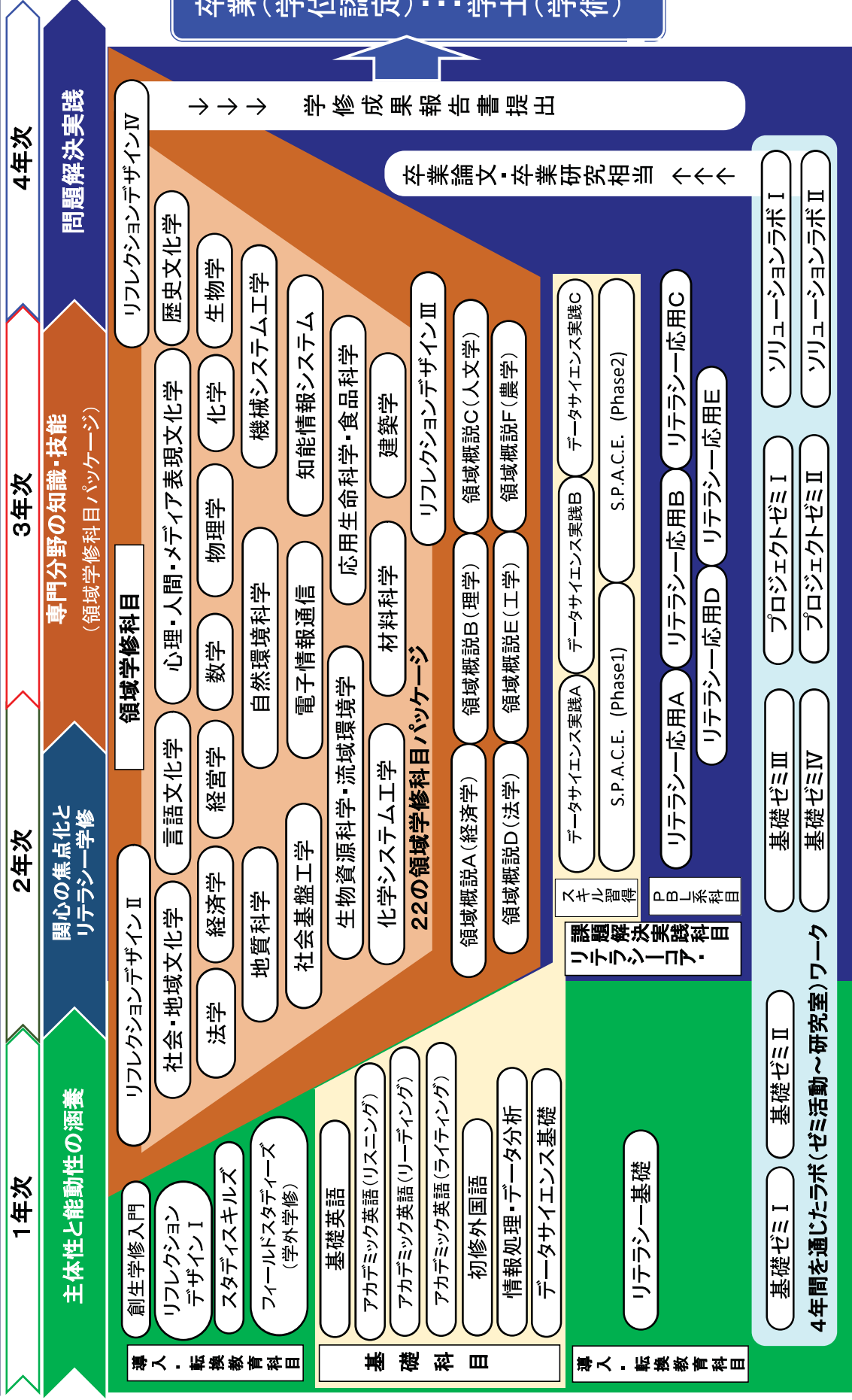
科目区分			授業科目の名称等	配当年次	(i) 度向課 ・け題 姿て主 勢を発 見体的 に、学 修の解 決態に	(ii) 論課 理的解 決に必 要な分 析力・	(iii) 力他者 を有し と協働 する問 題解決 を自己 表現	(iv) ザ統複 イン合 する数 る野、 課の多 能題知 力解決 の面的 選択識 的有 な有 点す から と	必修単位数	
導入・ 転換教育科目			創生学修入門	1①	100				1	
			リフレクションデザインⅠ	1①	100				2	
			スタディスキルズ(大学学習法)	1①	80	20			2	
			フィールドスタディーズ(学外学修)	1②	80		20		6	
			リテラシー基礎	1③	80	20			2	
			基礎ゼミⅠ	1①～②	80		20		2	
			基礎ゼミⅡ	1③～④	80		20		2	
基礎科目	必修基礎科目	アカデミック英語(リーディング)	1①～②				100		1	
		アカデミック英語(リスニング)	1①～②				100		1	
		基礎英語	1・2③～④				100		1	
		アカデミック英語(ライティング)	1・2③～④				100		1	
	初修外国語	外国語ベーシック、独語、仏語、露語、中国語、朝鮮語、スペイン語、イタリア語など	1・2①～④				100		2	
		情報処理・データ分析	1④			100			2	
		データサイエンス基礎	2①			100			2	
		リテラシーコア・課題解決実践科目	スキル習得中心の科目	データサイエンス実践 A	2②		100			4
				データサイエンス実践 B	2③		100			
				データサイエンス実践 C	2④		100			
Academic Listening & Speaking(S.P.A.C.E. Phase 1)	2①～②			20	20	60				
Academic Writing(S.P.A.C.E. Phase 1)	2①～②			20	20	60				
Academic Reading(S.P.A.C.E. Phase 1)	2①～②			20	20	60				
Topic Based Oral Communication(S.P.A.C.E. Phase 2)	2③～④			20	20	60				
Topic Based Research Skills(S.P.A.C.E. Phase 2)	2③～④			20	20	60				
Content Lecture & Language Lab 1(S.P.A.C.E. Phase 2)	2③～④			20	20	60				
課題解決学習(PBL)中心の科目	基礎ゼミⅢ			2①～②	40		60		2	
	基礎ゼミⅣ	2③～④	40		60		2			
	プロジェクトゼミⅠ	3①～②	40	20	20	20	2			
	プロジェクトゼミⅡ	3③～④	20	20	20	40	2			
	ソリューションラボⅠ	4①～②	20	20	20	40	4			
	ソリューションラボⅡ	4③～④			20	80	4			
	リテラシー応用 A	2・3①	20	50	30	8				
	リテラシー応用 B	2・3①	20	50	30					
	リテラシー応用 C	2・3①	20	50	30					
	リテラシー応用 D	2・3②	20	50	30					
リテラシー応用 E	2・3②	20	50	30						
学修成果 総括科目			フィールドスタディーズコーディネート	3・4②	20		80			
			地域・国際交流A	2②	40		60			
			地域・国際交流B	3②	40		60			
領域学修科目			リフレクションデザインⅢ	4②	20			80	1	
			リフレクションデザインⅣ	4④	20			80	1	
			リフレクションデザインⅡ	1③	80			20	2	
			領域概説 A(経済学)	1④		20		80	4	
			領域概説 B(理学)	1④		20		80		
			領域概説 C(人文学)	1④		20		80		
			領域概説 D(法学)	1④		20		80		
			領域概説 E(工学)	1④		20		80		
			領域概説 F(農学)	1④		20		80		
			領域基礎科目	2①②③④③①②		20		80	20	
		領域科目	3①②③④④①②		20		80	20		
自由科目	その他の科目		1・2・3・4①②③④		20		80	23		
合計									126	

創生学部におけるカリキュラムポリシーと教育課程の編成

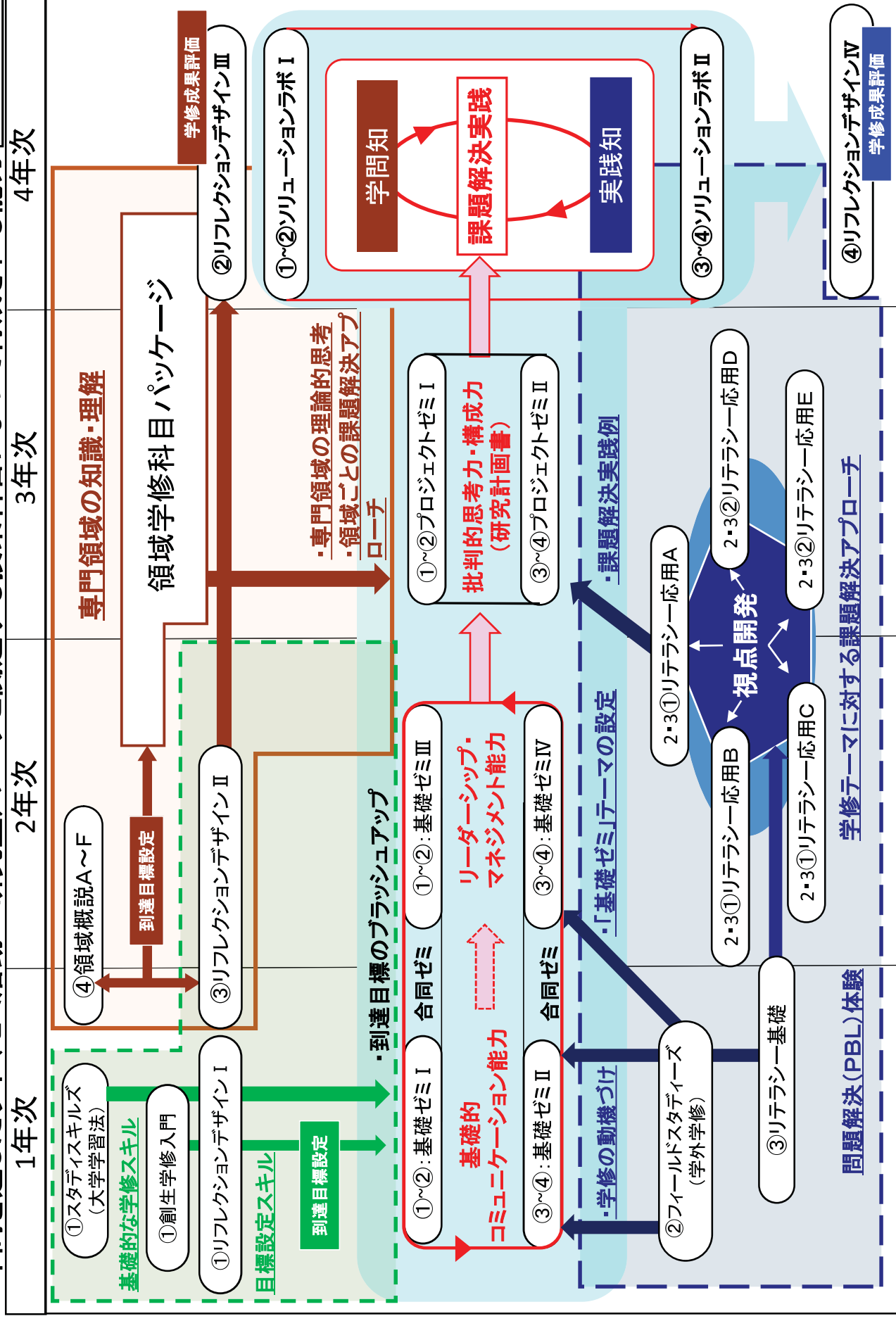
資料 6

カリキュラムポリシー

「導入・転換教育科目(区分)」, 「リテラシーコア・課題解決実践科目(区分)」, 「領域学修科目(区分)」, 「学修成果総括科目(区分)」の各授業科目(区分)を体系的に配置し, 4年間を通じてラボワークおよび「リフレクシオンデザインⅠ～Ⅳ(授業科目)」を通じて, 学生の主体的選択によって学修をデザインできるカリキュラムを編成する。



4年間を通じたラボ(ゼミ活動～研究室)ワークと関連する授業科目によって育成される能力



※授業科目の表記は「教育課程等の概要」に対応する。「領域学修科目パッケージ」は授業科目区分「領域学修」の授業科目群を表す。

「リフレクションデザインⅠ～Ⅳ」での指導と教育課程外(セメスターアセスメント)での指導体制の関係

資料7-2

		1年次		2年次		3年次		4年次			
授業科目名		1T-2T	3T-4T	1T-2T	3T-4T	1T-2T	3T-4T	1T-2T	3T-4T		
授業科目名	リフレクションデザインⅠ(1T)	リフレクションデザインⅡ(3T)		【学生の到達目標設定と科目履修の考え】		リフレクションデザインⅢ(認定科目)		リフレクションデザインⅣ(認定科目)			
	科目区分	導入・転換教育科目区分		領域学修科目区分		「リテラシー・コア・課題解決教科目」の履修		学修成果総括科目区分			
科目の概要 ※シラバスより抜粋		初年次の導入教育科目として創生学部の教育理念を共有し、学士課程における学修を自らデザインするための方法を理解する。特に、高次学習を行うために「生涯」から「大学」へ、大学を卒業するための「学修」を自らデザインする。そのうえで、自分の問題意識と照らし合わせて、2年次以降に履修していく領域学修科目の各分野への理解を深め、自身が学修する科目をデザインし、領域学修科目パッケージの「学修計画書」を作成する。		2年次以後に履修する領域学修科目パッケージについて、それぞれ異なる専門領域の体系(人文系、法系、経済学、理学、工学、農学)の特質を一通りふれ、個々の学習がもつ問題意識について触れ、そのうえで、自分の問題意識と照らし合わせて、2年次以降に履修していく領域学修科目の各分野への理解を深め、自身が学修する科目をデザインし、領域学修科目パッケージの「学修計画書」を作成する。		1年次に設定した到達目標の改善を図りながら、「基礎ゼミ」(プロジェクト)で提示される課題にアプローチ※4年次「リフレクション」ラボへの学修(研究)意識の集約化をはかる		学生が選択した領域学修科目パッケージの担当教員との面談を重ねながら、2年間の学修を総括する。各自が「リフレクションデザインⅢ」の履修計画を作成して「学修計画書Ⅰ」で設定した到達目標に照らして、領域学修の内容と社会的意義との関係性を整理する。このプロセスを踏まえて、各領域学修科目パッケージの履修によって獲得される「学修成果Ⅲ」にいう能力が保証されていることを確認する単位認定による科目である。		4年次の学修総括科目として、 修士課程全体的な学修の振り返り及び学修の総合的価値 を行う。教員からのアドバイスを受けながら、4年間の学修記録の蓄積をベースに、学修の成果を振り返り、 単位認定基準のためのエビデンスとなる「学修成果報告書Ⅰ」を作成 する。その作成過程では、第三者の「学修成果検証委員会」からのフィードバックを受けることを必須とし、客観的な視点から認められるものにするを旨とする。	
科目のねらい ※シラバスより抜粋		創生学部の教育理念に基づき、カリキュラムの体系的な理解を促す。また、学生自身が学修をデザインできるように、 数値的に測れる力(リフレクション)、動機づけ、自己を振り返る力(リフレクション)、学修をデザインする力(達成力)を育成 するための取り組み(課題)を用意し、課題を分析的に解釈する思考習慣を身につける。		次チーム以降に履修する領域学修科目パッケージとあわせて、学習体系ごとのアプローチを理解し、自分の問題意識を明確化する。また、 領域学修科目パッケージ履修に関する学修計画書を作成 する旨とする。学修の目的意識をもつ領域学修科目パッケージを担当教員とのコミュニケーション(ディスカッション)に向かうことを期す。本科目を通して、領域学修科目履修への円滑な接続を促すとともに、ここで作成される 学修計画書が領域学修科目パッケージの学修成果アセスメントのための基礎となり、リフレクションデザインⅢへ体系的に接続 させる。		「自由科目」の履修 学生課科全体で自らが設定した到達目標の達成に必要な授業科目を主体的に選択して履修 ※領域学修の深化を含め、学生のキャリア形成に資する履修指導を徹底する		領域学修科目パッケージの履修を通じて獲得された能力が担保されているかどうかを確認するための科目である。領域学修科目パッケージの学修成果の検証に際しては、単位認定の基準は各領域学修科目パッケージの担当教員組織において提示されるものに依る。領域学修科目パッケージの個々の授業科目の履修にとどまらず、 パッケージ全体の履修と達成することによって領域学修内容と社会的意義との関係の理解を深め、自己の学修計画に反映 させ、 リフレクションレポート につなげる。		各領域学修科目パッケージで提示された能力基準及び認定の基準に照らして単位を認定	
成績評価の基準と方法 ※シラバスより抜粋		学修設計書30%、レポート70%		ディスカッションへの積極的参加40%、レポート(学修計画書等)60%		選択した領域学修を事前に設定した到達目標(「学修計画書」)を参照しながら異通しを持って学修		各領域学修科目パッケージで提示された能力基準及び認定の基準に照らして単位を認定			
	【リフレクションデザインⅠ】 【RD】と表記	【RDⅠ(1T)】 学士課程教育全体における到達目標の設定・記録スキルの指導と到達目標設定の支援 ※評価指標として「ディプロマポリシー」と授業科目の関係表を参照し、「ディプロマ評価の観点」を参考に学生が到達目標を設定する		【RDⅡ(3T)】 領域学修の選択及び履修に関する「学修計画書」の作成を通じて「到達目標」設定の指導 ・卒業要件に照らして、適切な履修指導 ・学生面談(学生生活支援、学習支援) ・アセスメントシートの活用方法の指導 ・アセスメントシート等を活用した学生面談 (3)到達目標のブラッシュアップ ・到達目標の妥当性の確認		【RDⅢ(認定)】 RDⅡで作成した「学修計画書」で設定した到達目標及びパッケージが定める学修成果の要件に照らして、学生の自己評価の指導(レポート等の作成指導)		【RDⅣ(認定)】 RDⅠでの到達目標設定スキルの育成に際し、学修課程の教育課程及びそれ以外、セメスターアセスメントでの到達目標設定、改善を踏まえ、最終の学修成果のまとめを指導			
学生が設定する到達目標の指導と評価 (※資料2参照)		【セメスターアセスメント①】 担当教員：基礎ゼミⅠの担当		【セメスターアセスメント②】 担当教員：基礎ゼミⅠの担当		【セメスターアセスメント③-⑥】 担当教員：基礎ゼミⅠの担当(2年次) プロジェクト(3年次)		【セメスターアセスメント③-⑥】 担当教員：リフレクションラボⅠ・Ⅱの担当			
【教育課程内】		(1)履修指導(計画的な履修アドバイス) ・卒業要件に照らして、適切な履修指導 (2)学生面談(学生生活支援、学習支援) ・アセスメントシートの活用方法の指導 ・アセスメントシート等を活用した学生面談 (3)到達目標のブラッシュアップ ・到達目標の妥当性の確認		(1)履修指導(計画的な履修アドバイス) ・卒業要件に照らして、適切な履修指導 (2)学生面談(学生生活支援、学習支援) ・アセスメントシートの活用方法の指導 ・アセスメントシート等を活用した学生面談 (3)到達目標のブラッシュアップ ・到達目標の妥当性の確認		(1)履修指導(計画的な履修アドバイス) ・卒業要件に照らして、適切な履修指導 ・ゼミ・ラボの配属等の指導 (2)学生面談(学生生活支援、学習支援) ・アセスメントシート等を活用した学生面談 (3)到達目標のブラッシュアップ ・到達目標の妥当性の確認		(1)履修指導(計画的な履修アドバイス) ・卒業要件に照らして、適切な履修指導 (2)学生面談(学生生活支援、学習支援) ・アセスメントシート等を活用した学生面談 (3)到達目標のブラッシュアップ ・到達目標の妥当性の確認			
【教育課程外】								(3)到達目標に基づき学修成果のまとめ(RDⅣ)と運動・到達目標に対する学修成果の確認 (ポートフォリオなどに蓄積されている具体的な学修エビデンス) ・学修成果報告書のアドバイスとフィードバック			

創生学部領域学修科目パッケージ履修要件

1. 社会・地域文化学領域学修科目パッケージ

- ・ 高等学校卒業程度の地歴・公民に関する知識を習得していること
- ・ 自身の関心領域について、積極的に学ぶ意欲をもっていること
- ・ 特定の国・地域を研究することを希望する場合、その国・地域の言語を学んでいること

2. 言語文化学領域学修科目パッケージ

- ・ 高等学校の国語、外国語の知識を身につけていること
- ・ 大学院進学等を視野に、特定の国、地域の言語・文化を研究したい場合には、その国の言語を学んでいること
- ・ 自身の関心領域について、場合によってはその言語も含めて、新たに学ぶ意欲を持っていること

3. 心理・人間・メディア表現文化学領域学修科目パッケージ

- ・ 人間の心理、思想、表現、および人間を取り巻くメディア環境等について、旺盛な関心を持っていること
- ・ 大学院進学等を視野に、特定の国、地域の言語・文化を研究したい場合には、その国の言語を学んでいること
- ・ 自身の関心領域について、場合によってはそれに関係する外国語も含めて、新たに学ぶ意欲を持っていること

4. 歴史文化学領域学修科目パッケージ

- ・ 高校の日本史、世界史どちらか、または両方の知識を身につけていること
- ・ 大学院進学等を視野に、特定の国、地域を研究したい場合には、その国の言語を学んでいること
- ・ 自身の関心領域を言語も含めて、新たに学ぶ意欲を持っていること

5. 法学領域学修科目パッケージ

- ・ 事前に、「リーガル・システムA」「リーガル・システムB」の2科目4単位を修得済みであること

6. 経済学領域学修科目パッケージ

- ・ データサイエンスの基礎的科目を履修していること

7. 経営学領域学修科目パッケージ

- ・ データサイエンスの基礎的科目を履修していること

8. 数学領域学修科目パッケージ

- ・ 高等学校で学ぶ数学（数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学Ⅲ、数学A、数学B）を十分に理解していること
- ・ 数学は積み上げ科目なので、数学専攻プログラムの授業マップ（<http://www.sc.niigata-u.ac.jp/sc/edu/subject/map/map-math.pdf>）を参照して順番に履修すること

9. 物理学領域学修科目パッケージ

- ・ 高校数学（数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学Ⅲ、数学A、数学B）に関する十分な理解
- ・ 自然系共通専門基礎科目の数学基礎AⅠ、AⅡなどを履修していることが望ましい

10. 化学領域学修科目パッケージ

- ・ 高等学校数学で微分・積分、ベクトル、行列を履修していることが望ましい
- ・ 高等学校理科で化学を含み、物理、あるいは、生物のいずれかの2科目を履修していることが望ましい
- ・ 理学部の他の専攻が開講する数学や物理、生物などの共通基礎科目を併せて履修することが望ましい

11. 生物学領域学修科目パッケージ

- ・ 高校で生物基礎を履修していることが望ましい

12. 地質科学領域学修科目パッケージ

- ・ 事前に地学基礎A、B、Cを履修しておくことが望ましい

13. 自然環境科学領域学修科目パッケージ

- ・ 自然系共通専門基礎科目の、化学基礎A、化学基礎B、生物学基礎A、生物学基礎B、地学基礎A、物理学基礎BⅠ、数学基礎Aを履修していること

14. 機械システム工学領域学修科目パッケージ

- ・ 微分積分，線形代数の基礎的な内容を習得しておくこと
- ・ 物理学（力学の基礎）を履修していること

15. 社会基盤工学領域学修科目パッケージ

- ・ 微分積分，線形代数の基礎的な内容を習得しておくこと
- ・ 物理学（力学の基礎）を履修していること

16. 電子情報通信領域学修科目パッケージ

- ・ 線形代数，微分積分の基礎的な内容を習得しておくこと
- ・ 物理学基礎AⅠ及び物理学基礎AⅡを履修していることが望ましい

17. 知能情報システム領域学修科目パッケージ

- ・ 知能情報システム工学における基礎科目である数学，理科，外国語などバランスのとれた基礎学力と思考の柔軟性を身に付け，知能情報システムに強い興味と意欲をもち，論理的思考力を兼ね備えていること
- ・ 教養系科目において，情報リテラシー科目区分で2単位以上修得していること
- ・ 教養系科目において，自然系共通専門基礎科目区分の数学・統計学細区分で4単位以上修得していること

18. 化学システム工学領域学修科目パッケージ

- ・ Gコード科目の化学基礎，物理基礎，数学基礎の単位をそれぞれ2単位以上修得していること

19. 材料科学領域学修科目パッケージ

- ・ 事前に高等学校レベルの「数学Ⅰ・A・Ⅱ・B・Ⅲ」，「物理基礎」および「化学基礎」の内容を理解しておくことが望ましい

20. 建築学領域学修科目パッケージ

- ・ 数学，物理学に関する基礎的科目を履修していることが望ましい
- ・ デザイン論，美術史に関する基礎的科目を履修していると有用である

21. 生物資源科学・流域環境学領域学修科目パッケージ

- ・ 事前に自然系共通専門基礎を6単位以上，修得していることが望ましい

22. 応用生命科学・食品科学領域学修科目パッケージ

- ・ 事前に自然系共通専門基礎を6単位以上，修得していることが望ましい

授業科目(リフレクションデザインⅣ)を活用した学修成果の総括的評価と学位授与方式

資料9

創生学部

教授会:学修成果報告書一式をエビデンスとして審査

最終まとめ

卒業時の学修成果報告書一式

- ① アセスメントシート(1年次～3年次まで)6枚(必須)
- ② 4年次アセスメントシート2枚(必須)
- ③ 成績証明書(必須)
- ④ 自身の学修成果を証明するエビデンス(選択)



3年次修了までに半年ごとに学修成果をシートにまとめたもの
アセスメントシート×6枚

NBASアセスメントシート

＜ディプロマポリシー＞の4点に基づいて学生の視点で学修成果を記述する
4年次に学修成果を総括して作成するシート
アセスメントシート×2枚

フィードバック

提出

学修成果検証委員会

教育戦略統括室

教育プログラム評価部門

- ◆ 学修成果の検証
 - 学士課程教育における学修成果の検証
- ◆ 人材育成ミッションの再定義の検証
 - 学士課程, 大学院のPDCA評価
- ◆ 学位プログラム化推進の企画
 - 教育・学生支援機構との連携強化

高大接続部門

- ◆ 各学部の入試関連情報の把握・発信
- ◆ 教育プログラムに対する社会的ニーズの把握
- ◆ 入試に関する企画調整

FD・SD部門

- ◆ 教職員のキャリアデザインの体系的検討
- ◆ FD及びSD成果の検証・改善
- ◆ 高等教育の最新動向の調査

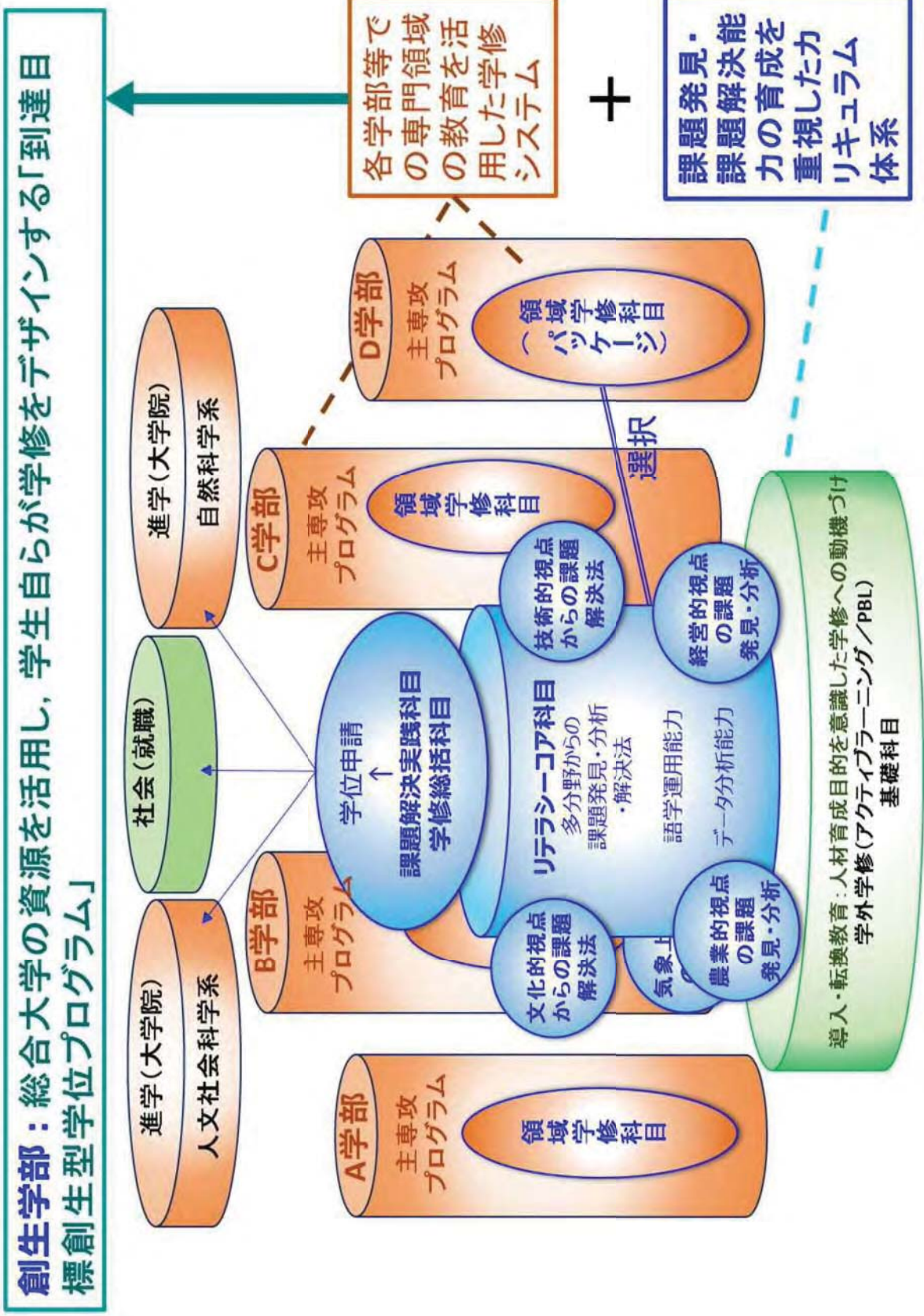
※アセスメントシートイメージ



学修成果報告書の作成

リフレクションデザインⅣ(4年次)

創生学部における基本的な学修構造イメージ



資料 11



カリキュラムツリー 1:S.P.A.C.E. 履修コース

[illegible]

入試方法(高校での意識・関心)

履修内容の選択 (履修時のブロックに記載)	スキル選択 領域学修・領域学修選択(理由)	プロジェクトゼミ理由と選択先	リレーションシップ理由と選択先
--------------------------	--------------------------	----------------	-----------------

ゼミ等での 学習内容・成果、 喚起された興味	基礎ゼミ:グループ活動の基本的態度・姿勢	基礎ゼミ:プレゼンテーション力 リフレクティブデザインなど、〇〇分野の 学習に関心	基礎ゼミ:グループで協働して学習内容を まとめる力 リテラシー応用:多角的な視点	基礎ゼミ:グループ活動をマネジメントする 力 リテラシー応用:多角的な視点 プロジェクトゼミ:学修内容	プロジェクトゼミ:実施内容	リレーションラボ:実施内容
------------------------------	----------------------	---	--	--	---------------	---------------

[illegible]

卒業後の進路	進路選択理由	進路

カリキュラムツリー 2: データサイエンス履修コース

学修内容 分類	小分類	主な担当別 分類	1年次			2年次			3年次			4年次		
			1T	2T	3T	4T	1T	2T	3T	4T	1T	2T	3T	4T
導入・転換 教育科目	導入・転換 教育科目	専任教員 1year 1	専任教員 1year 1	専任教員 1year 1	専任教員 1year 1	専任教員 1year 1	専任教員 1year 1	専任教員 1year 1	専任教員 1year 1	専任教員 1year 1	専任教員 1year 1	専任教員 1year 1	専任教員 1year 1	専任教員 1year 1
			専任教員 1year 1	専任教員 1year 1	専任教員 1year 1	専任教員 1year 1	専任教員 1year 1	専任教員 1year 1	専任教員 1year 1	専任教員 1year 1	専任教員 1year 1	専任教員 1year 1	専任教員 1year 1	専任教員 1year 1
			専任教員 1year 1	専任教員 1year 1	専任教員 1year 1	専任教員 1year 1	専任教員 1year 1	専任教員 1year 1	専任教員 1year 1	専任教員 1year 1	専任教員 1year 1	専任教員 1year 1	専任教員 1year 1	専任教員 1year 1
リテラシー コア 課題解決 実践科目	リテラシー コア 課題解決 実践科目	専任教員 1year 1	専任教員 1year 1	専任教員 1year 1	専任教員 1year 1	専任教員 1year 1	専任教員 1year 1	専任教員 1year 1	専任教員 1year 1	専任教員 1year 1	専任教員 1year 1	専任教員 1year 1	専任教員 1year 1	専任教員 1year 1
			専任教員 1year 1	専任教員 1year 1	専任教員 1year 1	専任教員 1year 1	専任教員 1year 1	専任教員 1year 1	専任教員 1year 1	専任教員 1year 1	専任教員 1year 1	専任教員 1year 1	専任教員 1year 1	専任教員 1year 1
			専任教員 1year 1	専任教員 1year 1	専任教員 1year 1	専任教員 1year 1	専任教員 1year 1	専任教員 1year 1	専任教員 1year 1	専任教員 1year 1	専任教員 1year 1	専任教員 1year 1	専任教員 1year 1	専任教員 1year 1
ゼミ 課題解決 実践	ゼミ 課題解決 実践	専任教員 1year 1	専任教員 1year 1	専任教員 1year 1	専任教員 1year 1	専任教員 1year 1	専任教員 1year 1	専任教員 1year 1	専任教員 1year 1	専任教員 1year 1	専任教員 1year 1	専任教員 1year 1	専任教員 1year 1	専任教員 1year 1
			専任教員 1year 1	専任教員 1year 1	専任教員 1year 1	専任教員 1year 1	専任教員 1year 1	専任教員 1year 1	専任教員 1year 1	専任教員 1year 1	専任教員 1year 1	専任教員 1year 1	専任教員 1year 1	専任教員 1year 1
			専任教員 1year 1	専任教員 1year 1	専任教員 1year 1	専任教員 1year 1	専任教員 1year 1	専任教員 1year 1	専任教員 1year 1	専任教員 1year 1	専任教員 1year 1	専任教員 1year 1	専任教員 1year 1	専任教員 1year 1
領域学修 科目	領域学修 科目	専任教員 1year 1	専任教員 1year 1	専任教員 1year 1	専任教員 1year 1	専任教員 1year 1	専任教員 1year 1	専任教員 1year 1	専任教員 1year 1	専任教員 1year 1	専任教員 1year 1	専任教員 1year 1	専任教員 1year 1	専任教員 1year 1
			専任教員 1year 1	専任教員 1year 1	専任教員 1year 1	専任教員 1year 1	専任教員 1year 1	専任教員 1year 1	専任教員 1year 1	専任教員 1year 1	専任教員 1year 1	専任教員 1year 1	専任教員 1year 1	専任教員 1year 1
			専任教員 1year 1	専任教員 1year 1	専任教員 1year 1	専任教員 1year 1	専任教員 1year 1	専任教員 1year 1	専任教員 1year 1	専任教員 1year 1	専任教員 1year 1	専任教員 1year 1	専任教員 1year 1	専任教員 1year 1
取得単位	取得単位	専任教員 1year 1	専任教員 1year 1	専任教員 1year 1	専任教員 1year 1	専任教員 1year 1	専任教員 1year 1	専任教員 1year 1	専任教員 1year 1	専任教員 1year 1	専任教員 1year 1	専任教員 1year 1	専任教員 1year 1	専任教員 1year 1
			専任教員 1year 1	専任教員 1year 1	専任教員 1year 1	専任教員 1year 1	専任教員 1year 1	専任教員 1year 1	専任教員 1year 1	専任教員 1year 1	専任教員 1year 1	専任教員 1year 1	専任教員 1year 1	専任教員 1year 1
			専任教員 1year 1	専任教員 1year 1	専任教員 1year 1	専任教員 1year 1	専任教員 1year 1	専任教員 1year 1	専任教員 1year 1	専任教員 1year 1	専任教員 1year 1	専任教員 1year 1	専任教員 1year 1	専任教員 1year 1

入試 (入学時の関心)	入試方法(高校での意識・関心)							
履修内容の選択 (履修時のブロックに記載)	スキル選択 領域学修・領域学修選択(理由)							
ゼミ等での 学修内容・成果、 喚起された興味	基礎ゼミ:グループ活動の基本的態度・姿勢	基礎ゼミ:プレゼンテーション リフレクション・デザインなど、〇〇分野の 学修に関心	基礎ゼミ:グループで協働して学修内容を まとめる力 リテラシー応用:多角的な視点	基礎ゼミ:グループ活動をマネジメントする 力	リテラシー応用:多角的な視点 プロジェクトゼミ:学修内容	プロジェクトゼミ:実地内容	ソリューションラボ:実地内容	
領域学修に関連して各自で 設定する 到達目標の例	1年次の学修から	1年次実定の目標	リフレクション ブラッシュアップ	リフレクション ブラッシュアップ	2年次で策定する目標	リフレクション ブラッシュアップ	最終段階を踏まえて策定する目標	リフレクション・デザインIVで全体の目標と合 わせて、最終的なまとめ
卒業後の 進路		進路選択理由		進路選択理由		進路		

科目履修例 1-1 社会・地域文化学領域学修科目パッケージ→観光関連企業

[illegible]

文系型一般入試(基礎学力があり、国内外の文化や経済に関心がある)

人試
(入学時の関心)

履修内容の選択 (履修時のブロックに記載)	スキル・SPACE(国際志向) 修業学生・地域文化・修業学生からの地域活性化とを志す	プロジェクトゼミ 地域の活性化に貢献を持ち、開講するべき選択	リニューアルラボ、伝統文化の観点から、地域の活性化についての研究を志望し、引き続き同じくを希望
--------------------------	---	--------------------------------	---

ゼミ等での 学修内容・成果、 喚起された興味	基礎ゼミ：グループ活動の基本的態度・姿勢 基礎ゼミ：プレゼンテーション力 リフティングデザインⅡなど、地域文化の 学修に関心	基礎ゼミ：グループで協働して学修内容を まとめる力 リフティング：多角的な視点 プレゼンテーション：多角的な視点	基礎ゼミ：グループ活動系マジェントする 力 リフティング：多角的な視点 プレゼンテーション：多角的な視点	プロジェクトゼミ：伝統文化に関連した地域 の活性化に関する研究計画を決定する力 プロジェクトゼミ：伝統文化に関連した地域 の活性化に関する研究計画を決定する力 プレゼンテーション：多角的な視点	ソリューションラボ：地域の活性化に関連し、分野の異なる地 域者と協議し、課題解決方法を提案 する力 ソリューションラボ：地域の活性化に関連し、分野の異なる地 域者と協議し、課題解決方法を提案 する力
------------------------------	---	---	---	--	--

領域・学修に関連して各自で 設定する 到達目標の例	1年次の学修から	・地域文化学に関する基本的な考え方の理解 ・地域文化と社会との関係と理解	リフレクション ブラッシュアップ	・地域文化学の基本概念を理解し、ワーク シートの内容を把握 ・文化と地方創生との関係と理解	リフレクション ブラッシュアップ	文化教育行政の現状と今後の地域活性化について、関係部署分野などの学芸員と 協議して提案できる	・リフレクションデザインⅣで全体の目標と 合わせて、最終的な学修成果の目録と 合わせて
--	-----------------	---	-----------------------------	--	-----------------------------	---	--

卒業後の進路	地域を国外にも紹介し、活性化することを志向	観光関連企業
--------	-----------------------	--------

科目履修例 1-2 社会・地域文化学領域学修科目パッケージ（データサイエンス履修）→情報メディア関連企業

[illegible]

推薦入試(高校での課題探究から、メディアと文化全般に関心がある)

履修内容の選択
(履修時のブロックに記載)

スキル: データサイエンス実践を選択(データの扱いや分析に関心)
領域学修: 社会・地域文化学領域学修(メディアによる地域の活性化)

志向)	プロジェクトゼミ:情報メディアに興味を持ち、関連
-----	--------------------------

るゼミを選択	ソリューションラボ: 社会学の視 引き続き同じゼミを選択
--------	---------------------------------

から、メディア

通じた地域の活性化の研究を志望し、

ゼミ等での
学修内容・成果、
基礎ゼミグループ活動の基本的態度・姿勢

基礎ゼミ:グループで協働して学修内容をまとめる力

マネジメントする
プロジェクトゼミ：社会学分野に関連したメ
リテラシー応用：多角的な視点

ソリューションラボ：地域の活性化
者、他者、と協働型課題解決方法を提
案する。ソリューションラボは、地域
の活性化、他者、と協働型課題解決
方法を提案する。ソリューションラ
ボは、地域の活性化、他者、と協
働型課題解決方法を提案する。ソ
リューションラボは、地域の活性化
、他者、と協働型課題解決方法を
提案する。

に、情

ポリアディア分野の視点から、分野の異な

領域学修に関連して各自で

リフレグーション

リフレクシオン

を通じて地域の活性化に貢献している。

4

<
-
[
O
+
<
I
S
v
f
A

卒業後の 進路	身につけたデータの分析力を活かして
------------	-------------------

情報メディア関連企業

科目履修例 2-1 言語文化学領域学修科目パッケージ (S.P.A.C.E.履修) → 教育・学習支援業

[illegible]

文系型一般入試(基礎学力があり、国際交流に興味がある)

スキル: S.P.A.C.E.を選択(国際志向)
領域学修: 言語文化領域学修(言語志向)

観点の興味が高まり、国際文化理解を志

プロジェクトゼミ：国際的な文化交流に関する

に興味を持ち、関連するゼミを選択

— シンポジウム：国際交流，文化交流に関する

研究を志望し、引き続き同じゼミを選

田中 保七郎
ので等三や

總外世第...

基礎ゼミ：プレゼンテーション力

基礎ゼミ:グループで協働して学修内容を
まとめる力

基礎ゼミ：グループ活動をマネジメントする

シー応用:多角的な視点

江クトゼミ：言語学分野に関連した環

— ショーランボ: 国際交流, 文化交流に

研究を志望し、分野の異なる他者と協

領域学修に関連して各自で
設定する

1年次の学修から

- ・言語学に関する基本的な考え方の理解
- ・文化と社会の課題との関係を理解

リフレッシュ

・言語学の基本概念の理解と、さまざまな国の文化交流の現状について理解

リフレグション

交流に関する課題を分析し、メディア史学分野などの学習者と協働して提

クシヨンドザインIVで全体の目標と合
て、最終的な学修成果の質保証

言語や文化に関する知識を活用

教育・学習支援業

科目履修例 3-1 心理・人間・メディア表現文化学領域必修科目パッケージ (SPACE履修)→マルチメディア・プランナー

学修内容 分類	小分類	主な担当別 分類	1年次			2年次			3年次			4年次		
			1T	2T	3T	4T	1T	2T	3T	4T	1T	2T	3T	4T
導入・転換 教育科目	導入・転換 教育科目	専任教員 Type 1 コア・ 履修科目	授業科目 ：単位	授業科目 ：単位	授業科目 ：単位	授業科目 ：単位	授業科目 ：単位	授業科目 ：単位	授業科目 ：単位	授業科目 ：単位	授業科目 ：単位	授業科目 ：単位	授業科目 ：単位	授業科目 ：単位
			スチディーズ(大学 学憲法) ・学修の基本的スキル 理解	フィールドスタ ディーズ(学外 学修) ・学修の基本的スキル 理解	リテラシー基礎 6 ・学修の基本的スキル 理解	基礎英語1/1単位 必修	アカデミック英語(ライティング)/1単位 必修	情報処理・デー タ分析 2 必修	アカデミック英語(リスニング)/1単位 必修	基礎英語2/1単位 必修	地域学・新関 関一 2 必修	地域学・新関 関一 2 必修	地域学・新関 関一 2 必修	地域学・新関 関一 2 必修
導入・転換 教育科目	導入・転換 教育科目	専任教員 Type 1 コア・ 履修科目	授業科目 ：単位	授業科目 ：単位	授業科目 ：単位	授業科目 ：単位	授業科目 ：単位	授業科目 ：単位	授業科目 ：単位	授業科目 ：単位	授業科目 ：単位	授業科目 ：単位	授業科目 ：単位	授業科目 ：単位
			リフレクシオンデザイン1 ・学修の基本的スキル 理解	リフレクシオンデザイン2 ・学修の基本的スキル 理解	リフレクシオンデザイン3 ・学修の基本的スキル 理解	基礎英語3/1単位 必修	アカデミック英語(ライティング)/1単位 必修	情報処理・デー タ分析 2 必修	アカデミック英語(リスニング)/1単位 必修	基礎英語4/1単位 必修	地域学・新関 関一 2 必修	地域学・新関 関一 2 必修	地域学・新関 関一 2 必修	地域学・新関 関一 2 必修
リテラシー コア・ 履修科目	リテラシー コア・ 履修科目	専任教員 Type 1 コア・ 履修科目	授業科目 ：単位	授業科目 ：単位	授業科目 ：単位	授業科目 ：単位	授業科目 ：単位	授業科目 ：単位	授業科目 ：単位	授業科目 ：単位	授業科目 ：単位	授業科目 ：単位	授業科目 ：単位	授業科目 ：単位
			リフレクシオンデザイン1 ・学修の基本的スキル 理解	リフレクシオンデザイン2 ・学修の基本的スキル 理解	リフレクシオンデザイン3 ・学修の基本的スキル 理解	基礎英語5/1単位 必修	アカデミック英語(ライティング)/1単位 必修	情報処理・デー タ分析 2 必修	アカデミック英語(リスニング)/1単位 必修	基礎英語6/1単位 必修	地域学・新関 関一 2 必修	地域学・新関 関一 2 必修	地域学・新関 関一 2 必修	地域学・新関 関一 2 必修
スキル習得 中心の科目	スキル習得 中心の科目	専任教員 Type 1 コア・ 履修科目	授業科目 ：単位	授業科目 ：単位	授業科目 ：単位	授業科目 ：単位	授業科目 ：単位	授業科目 ：単位	授業科目 ：単位	授業科目 ：単位	授業科目 ：単位	授業科目 ：単位	授業科目 ：単位	授業科目 ：単位
			リフレクシオンデザイン1 ・学修の基本的スキル 理解	リフレクシオンデザイン2 ・学修の基本的スキル 理解	リフレクシオンデザイン3 ・学修の基本的スキル 理解	基礎英語7/1単位 必修	アカデミック英語(ライティング)/1単位 必修	情報処理・デー タ分析 2 必修	アカデミック英語(リスニング)/1単位 必修	基礎英語8/1単位 必修	地域学・新関 関一 2 必修	地域学・新関 関一 2 必修	地域学・新関 関一 2 必修	地域学・新関 関一 2 必修
ゼミ 履修科目	ゼミ 履修科目	専任教員 Type 1 コア・ 履修科目	授業科目 ：単位	授業科目 ：単位	授業科目 ：単位	授業科目 ：単位	授業科目 ：単位	授業科目 ：単位	授業科目 ：単位	授業科目 ：単位	授業科目 ：単位	授業科目 ：単位	授業科目 ：単位	授業科目 ：単位
			リフレクシオンデザイン1 ・学修の基本的スキル 理解	リフレクシオンデザイン2 ・学修の基本的スキル 理解	リフレクシオンデザイン3 ・学修の基本的スキル 理解	基礎英語9/1単位 必修	アカデミック英語(ライティング)/1単位 必修	情報処理・デー タ分析 2 必修	アカデミック英語(リスニング)/1単位 必修	基礎英語10/1単位 必修	地域学・新関 関一 2 必修	地域学・新関 関一 2 必修	地域学・新関 関一 2 必修	地域学・新関 関一 2 必修
領域学修 科目	領域学修 科目	専任教員 Type 1 コア・ 履修科目	授業科目 ：単位	授業科目 ：単位	授業科目 ：単位	授業科目 ：単位	授業科目 ：単位	授業科目 ：単位	授業科目 ：単位	授業科目 ：単位	授業科目 ：単位	授業科目 ：単位	授業科目 ：単位	授業科目 ：単位
			リフレクシオンデザイン1 ・学修の基本的スキル 理解	リフレクシオンデザイン2 ・学修の基本的スキル 理解	リフレクシオンデザイン3 ・学修の基本的スキル 理解	基礎英語11/1単位 必修	アカデミック英語(ライティング)/1単位 必修	情報処理・デー タ分析 2 必修	アカデミック英語(リスニング)/1単位 必修	基礎英語12/1単位 必修	地域学・新関 関一 2 必修	地域学・新関 関一 2 必修	地域学・新関 関一 2 必修	地域学・新関 関一 2 必修
取得単位	取得単位	専任教員 Type 1 コア・ 履修科目	授業科目 ：単位	授業科目 ：単位	授業科目 ：単位	授業科目 ：単位	授業科目 ：単位	授業科目 ：単位	授業科目 ：単位	授業科目 ：単位	授業科目 ：単位	授業科目 ：単位	授業科目 ：単位	授業科目 ：単位
			リフレクシオンデザイン1 ・学修の基本的スキル 理解	リフレクシオンデザイン2 ・学修の基本的スキル 理解	リフレクシオンデザイン3 ・学修の基本的スキル 理解	基礎英語13/1単位 必修	アカデミック英語(ライティング)/1単位 必修	情報処理・デー タ分析 2 必修	アカデミック英語(リスニング)/1単位 必修	基礎英語14/1単位 必修	地域学・新関 関一 2 必修	地域学・新関 関一 2 必修	地域学・新関 関一 2 必修	地域学・新関 関一 2 必修

入試 (入学時の関心)	文系型一般入試(基礎学力があり、メディアを含む文化全般に興味がある)
履修内容の選択 (履修時のブロックに記載)	スキル SPACE(国内外での活動の希望) 領域学修：心理・人間・メディア表現文化学領域学修(表現文化の観点から、地域産業 の国際発信を志向)
ゼミ等での 学修内容・成果、 喚起された興味	基礎ゼミ：プレゼンテーションカ リフレクシオンデザインⅡなど、メディア分野 の学修に関心
領域学修に関連して各自で 設定する 到達目標の例	・メディア表現文化学の基本的な考え方を 理解 1年次の学修から リフレクシオンデザインⅡなど、メディア分野 の学修に関心
本業後の 進路	メディアに関する知識を活用 マルチメディア・プランナー

科目履修例 3-2 心理・人間・メディア表現文化学領域学修科目パッケージ（データサイエンス履修）→心理学系大学院進学

[illegible]

入試
(入学時の関心)

推薦入試(高校での課題探究活動から、人間関係、人と人とのつながりに関心が強い)

履修内容の選択
(履修時のブロックに記載)

スキル: データサイエンス実践を選択(データの扱いや分析に関心)
領域学修: 心理・人間・メディア表現文化学領域学修(人の意識や行
志向)

関連するゼミを選択

ソリューションラボ: 心理学の視点から、地球温暖化に対する意識や行動に関する研究を志望し、引き続き同じゼミを選択

セミ等での 学修内容・成果、 喚起された興味	基礎ゼミグループ活動の基本的態度・姿勢	基礎ゼミ、フレレンションカ リプレクシオン・デザインⅡなど：心理分野の 字根に関心	基礎ゼミ、グループで協働して学修内容を まとめる力 リテラシー応用：多角的な視点	基礎ゼミ、グループ運動をマネジメントする 力	リテラシー応用：多角的な視点 プロジェクトゼミ：心理学分野で環境問題に 取り組むための論文を模範として、批判的思考 力、環境心理学に関連する知識	プロジェクトゼミ：心理学分野から環境問題 に取り組むための研究計画を策定 ソリューションラボ：地球温暖化問題と関連し、心理学の提議から、分野の異なる研究者と 協議しながら課題解決方法を提案	
領域学修に関連して各自で 設定する 到達目標の例	1年次の学修から	・心理学に関する基本的考え方の理解す る。 ・心理学と社会の問題との関係を理解	リフレクション ブラッシュアップ	・心理学の基本概念の理解と、心理学が社 会的な問題とどう関係しているかを理解	リフレクション ブラッシュアップ	環境問題に関して心理学的なアプローチで 取り組み、様々な自然科学分野の学 習者と協働して授業できる	→ リフレクシオンデザインIVで主体的な目標を設定 させて、最終的な学修成果の裏付け保証

卒業後の進路

同校

大学院に進学

科目履修例 4-2 歴史文化学領域学修科目パッケージ（データサイエンス履修）→都道府県教育委員会

[illegible]

文系型一般入試（基礎学力があり、地域の活性化に興味がある）

入試
(入学時の関心)

スキル：データサイエンス実践を選択(データの扱いや分析に関心)

ソリューションラボ、地方活性化に関して、歴史的な視点を取り入れた研究を志望し、引き続き同じゼミを選択

ち、関連するゼミを選択

プロジェクトゼミ：地域の活性化

ソリューションラボ：地方活性化に関して、歴史的な視点を取り入れた研究を志望し、引

ゼミ等での
学修内容

ゼミ：グループ活動の基本的態度・姿勢

基礎ゼミ：ブレゼンテーション力

プロジェクトゼミ：地方活性化間
ラシー応用：多角的な視点

プロジェクトゼミ：歴史学的な視点を取り入れた地方活性化に関する研究計画を策定

ソリューションラボ、地方活性化に関連し、歴史学分野の視点から分析を行い、分野の異なる他者と協議によって課題解決方法を探る。

領域学修に関連して各自で

1年次の学修から

・歴史学に関する基本的な考え方の理解

・歴史学の基本概念の理解と、地方活性化

リフレッシュ

地方活性化に関して、歴史的な視点から

リフレクションデザインⅣで全体の目録と合

を分析し、教育現場か

を分析し、教育現場か

都道府県職員（教育委員会）

科目履修例 5-1 法学領域学修科目パッケージ(S.P.A.C.E.履修)→NGO職員／国際公務員

[illegible]

文系型一般入試(基礎学力があり、国際関係に興味がある)

入試
(入学時の関心)

履修内容の選択
(履修時のブロックに記載)

スキル、SPACEを選択(国内外での活動を希望)
領域学科: 法学領域学科(ゼミでの学習から、法の観点からの国際協力を志向)

ソリューションラボ：国際法の視点から、紛争と人権問題の研究を志望し、引き続き同じゼミを選択

ゼミ等での
学修内容・成果、
喚起された興味

基礎ゼミ: プレゼンテーション力
リフレクションデザインⅡなど: 法学修に関心

基礎ゼミ:グループ活動をマナシ
力

リテラシー応用:多角的な視点
プロジェクトゼミ:人権問題に関
紛争に関する論文を講読して、
判的思考力、開発援助に関連す

プロジェクトゼミ：国際法分野に関連した紛争と人権に関する研究計画を策定

領域学修に関連して各自で 設定する 到達目標の例

- ・法学に関する基本的な考え方を理解する
- ・法学と社会の課題との関係を理解する

- ・外国語の文献にも通して、法學概念を理解
- ・国際社会の諸問題を理解

リフレクシオン
ブラッシュアップ

国際競争の人權への影響とその解決法を
開発経済学などの学習者と協働して提案で
きる

卒業後の
国際法の知識と語学力を活用
↑
NGO職員／国際公務員

卒業後の
国際法の知識と語学力を活用

NGO職員／国際公務員

科目履修例 5-2 法学領域必修科目パッケージ（データサイエンス履修）→地方・国家公務員

学修内容 分類	主な担当別 分類	1年次			2年次			3年次			4年次		
		1T	2T	3T	4T	1T	2T	3T	4T	1T	2T	3T	4T
導入・転換 教育科目	導入・転換 教育科目	スタディスキルズ(大学 学習法) ・学修の基本的スキル 理解	フィールドスタ ディーズ(学外 学修) ・必修 ・単位	リテラシー基礎 6 ・必修 ・単位	リテラシー基礎 6 ・必修 ・単位	リテラシー基礎 6 ・必修 ・単位	リテラシー基礎 6 ・必修 ・単位	リテラシー基礎 6 ・必修 ・単位	リテラシー基礎 6 ・必修 ・単位	リテラシー基礎 6 ・必修 ・単位	リテラシー基礎 6 ・必修 ・単位	リテラシー基礎 6 ・必修 ・単位	リテラシー基礎 6 ・必修 ・単位
	導入・転換 教育科目	リフレクシオンデザイン 1 ・必修 ・単位	リフレクシオンデザイン 1 ・必修 ・単位	リフレクシオンデザイン 1 ・必修 ・単位	リフレクシオンデザイン 1 ・必修 ・単位	リフレクシオンデザイン 1 ・必修 ・単位	リフレクシオンデザイン 1 ・必修 ・単位	リフレクシオンデザイン 1 ・必修 ・単位	リフレクシオンデザイン 1 ・必修 ・単位	リフレクシオンデザイン 1 ・必修 ・単位	リフレクシオンデザイン 1 ・必修 ・単位	リフレクシオンデザイン 1 ・必修 ・単位	リフレクシオンデザイン 1 ・必修 ・単位
導入・転換 教育科目	導入・転換 教育科目	アカデミック英語(リーディング)/1単位 必修	アカデミック英語(リーディング)/1単位 必修	アカデミック英語(リーディング)/1単位 必修	アカデミック英語(リーディング)/1単位 必修	アカデミック英語(リーディング)/1単位 必修	アカデミック英語(リーディング)/1単位 必修	アカデミック英語(リーディング)/1単位 必修	アカデミック英語(リーディング)/1単位 必修	アカデミック英語(リーディング)/1単位 必修	アカデミック英語(リーディング)/1単位 必修	アカデミック英語(リーディング)/1単位 必修	アカデミック英語(リーディング)/1単位 必修
	導入・転換 教育科目	アカデミック英語(リスニング)/1単位 必修	アカデミック英語(リスニング)/1単位 必修	アカデミック英語(リスニング)/1単位 必修	アカデミック英語(リスニング)/1単位 必修	アカデミック英語(リスニング)/1単位 必修	アカデミック英語(リスニング)/1単位 必修	アカデミック英語(リスニング)/1単位 必修	アカデミック英語(リスニング)/1単位 必修	アカデミック英語(リスニング)/1単位 必修	アカデミック英語(リスニング)/1単位 必修	アカデミック英語(リスニング)/1単位 必修	アカデミック英語(リスニング)/1単位 必修
基礎科目	基礎科目	データ処理・分析	データ処理・分析	データ処理・分析	データ処理・分析	データ処理・分析	データ処理・分析	データ処理・分析	データ処理・分析	データ処理・分析	データ処理・分析	データ処理・分析	データ処理・分析
	基礎科目	リテラシーコア科目 ・必修 ・単位	リテラシーコア科目 ・必修 ・単位	リテラシーコア科目 ・必修 ・単位	リテラシーコア科目 ・必修 ・単位	リテラシーコア科目 ・必修 ・単位	リテラシーコア科目 ・必修 ・単位	リテラシーコア科目 ・必修 ・単位	リテラシーコア科目 ・必修 ・単位	リテラシーコア科目 ・必修 ・単位	リテラシーコア科目 ・必修 ・単位	リテラシーコア科目 ・必修 ・単位	リテラシーコア科目 ・必修 ・単位
リテラシー コア科目 ・必修 ・単位	リテラシー コア科目 ・必修 ・単位	リテラシーコア科目 ・必修 ・単位	リテラシーコア科目 ・必修 ・単位	リテラシーコア科目 ・必修 ・単位	リテラシーコア科目 ・必修 ・単位	リテラシーコア科目 ・必修 ・単位	リテラシーコア科目 ・必修 ・単位	リテラシーコア科目 ・必修 ・単位	リテラシーコア科目 ・必修 ・単位	リテラシーコア科目 ・必修 ・単位	リテラシーコア科目 ・必修 ・単位	リテラシーコア科目 ・必修 ・単位	リテラシーコア科目 ・必修 ・単位
	リテラシー コア科目 ・必修 ・単位	リテラシーコア科目 ・必修 ・単位	リテラシーコア科目 ・必修 ・単位	リテラシーコア科目 ・必修 ・単位	リテラシーコア科目 ・必修 ・単位	リテラシーコア科目 ・必修 ・単位	リテラシーコア科目 ・必修 ・単位	リテラシーコア科目 ・必修 ・単位	リテラシーコア科目 ・必修 ・単位	リテラシーコア科目 ・必修 ・単位	リテラシーコア科目 ・必修 ・単位	リテラシーコア科目 ・必修 ・単位	リテラシーコア科目 ・必修 ・単位
スキル習得 中心の科目	スキル習得 中心の科目	リテラシーコア科目 ・必修 ・単位	リテラシーコア科目 ・必修 ・単位	リテラシーコア科目 ・必修 ・単位	リテラシーコア科目 ・必修 ・単位	リテラシーコア科目 ・必修 ・単位	リテラシーコア科目 ・必修 ・単位	リテラシーコア科目 ・必修 ・単位	リテラシーコア科目 ・必修 ・単位	リテラシーコア科目 ・必修 ・単位	リテラシーコア科目 ・必修 ・単位	リテラシーコア科目 ・必修 ・単位	リテラシーコア科目 ・必修 ・単位
	スキル習得 中心の科目	リテラシーコア科目 ・必修 ・単位	リテラシーコア科目 ・必修 ・単位	リテラシーコア科目 ・必修 ・単位	リテラシーコア科目 ・必修 ・単位	リテラシーコア科目 ・必修 ・単位	リテラシーコア科目 ・必修 ・単位	リテラシーコア科目 ・必修 ・単位	リテラシーコア科目 ・必修 ・単位	リテラシーコア科目 ・必修 ・単位	リテラシーコア科目 ・必修 ・単位	リテラシーコア科目 ・必修 ・単位	リテラシーコア科目 ・必修 ・単位
ゼミ 課題解決 実践	ゼミ 課題解決 実践	基礎ゼミⅠ/2単位・必修(12年合同) ・必修 ・単位	基礎ゼミⅠ/2単位・必修(12年合同) ・必修 ・単位	基礎ゼミⅠ/2単位・必修(12年合同) ・必修 ・単位	基礎ゼミⅠ/2単位・必修(12年合同) ・必修 ・単位	基礎ゼミⅠ/2単位・必修(12年合同) ・必修 ・単位	基礎ゼミⅠ/2単位・必修(12年合同) ・必修 ・単位	基礎ゼミⅠ/2単位・必修(12年合同) ・必修 ・単位	基礎ゼミⅠ/2単位・必修(12年合同) ・必修 ・単位	基礎ゼミⅠ/2単位・必修(12年合同) ・必修 ・単位	基礎ゼミⅠ/2単位・必修(12年合同) ・必修 ・単位	基礎ゼミⅠ/2単位・必修(12年合同) ・必修 ・単位	基礎ゼミⅠ/2単位・必修(12年合同) ・必修 ・単位
	ゼミ 課題解決 実践	基礎ゼミⅠ/2単位・必修(12年合同) ・必修 ・単位	基礎ゼミⅠ/2単位・必修(12年合同) ・必修 ・単位	基礎ゼミⅠ/2単位・必修(12年合同) ・必修 ・単位	基礎ゼミⅠ/2単位・必修(12年合同) ・必修 ・単位	基礎ゼミⅠ/2単位・必修(12年合同) ・必修 ・単位	基礎ゼミⅠ/2単位・必修(12年合同) ・必修 ・単位	基礎ゼミⅠ/2単位・必修(12年合同) ・必修 ・単位	基礎ゼミⅠ/2単位・必修(12年合同) ・必修 ・単位	基礎ゼミⅠ/2単位・必修(12年合同) ・必修 ・単位	基礎ゼミⅠ/2単位・必修(12年合同) ・必修 ・単位	基礎ゼミⅠ/2単位・必修(12年合同) ・必修 ・単位	基礎ゼミⅠ/2単位・必修(12年合同) ・必修 ・単位
領域学修 科目	領域学修 科目	リテラシーコア科目 ・必修 ・単位	リテラシーコア科目 ・必修 ・単位	リテラシーコア科目 ・必修 ・単位	リテラシーコア科目 ・必修 ・単位	リテラシーコア科目 ・必修 ・単位	リテラシーコア科目 ・必修 ・単位	リテラシーコア科目 ・必修 ・単位	リテラシーコア科目 ・必修 ・単位	リテラシーコア科目 ・必修 ・単位	リテラシーコア科目 ・必修 ・単位	リテラシーコア科目 ・必修 ・単位	リテラシーコア科目 ・必修 ・単位
	領域学修 科目	リテラシーコア科目 ・必修 ・単位	リテラシーコア科目 ・必修 ・単位	リテラシーコア科目 ・必修 ・単位	リテラシーコア科目 ・必修 ・単位	リテラシーコア科目 ・必修 ・単位	リテラシーコア科目 ・必修 ・単位	リテラシーコア科目 ・必修 ・単位	リテラシーコア科目 ・必修 ・単位	リテラシーコア科目 ・必修 ・単位	リテラシーコア科目 ・必修 ・単位	リテラシーコア科目 ・必修 ・単位	リテラシーコア科目 ・必修 ・単位
取得単位	取得単位	127	127	127	127	127	127	127	127	127	127	127	127
	取得単位	127	127	127	127	127	127	127	127	127	127	127	127

入試(入学時の関心)

推薦入試(高校での課題探究活動から、地方創生に関心が強い)

履修内容の選択
(履修時のブロックに記載)

スキル データサイエンス実践を選択(データの扱いや分析に関心)
領域学修: 法学領域学修(地域での学外学修から、法律にも関心(公務員を志向))

ゼミ等での
学修内容・成果
喚起された興味

基礎ゼミ: プレゼンテーション力
リフレクシオンデザインなど、法分野の
学修に関心

領域学修に関連して各自で
到達目標の例

基礎ゼミ: グループ活動の基本的態度・姿勢
1年次の学修から
→ 法学に関する基本的な考え方の理解
→ リフレクシオンデザインなど、法分野の
→ 法学と社会の課題との関係の理解

本業後の
進路

行政に関わる分析力を活用
→ 地方・国家公務員

科目履修例 6-1 経済学領域学修科目パッケージジ (S.P.A.C.E.履修) → 商社・貿易関連企業

[illegible]

理系型一般入試(基礎学力があり、理系であるが国際関係に興味がある)

入試
(入学時の関心)

履修内容の選択
(履修時のブロックに記載)

キル: S.P.A.C.E.を選択(国内外での活動を希望)
領域学修: 経済学領域学修(経済的な観点から、国際関係の理解を志向)

ソリューションラボ、開発経済学の視点から、発展途上国支援の研究を志望し、引き続き同じゼミを選択

ゼミ等での
学修内容・
喚起された

ゼミ:グループ活動の基本的態度・姿勢

基礎ゼミ: プレゼンテーション力

基礎ゼミ：グループで協働して学修内容にとめる力

基礎ゼミ:グループ活動をマネジメントする

リテラシー応用：多角的な視点

ソリューションラボ: 開発援助に関連し、国際経済学分野の視点から、分野の異なる他者との協働。

領域学修に関連して各自で
設定する
到達目標の例

1年次の学修から

- ・経済学に関する基本的な考え方の理解
- ・経済学と社会の課題との関係を理解

リフレグション
ブラッシュアップ

・外国語文献等を通して、経済学に関する基本概念を理解
・先進国と発展途上国との関係を理解

リフレッシュ

リフレクションデザインⅣで全体の目標と合わせて、最終的な学修成果の質保証

国際経済に関連した科目を履修し、語学を活用

商社・貿易関連企業

科目履修例 6-2 経済学領域修科目パッケージジ (データサイエンス履修) → 金融機関 / 地方・国家公務員

学修内容 分類	小分類	主な担当 別	1年次			2年次			3年次			4年次					
			1T	2T	3T	4T	1T	2T	3T	4T	1T	2T	3T	4T			
			授業科目	授業科目	単位	授業科目	授業科目	単位	授業科目	授業科目	単位	授業科目	授業科目	単位	授業科目	授業科目	単位
			スタディスキルズ(大学 学習法) ・学修の基本的スキル 必修	フュールドスタ ディーズ(大学 学習) 必修	2	リテラシー基礎 6 ・社会に 対する 理解 必修	2										
			リフレクションデザイン1 ・学修の理念(生徒) 必修		2												
			リフレクションデザイン2 ・学修の理念(生徒) 必修		2												
			新生学修入門 ・新生学部教育理解の 理解		1												
			アカデミック英語(リーディング)/1単位 必修	基礎英語/1単位 必修													
			アカデミック英語(リスニング)/1単位 必修	アカデミック英語(ライティング)/1単位 必修													
			データ処理・分析	情報処理・データ 分析	2	データサイエンス 基礎	2										
			金学共通 科目活用	経済統計分析 入門	2	ユーズのため の数学	2										
			リテラシー コア (PBL)	日本憲法B 2	選択	リテラシー応用 A(A～C問題) ・D(D～E問題) ・課題発見把握 必修 中心のPBL	2										
			リテラシー コア (PBL)	日本憲法B 2	選択	リテラシー応用 A(A～C問題) ・D(D～E問題) ・課題発見把握 必修 中心のPBL	2										
			リテラシー コア (PBL)	日本憲法B 2	選択	リテラシー応用 A(A～C問題) ・D(D～E問題) ・課題発見把握 必修 中心のPBL	2										
			リテラシー コア (PBL)	日本憲法B 2	選択	リテラシー応用 A(A～C問題) ・D(D～E問題) ・課題発見把握 必修 中心のPBL	2										
			リテラシー コア (PBL)	日本憲法B 2	選択	リテラシー応用 A(A～C問題) ・D(D～E問題) ・課題発見把握 必修 中心のPBL	2										
			リテラシー コア (PBL)	日本憲法B 2	選択	リテラシー応用 A(A～C問題) ・D(D～E問題) ・課題発見把握 必修 中心のPBL	2										
			リテラシー コア (PBL)	日本憲法B 2	選択	リテラシー応用 A(A～C問題) ・D(D～E問題) ・課題発見把握 必修 中心のPBL	2										
			リテラシー コア (PBL)	日本憲法B 2	選択	リテラシー応用 A(A～C問題) ・D(D～E問題) ・課題発見把握 必修 中心のPBL	2										
			リテラシー コア (PBL)	日本憲法B 2	選択	リテラシー応用 A(A～C問題) ・D(D～E問題) ・課題発見把握 必修 中心のPBL	2										
			リテラシー コア (PBL)	日本憲法B 2	選択	リテラシー応用 A(A～C問題) ・D(D～E問題) ・課題発見把握 必修 中心のPBL	2										
			リテラシー コア (PBL)	日本憲法B 2	選択	リテラシー応用 A(A～C問題) ・D(D～E問題) ・課題発見把握 必修 中心のPBL	2										
			リテラシー コア (PBL)	日本憲法B 2	選択	リテラシー応用 A(A～C問題) ・D(D～E問題) ・課題発見把握 必修 中心のPBL	2										
			リテラシー コア (PBL)	日本憲法B 2	選択	リテラシー応用 A(A～C問題) ・D(D～E問題) ・課題発見把握 必修 中心のPBL	2										
			リテラシー コア (PBL)	日本憲法B 2	選択	リテラシー応用 A(A～C問題) ・D(D～E問題) ・課題発見把握 必修 中心のPBL	2										
			リテラシー コア (PBL)	日本憲法B 2	選択	リテラシー応用 A(A～C問題) ・D(D～E問題) ・課題発見把握 必修 中心のPBL	2										
			リテラシー コア (PBL)	日本憲法B 2	選択	リテラシー応用 A(A～C問題) ・D(D～E問題) ・課題発見把握 必修 中心のPBL	2										
			リテラシー コア (PBL)	日本憲法B 2	選択	リテラシー応用 A(A～C問題) ・D(D～E問題) ・課題発見把握 必修 中心のPBL	2										
			リテラシー コア (PBL)	日本憲法B 2	選択	リテラシー応用 A(A～C問題) ・D(D～E問題) ・課題発見把握 必修 中心のPBL	2										
			リテラシー コア (PBL)	日本憲法B 2	選択	リテラシー応用 A(A～C問題) ・D(D～E問題) ・課題発見把握 必修 中心のPBL	2										
			リテラシー コア (PBL)	日本憲法B 2	選択	リテラシー応用 A(A～C問題) ・D(D～E問題) ・課題発見把握 必修 中心のPBL	2										
			リテラシー コア (PBL)	日本憲法B 2	選択	リテラシー応用 A(A～C問題) ・D(D～E問題) ・課題発見把握 必修 中心のPBL											

推薦入試(高校での課題探求活動から、地方創生に関心が強い)

スキル: データサイエンス実践を選択(データの扱いや分析に関心)

監製 野村浩将
 監修 野村浩将
 脚本 野村浩将
 演出 野村浩将
 音楽 野村浩将
 美術 野村浩将
 撮影 野村浩将
 編集 野村浩将
 効果 野村浩将
 音響 野村浩将
 衣装 野村浩将
 髪型 野村浩将
 メイク 野村浩将
 特殊効果 野村浩将
 字幕 野村浩将
 監製 野村浩将
 監修 野村浩将
 脚本 野村浩将
 演出 野村浩将
 音楽 野村浩将
 美術 野村浩将
 撮影 野村浩将
 編集 野村浩将
 効果 野村浩将
 音響 野村浩将
 衣装 野村浩将
 髪型 野村浩将
 メイク 野村浩将
 特殊効果 野村浩将
 字幕 野村浩将
 監製 野村浩将
 監修 野村浩将
 脚本 野村浩将
 演出 野村浩将
 音楽 野村浩将
 美術 野村浩将
 撮影 野村浩将
 編集 野村浩将
 効果 野村浩将
 音響 野村浩将
 衣装 野村浩将
 髪型 野村浩将
 メイク 野村浩将
 特殊効果 野村浩将
 字幕 野村浩将

履修内容の選択
(履修時のブロックに記載)[illegible]

```

graph TD
    A[1年次の学習から] --> B[経済学に関する基本的な考え方の理解  
・経済学に関与する基本的な考え方の理解  
・経済者と社会の問題との関係を理解]
    B --> C[リフレクション  
ブラッシュアップ]
    C --> D[経済学の基本概念を理解し、経済統計データを把握し、  
地域経済と地方自治との関係と理論を説明できる]
    D --> E[リフレクション  
ブラッシュアップ]
    E --> F[地方自治に向けて経済的アプローチとその解決方法について地域企業および職業・経済分野などの実習者と協働して提案できる]
    F --> G[リアクションデザインIVで全体の目標を合致させて、最終的な学習成果の質保証]
  
```

卒業後の 進路	金融系を中心に置修し、それに関わるデータの分 析力を活用	税関または地方・国家公務員 税関関
------------	---------------------------------	----------------------

科目履修例 7-1 経営学領域学修科目パッケージ(S.P.A.C.E.履修)→人材コンサルタント企業

学修内容 分類	小分類	主な担当別 分類	1年次			2年次			3年次			4年次			
			1T	2T	3T	4T	1T	2T	3T	4T	1T	2T	3T	4T	
導入・転換 教育科目	導入・転換 教育科目	専任教員 Type 1 ・新生学修教育課程の 理解	経営学入門	基礎英語B	2 通年	経済学入門	2 通年	基礎英語A	2 通年	基礎英語B	2 通年	基礎英語C	2 通年	基礎英語D	2 通年
			基礎英語A	基礎英語B	基礎英語C	基礎英語D	基礎英語E	基礎英語F	基礎英語G	基礎英語H	基礎英語I	基礎英語J	基礎英語K	基礎英語L	基礎英語M
リテラシー ・課題解決 実践科目	リテラシー ・課題解決 実践科目	専任教員 Type 1 ・専任 +兼任	基礎英語A	基礎英語B	基礎英語C	基礎英語D	基礎英語E	基礎英語F	基礎英語G	基礎英語H	基礎英語I	基礎英語J	基礎英語K	基礎英語L	基礎英語M
			基礎英語A	基礎英語B	基礎英語C	基礎英語D	基礎英語E	基礎英語F	基礎英語G	基礎英語H	基礎英語I	基礎英語J	基礎英語K	基礎英語L	基礎英語M
ゼミ ・課題解決 実践科目	ゼミ ・課題解決 実践科目	専任教員 +α	基礎英語A	基礎英語B	基礎英語C	基礎英語D	基礎英語E	基礎英語F	基礎英語G	基礎英語H	基礎英語I	基礎英語J	基礎英語K	基礎英語L	基礎英語M
			基礎英語A	基礎英語B	基礎英語C	基礎英語D	基礎英語E	基礎英語F	基礎英語G	基礎英語H	基礎英語I	基礎英語J	基礎英語K	基礎英語L	基礎英語M
領域学修 科目	領域学修 科目	専任教員 +α	基礎英語A	基礎英語B	基礎英語C	基礎英語D	基礎英語E	基礎英語F	基礎英語G	基礎英語H	基礎英語I	基礎英語J	基礎英語K	基礎英語L	基礎英語M
			基礎英語A	基礎英語B	基礎英語C	基礎英語D	基礎英語E	基礎英語F	基礎英語G	基礎英語H	基礎英語I	基礎英語J	基礎英語K	基礎英語L	基礎英語M
取得単位	取得単位	127	基礎英語A	基礎英語B	基礎英語C	基礎英語D	基礎英語E	基礎英語F	基礎英語G	基礎英語H	基礎英語I	基礎英語J	基礎英語K	基礎英語L	基礎英語M
			基礎英語A	基礎英語B	基礎英語C	基礎英語D	基礎英語E	基礎英語F	基礎英語G	基礎英語H	基礎英語I	基礎英語J	基礎英語K	基礎英語L	基礎英語M

入試 (入学時の関心)	文系型一般入試(基礎学力があり、行政職全般に興味がある)										
履修内容の選択 (履修時のブロックに記載)	スキルSPACEを選択(国内外での活動を希望) 領域学修・経営学領域学修(学外学修で、地方での人材活性化への興味から)	プロジェクトゼミ:地域の医療介護に関連するゼミを選択 同じゼミを選択									
ゼミ等での 学修内容・成果、 喚起された興味	基礎ゼミ:グループ活動の基本的態度・姿勢、 リフレクシオン・デザインなど、経営学分野 の学修に関心	基礎ゼミ:グループで協働して学修内容を まとめる力 リテラシー応用:多角的な視点	基礎ゼミ:グループ活動でネットワークする 力 リテラシー応用:多角的な視点	リテラシー応用:多角的な視点 プロジェクトゼミ:経営学分野に関連した医 療介護の現場で実践的な学修を実施する 能力、地域経済に関連する知識を身につけ る	プロジェクトゼミ:経営学分野に関連した医 療介護の現場で実践的な学修を実施する 能力、地域経済に関連する知識を身につけ る	ソリューションラボ:地域の医療介護政策に関連し、経営学分野の観点から、課題解決 方法を提案し、分野の異なる世帯と協議				ソリューションラボ:経営学の視点から、地域の医療介護政策の研析を希望し、引続き 同じゼミを選択	
領域学修に関連して各自で 到達目標の例	1年次の学修から	経営学の基本的な考え方を理解する。 経営学と社会の課題との関係を確認する	リフレクシオン ブラッシュアップ	経営学の基本概念を理解し、地域の国際 化の局面に通じる。 医療介護の地域社会との関係を理解する	リフレクシオン ブラッシュアップ	少子高齢化に伴う医療介護への影響と その解決方法を、国際化分野などの学修者と 協議して提案できる	リフレクシオンデザインIVで全体の目標と合 わせて、最終的な学修成果の質保証	卒業後の 進路			人財コンサルタント企業
								国際的な経営力向上に貢献することを目指して			

科目履修例 7-2 経営学領域学修科目パッケージ (データサイエンス履修) → 経営コンサルタント企業

学校内部分類	小分類	主な担当別分類	1年次			2年次			3年次			4年次		
			1T	2T	3T	4T	1T	2T	3T	4T	1T	2T	3T	4T
導入・転換教育科目	導入・転換教育科目	専任教員 Type 1	授業科目	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	
			スクーティスキルズ(次年度学習法) ・学習の基本的スキル 必修	ワールドスタディーズ(海外学習) 必修	6	リサーチ基礎 ・社会に對ける課題理解 必修	2							
導入・転換教育科目	導入・転換教育科目	専任教員 Type 1	授業科目	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	
			リフレクションデザイン ・学習の理念／生徒から学生へ 必修		2									
導入・転換教育科目	導入・転換教育科目	専任教員 Type 1	授業科目	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	
			創生学修入門 ・創生学修教育課程の理解 必修		1									
基礎科目	基礎科目	外国語	授業科目	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	
			アカデミック英語(リーディング)／1単位 必修	基礎英語／1単位 必修										
基礎科目	基礎科目	データ処理・分析	授業科目	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	
			アカデミック英語(リスニング)／1単位 必修	アカデミック英語(ライティング)／1単位 必修										
基礎科目	基礎科目	全学共通科目活用	授業科目	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	
			経済学入門	2	日本憲法	2	選択	2	情報処理・データ分析	2	データサイエンス基礎	2	必修	
リサーチコア 課題解決 実践科目	リサーチコア(PBL)	専任教員 Type 1	授業科目	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	
			リサーチ入門	2	経済統計分析	2	選択	2	ユーザのための選択の数学	2	リサーチ応用：D(0～E)問題 ・課題発見記述：必修 中心のPBL	2	必修	
リサーチコア 課題解決 実践科目	リサーチコア(PBL)	専任教員 Type 1	授業科目	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	
			リサーチ入門	2	日本憲法	2	選択	2	リサーチ応用：D(0～E)問題 ・課題発見記述：必修 中心のPBL	2	必修			
ゼミ 課題解決 実践	基礎から課題解決	専任教員 +α	授業科目	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	
			基礎ゼミ 1／2単位、必修(1,2年合同) ・グループ学習で協働入門 ・課題の整理－把握－分析	基礎ゼミ 1／2単位、必修(1,2年合同) ・グループ学習で協働入門 ・課題の整理－把握－分析										
領域学修科目	学部分野の学修	各主専攻プログラムのコア・リベラル・ラーニングを履修	授業科目	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	
取得単位	総計	127	英語・ゼミは配分してカウント(以下同様)	10	9	9	10	9	10	10	7	2	3	

推薦入試(高校での学習から、民間企業に興味が高い)

入試
(入学時の関心)

履修内容の選択
(履修時のブロックに記載)

ミクス。データサイエンス実践を選択(データの扱いや分析に関心)

ソリューションラボ、企業経営学の視点から、地域経済の活性化についての研究を志望し、引き続き同じゼミを選択

ゼミ等での
学修内容・用

ゼミ：グループ活動の基本的態度・姿勢

基礎ゼミ：ブレゼンテーション力

基礎ゼミ：グループで協働して学び
まとめる力

基礎ゼミ:グループ活動をマネジメントする

プロジェクトゼミ：経営分野に
リテラシー応用：多角的な視点

プロジェクトゼミ：経営学分野に関連した地

基し、経営学分野の視点から、分野の異なる

領域学修に関連して各自で設定する

1年次の学修から

・経営学に関する基本的な考え方の理解

リフレグション

・経営学の基本概念を理解し、企業統計
データを理解

リフレグション

企業活動と地域経済の活性化のよりよい
相乗作用について製品開発・フードビジネス

リフレグシオンデザインIVで全体の目標と含

卒業後の
進路

経営コンサルタント企業

科目履修例 8-1 数学領域学修科目パッケージ (S.P.A.C.E.履修) → 大学院

学校内部分類	小分類	1年次			2年次			3年次			4年次				
		1T	2T	3T	4T	1T	2T	3T	4T	1T	2T	3T	4T		
導入・転換 教育科目	導入・転換 教育科目	主な担当別 分類	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	
		スタディスキルズ(大学 学習法) ・学習の基本的スキル 必修	フィードバック ・社会に 対して 必修	リテラシー基礎 6 ・社会に 対して 必修											
		リフレクショナルデザイン ・学習の理念/生徒 から学生へ 必修													
導入・転換 教育科目	導入・転換 教育科目	専任教員 Type 1	2 ・創生学部教育課程の 理解	1 必修											
		創生学部入門 必修													
		アカデミック英語(リテラシー) / 単位 必修													
基礎科目	基礎科目	アカデミック英語(リスニング) / 単位 必修													
		情報処理・デー タ分析	2 必修	2 必修											
		数学基礎A 2 選択	2 選択	2 選択											
リテラシー コア ・基礎 英語科目	リテラシー コア ・基礎 英語科目	数学基礎A 2 選択	2 選択	2 選択											
		物理基礎A 2 選択	2 選択	2 選択											
		リテラシー コア ・基礎 英語科目	2 必修	2 必修											
ゼミ 実践	ゼミ 実践	専任教員 Type 1	2 必修	2 必修											
		数学基礎A 2 選択	2 選択	2 選択											
		リテラシー コア ・基礎 英語科目	2 必修	2 必修											
ゼミ 実践	ゼミ 実践	専任教員 Type 1	2 必修	2 必修											
		数学基礎A 2 選択	2 選択	2 選択											
		リテラシー コア ・基礎 英語科目	2 必修	2 必修											
ゼミ 実践	ゼミ 実践	専任教員 Type 1	2 必修	2 必修											
		数学基礎A 2 選択	2 選択	2 選択											
		リテラシー コア ・基礎 英語科目	2 必修	2 必修											
ゼミ 実践	ゼミ 実践	専任教員 Type 1	2 必修	2 必修											
		数学基礎A 2 選択	2 選択	2 選択											
		リテラシー コア ・基礎 英語科目	2 必修	2 必修											
ゼミ 実践	ゼミ 実践	専任教員 Type 1	2 必修	2 必修											
		数学基礎A 2 選択	2 選択	2 選択											
		リテラシー コア ・基礎 英語科目	2 必修	2 必修											
ゼミ 実践	ゼミ 実践	専任教員 Type 1	2 必修	2 必修											
		数学基礎A 2 選択	2 選択	2 選択											
		リテラシー コア ・基礎 英語科目	2 必修	2 必修											
ゼミ 実践	ゼミ 実践	専任教員 Type 1	2 必修	2 必修											
		数学基礎A 2 選択	2 選択	2 選択											
		リテラシー コア ・基礎 英語科目	2 必修	2 必修											
ゼミ 実践	ゼミ 実践	専任教員 Type 1	2 必修	2 必修											
		数学基礎A 2 選択	2 選択	2 選択											
		リテラシー コア ・基礎 英語科目	2 必修	2 必修											
ゼミ 実践	ゼミ 実践	専任教員 Type 1	2 必修	2 必修											
		数学基礎A 2 選択	2 選択	2 選択											
		リテラシー コア ・基礎 英語科目	2 必修	2 必修											
ゼミ 実践	ゼミ 実践	専任教員 Type 1	2 必修	2 必修											
		数学基礎A 2 選択	2 選択	2 選択											
		リテラシー コア ・基礎 英語科目	2 必修	2 必修											
ゼミ 実践	ゼミ 実践	専任教員 Type 1	2 必修												

入試

履修内容の選択 (履修時のブロックに記載)	スキル・SPAC.Eを選択(国内での活動を希望) →地球科学修・数学探究修(地球温暖化などの科学的予測に興味を持ち)	プロジェクト・ミニ環境問題に興味を持ち、関連するテーマを選択	ソリューションポ. 科学的予測などの観点から、地球温暖化問題を研究を志し、引き続き進めたいを選択
--------------------------	---	--------------------------------	--

ゼミ等での 領域・学修内容・成果・ 達成率の算出・振り返り の喚起された興味	基礎ゼミ・グループ活動の基本的態度・姿勢 リフレクティブ・デザインなど・数学の分野 の学修に関心	基礎ゼミ・グループで協働して学修内容を まとめる力 リテラシー応用・多角的な視点	基礎ゼミ・グループで協働して学修内容を まとめる力 リテラシー応用・多角的な視点	基礎ゼミ・グループで協働して学修内容を まとめる力 リテラシー応用・多角的な視点	基礎ゼミ・グループで協働して学修内容を まとめる力 リテラシー応用・多角的な視点	基礎ゼミ・グループで協働して学修内容を まとめる力 リテラシー応用・多角的な視点	基礎ゼミ・グループで協働して学修内容を まとめる力 リテラシー応用・多角的な視点	基礎ゼミ・グループで協働して学修内容を まとめる力 リテラシー応用・多角的な視点	基礎ゼミ・グループで協働して学修内容を まとめる力 リテラシー応用・多角的な視点
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

卒業後の進路
更に専門性を伸ばし、地球規模での予測分析能力強化

大学院進学

科目履修例 8-2 数学領域学修科目パッケージ (データサイエンス履修) → 銀行

[illegible]

統計的扱いに興味がある)

キル: データサイエンス実践を選択(データの解析力向上を志向)

寺ち、**関連するゼミを選択**

リビューションラボ：産業界の数値モデル化などで地域社会の活性化に活かすことを志し、引き続き同じゼミを選択

基礎ザミ・ダル・プ・活劇の基本的態度 姿勢

基礎ゼミ: プレゼンテーション力

基礎ゼミ：グループで協働して学びとめる力

基礎ゼミ：グループ活動をマネジメントする

シー応用:多角的な視点

プロジェクトゼミ:産業のシステム化による
スマートコミュニティーを目指して、まず企

の最適化などを目指した数

領域学修に関連して各自で
設定する

1年次の学修から

数学に関する基礎知識を身につける
データサイエンスの知識を深める

リフレクシオン

データの統計的扱いから、企業などでのシステム化と数理的な予測に関する知識と技術

リフレクション

データの取り扱いから、企業などの生産性について基本的な数理モデルが構築でき、その妥当性を各面的観点から検討できる。

リフレクシオンデザイン
わせて、最終的な学

卒業後の進路

システムエ

科目履修例 9-2 物理学領域学修科目パッケージ (データサイエンス履修)→大学院進学

学修内容 分類	小分類	1年次			2年次			3年次			4年次		
		1T	2T	3T	4T	1T	2T	3T	4T	1T	2T	3T	4T
導入・転換 教育科目	導入・転換 教育科目	スタディスキルズ(大学 学憲法)	フィールドスタ ディーズ(学外 学修)	リテラシー基礎 6. 必修 理解									
	導入・転換 教育科目	リフレクシオンデザイン 1. 必修 理解											
導入・転換 教育科目	導入・転換 教育科目	アカデミック英語(リスニング)1単位 必修	アカデミック英語(ライティング)1単位 必修	基礎英語1単位 必修									
	導入・転換 教育科目	アカデミック英語(リーディング)1単位 必修	アカデミック英語(ライティング)1単位 必修	アカデミック英語(ライティング)1単位 必修									
基礎科目	基礎科目	データ処理・分析	数学基礎A	数学基礎B	情報処理・データ分析	データサイエンス基礎							
	基礎科目	数学基礎A	数学基礎B	数学基礎C	情報処理・データ分析	データサイエンス基礎							
リテラシー コア科目 (PBL)	リテラシー コア科目 (PBL)	リテラシーコア 1. 必修 理解											
	リテラシー コア科目 (PBL)	リテラシーコア 2. 必修 理解											
スキル習得 中心の科目	スキル習得 中心の科目	リテラシーコア 1. 必修 理解											
	スキル習得 中心の科目	リテラシーコア 2. 必修 理解											
ゼミ 課題解決 実践	ゼミ 課題解決 実践	基礎から 課題解決	基礎から 課題解決	基礎から 課題解決	基礎から 課題解決	基礎から 課題解決	基礎から 課題解決	基礎から 課題解決	基礎から 課題解決	基礎から 課題解決	基礎から 課題解決	基礎から 課題解決	基礎から 課題解決
	ゼミ 課題解決 実践	基礎から 課題解決	基礎から 課題解決	基礎から 課題解決	基礎から 課題解決	基礎から 課題解決	基礎から 課題解決	基礎から 課題解決	基礎から 課題解決	基礎から 課題解決	基礎から 課題解決	基礎から 課題解決	基礎から 課題解決
物理学 領域学修 科目	物理学 領域学修 科目	物理学 領域学修 科目	物理学 領域学修 科目	物理学 領域学修 科目	物理学 領域学修 科目	物理学 領域学修 科目	物理学 領域学修 科目	物理学 領域学修 科目	物理学 領域学修 科目	物理学 領域学修 科目	物理学 領域学修 科目	物理学 領域学修 科目	物理学 領域学修 科目
	物理学 領域学修 科目	物理学 領域学修 科目	物理学 領域学修 科目	物理学 領域学修 科目	物理学 領域学修 科目	物理学 領域学修 科目	物理学 領域学修 科目	物理学 領域学修 科目	物理学 領域学修 科目	物理学 領域学修 科目	物理学 領域学修 科目	物理学 領域学修 科目	物理学 領域学修 科目
取得単位	取得単位	英語・基礎は分配して7 ユニット以下同様	英語・基礎は分配して7 ユニット以下同様	英語・基礎は分配して7 ユニット以下同様	英語・基礎は分配して7 ユニット以下同様	英語・基礎は分配して7 ユニット以下同様	英語・基礎は分配して7 ユニット以下同様	英語・基礎は分配して7 ユニット以下同様	英語・基礎は分配して7 ユニット以下同様	英語・基礎は分配して7 ユニット以下同様	英語・基礎は分配して7 ユニット以下同様	英語・基礎は分配して7 ユニット以下同様	英語・基礎は分配して7 ユニット以下同様
	取得単位	英語・基礎は分配して7 ユニット以下同様	英語・基礎は分配して7 ユニット以下同様	英語・基礎は分配して7 ユニット以下同様	英語・基礎は分配して7 ユニット以下同様	英語・基礎は分配して7 ユニット以下同様	英語・基礎は分配して7 ユニット以下同様	英語・基礎は分配して7 ユニット以下同様	英語・基礎は分配して7 ユニット以下同様	英語・基礎は分配して7 ユニット以下同様	英語・基礎は分配して7 ユニット以下同様	英語・基礎は分配して7 ユニット以下同様	英語・基礎は分配して7 ユニット以下同様

入試 (入学時の関心)

履修内容の選択
(履修時のブロックに記載)

ゼミ等での
学修内容・成果
喚起された興味

領域学修に関連して各自で
設定する
到達目標の例

スキル データサイエンス関連を選択(データの扱いや分析に関心)
領域学修 物理学領域学修(領域基礎の講義で物理的思考に興味を持ち、研究者を目指す)

基礎ゼミ: プレゼンテーション力
リフレクシオンデザインなど、物理学分野
の学修に関心

基礎ゼミ: グループ活動で協働して学修内容を
まとめる力
リテラシー応用: 多角的な視点

基礎ゼミ: エネルギーと地球温暖化問題の解決を考えた、物理学の観点からのアプローチを
忘すことなく環境問題の解決に貢献

理系型一般入試(基礎学力が優り、理系全般に興味がある)

履修内容の選択
(履修時のブロックに記載)

ゼミ等での
学修内容・成果
喚起された興味

領域学修に関連して各自で
設定する
到達目標の例

基礎ゼミ: エネルギーと地球温暖化問題の解決を考えた、物理学の観点からのアプローチを
忘すことなく環境問題の解決に貢献

基礎ゼミ: エネルギーと地球温暖化問題の解決を考えた、物理学の観点からのアプローチを
忘すことなく環境問題の解決に貢献

基礎ゼミ: エネルギーと地球温暖化問題の解決を考えた、物理学の観点からのアプローチを
忘すことなく環境問題の解決に貢献

基礎ゼミ: エネルギーと地球温暖化問題の解決を考えた、物理学の観点からのアプローチを
忘すことなく環境問題の解決に貢献

科目履修例 10-2 化学領域学修科目パッケージ (データサイエンス履修) → 大学院進学

学修内容 分類	小分類	主な担当 別分類	1年次			2年次			3年次			4年次		
			1T	2T	3T	4T	1T	2T	3T	4T	1T	2T	3T	4T
導入・転換 教育科目	導入・転換 教育科目	専任教員 Type 1 ・新生学級教育課程の 理解	導入スキルズ(大学 学憲法)	フィールドスタ ディーズ(学外 学修)	リテラシー基礎 6 ・修める課題の 理解									
			リフレクシオン・デザイン 1 ・学修の理念/生徒の 理解											
導入・転換 教育科目	導入・転換 教育科目	専任教員 Type 1 ・新生学級教育課程の 理解	アカデミック英語(リーディング)/1単位 必修	アカデミック英語(リスニング)/1単位 必修	基礎英語/1単位 必修									
			アカデミック英語(ライティング)/1単位 必修	情報通信・データ 分析	2 データサイエンス 基礎									
基礎科目	基礎科目	データ理 解・分析	数学基礎A	2 通修	2 通修	2 通修	2 通修	2 通修	2 通修	2 通修	2 通修	2 通修	2 通修	2 通修
			生物学基礎A	2 通修	2 通修	2 通修	2 通修	2 通修	2 通修	2 通修	2 通修	2 通修	2 通修	2 通修
リテラシー コア科目 PBL	リテラシー コア科目 PBL	専任教員 Type 1	リテラシー コア ・専任教員											
			リテラシー コア ・専任教員											
スキル習得 中心の科目	スキル習得 中心の科目	全学 +専任	リテラシー コア ・専任教員											
			リテラシー コア ・専任教員											
ゼミ 課題解決 実践	ゼミ 課題解決 実践	専任教員 +α	基礎ゼミ I / 2単位・必修(12年次合同) ・グループ学習で協働 ・課題の整理・把握・分析	基礎ゼミ II / 2単位・必修(12年次合同) ・グループ学習で協働 ・課題の整理・把握・分析	基礎ゼミ III / 2単位・必修(12年次合同) ・グループ学習で協働 ・課題の整理・把握・分析	基礎ゼミ IV / 2単位・必修(12年次合同) ・グループ学習で協働 ・課題の整理・把握・分析	基礎ゼミ V / 2単位・必修(12年次合同) ・グループ学習で協働 ・課題の整理・把握・分析	基礎ゼミ VI / 2単位・必修(12年次合同) ・グループ学習で協働 ・課題の整理・把握・分析	基礎ゼミ VII / 2単位・必修(12年次合同) ・グループ学習で協働 ・課題の整理・把握・分析	基礎ゼミ VIII / 2単位・必修(12年次合同) ・グループ学習で協働 ・課題の整理・把握・分析	基礎ゼミ IX / 2単位・必修(12年次合同) ・グループ学習で協働 ・課題の整理・把握・分析	基礎ゼミ X / 2単位・必修(12年次合同) ・グループ学習で協働 ・課題の整理・把握・分析	基礎ゼミ XI / 2単位・必修(12年次合同) ・グループ学習で協働 ・課題の整理・把握・分析	基礎ゼミ XII / 2単位・必修(12年次合同) ・グループ学習で協働 ・課題の整理・把握・分析
			基礎ゼミ I / 2単位・必修(12年次合同) ・グループ学習で協働 ・課題の整理・把握・分析	基礎ゼミ II / 2単位・必修(12年次合同) ・グループ学習で協働 ・課題の整理・把握・分析	基礎ゼミ III / 2単位・必修(12年次合同) ・グループ学習で協働 ・課題の整理・把握・分析	基礎ゼミ IV / 2単位・必修(12年次合同) ・グループ学習で協働 ・課題の整理・把握・分析	基礎ゼミ V / 2単位・必修(12年次合同) ・グループ学習で協働 ・課題の整理・把握・分析	基礎ゼミ VI / 2単位・必修(12年次合同) ・グループ学習で協働 ・課題の整理・把握・分析	基礎ゼミ VII / 2単位・必修(12年次合同) ・グループ学習で協働 ・課題の整理・把握・分析	基礎ゼミ VIII / 2単位・必修(12年次合同) ・グループ学習で協働 ・課題の整理・把握・分析	基礎ゼミ IX / 2単位・必修(12年次合同) ・グループ学習で協働 ・課題の整理・把握・分析	基礎ゼミ X / 2単位・必修(12年次合同) ・グループ学習で協働 ・課題の整理・把握・分析	基礎ゼミ XI / 2単位・必修(12年次合同) ・グループ学習で協働 ・課題の整理・把握・分析	基礎ゼミ XII / 2単位・必修(12年次合同) ・グループ学習で協働 ・課題の整理・把握・分析
領域学修 科目	領域学修 科目	各専攻分野 の学修 プログラムの パッケージ を履修	基礎化学基礎 ・必修	基礎化学基礎 ・必修	基礎化学基礎 ・必修	基礎化学基礎 ・必修	基礎化学基礎 ・必修	基礎化学基礎 ・必修	基礎化学基礎 ・必修	基礎化学基礎 ・必修	基礎化学基礎 ・必修	基礎化学基礎 ・必修	基礎化学基礎 ・必修	基礎化学基礎 ・必修
			基礎化学基礎 ・必修	基礎化学基礎 ・必修	基礎化学基礎 ・必修	基礎化学基礎 ・必修	基礎化学基礎 ・必修	基礎化学基礎 ・必修	基礎化学基礎 ・必修	基礎化学基礎 ・必修	基礎化学基礎 ・必修	基礎化学基礎 ・必修	基礎化学基礎 ・必修	基礎化学基礎 ・必修
取得単位	取得単位	英語・数学は分配して7 単位以下同様	英語・数学は分配して7 単位以下同様	英語・数学は分配して7 単位以下同様	英語・数学は分配して7 単位以下同様	英語・数学は分配して7 単位以下同様	英語・数学は分配して7 単位以下同様	英語・数学は分配して7 単位以下同様	英語・数学は分配して7 単位以下同様	英語・数学は分配して7 単位以下同様	英語・数学は分配して7 単位以下同様	英語・数学は分配して7 単位以下同様	英語・数学は分配して7 単位以下同様	英語・数学は分配して7 単位以下同様
			英語・数学は分配して7 単位以下同様	英語・数学は分配して7 単位以下同様	英語・数学は分配して7 単位以下同様	英語・数学は分配して7 単位以下同様	英語・数学は分配して7 単位以下同様	英語・数学は分配して7 単位以下同様	英語・数学は分配して7 単位以下同様	英語・数学は分配して7 単位以下同様	英語・数学は分配して7 単位以下同様	英語・数学は分配して7 単位以下同様	英語・数学は分配して7 単位以下同様	英語・数学は分配して7 単位以下同様

赤枠内・大学院進学に備えて、付加的に履修した科目

化学基礎実習・1 有機化学実習

2 無機化学実習

3 生化学実習

4 物理化学実習

5 環境化学実習

6 応用化学実習

7 リフレクシオン・デザイン

8 リフレクシオン・デザイン

9 リフレクシオン・デザイン

10 リフレクシオン・デザイン

11 リフレクシオン・デザイン

12 リフレクシオン・デザイン

13 リフレクシオン・デザイン

14 リフレクシオン・デザイン

15 リフレクシオン・デザイン

16 リフレクシオン・デザイン

17 リフレクシオン・デザイン

18 リフレクシオン・デザイン

19 リフレクシオン・デザイン

20 リフレクシオン・デザイン

21 リフレクシオン・デザイン

22 リフレクシオン・デザイン

23 リフレクシオン・デザイン

24 リフレクシオン・デザイン

25 リフレクシオン・デザイン

26 リフレクシオン・デザイン

27 リフレクシオン・デザイン

28 リフレクシオン・デザイン

29 リフレクシオン・デザイン

30 リフレクシオン・デザイン

31 リフレクシオン・デザイン

32 リフレクシオン・デザイン

33 リフレクシオン・デザイン

34 リフレクシオン・デザイン

35 リフレクシオン・デザイン

36 リフレクシオン・デザイン

37 リフレクシオン・デザイン

38 リフレクシオン・デザイン

推薦入試(高次での履修探索活動から、物質についての基礎原理とその応用に関心が強い)

履修内容の選択 (履修時のブロックに記載)

ゼミ等での学修内容・成果、喚起された興味

領域学修に関連して各自で設定する到達目標の例

卒業後の進路

科目履修例 11-1 生物学領域学修科目パッケージ (S.P.A.C.E.履修) → 食品メーカー

[illegible]

入試
入学時の関心

履修内容の選択 (履修時のブロックに記載)	スケール・SPACを選択(国内外での活動と希望) 創発的学修広義の生物科学分野の領域活性化に關わる企業・食 プロジェクト・ミニ・生基物に環境の副産分野に關味を持ち、關連するゼミを選択 ソノエレクトロニクス・生物学の視点から、地球資源循環に資する、間のバイオエネルギー問題と環境を研究することを目指すゼミを選択
--------------------------	--

ゼミ等での 修習内容・成果、 学修の振り返り、 感動された興味	遠慮ゼロミ：グループ活動の本質的側面、姿勢	基礎ゼミ：フレキシビリティ フレキシブルデザインⅡなど・生物・農学分 野の学修への関心	基礎ゼミ：ミ：グループで協働して学修内容を まとめる力 フレキシブルデザインⅡなど・生物・農学分 野の学修への関心	リテラシー：ミ：グループ活動モデルをシミュレートする 基礎ゼミ：ミ：基礎的なネットワーク能力	リテラシー：応用：多角的な視点 プロジェクト：ミ：生態系に関連した環境問題に 関する調査を実施し、批判的思考者として に転換するとともに、いろいろな学問分野が 相互関係を理解する	プロジェクト：セミ：自然界の物質循環に関する 人間活動の影響をバリエーションによって異なる 環境において観察し、その結果を比較対照する ことにより影響するものを検討	ソリューション：ポ：生物学的観点から、人間活動が地球全体の物質循環にどのような 影響を与えてきたか、また今後どのように変化するか。それが多様な生き物の存在 にどのような影響を与えるかを検討
--	-----------------------	---	--	---	---	---	--

領域・学修に関連して各自で 設定する例	1年次の学修から	生物学的な基本的考え方の理解 、物理学に関する基礎分野の理解が重要であることへの気づき	リフレクション ブラッシュアップ	生物の体を作っている基本単位である細胞の構造、集まりの素を理解し、それがさまざまな物質から出来ていることを知る。その物質が体全体の中で物質循環の一環であることを理解する。	リフレクション ブラッシュアップ	人間の活動の地球全体へのインパクトや環境問題の深刻化から物質循環の観点から整理して提示するために、生物学の観点に基づいて、地球科学、歴史学などの学科者とともに協働	リフレクションを通じて全体の目標と合わせて、最終的な学修成果の質保証
------------------------	----------	--	---------------------	---	---------------------	---	------------------------------------

卒業後の進路

地域および地域の物質循環に対してよりインパクトの少ない食品生産活動を実現する方向での仕事を担当することを希望

食品メーカー／地方自治体職員

科目履修例 11-2 生物学領域必修科目パッケージ (データサイエンス履修) → 大学院進学

学修内容 分類	小分類	主な担当別 分類	1年次			2年次			3年次			4年次		
			1T	2T	3T	4T	1T	2T	3T	4T	1T	2T	3T	4T
導入・転換 教育科目	導入・転換 教育科目	専任教員 Type 1 ・創生学部教育課程の 理解	導入スキルズ(大学 学芸法)	フィールドスタ ディーズ(学外 学修)	リテラシー基礎 6 ・必修 理解	基礎英語(1単位 必修)	情報処理・デー タ分析		データサイエン ス基礎	2 必修	初修外国語/ノ単位 必修		動物学専攻 生実習 2 動物学専攻 生実習 2 動物学専攻 生実習 2	
			リフレクシオンデザイン 1 ・学部の理念/生 から学生へ 理解	リフレクシオンデザイン 2 ・必修 理解	リフレクシオンデザイン 3 ・必修 理解	アカデミック英語(ライティング)/1単位 必修	アカデミック英語(ライティング)/1単位 必修	アカデミック英語(ライティング)/1単位 必修	アカデミック英語(ライティング)/1単位 必修	アカデミック英語(ライティング)/1単位 必修	アカデミック英語(ライティング)/1単位 必修	アカデミック英語(ライティング)/1単位 必修	アカデミック英語(ライティング)/1単位 必修	アカデミック英語(ライティング)/1単位 必修
基礎科目	基礎科目	データ処 理・分析	数学基礎A	数学基礎B	数学基礎C	数学基礎D	数学基礎E	数学基礎F	数学基礎G	数学基礎H	数学基礎I	数学基礎J	数学基礎K	数学基礎L
			数学基礎A	数学基礎B	数学基礎C	数学基礎D	数学基礎E	数学基礎F	数学基礎G	数学基礎H	数学基礎I	数学基礎J	数学基礎K	数学基礎L
リテラシー コア・ 課題解決 実践科目	リテラシー コア・ 課題解決 実践科目	専任教員 Type 1 ・専任 +兼任	リテラシー コア・ 課題解決 実践科目	リテラシー コア・ 課題解決 実践科目	リテラシー コア・ 課題解決 実践科目	リテラシー コア・ 課題解決 実践科目	リテラシー コア・ 課題解決 実践科目	リテラシー コア・ 課題解決 実践科目	リテラシー コア・ 課題解決 実践科目	リテラシー コア・ 課題解決 実践科目	リテラシー コア・ 課題解決 実践科目	リテラシー コア・ 課題解決 実践科目	リテラシー コア・ 課題解決 実践科目	リテラシー コア・ 課題解決 実践科目
			リテラシー コア・ 課題解決 実践科目	リテラシー コア・ 課題解決 実践科目	リテラシー コア・ 課題解決 実践科目	リテラシー コア・ 課題解決 実践科目	リテラシー コア・ 課題解決 実践科目	リテラシー コア・ 課題解決 実践科目	リテラシー コア・ 課題解決 実践科目	リテラシー コア・ 課題解決 実践科目	リテラシー コア・ 課題解決 実践科目	リテラシー コア・ 課題解決 実践科目	リテラシー コア・ 課題解決 実践科目	リテラシー コア・ 課題解決 実践科目
ゼミ 課題解決 実践	ゼミ 課題解決 実践	専任教員 +α	基礎から 課題解決 実践	基礎から 課題解決 実践	基礎から 課題解決 実践	基礎から 課題解決 実践	基礎から 課題解決 実践	基礎から 課題解決 実践	基礎から 課題解決 実践	基礎から 課題解決 実践	基礎から 課題解決 実践	基礎から 課題解決 実践	基礎から 課題解決 実践	基礎から 課題解決 実践
			基礎から 課題解決 実践	基礎から 課題解決 実践	基礎から 課題解決 実践	基礎から 課題解決 実践	基礎から 課題解決 実践	基礎から 課題解決 実践	基礎から 課題解決 実践	基礎から 課題解決 実践	基礎から 課題解決 実践	基礎から 課題解決 実践	基礎から 課題解決 実践	基礎から 課題解決 実践
領域学修 科目	領域学修 科目	専任教員 +α	基礎から 課題解決 実践	基礎から 課題解決 実践	基礎から 課題解決 実践	基礎から 課題解決 実践	基礎から 課題解決 実践	基礎から 課題解決 実践	基礎から 課題解決 実践	基礎から 課題解決 実践	基礎から 課題解決 実践	基礎から 課題解決 実践	基礎から 課題解決 実践	基礎から 課題解決 実践
			基礎から 課題解決 実践	基礎から 課題解決 実践	基礎から 課題解決 実践	基礎から 課題解決 実践	基礎から 課題解決 実践	基礎から 課題解決 実践	基礎から 課題解決 実践	基礎から 課題解決 実践	基礎から 課題解決 実践	基礎から 課題解決 実践	基礎から 課題解決 実践	基礎から 課題解決 実践
取得単位	取得単位	137	英語・基礎は分配してカ ウント(以下同様)	英語・基礎は分配してカ ウント(以下同様)	英語・基礎は分配してカ ウント(以下同様)	英語・基礎は分配してカ ウント(以下同様)	英語・基礎は分配してカ ウント(以下同様)	英語・基礎は分配してカ ウント(以下同様)	英語・基礎は分配してカ ウント(以下同様)	英語・基礎は分配してカ ウント(以下同様)	英語・基礎は分配してカ ウント(以下同様)	英語・基礎は分配してカ ウント(以下同様)	英語・基礎は分配してカ ウント(以下同様)	英語・基礎は分配してカ ウント(以下同様)
			英語・基礎は分配してカ ウント(以下同様)	英語・基礎は分配してカ ウント(以下同様)	英語・基礎は分配してカ ウント(以下同様)	英語・基礎は分配してカ ウント(以下同様)	英語・基礎は分配してカ ウント(以下同様)	英語・基礎は分配してカ ウント(以下同様)	英語・基礎は分配してカ ウント(以下同様)	英語・基礎は分配してカ ウント(以下同様)	英語・基礎は分配してカ ウント(以下同様)	英語・基礎は分配してカ ウント(以下同様)	英語・基礎は分配してカ ウント(以下同様)	英語・基礎は分配してカ ウント(以下同様)

入試 (入学時の関心)	推薦入試(SSHでの課題探究活動の結果を、多面的に把握したいと希望)
履修内容の選択 (履修時のブロックに記載)	スキル データサイエンス実践を履修(データの扱いや分析に関心) 領域学修: 生物学領域学修(特に、興味のある生命科学の分野に深い理解を希望して)
ゼミ等での 学修内容・成果、 喚起された興味	基礎ゼミ: プレゼンテーションカ リフレクシオンデザインIIなど、生物・化学分 野の学修に関心
領域学修に関連して各自で 設定する 到達目標の例	基礎ゼミ: グループ活動の基本的態度・姿勢 基礎ゼミ: グループ活動の基本的態度・姿勢 基礎ゼミ: グループ活動の基本的態度・姿勢 基礎ゼミ: グループ活動の基本的態度・姿勢
卒業後の 進路	分子細胞生物学分野の研究者を志向 大学院進学

科目履修例 12-2 地質科学領域学修パッケージ (データサイエンス履修) → 大学院進学

学校内部分類	小分類	1年次				2年次				3年次				4年次			
		1T	2T	3T	4T	1T	2T	3T	4T	1T	2T	3T	4T	1T	2T	3T	4T
導入・転換教育科目	導入・転換教育科目 専任教員 Type I	スタディスキルズ(大学学習法) ・学修の基本的スキルを必修	ワールドスターティアーズ(海外留学) ・6単位必修	リサーチ基礎 ・社会にむけて必修と履修の課題理解													
		リフレクショナルデザイン ・学修の理念／生徒から学生へ															
		創生学部入門 ・創生学部教育課程の理解															
導入・転換教育科目	外国語	アカデミック英語(ライティング) / 1単位 必修	基礎英語 / 1単位 必修														
		アカデミック英語(リスニング) / 1単位 必修															
		データ処理・分析 食学共通科目活用	情報処理・データ分析 必修	データサイエンス基礎 2 必修													
リテラシーコア(PBL)	専任教員 Type I	地学基礎A 2 選択	地学基礎B 2 選択	生物学基礎B 2 選択													
		数学基礎A 2 選択	生物学基礎A 2 選択	地学基礎C 2 選択													
スキル習得中心の科目	全学 + 専任																
ゼミ課題解決実践	基礎から課題解決	基礎ゼミⅠ / 2単位、必修(1,2年合同) ・グループ学習で協働 ・課題の整理－把握－分析	基礎ゼミⅡ / 2単位、必修(1,2年合同) ・グループ学習で協働 ・課題の整理－把握－分析	基礎ゼミⅢ / 2単位、必修(1,2年合同) ・グループ学習で協働 ・課題の整理－把握－分析	基礎ゼミⅣ / 2単位、必修(1,2年合同) ・グループ学習で協働 ・課題の整理－把握－分析	プロジェクトゼミⅠ / 2単位、必修 ・グループ学習(文脈構築) ・課題の整理－把握－分析	プロジェクトゼミⅡ / 2単位、必修 ・グループ学習(課題解決の企画)	プロジェクトゼミⅢ / 4単位、必修 ・専任教員の下でグループによる課題解決 ・専任教員の指導による課題解決	ソリューショナリズム / 4単位、必修 ・学修経路(卒業研究相当) ・専任教員の下でグループによる課題解決								
領域学科科目	各主専攻プログラムの学びを履修	リフレクショナルデザイン / 2単位、必修 ・自己探求能力の向上を目指す															
取得単位	合計	133	8	10	12	8	8	11	7	10	3	4					

理系型一般入試(基礎学力を有し、理系全般に興味があり、高等学校で履修しなかったが地球科学・災害に関心)

スギル:データサイエンス実践を選択(データの扱いや分析に関心)
領域:地質科学領域学修(学外学修での地震対策の諸課題に特
別)

リユージョンラボ: 地質科学の視点から地域課題に取り組みむために、地域の事象を地域の規模の地球システムの観点から考えることが出来るようになるために、引き続き同じことを選択

リレーションラボ、新潟県内の中山間地をモデル地域として、その地質を把握するとともに、土地利用と地質災害の変遷との関係を把握するため、歴史学、流域環境学、経済学などの学修者と協働して研究。

プロジェクトゼミ「中山間地における土地利
用形態の変化を、地質科学の観点から分
析し、地域の安全性を確保しながら地域開
発できる計画の策定を目指す」

基礎ゼミ：グループで協働して学修内容をまとめる力	基礎ゼミ：グループ活動をマネジメントする力
--------------------------	-----------------------

ミニ：グループ活動の基本的態度・姿勢	基礎ゼミ：プレゼンテーション力 リフレクションデザインⅡなど、地球物理学・地質学分野分野の学修に圆心
--------------------	---

ゼミ等での
学修内容・成果、
喚起された興味

リフレクションデザインⅣで全体の目標と合わせて、最終的な学修成果の質保証

確かな学問的裏付けに立って、地域課題に建設的に関わっていくことが出来る人材となることを目標に、地質科学に関する知識、手法を修得

リフレッシュ
ブラッシュアップ

- ・地質科学の基本概念の理解と現実課題への適用の方法を修得
- ・広義の環境問題や災害、さらに土地利用に関わる法律的・経済的側面に関する理解の深化

リフレッシュ
ブラッシュアップ

- ・地球物理、地質学の基本的な考え方の理解
- ・地球科学を社会で活用するために、社会の課題と科学一般との関係を理解

1年次の学修から

領域学修に関連して各自で
設定する到達目標の例

大学院進学

立って地域の地盤
会の現場で活躍す

卒業後の進路

145

科目履修例 13-1 自然環境科学領域学修科目パッケージ (S.P.A.C.E.履修) → 国際機関／環境NGO

学校内部分類		1年次			2年次			3年次			4年次							
		1T	2T	3T	4T	1T	2T	3T	4T	1T	2T	3T	4T					
小分類	主な担当別分類	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位			
導入・転換教育科目	専任教員 Type I	スタディスキルズ(大学学習法) ・学部の基本的スキル	2 必修	フィードバック ・社会に役立つ学びの理解	6 必修	リテラシー基礎	2 必修											
		リフレクショナルデザイン ・学部の理念「生徒」から「学生」へ	2 必修															
		創生学部入門 ・創生学部教育課程の理解	1 必修															
導入・転換教育科目	外国語	アカデミック英語(ライティング)/1単位 必修		基礎英語/1単位 必修		アカデミック英語(ライティング)/1単位 必修		初級外国語/2単位 必修										
リテラシーコア・課題解決実践科目	専任教員 Type I	データ処理・分析				情報処理・データベース基礎	2 必修											
		食生活共通科目活用				化学基礎B	2 選択	生物学基礎B	2 選択	共生社会論	2 選択	新島の水質・土壌環境	2 選択					
						数学基礎A	2 選択	生物学基礎A	2 選択									
						地学基礎A	2 選択	化学基礎B	2 選択									
ゼミ課題解決実践	専任教員 +α	基礎ゼミⅠ/2単位、必修(1,2年合同) ・グループ学習で協働 ・課題の整理－把握－分析		基礎ゼミⅡ/2単位、必修(1,2年合同) ・グループ学習で協働 ・課題の整理－把握－分析		基礎ゼミⅢ/2単位、必修(1,2年合同) ・グループ学習で協働 ・課題の整理－把握－分析		基礎ゼミⅣ/2単位、必修(1,2年合同) ・グループ学習で協働 ・課題の整理－把握－分析		プロジェクトゼミⅠ/2単位、必修(2年合同) ・グループ学習で協働 ・課題の整理－把握－分析		プロジェクトゼミⅡ/2単位、必修(2年合同) ・グループ学習で協働 ・課題の整理－把握－分析		ソリューションラボⅠ/4単位、必修 ・専任教員の下でグループによる課題解決実践	ソリューションラボⅡ/4単位、必修 ・学修総括(卒業修習相当) ・専任教員の下でグループによる課題解決実践			
領域学科科目	専門分野の学び	各主専攻プログラムのハイレベルな学びを履修																
取得単位	総計	127	英語：ゼミは分限してカウント(以下同様)	11	8	10	12	SPACEは必修としてカウント(以下同様)	8.5	9.5	9.5	7	9	7	6	5	2	3

入試

履修内容の選択 (履修時のブロックに記載)	スiegel SPACE型取(国内での活動我希望) 解で数学社自然科学修(理)学全般的知識を希望	プロジェクツト・ゼミナールに動物多様性に関する興味を持ち、関与する事を希望	ソニケーション市・フィールドワークを中心に動植物多様性の研究を通して、生き物と人間の共生に関与したい。
--------------------------	---	---------------------------------------	---

ゼミ等での 修習内容、成果、 気づき、感動された興味	意識がミミグループ活動の本質的側面、姿勢 リフレクシブデザインⅡなど、生物学、とり わけ生物分類学と生態学分野の分野に関 心	基礎ゼミグループで協議し、学習内容を まとめる力	基礎ゼミグループ活動モデルをネットする 力	リテラシー応用：多角的な視点 プロジェクトゼミ：分子系統分類学分野に關 した論文を調査して、系統樹作りと分類学の 違いと関連性について関心をもちつつ	リテラシー応用：多角的な視点 プロジェクトゼミ：地域の生物的多様性に關連 した情報的な野外調査計画を策定	ソリニーションラボ：中絶、生物多様性の現状把握と、動物実験を検討するために、環境変 動に関するある学生や地域の実業家・学生主に関わる学生者などとも協働して研究
----------------------------------	---	-----------------------------	--------------------------	---	--	--

領域・必修に関連して各自で設定する到達目標の例

1年次の必修から

・生物学・地質学に関する基本的な考え方の理解
・自然環境の多様性が文化に与える影響の理解

リフレクション

・生物多様性学(進化・系統)関与と生態学の基本概念を整理し、それを授業課題にて利用できる
・生物多様性を非生物的自然環境から説明できる

リフレクション

ブラッシュアップ

ブラッシュアップ

リフレクション・デザイン

・地域の生物多様性を規定している要因を動植物の生理学・生態学観点から論理的に説明できる

リフレクション・デザイン

・リフレクション・デザインで全体の目標に合わせて、最終的な学習成果の責任を

卒業後の進路

フィールドワークの経験や語学力を活かし、いろいろな地域での生物多様性を考える人材として社会に貢献

国際機関／環境NGO

科目履修例 14-2 機械システム工学領域学修科目パッケージ (データサイエンス履修) → 大学院進学

[illegible]

推薦入試(高校での課題探求活動から、製品デザインに関心を持っている)

入試 (入学時の関心)

履修内容の選択
(履修時のブロックに記載)

スキル: データサイエンス実践を選択(データの扱いや分析に関心)
領域学修: 機械システム工学領域学修(地域の独自商品の開発を知
向)

ソリューションラボ、機械工学の視点から、地域の産業活性化のための製品製作に関する研究を志望し、引き続き同じゼミを選択

学修内容・
ゼミ等での

ゼミ：グループ活動の基本的態度・姿勢

基礎ゼミ: プレゼンテーション力

基礎ゼミ：グループで協働して学
まとめる力

リテラシー応用:多角的な
プロジェクトゼミ:製品開発

プロジェクトゼミ：地域の産業活性化のため

ユー・シー・ラボ：地域産業活性化に関連し、機械工学分野の視点から、製品開発、製造、品質管理、経営学など分野の異なる他者と協働し、研究を遂行

領域学修に関連して各自で
設定する

1年次の学修から

- ・ものづくりの基本的な考え方の理解
- ・製品開発における機械システム工学の役割

リフレクシオン

- ・加工学の基本概念の理解と機械設計ができる
- ・機械製品のメカニカルな機能性と商品価値

リフレクシブ

地域産業活性化のために、機能性の高い製品開発とその商品化について、経営学な

↑リフレクションデザインⅣで全体の目標と合わせて、最終的な学修成果の質保証

卒業後の進路

大学院進学

科目履修例 15-1 社会基盤工学領域学修パッケージ(S.P.A.C.E.履修)→大学院進学

学修内容 分類	小分類	主な担当別 分類	1年次			2年次			3年次			4年次		
			1T	2T	3T	4T	1T	2T	3T	4T	1T	2T	3T	4T
導入・転換 教育科目	導入・転換 教育科目	専任教員 Type 1 ・学生学修教育課程の 理解	スカデスキルズ(大学 学憲法) ・学修の基本的スキル 学修	フィールドスタ ディーズ(学外 学修)	リテラシー基礎 6 ・基礎的な読解力 の理解	基礎英語Ⅰ/単位 必修	情報処理Ⅰ・デー タ分析	リテラシー応用 A1 ・基礎的な読解力 の理解	基礎数学ⅠA2 2 ・基礎的な読解力 の理解	初級外国語Ⅱ/単位 必修				
			リフレクシオンデザインⅠ ・学修の理念/生成 から学生へ			アカデミック英語(ライティング)/単位 必修	基礎数学ⅠA2 2 ・基礎的な読解力 の理解	リテラシー応用 B1 ・基礎的な読解力 の理解	基礎数学ⅠA2 2 ・基礎的な読解力 の理解					
導入・転換 教育科目	導入・転換 教育科目	専任教員 Type 1 ・学生学修教育課程の 理解	アカデミック英語(ライティング)/単位 必修	アカデミック英語(ライティング)/単位 必修	アカデミック英語(ライティング)/単位 必修	アカデミック英語(ライティング)/単位 必修	基礎数学ⅠA2 2 ・基礎的な読解力 の理解	リテラシー応用 B1 ・基礎的な読解力 の理解	基礎数学ⅠA2 2 ・基礎的な読解力 の理解					
			アカデミック英語(ライティング)/単位 必修	アカデミック英語(ライティング)/単位 必修	アカデミック英語(ライティング)/単位 必修	アカデミック英語(ライティング)/単位 必修	基礎数学ⅠA2 2 ・基礎的な読解力 の理解	リテラシー応用 B1 ・基礎的な読解力 の理解	基礎数学ⅠA2 2 ・基礎的な読解力 の理解					
リテラシー コア 課題解決 実践科目	リテラシー コア 課題解決 実践科目	専任教員 Type 1 ・学生学修教育課程の 理解	アカデミック英語(ライティング)/単位 必修	アカデミック英語(ライティング)/単位 必修	アカデミック英語(ライティング)/単位 必修	アカデミック英語(ライティング)/単位 必修	基礎数学ⅠA2 2 ・基礎的な読解力 の理解	リテラシー応用 B1 ・基礎的な読解力 の理解	基礎数学ⅠA2 2 ・基礎的な読解力 の理解					
			アカデミック英語(ライティング)/単位 必修	アカデミック英語(ライティング)/単位 必修	アカデミック英語(ライティング)/単位 必修	アカデミック英語(ライティング)/単位 必修	基礎数学ⅠA2 2 ・基礎的な読解力 の理解	リテラシー応用 B1 ・基礎的な読解力 の理解	基礎数学ⅠA2 2 ・基礎的な読解力 の理解					
スキル習得 中心の科目	スキル習得 中心の科目	専任教員 Type 1 ・学生学修教育課程の 理解	アカデミック英語(ライティング)/単位 必修	アカデミック英語(ライティング)/単位 必修	アカデミック英語(ライティング)/単位 必修	アカデミック英語(ライティング)/単位 必修	基礎数学ⅠA2 2 ・基礎的な読解力 の理解	リテラシー応用 B1 ・基礎的な読解力 の理解	基礎数学ⅠA2 2 ・基礎的な読解力 の理解					
			アカデミック英語(ライティング)/単位 必修	アカデミック英語(ライティング)/単位 必修	アカデミック英語(ライティング)/単位 必修	アカデミック英語(ライティング)/単位 必修	基礎数学ⅠA2 2 ・基礎的な読解力 の理解	リテラシー応用 B1 ・基礎的な読解力 の理解	基礎数学ⅠA2 2 ・基礎的な読解力 の理解					
ゼミ 課題解決 実践科目	ゼミ 課題解決 実践科目	専任教員 Type 1 ・学生学修教育課程の 理解	アカデミック英語(ライティング)/単位 必修	アカデミック英語(ライティング)/単位 必修	アカデミック英語(ライティング)/単位 必修	アカデミック英語(ライティング)/単位 必修	基礎数学ⅠA2 2 ・基礎的な読解力 の理解	リテラシー応用 B1 ・基礎的な読解力 の理解	基礎数学ⅠA2 2 ・基礎的な読解力 の理解					
			アカデミック英語(ライティング)/単位 必修	アカデミック英語(ライティング)/単位 必修	アカデミック英語(ライティング)/単位 必修	アカデミック英語(ライティング)/単位 必修	基礎数学ⅠA2 2 ・基礎的な読解力 の理解	リテラシー応用 B1 ・基礎的な読解力 の理解	基礎数学ⅠA2 2 ・基礎的な読解力 の理解					
領域学修 科目	領域学修 科目	専任教員 Type 1 ・学生学修教育課程の 理解	アカデミック英語(ライティング)/単位 必修	アカデミック英語(ライティング)/単位 必修	アカデミック英語(ライティング)/単位 必修	アカデミック英語(ライティング)/単位 必修	基礎数学ⅠA2 2 ・基礎的な読解力 の理解	リテラシー応用 B1 ・基礎的な読解力 の理解	基礎数学ⅠA2 2 ・基礎的な読解力 の理解					
			アカデミック英語(ライティング)/単位 必修	アカデミック英語(ライティング)/単位 必修	アカデミック英語(ライティング)/単位 必修	アカデミック英語(ライティング)/単位 必修	基礎数学ⅠA2 2 ・基礎的な読解力 の理解	リテラシー応用 B1 ・基礎的な読解力 の理解	基礎数学ⅠA2 2 ・基礎的な読解力 の理解					
取得単位	取得単位	専任教員 Type 1 ・学生学修教育課程の 理解	アカデミック英語(ライティング)/単位 必修	アカデミック英語(ライティング)/単位 必修	アカデミック英語(ライティング)/単位 必修	アカデミック英語(ライティング)/単位 必修	基礎数学ⅠA2 2 ・基礎的な読解力 の理解	リテラシー応用 B1 ・基礎的な読解力 の理解	基礎数学ⅠA2 2 ・基礎的な読解力 の理解					
			アカデミック英語(ライティング)/単位 必修	アカデミック英語(ライティング)/単位 必修	アカデミック英語(ライティング)/単位 必修	アカデミック英語(ライティング)/単位 必修	基礎数学ⅠA2 2 ・基礎的な読解力 の理解	リテラシー応用 B1 ・基礎的な読解力 の理解	基礎数学ⅠA2 2 ・基礎的な読解力 の理解					

入試 (入学時の関心)	入試 (入学時の関心)	理系型一般入試(基礎学力があり、人々の生活に興味がある)	1年次			2年次			3年次			4年次		
			基礎英語Ⅰ/単位 必修	基礎英語Ⅰ/単位 必修	基礎英語Ⅰ/単位 必修	基礎英語Ⅰ/単位 必修	基礎英語Ⅰ/単位 必修	基礎英語Ⅰ/単位 必修	基礎英語Ⅰ/単位 必修	基礎英語Ⅰ/単位 必修	基礎英語Ⅰ/単位 必修	基礎英語Ⅰ/単位 必修	基礎英語Ⅰ/単位 必修	基礎英語Ⅰ/単位 必修
履修内容の選択 (履修時のブロックに記載)	履修内容の選択 (履修時のブロックに記載)	履修内容の選択 (履修時のブロックに記載)	1年次			2年次			3年次			4年次		
			基礎英語Ⅰ/単位 必修	基礎英語Ⅰ/単位 必修	基礎英語Ⅰ/単位 必修	基礎英語Ⅰ/単位 必修	基礎英語Ⅰ/単位 必修	基礎英語Ⅰ/単位 必修	基礎英語Ⅰ/単位 必修	基礎英語Ⅰ/単位 必修	基礎英語Ⅰ/単位 必修	基礎英語Ⅰ/単位 必修	基礎英語Ⅰ/単位 必修	基礎英語Ⅰ/単位 必修
ゼミ等での 学修内容・成果 喚起された興味	ゼミ等での 学修内容・成果 喚起された興味	ゼミ等での 学修内容・成果 喚起された興味	1年次			2年次			3年次			4年次		
			基礎英語Ⅰ/単位 必修	基礎英語Ⅰ/単位 必修	基礎英語Ⅰ/単位 必修	基礎英語Ⅰ/単位 必修	基礎英語Ⅰ/単位 必修	基礎英語Ⅰ/単位 必修	基礎英語Ⅰ/単位 必修	基礎英語Ⅰ/単位 必修	基礎英語Ⅰ/単位 必修	基礎英語Ⅰ/単位 必修	基礎英語Ⅰ/単位 必修	基礎英語Ⅰ/単位 必修
領域学修に関連して各自で 設定する 到達目標の例	領域学修に関連して各自で 設定する 到達目標の例	領域学修に関連して各自で 設定する 到達目標の例	1年次			2年次			3年次			4年次		
			基礎英語Ⅰ/単位 必修	基礎英語Ⅰ/単位 必修	基礎英語Ⅰ/単位 必修	基礎英語Ⅰ/単位 必修	基礎英語Ⅰ/単位 必修	基礎英語Ⅰ/単位 必修	基礎英語Ⅰ/単位 必修	基礎英語Ⅰ/単位 必修	基礎英語Ⅰ/単位 必修	基礎英語Ⅰ/単位 必修	基礎英語Ⅰ/単位 必修	基礎英語Ⅰ/単位 必修

科目履修例 15-2 社会基盤工学領域学修パッケージ（データサイエンス履修）→地方・国家公務員

[illegible]

推薦入試(高校での課題探究活動から、地域の問題に関心が強い)

入試
(入学時の関心)

スキル: データサイエンス実践(データの扱いや分析に関心)

い、関連するゼミを選択

ソリューションラボ：土木インフラ整備の視点から、地域活性化の研究を志望し、引き続き同じゼミを選択

ミ:グループ活動の基本的態度・姿勢

基礎ゼミ:プレゼンテーション力

基礎ゼミ：グループで協働して学修内容を
まとめめる力

リデラシー応用:多角的な視点

プロジェクトゼミ：地方における社会インフラ整備に関連した研究計画を策定

ソリューションラボ、新潟の特性を考慮した土ホインフラ整備に関連し、土木工学分野の現点から、地域活性化を提案し、経済、農学分野の異なる他者と協議し、研究を推進

領域学修に関連して各自で
設定する

1年次の学修から

- ・社会基盤工学の基本的な考え方について
- ・社会基盤工学と地域社会の課題との関係

リフレクション
フレンジアップ

- ・土木インフラと地域の特性との関連を理解し、問題点を分析できる

プラットフォーム
リフレクション

- ・地域の特性に合った土木インフラ整備を
提言できる
- ・経済学分野などの学習者と協働して地域

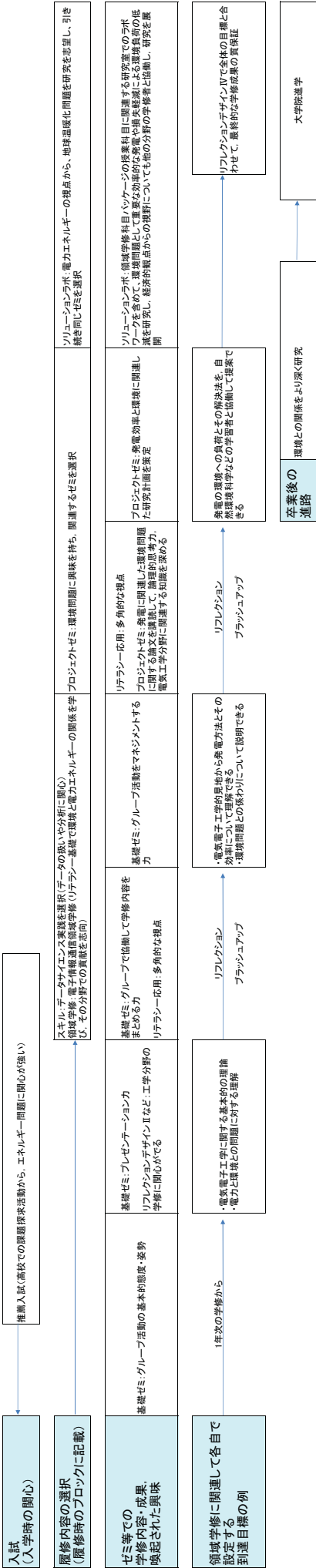
リフレクションデザインⅣで全体の目標と合わせて、最終的な学修成果の質保証

卒業後の 進路	社会基盤となるインフラ整備の観点から地域貢献を志向
------------	---------------------------

地方・国家公務員

科目履修例 16-2 電子情報通信領域学修科目パッケージ (データサイエンス履修) →大学院進学

学修内容 分類	小分類	主な担当別 分類	1年次			2年次			3年次			4年次		
			1T	2T	3T	4T	1T	2T	3T	4T	1T	2T	3T	4T
導入・転換 教育科目	導入・転換 教育科目	専任教員 Type 1 ・学修の理念/生後、必修 から学生へ ・創生学修入門 理解	スタディスキルズ(大学 学修法)	フィールドスタ ディーズ(学外 学修)	リテラシー基礎 6、必修 理解	基礎英語/1単位 必修	アカデミック英語(ライティング)/1単位 必修		情報通信・データ分析		基礎数理A1 2 選択	基礎数理B1 2 選択	基礎数理C1 2 選択	基礎数理D1 2 選択
			リフレクシオンデザイン1 ・学修の理念/生後、必修 から学生へ	リフレクシオンデザイン2 ・学修の理念/生後、必修 から学生へ	リフレクシオンデザイン3 ・学修の理念/生後、必修 から学生へ	基礎英語/1単位 必修	アカデミック英語(ライティング)/1単位 必修	情報通信・データ分析	基礎数理A2 2 選択	基礎数理B2 2 選択	基礎数理C2 2 選択	基礎数理D2 2 選択	基礎数理E2 2 選択	基礎数理F2 2 選択
基礎科目	基礎科目	専任教員 Type 1 ・学修の理念/生後、必修 から学生へ	アカデミック英語(ライティング)/1単位 必修	アカデミック英語(ライティング)/1単位 必修	アカデミック英語(ライティング)/1単位 必修	基礎英語/1単位 必修	アカデミック英語(ライティング)/1単位 必修	情報通信・データ分析	基礎数理A2 2 選択	基礎数理B2 2 選択	基礎数理C2 2 選択	基礎数理D2 2 選択	基礎数理E2 2 選択	基礎数理F2 2 選択
			アカデミック英語(ライティング)/1単位 必修	アカデミック英語(ライティング)/1単位 必修	アカデミック英語(ライティング)/1単位 必修	基礎英語/1単位 必修	アカデミック英語(ライティング)/1単位 必修	情報通信・データ分析	基礎数理A2 2 選択	基礎数理B2 2 選択	基礎数理C2 2 選択	基礎数理D2 2 選択	基礎数理E2 2 選択	基礎数理F2 2 選択
リテラシー コア科目 実践科目	リテラシー コア科目 実践科目	専任教員 Type 1 ・学修の理念/生後、必修 から学生へ	アカデミック英語(ライティング)/1単位 必修	アカデミック英語(ライティング)/1単位 必修	アカデミック英語(ライティング)/1単位 必修	基礎英語/1単位 必修	アカデミック英語(ライティング)/1単位 必修	情報通信・データ分析	基礎数理A2 2 選択	基礎数理B2 2 選択	基礎数理C2 2 選択	基礎数理D2 2 選択	基礎数理E2 2 選択	基礎数理F2 2 選択
			アカデミック英語(ライティング)/1単位 必修	アカデミック英語(ライティング)/1単位 必修	アカデミック英語(ライティング)/1単位 必修	基礎英語/1単位 必修	アカデミック英語(ライティング)/1単位 必修	情報通信・データ分析	基礎数理A2 2 選択	基礎数理B2 2 選択	基礎数理C2 2 選択	基礎数理D2 2 選択	基礎数理E2 2 選択	基礎数理F2 2 選択
スキル習得 中心の科目	スキル習得 中心の科目	専任教員 Type 1 ・学修の理念/生後、必修 から学生へ	アカデミック英語(ライティング)/1単位 必修	アカデミック英語(ライティング)/1単位 必修	アカデミック英語(ライティング)/1単位 必修	基礎英語/1単位 必修	アカデミック英語(ライティング)/1単位 必修	情報通信・データ分析	基礎数理A2 2 選択	基礎数理B2 2 選択	基礎数理C2 2 選択	基礎数理D2 2 選択	基礎数理E2 2 選択	基礎数理F2 2 選択
			アカデミック英語(ライティング)/1単位 必修	アカデミック英語(ライティング)/1単位 必修	アカデミック英語(ライティング)/1単位 必修	基礎英語/1単位 必修	アカデミック英語(ライティング)/1単位 必修	情報通信・データ分析	基礎数理A2 2 選択	基礎数理B2 2 選択	基礎数理C2 2 選択	基礎数理D2 2 選択	基礎数理E2 2 選択	基礎数理F2 2 選択
ゼミ 課題解決 実践	ゼミ 課題解決 実践	専任教員 Type 1 ・学修の理念/生後、必修 から学生へ	アカデミック英語(ライティング)/1単位 必修	アカデミック英語(ライティング)/1単位 必修	アカデミック英語(ライティング)/1単位 必修	基礎英語/1単位 必修	アカデミック英語(ライティング)/1単位 必修	情報通信・データ分析	基礎数理A2 2 選択	基礎数理B2 2 選択	基礎数理C2 2 選択	基礎数理D2 2 選択	基礎数理E2 2 選択	基礎数理F2 2 選択
			アカデミック英語(ライティング)/1単位 必修	アカデミック英語(ライティング)/1単位 必修	アカデミック英語(ライティング)/1単位 必修	基礎英語/1単位 必修	アカデミック英語(ライティング)/1単位 必修	情報通信・データ分析	基礎数理A2 2 選択	基礎数理B2 2 選択	基礎数理C2 2 選択	基礎数理D2 2 選択	基礎数理E2 2 選択	基礎数理F2 2 選択
領域学修 科目	領域学修 科目	専任教員 Type 1 ・学修の理念/生後、必修 から学生へ	アカデミック英語(ライティング)/1単位 必修	アカデミック英語(ライティング)/1単位 必修	アカデミック英語(ライティング)/1単位 必修	基礎英語/1単位 必修	アカデミック英語(ライティング)/1単位 必修	情報通信・データ分析	基礎数理A2 2 選択	基礎数理B2 2 選択	基礎数理C2 2 選択	基礎数理D2 2 選択	基礎数理E2 2 選択	基礎数理F2 2 選択
			アカデミック英語(ライティング)/1単位 必修	アカデミック英語(ライティング)/1単位 必修	アカデミック英語(ライティング)/1単位 必修	基礎英語/1単位 必修	アカデミック英語(ライティング)/1単位 必修	情報通信・データ分析	基礎数理A2 2 選択	基礎数理B2 2 選択	基礎数理C2 2 選択	基礎数理D2 2 選択	基礎数理E2 2 選択	基礎数理F2 2 選択
取得単位	取得単位	専任教員 Type 1 ・学修の理念/生後、必修 から学生へ	アカデミック英語(ライティング)/1単位 必修	アカデミック英語(ライティング)/1単位 必修	アカデミック英語(ライティング)/1単位 必修	基礎英語/1単位 必修	アカデミック英語(ライティング)/1単位 必修	情報通信・データ分析	基礎数理A2 2 選択	基礎数理B2 2 選択	基礎数理C2 2 選択	基礎数理D2 2 選択	基礎数理E2 2 選択	基礎数理F2 2 選択
			アカデミック英語(ライティング)/1単位 必修	アカデミック英語(ライティング)/1単位 必修	アカデミック英語(ライティング)/1単位 必修	基礎英語/1単位 必修	アカデミック英語(ライティング)/1単位 必修	情報通信・データ分析	基礎数理A2 2 選択	基礎数理B2 2 選択	基礎数理C2 2 選択	基礎数理D2 2 選択	基礎数理E2 2 選択	基礎数理F2 2 選択



科目履修例 18-1 化学システム工学領域学修科目パッケージ (SPACE履修) →大学院進学

学修内容 分類	主な担当別 分類	1年次			2年次			3年次			4年次		
		1T	2T	3T	4T	1T	2T	3T	4T	1T	2T	3T	4T
導入・転換 教育科目	導入・転換 教育科目	導入・転換 教育科目 Type 1	導入・転換 教育科目 Type 2	導入・転換 教育科目 Type 3	導入・転換 教育科目 Type 4	導入・転換 教育科目 Type 5	導入・転換 教育科目 Type 6	導入・転換 教育科目 Type 7	導入・転換 教育科目 Type 8	導入・転換 教育科目 Type 9	導入・転換 教育科目 Type 10	導入・転換 教育科目 Type 11	導入・転換 教育科目 Type 12
	導入・転換 教育科目	導入・転換 教育科目 Type 1	導入・転換 教育科目 Type 2	導入・転換 教育科目 Type 3	導入・転換 教育科目 Type 4	導入・転換 教育科目 Type 5	導入・転換 教育科目 Type 6	導入・転換 教育科目 Type 7	導入・転換 教育科目 Type 8	導入・転換 教育科目 Type 9	導入・転換 教育科目 Type 10	導入・転換 教育科目 Type 11	導入・転換 教育科目 Type 12
基礎科目	基礎科目	基礎科目 Type 1	基礎科目 Type 2	基礎科目 Type 3	基礎科目 Type 4	基礎科目 Type 5	基礎科目 Type 6	基礎科目 Type 7	基礎科目 Type 8	基礎科目 Type 9	基礎科目 Type 10	基礎科目 Type 11	基礎科目 Type 12
	基礎科目	基礎科目 Type 1	基礎科目 Type 2	基礎科目 Type 3	基礎科目 Type 4	基礎科目 Type 5	基礎科目 Type 6	基礎科目 Type 7	基礎科目 Type 8	基礎科目 Type 9	基礎科目 Type 10	基礎科目 Type 11	基礎科目 Type 12
リテラシー コア科目 実践科目	リテラシー コア科目 実践科目	リテラシー コア科目 実践科目 Type 1	リテラシー コア科目 実践科目 Type 2	リテラシー コア科目 実践科目 Type 3	リテラシー コア科目 実践科目 Type 4	リテラシー コア科目 実践科目 Type 5	リテラシー コア科目 実践科目 Type 6	リテラシー コア科目 実践科目 Type 7	リテラシー コア科目 実践科目 Type 8	リテラシー コア科目 実践科目 Type 9	リテラシー コア科目 実践科目 Type 10	リテラシー コア科目 実践科目 Type 11	リテラシー コア科目 実践科目 Type 12
	リテラシー コア科目 実践科目	リテラシー コア科目 実践科目 Type 1	リテラシー コア科目 実践科目 Type 2	リテラシー コア科目 実践科目 Type 3	リテラシー コア科目 実践科目 Type 4	リテラシー コア科目 実践科目 Type 5	リテラシー コア科目 実践科目 Type 6	リテラシー コア科目 実践科目 Type 7	リテラシー コア科目 実践科目 Type 8	リテラシー コア科目 実践科目 Type 9	リテラシー コア科目 実践科目 Type 10	リテラシー コア科目 実践科目 Type 11	リテラシー コア科目 実践科目 Type 12
スキル習得 中心の科目	スキル習得 中心の科目	スキル習得 中心の科目 Type 1	スキル習得 中心の科目 Type 2	スキル習得 中心の科目 Type 3	スキル習得 中心の科目 Type 4	スキル習得 中心の科目 Type 5	スキル習得 中心の科目 Type 6	スキル習得 中心の科目 Type 7	スキル習得 中心の科目 Type 8	スキル習得 中心の科目 Type 9	スキル習得 中心の科目 Type 10	スキル習得 中心の科目 Type 11	スキル習得 中心の科目 Type 12
	スキル習得 中心の科目	スキル習得 中心の科目 Type 1	スキル習得 中心の科目 Type 2	スキル習得 中心の科目 Type 3	スキル習得 中心の科目 Type 4	スキル習得 中心の科目 Type 5	スキル習得 中心の科目 Type 6	スキル習得 中心の科目 Type 7	スキル習得 中心の科目 Type 8	スキル習得 中心の科目 Type 9	スキル習得 中心の科目 Type 10	スキル習得 中心の科目 Type 11	スキル習得 中心の科目 Type 12
ゼミ 課題解決 実践	ゼミ 課題解決 実践	ゼミ 課題解決 実践 Type 1	ゼミ 課題解決 実践 Type 2	ゼミ 課題解決 実践 Type 3	ゼミ 課題解決 実践 Type 4	ゼミ 課題解決 実践 Type 5	ゼミ 課題解決 実践 Type 6	ゼミ 課題解決 実践 Type 7	ゼミ 課題解決 実践 Type 8	ゼミ 課題解決 実践 Type 9	ゼミ 課題解決 実践 Type 10	ゼミ 課題解決 実践 Type 11	ゼミ 課題解決 実践 Type 12
	ゼミ 課題解決 実践	ゼミ 課題解決 実践 Type 1	ゼミ 課題解決 実践 Type 2	ゼミ 課題解決 実践 Type 3	ゼミ 課題解決 実践 Type 4	ゼミ 課題解決 実践 Type 5	ゼミ 課題解決 実践 Type 6	ゼミ 課題解決 実践 Type 7	ゼミ 課題解決 実践 Type 8	ゼミ 課題解決 実践 Type 9	ゼミ 課題解決 実践 Type 10	ゼミ 課題解決 実践 Type 11	ゼミ 課題解決 実践 Type 12
領域学修 科目	領域学修 科目	領域学修 科目 Type 1	領域学修 科目 Type 2	領域学修 科目 Type 3	領域学修 科目 Type 4	領域学修 科目 Type 5	領域学修 科目 Type 6	領域学修 科目 Type 7	領域学修 科目 Type 8	領域学修 科目 Type 9	領域学修 科目 Type 10	領域学修 科目 Type 11	領域学修 科目 Type 12
	領域学修 科目	領域学修 科目 Type 1	領域学修 科目 Type 2	領域学修 科目 Type 3	領域学修 科目 Type 4	領域学修 科目 Type 5	領域学修 科目 Type 6	領域学修 科目 Type 7	領域学修 科目 Type 8	領域学修 科目 Type 9	領域学修 科目 Type 10	領域学修 科目 Type 11	領域学修 科目 Type 12
取得単位	取得単位	取得単位 Type 1	取得単位 Type 2	取得単位 Type 3	取得単位 Type 4	取得単位 Type 5	取得単位 Type 6	取得単位 Type 7	取得単位 Type 8	取得単位 Type 9	取得単位 Type 10	取得単位 Type 11	取得単位 Type 12
	取得単位	取得単位 Type 1	取得単位 Type 2	取得単位 Type 3	取得単位 Type 4	取得単位 Type 5	取得単位 Type 6	取得単位 Type 7	取得単位 Type 8	取得単位 Type 9	取得単位 Type 10	取得単位 Type 11	取得単位 Type 12

入試 (入学時の関心)	推薦入試(SSH)での課題探究活動から、科学実験の様々な活用に興味がある	
履修内容の選択 (履修時のブロックに記載)	スキル SPACE を選択(国内外での活動を希望) 領域学修: 化学システム領域学修(ゼミなどの領域の中から、科学の中でも興味の高かった化学の分野で課題解決のできる研究者を志向)	プロジェクトゼミ: エネルギー問題に興味を特ら、関連するゼミを選択
ゼミ等での 学修内容・成果、 喚起された興味	基礎ゼミ: プレゼンテーション力 リフレクション: サイクル II など、化学の分野の学修に関心	プロジェクトゼミ: バイオ燃料の活用によるエネルギー問題への寄与に関する研究計画を策定 リフレクション: バイオ燃料の活用によるエネルギー問題に関する知識の獲得
領域学修に関連して各自で 設定する 到達目標の例	1年次の学修から ・化学工学の基礎的な知識の理解 ・化学工学分野における反応系に関する知識の習得	リフレクション ・バイオエネルギーの知識、技術を修得する ・バイオエネルギーの活用方法について、他分野からの観点も含めて、徹底的に説明できる
		リフレクション: バイオエネルギーの活用方法について、他分野からの観点も含めて、徹底的に説明できる
		本業後の 進路 ・バイオエネルギーの活用について、より深く研究し、専門性を高めることを志向
		大学院進学

科目履修例 20-1 建築学領域学修科目パッケージ (S.P.A.C.E.履修) → 大学院進学

[illegible]

入試

履修内容の選択
(履修時のブロックに記載)

スミル・SPACEを選択(国内外での活動を希望)
領域学修:建築学領域学修(住居自体から、生活環境改善にアプローチすることを志向)

ソリューションラボ、建築学の視点から、地域環境にあった人の生活改善を希望し、引き続き同じセミを選択

ゼミ等での
学修内容・成果、
基礎ゼミ：グループ活動の基本的態度・姿勢、

基礎ゼミ: プレゼンテーション力
リフレクションデザインⅡなど: 建築分野の

基礎ゼミ：グループ活動をマネジメントする

プロジェクトゼミ：環境にあった建築と人の生活に関連した研究計画を策定

領域学修に関連して各自で

建築学の基礎的な概念と構造設計上重要な理論を理解する。

環境、人の動き(生活)も考慮に入れた建築物が提案でき、設計できる。

雪などの地域独特の環境ならびに地域の生活風習などに合わせた建築を提案でき、設計できる。

卒業後の
進路

大学院進学

科目履修例 20-2 建築学領域修科目パッケージ(データサイエンス履修)→地方公務員

学修内容 分類	小分類	主な担当 分類	1年次			2年次			3年次			4年次					
			1T	2T	3T	4T	1T	2T	3T	4T	1T	2T	3T	4T			
導入・転換 教育科目	導入・転換 教育科目	専任教員 Type1 ・学部の理念・1年生 から学ぶへ ・創生学修教育課程の 理解	スタディスキルズ(化学 学習法) ・学修の基本スキル 必修	フィードバック ・社会における 理解	リテラシー基礎 ・社会における 理解	2 必修	2 必修	2 必修	2 必修	2 必修	2 必修	2 必修	2 必修				
			リフレクションデザイン1 ・学部の理念・1年生 から学ぶへ	2 必修	2 必修	2 必修	2 必修	2 必修	2 必修	2 必修	2 必修	2 必修	2 必修	2 必修			
			創生学修入門 ・創生学修教育課程の 理解	1 必修	1 必修	1 必修	1 必修	1 必修	1 必修	1 必修	1 必修	1 必修	1 必修	1 必修			
導入・転換 教育科目	導入・転換 教育科目	アカデミック英語(リーディング)/1単位 必修 アカデミック英語(リスニング)/1単位 必修	基礎英語/1単位 必修			アカデミック英語(リーディング)/1単位 必修			アカデミック英語(リスニング)/1単位 必修			アカデミック英語(リーディング)/1単位 必修					
			アカデミック英語(リーディング)/1単位 必修			アカデミック英語(リスニング)/1単位 必修			アカデミック英語(リーディング)/1単位 必修			アカデミック英語(リスニング)/1単位 必修					
			アカデミック英語(リーディング)/1単位 必修			アカデミック英語(リスニング)/1単位 必修			アカデミック英語(リーディング)/1単位 必修			アカデミック英語(リスニング)/1単位 必修					
基礎科目	基礎科目	データ処 理・分析 ・全学共通 科目活用	基礎数理A1 2 選択	基礎数理B1 2 選択	基礎数理C1 2 選択	基礎数理A2 2 選択	基礎数理B2 2 選択	基礎数理C2 2 選択	基礎数理A3 2 選択	基礎数理B3 2 選択	基礎数理C3 2 選択	基礎数理A4 2 選択	基礎数理B4 2 選択	基礎数理C4 2 選択			
			基礎数理A1 2 選択	基礎数理B1 2 選択	基礎数理C1 2 選択	基礎数理A2 2 選択	基礎数理B2 2 選択	基礎数理C2 2 選択	基礎数理A3 2 選択	基礎数理B3 2 選択	基礎数理C3 2 選択	基礎数理A4 2 選択	基礎数理B4 2 選択	基礎数理C4 2 選択			
			基礎数理A1 2 選択	基礎数理B1 2 選択	基礎数理C1 2 選択	基礎数理A2 2 選択	基礎数理B2 2 選択	基礎数理C2 2 選択	基礎数理A3 2 選択	基礎数理B3 2 選択	基礎数理C3 2 選択	基礎数理A4 2 選択	基礎数理B4 2 選択	基礎数理C4 2 選択			
リテラシー コア ・課題解決 実践科目	リテラシー コア ・課題解決 実践科目	専任教員 Type1 (FBL)	リテラシー応用 C 2 必修	リテラシー応用 B 2 必修	リテラシー応用 A 2 必修	リテラシー応用 D 2 必修	リテラシー応用 E 2 必修	リテラシー応用 F 2 必修	リテラシー応用 G 2 必修	リテラシー応用 H 2 必修	リテラシー応用 I 2 必修	リテラシー応用 J 2 必修	リテラシー応用 K 2 必修	リテラシー応用 L 2 必修			
			リテラシー応用 C 2 必修	リテラシー応用 B 2 必修	リテラシー応用 A 2 必修	リテラシー応用 D 2 必修	リテラシー応用 E 2 必修	リテラシー応用 F 2 必修	リテラシー応用 G 2 必修	リテラシー応用 H 2 必修	リテラシー応用 I 2 必修	リテラシー応用 J 2 必修	リテラシー応用 K 2 必修	リテラシー応用 L 2 必修	リテラシー応用 M 2 必修		
			リテラシー応用 C 2 必修	リテラシー応用 B 2 必修	リテラシー応用 A 2 必修	リテラシー応用 D 2 必修	リテラシー応用 E 2 必修	リテラシー応用 F 2 必修	リテラシー応用 G 2 必修	リテラシー応用 H 2 必修	リテラシー応用 I 2 必修	リテラシー応用 J 2 必修	リテラシー応用 K 2 必修	リテラシー応用 L 2 必修	リテラシー応用 M 2 必修		
スキル習得 中心の科目	スキル習得 中心の科目	全学 + 専任	リテラシー応用 C 2 必修	リテラシー応用 B 2 必修	リテラシー応用 A 2 必修	リテラシー応用 D 2 必修	リテラシー応用 E 2 必修	リテラシー応用 F 2 必修	リテラシー応用 G 2 必修	リテラシー応用 H 2 必修	リテラシー応用 I 2 必修	リテラシー応用 J 2 必修	リテラシー応用 K 2 必修	リテラシー応用 L 2 必修			
			リテラシー応用 C 2 必修	リテラシー応用 B 2 必修	リテラシー応用 A 2 必修	リテラシー応用 D 2 必修	リテラシー応用 E 2 必修	リテラシー応用 F 2 必修	リテラシー応用 G 2 必修	リテラシー応用 H 2 必修	リテラシー応用 I 2 必修	リテラシー応用 J 2 必修	リテラシー応用 K 2 必修	リテラシー応用 L 2 必修	リテラシー応用 M 2 必修		
			リテラシー応用 C 2 必修	リテラシー応用 B 2 必修	リテラシー応用 A 2 必修	リテラシー応用 D 2 必修	リテラシー応用 E 2 必修	リテラシー応用 F 2 必修	リテラシー応用 G 2 必修	リテラシー応用 H 2 必修	リテラシー応用 I 2 必修	リテラシー応用 J 2 必修	リテラシー応用 K 2 必修	リテラシー応用 L 2 必修	リテラシー応用 M 2 必修		
ゼミ ・課題解決 実践	ゼミ ・課題解決 実践	専任教員 + α	基礎ゼミⅠ/2単位 必修(1,2年合同) ・グループ学習で協働 ・課題の整理・把握・分析	基礎ゼミⅡ/2単位 必修(1,2年合同) ・グループ学習で協働 ・課題の整理・把握・分析	基礎ゼミⅢ/2単位 必修(1,2年合同) ・グループ学習で協働 ・課題の整理・把握・分析	基礎ゼミⅣ/2単位 必修(1,2年合同) ・グループ学習で協働 ・課題の整理・把握・分析	基礎ゼミⅤ/2単位 必修(1,2年合同) ・グループ学習で協働 ・課題の整理・把握・分析	基礎ゼミⅥ/2単位 必修(1,2年合同) ・グループ学習で協働 ・課題の整理・把握・分析	基礎ゼミⅦ/2単位 必修(1,2年合同) ・グループ学習で協働 ・課題の整理・把握・分析	基礎ゼミⅧ/2単位 必修(1,2年合同) ・グループ学習で協働 ・課題の整理・把握・分析	基礎ゼミⅨ/2単位 必修(1,2年合同) ・グループ学習で協働 ・課題の整理・把握・分析	基礎ゼミⅩ/2単位 必修(1,2年合同) ・グループ学習で協働 ・課題の整理・把握・分析	基礎ゼミⅪ/2単位 必修(1,2年合同) ・グループ学習で協働 ・課題の整理・把握・分析	基礎ゼミⅫ/2単位 必修(1,2年合同) ・グループ学習で協働 ・課題の整理・把握・分析			
			基礎ゼミⅠ/2単位 必修(1,2年合同) ・グループ学習で協働 ・課題の整理・把握・分析	基礎ゼミⅡ/2単位 必修(1,2年合同) ・グループ学習で協働 ・課題の整理・把握・分析	基礎ゼミⅢ/2単位 必修(1,2年合同) ・グループ学習で協働 ・課題の整理・把握・分析	基礎ゼミⅣ/2単位 必修(1,2年合同) ・グループ学習で協働 ・課題の整理・把握・分析	基礎ゼミⅤ/2単位 必修(1,2年合同) ・グループ学習で協働 ・課題の整理・把握・分析	基礎ゼミⅥ/2単位 必修(1,2年合同) ・グループ学習で協働 ・課題の整理・把握・分析	基礎ゼミⅦ/2単位 必修(1,2年合同) ・グループ学習で協働 ・課題の整理・把握・分析	基礎ゼミⅧ/2単位 必修(1,2年合同) ・グループ学習で協働 ・課題の整理・把握・分析	基礎ゼミⅨ/2単位 必修(1,2年合同) ・グループ学習で協働 ・課題の整理・把握・分析	基礎ゼミⅩ/2単位 必修(1,2年合同) ・グループ学習で協働 ・課題の整理・把握・分析	基礎ゼミⅪ/2単位 必修(1,2年合同) ・グループ学習で協働 ・課題の整理・把握・分析	基礎ゼミⅫ/2単位 必修(1,2年合同) ・グループ学習で協働 ・課題の整理・把握・分析	基礎ゼミⅬ/2単位 必修(1,2年合同) ・グループ学習で協働 ・課題の整理・把握・分析	基礎ゼミⅭ/2単位 必修(1,2年合同) ・グループ学習で協働 ・課題の整理・把握・分析	
			基礎ゼミⅠ/2単位 必修(1,2年合同) ・グループ学習で協働 ・課題の整理・把握・分析	基礎ゼミⅡ/2単位 必修(1,2年合同) ・グループ学習で協働 ・課題の整理・把握・分析	基礎ゼミⅢ/2単位 必修(1,2年合同) ・グループ学習で協働 ・課題の整理・把握・分析	基礎ゼミⅣ/2単位 必修(1,2年合同) ・グループ学習で協働 ・課題の整理・把握・分析	基礎ゼミⅤ/2単位 必修(1,2年合同) ・グループ学習で協働 ・課題の整理・把握・分析	基礎ゼミⅥ/2単位 必修(1,2年合同) ・グループ学習で協働 ・課題の整理・把握・分析	基礎ゼミⅦ/2単位 必修(1,2年合同) ・グループ学習で協働 ・課題の整理・把握・分析	基礎ゼミⅧ/2単位 必修(1,2年合同) ・グループ学習で協働 ・課題の整理・把握・分析	基礎ゼミⅨ/2単位 必修(1,2年合同) ・グループ学習で協働 ・課題の整理・把握・分析	基礎ゼミⅩ/2単位 必修(1,2年合同) ・グループ学習で協働 ・課題の整理・把握・分析	基礎ゼミⅪ/2単位 必修(1,2年合同) ・グループ学習で協働 ・課題の整理・把握・分析	基礎ゼミⅫ/2単位 必修(1,2年合同) ・グループ学習で協働 ・課題の整理・把握・分析	基礎ゼミⅬ/2単位 必修(1,2年合同) ・グループ学習で協働 ・課題の整理・把握・分析	基礎ゼミⅭ/2単位 必修(1,2年合同) ・グループ学習で協働 ・課題の整理・把握・分析	
領域学修 科目	領域学修 科目	専主専攻プ ログラムの ハジメの 学修	リフレクションデ ザイン ・学修の導入	リフレクションデ ザイン ・学修の導入	リフレクションデ ザイン ・学修の導入	リフレクションデ ザイン ・学修の導入	リフレクションデ ザイン ・学修の導入	リフレクションデ ザイン ・学修の導入	リフレクションデ ザイン ・学修の導入	リフレクションデ ザイン ・学修の導入	リフレクションデ ザイン ・学修の導入	リフレクションデ ザイン ・学修の導入	リフレクションデ ザイン ・学修の導入	リフレクションデ ザイン ・学修の導入	リフレクションデ ザイン ・学修の導入		
			リフレクションデ ザイン ・学修の導入	リフレクションデ ザイン ・学修の導入	リフレクションデ ザイン ・学修の導入	リフレクションデ ザイン ・学修の導入	リフレクションデ ザイン ・学修の導入	リフレクションデ ザイン ・学修の導入	リフレクションデ ザイン ・学修の導入	リフレクションデ ザイン ・学修の導入	リフレクションデ ザイン ・学修の導入	リフレクションデ ザイン ・学修の導入	リフレクションデ ザイン ・学修の導入	リフレクションデ ザイン ・学修の導入	リフレクションデ ザイン ・学修の導入	リフレクションデ ザイン ・学修の導入	
			リフレクションデ ザイン ・学修の導入	リフレクションデ ザイン ・学修の導入	リフレクションデ ザイン ・学修の導入	リフレクションデ ザイン ・学修の導入	リフレクションデ ザイン ・学修の導入	リフレクションデ ザイン ・学修の導入	リフレクションデ ザイン ・学修の導入	リフレクションデ ザイン ・学修の導入	リフレクションデ ザイン ・学修の導入	リフレクションデ ザイン ・学修の導入	リフレクションデ ザイン ・学修の導入	リフレクションデ ザイン ・学修の導入	リフレクションデ ザイン ・学修の導入	リフレクションデ ザイン ・学修の導入	
取得単位	取得単位	127	英語・ゼミは分限してカ ウント(以下同様)	英語・ゼミは分限してカ ウント(以下同様)	英語・ゼミは分限してカ ウント(以下同様)	英語・ゼミは分限してカ ウント(以下同様)	英語・ゼミは分限してカ ウント(以下同様)	英語・ゼミは分限してカ ウント(以下同様)	英語・ゼミは分限してカ ウント(以下同様)	英語・ゼミは分限してカ ウント(以下同様)	英語・ゼミは分限してカ ウント(以下同様)	英語・ゼミは分限してカ ウント(以下同様)	英語・ゼミは分限してカ ウント(以下同様)	英語・ゼミは分限してカ ウント(以下同様)	英語・ゼミは分限してカ ウント(以下同様)		
			英語・ゼミは分限してカ ウント(以下同様)	英語・ゼミは分限してカ ウント(以下同様)	英語・ゼミは分限してカ ウント(以下同様)	英語・ゼミは分限してカ ウント(以下同様)	英語・ゼミは分限してカ ウント(以下同様)	英語・ゼミは分限してカ ウント(以下同様)	英語・ゼミは分限してカ ウント(以下同様)	英語・ゼミは分限してカ ウント(以下同様)	英語・ゼミは分限してカ ウント(以下同様)	英語・ゼミは分限してカ ウント(以下同様)	英語・ゼミは分限してカ ウント(以下同様)	英語・ゼミは分限してカ ウント(以下同様)	英語・ゼミは分限してカ ウント(以下同様)	英語・ゼミは分限してカ ウント(以下同様)	英語・ゼミは分限してカ ウント(以下同様)
			英語・ゼミは分限してカ ウント(以下同様)	英語・ゼミは分限してカ ウント(以下同様)	英語・ゼミは分限してカ ウント(以下同様)	英語・ゼミは分限してカ ウント(以下同様)	英語・ゼミは分限してカ ウント(以下同様)	英語・ゼミは分限してカ ウント(以下同様)	英語・ゼミは分限してカ ウント(以下同様)	英語・ゼミは分限してカ ウント(以下同様)	英語・ゼミは分限してカ ウント(以下同様)	英語・ゼミは分限してカ ウント(以下同様)	英語・ゼミは分限してカ ウント(以下同様)	英語・ゼミは分限してカ ウント(以下同様)	英語・ゼミは分限してカ ウント(以下同様)	英語・ゼミは分限してカ ウント(以下同様)	英語・ゼミは分限してカ ウント(以下同様)

理系型一般入試(基礎学力があり、地域の文化に興味がある)

入試
(入学時の関心)

履修内容の選択 (履修時のブックに記載)	スキル・データ・エンバ素読を選択(データの解読方向上を指向) ↑ 領域専修:建築学専修(地域にまつた文化的建造・植物の観察を志向して) ↑ プロゾヴェ・ゼミ:地域文化の活性化に興味をもち、関連するさまざまな型紙 ↑ シリコンジョーグ:建築史の観点から、地域文化の活性化による地域振興を志し、引 き続き最終的にゼミを選択
---------------------------------	--

ゼミ等での 学習内容・成果、 学修内容・成果、 学修内容・成果は 記載された関係は	基礎ゼミグループ活動の基本的態度、姿勢、 リフレクションⅡと文化と建築 の関係性について、	基礎ゼミグループで信託し学修内容を まとめる力 リフレクションⅡと文化と建築 の関係性について、	基礎ゼミグループ活動をマネジメントする 力 リフレクションⅡと文化と建築 の関係性について、	リテラシー応用：多角的な視点 プロジェクトと文化との建物に関 連した論文を執筆して、批判的思考力、建 造計画に関する研究計画を策定 できる力を養う	リテラシー応用：地域の歴史的建造物を研究し、新たな文化的価値を有する建築物 を提案、設計する。また、歴史学、地域文化を学ぶに他者を出発して、さらに地域振興に 効果的な提案を行う
---	---	---	---	---	--

領域・学修に関連して各自で設定する到達目標の例	1年次の学修から	建築学の基礎的な知識を理解でき、また、建築の歴史を説明できる。	リフレクション ブラジージュアップ	リフレクション ブラジージュアップ	地域の歴史的建造物を考察し、新たに地域文化を活性化できる建築造物や文化財と、その別荘を、歴史的価値点や文化財の視点を争うに他者と議論して、説明できる。	リフレクション・デザインで全体の目標と合わせて、最終的な学修成果の質保証
--------------------------------	-----------------	--	------------------------------	------------------------------	--	---

卒業後の
進路

建築学の知識を活用し、文化的側面も含め、地域の生活の充実に貢献するため

地方公務員

科目履修例 21-2 生物資源科学・流域環境学領域学修科目パッケージ (データサイエンス履修) → 大学院進学

学修内容 分類	小分類	主な担当別 分類	1年次			2年次			3年次			4年次		
			1T	2T	3T	4T	1T	2T	3T	4T	1T	2T	3T	4T
導入・転換 教育科目	導入・転換 教育科目	スタディスキルズ(大学 学修法)	2 必修	2 必修	リテラシー基礎 6 必修	2 必修	2 必修	2 必修	2 必修	2 必修	2 必修	2 必修	2 必修	2 必修
		リフレクシオンデザイン 1 必修	2 必修	2 必修	2 必修	2 必修	2 必修	2 必修	2 必修	2 必修	2 必修	2 必修	2 必修	2 必修
導入・転換 教育科目	導入・転換 教育科目	アカデミック英語(リーディング)/単位 必修	2 必修	2 必修	アカデミック英語(ライティング)/単位 必修	2 必修	2 必修	2 必修	2 必修	2 必修	2 必修	2 必修	2 必修	2 必修
		アカデミック英語(リスニング)/単位 必修	2 必修	2 必修	アカデミック英語(ライティング)/単位 必修	2 必修	2 必修	2 必修	2 必修	2 必修	2 必修	2 必修	2 必修	2 必修
基礎科目	基礎科目	データ処 理・分析	2 必修	2 必修	2 必修	2 必修	2 必修	2 必修	2 必修	2 必修	2 必修	2 必修	2 必修	2 必修
		数学基礎 A	2 必修	2 必修	2 必修	2 必修	2 必修	2 必修	2 必修	2 必修	2 必修	2 必修	2 必修	2 必修
リテラシー コア・ 課題解決 実践科目	リテラシー コア・ 課題解決 実践科目	専任教員 1 必修	2 必修	2 必修	2 必修	2 必修	2 必修	2 必修	2 必修	2 必修	2 必修	2 必修	2 必修	2 必修
		専任教員 1 必修	2 必修	2 必修	2 必修	2 必修	2 必修	2 必修	2 必修	2 必修	2 必修	2 必修	2 必修	2 必修
ゼミ 課題解決 実践	ゼミ 課題解決 実践	専任教員 +α	2 必修	2 必修	2 必修	2 必修	2 必修	2 必修	2 必修	2 必修	2 必修	2 必修	2 必修	2 必修
		専任教員 +α	2 必修	2 必修	2 必修	2 必修	2 必修	2 必修	2 必修	2 必修	2 必修	2 必修	2 必修	2 必修
領域学修 科目	領域学修 科目	専任教員 +α	2 必修	2 必修	2 必修	2 必修	2 必修	2 必修	2 必修	2 必修	2 必修	2 必修	2 必修	2 必修
		専任教員 +α	2 必修	2 必修	2 必修	2 必修	2 必修	2 必修	2 必修	2 必修	2 必修	2 必修	2 必修	2 必修
取得単位	取得単位	専任教員 +α	2 必修	2 必修	2 必修	2 必修	2 必修	2 必修	2 必修	2 必修	2 必修	2 必修	2 必修	2 必修
		専任教員 +α	2 必修	2 必修	2 必修	2 必修	2 必修	2 必修	2 必修	2 必修	2 必修	2 必修	2 必修	2 必修

入試 (入学時の関心)	入試 (入学時の関心)	理系型一般入試(基礎学力があり、生動系や環境に関心がある)													
		理系型一般入試(基礎学力があり、生動系や環境に関心がある)													
履修内容の選択 (履修時のブロックに記載)	履修内容の選択 (履修時のブロックに記載)	スキル・データサイエンス専攻を選択(データの解析力向上を志向) 領域学修: 生物資源科学・流域環境学領域学修(専攻学修として植物と自然環境との 関わりに関心がある) 専攻学修(専攻学修として植物と自然環境との関わりに関心がある)													
		スキル・データサイエンス専攻を選択(データの解析力向上を志向) 領域学修: 生物資源科学・流域環境学領域学修(専攻学修として植物と自然環境との関わりに関心がある) 専攻学修(専攻学修として植物と自然環境との関わりに関心がある)													
ゼミ等での 学修内容・成果、 喚起された興味	ゼミ等での 学修内容・成果、 喚起された興味	基礎ゼミ: プレゼンテーションカ リフレクシオンデザインなど、流域環境学 分野の学修に関心													
		基礎ゼミ: プレゼンテーションカ リフレクシオンデザインなど、流域環境学 分野の学修に関心													
領域学修に関連して各自で 設定する 到達目標の例	領域学修に関連して各自で 設定する 到達目標の例	1年次の学修から													
		1年次の学修から													
卒業後の 進路	卒業後の 進路	自然保全に加え、農業としての生産性も含めた改 善のための研究を志向													
		自然保全に加え、農業としての生産性も含めた改 善のための研究を志向													
大学院進学	大学院進学	大学院進学													
		大学院進学													

科目履修例 22-1 応用生命科学・食品科学領域修科目パッケージ (S.P.A.C.E.履修) → 大学院進学

[illegible]

推薦入試(高校での課題探究活動により、生物学を使った人の生活改善(QOL)に興味がある)

スキル:SPACEを選択(国内外での活動を希望)
領域学修:応用生命科学・食品科学領域学修(生活
物・化学的アプローチに興味向上)

産性向上技術に関連するゼミを選択

った新品種作出に関する研究を志望し、引き続き

基礎ゼミ：グループ活動の基本的態度・姿勢。

基礎ゼミ：グループで協働して学修内容をまとめる力

リテラシー応用：多角的な視点
プロジェクトゼミ：分子生物学を

プロジェクトゼミ：実際の農業でどのようなことが求められているかを具体的にレベルでの

ケージの授業科目に関連する研究室でのラボの課題解決方法の開発を試みる。併せて、社会哲学方面の領域学修者と議論し、あるべき開発

領域学修に関連して各自で
設定する

- ・生物学、特に分子細胞生物学の基本的な考え方の理解
- ・分子細胞生物学を応用して、人の生活の

・分子生物学、細胞生物学の基本概念の理解
・分子生物学、細胞生物学の現実応用への

- ・分子生物学を使った新品種の作出技術の可能性が議論できる
- ・新品種の作出に関して、法律上の制約な

リフレクシオンデザインⅣで全体の目標と合わせて、最終的な学修成果の質保証

卒業後の
進路

大学院進学

科目履修例 22-2 応用生命科学・食品科学領域学修科目パッケージ (データサイエンス履修)→食品メーカー

学修内容 分類	小分類	1年次			2年次			3年次			4年次		
		1T	2T	3T	4T	1T	2T	3T	4T	1T	2T	3T	4T
導入・転換 教育科目	導入・転換 教育科目	スタディスキルズ(大学 学法)	フィールドスタ ディーズ(学外 学修)	リテラシー基礎 6. 必修 理解する課題の 理解	リテラシー基礎 2. 必修 理解	リテラシー基礎 2. 必修 理解	リテラシー基礎 2. 必修 理解	リテラシー基礎 2. 必修 理解	リテラシー基礎 2. 必修 理解	リテラシー基礎 2. 必修 理解	リテラシー基礎 2. 必修 理解	リテラシー基礎 2. 必修 理解	リテラシー基礎 2. 必修 理解
	導入・転換 教育科目	リテラシー基礎 1. 必修 理解	リテラシー基礎 2. 必修 理解	リテラシー基礎 3. 必修 理解	リテラシー基礎 4. 必修 理解	リテラシー基礎 5. 必修 理解	リテラシー基礎 6. 必修 理解	リテラシー基礎 7. 必修 理解	リテラシー基礎 8. 必修 理解	リテラシー基礎 9. 必修 理解	リテラシー基礎 10. 必修 理解	リテラシー基礎 11. 必修 理解	リテラシー基礎 12. 必修 理解
導入・転換 教育科目	導入・転換 教育科目	アカデミック英語(リスニング)/1単位 必修	アカデミック英語(ライティング)/1単位 必修	アカデミック英語(リーディング)/1単位 必修	アカデミック英語(プレゼンテーション)/1単位 必修	アカデミック英語(ディスカッション)/1単位 必修	アカデミック英語(グループワーク)/1単位 必修	アカデミック英語(論文執筆)/1単位 必修	アカデミック英語(発表)/1単位 必修	アカデミック英語(面接)/1単位 必修	アカデミック英語(就職活動)/1単位 必修	アカデミック英語(海外研修)/1単位 必修	アカデミック英語(国際交流)/1単位 必修
	導入・転換 教育科目	アカデミック英語(リスニング)/1単位 必修	アカデミック英語(ライティング)/1単位 必修	アカデミック英語(リーディング)/1単位 必修	アカデミック英語(プレゼンテーション)/1単位 必修	アカデミック英語(ディスカッション)/1単位 必修	アカデミック英語(グループワーク)/1単位 必修	アカデミック英語(論文執筆)/1単位 必修	アカデミック英語(発表)/1単位 必修	アカデミック英語(面接)/1単位 必修	アカデミック英語(就職活動)/1単位 必修	アカデミック英語(海外研修)/1単位 必修	アカデミック英語(国際交流)/1単位 必修
基礎科目	基礎科目	数学基礎A	数学基礎B	数学基礎C	数学基礎D	数学基礎E	数学基礎F	数学基礎G	数学基礎H	数学基礎I	数学基礎J	数学基礎K	数学基礎L
	基礎科目	数学基礎A	数学基礎B	数学基礎C	数学基礎D	数学基礎E	数学基礎F	数学基礎G	数学基礎H	数学基礎I	数学基礎J	数学基礎K	数学基礎L
リテラシー コア科目 履修科目	リテラシー コア科目 履修科目	リテラシー コア科目 履修科目	リテラシー コア科目 履修科目	リテラシー コア科目 履修科目	リテラシー コア科目 履修科目	リテラシー コア科目 履修科目	リテラシー コア科目 履修科目	リテラシー コア科目 履修科目	リテラシー コア科目 履修科目	リテラシー コア科目 履修科目	リテラシー コア科目 履修科目	リテラシー コア科目 履修科目	リテラシー コア科目 履修科目
	リテラシー コア科目 履修科目	リテラシー コア科目 履修科目	リテラシー コア科目 履修科目	リテラシー コア科目 履修科目	リテラシー コア科目 履修科目	リテラシー コア科目 履修科目	リテラシー コア科目 履修科目	リテラシー コア科目 履修科目	リテラシー コア科目 履修科目	リテラシー コア科目 履修科目	リテラシー コア科目 履修科目	リテラシー コア科目 履修科目	リテラシー コア科目 履修科目
スキル習得 中心の科目	スキル習得 中心の科目	データサイエンス 基礎	データサイエンス 応用	データサイエンス 応用	データサイエンス 応用	データサイエンス 応用	データサイエンス 応用	データサイエンス 応用	データサイエンス 応用	データサイエンス 応用	データサイエンス 応用	データサイエンス 応用	データサイエンス 応用
	スキル習得 中心の科目	データサイエンス 基礎	データサイエンス 応用	データサイエンス 応用	データサイエンス 応用	データサイエンス 応用	データサイエンス 応用	データサイエンス 応用	データサイエンス 応用	データサイエンス 応用	データサイエンス 応用	データサイエンス 応用	データサイエンス 応用
ゼミ 履修科目	ゼミ 履修科目	ゼミ 履修科目	ゼミ 履修科目	ゼミ 履修科目	ゼミ 履修科目	ゼミ 履修科目	ゼミ 履修科目	ゼミ 履修科目	ゼミ 履修科目	ゼミ 履修科目	ゼミ 履修科目	ゼミ 履修科目	ゼミ 履修科目
	ゼミ 履修科目	ゼミ 履修科目	ゼミ 履修科目	ゼミ 履修科目	ゼミ 履修科目	ゼミ 履修科目	ゼミ 履修科目	ゼミ 履修科目	ゼミ 履修科目	ゼミ 履修科目	ゼミ 履修科目	ゼミ 履修科目	ゼミ 履修科目
領域学修 科目	領域学修 科目	基礎から 実践まで	基礎から 実践まで	基礎から 実践まで	基礎から 実践まで	基礎から 実践まで	基礎から 実践まで	基礎から 実践まで	基礎から 実践まで	基礎から 実践まで	基礎から 実践まで	基礎から 実践まで	基礎から 実践まで
	領域学修 科目	基礎から 実践まで	基礎から 実践まで	基礎から 実践まで	基礎から 実践まで	基礎から 実践まで	基礎から 実践まで	基礎から 実践まで	基礎から 実践まで	基礎から 実践まで	基礎から 実践まで	基礎から 実践まで	基礎から 実践まで
取得単位	取得単位	127	127	127	127	127	127	127	127	127	127	127	127
	取得単位	127	127	127	127	127	127	127	127	127	127	127	127

入試 (入学時の関心)

履修内容の選択 (履修時のブロックに記載)

ゼミ等での
学修内容・成果、
喚起された興味

領域学修に関連して各自で
設定する
到達目標の例

スキル データサイエンス基礎を選択(データの解析力向上を志向)
領域学修 応用生命科学・食品科学領域学修(新課程の特色である食文化を体験させる
ことによる地域振興を志向)

プロジェクトゼミ 地域産業振興に興味を持ち、関連するゼミを選択

リテラシー応用: 多角的な視点
プロジェクトゼミ: 基礎から応用まで、食品科学の知識を応用し、食品の
開発に貢献する。また、食品の品質向上に貢献する。

リテラシー応用: 多角的な視点
プロジェクトゼミ: 基礎から応用まで、食品科学の知識を応用し、食品の
開発に貢献する。また、食品の品質向上に貢献する。

ソリユーションラボ 食品科学の観点から、地域振興に寄与する研究を志望し、引き続き
同じゼミを選択

ソリユーションラボ 食品科学の観点から、地域振興に寄与する研究を志望し、引き続き
同じゼミを選択

ソリユーションラボ 食品科学の観点から、地域振興に寄与する研究を志望し、引き続き
同じゼミを選択

新商品の食品メーカー

高機能食品の開発による新課程内の食産業の活
性化を志向

本業後の
進路

「主専攻プログラム提供の授業科目」と「領域学修科目パッケージ」との対応

社会・地域文化学プログラム	
領域学修科目パッケージ	主専攻プログラム提供の授業科目名
	人文総合演習A
	人文総合演習B
領域基礎科目	社会・地域文化学入門A
	心理・人間学入門A
	心理・人間学入門B
領域基礎科目	社会・地域文化学入門B
領域基礎科目	歴史文化学入門A
領域基礎科目	歴史文化学入門B
	日本・アジア言語文化入門A
	日本・アジア言語文化入門B
	西洋言語文化入門A
	西洋言語文化入門B
	メディア・表現文化入門A
	メディア・表現文化入門B
	社会調査概説
領域基礎科目	社会解析論
	社会統計学
領域基礎科目	社会学概説A
領域基礎科目	社会学概説B
領域基礎科目	社会学概説C
領域基礎科目	社会学概説D
領域科目	文化人類学概説A
領域科目	文化人類学概説B
	考古学概説A
領域基礎科目	考古学概説B
領域基礎科目	地理学概説A
領域基礎科目	地理学概説B
領域基礎科目	地誌学概説A
領域基礎科目	地誌学概説B
領域基礎科目	民俗学概説A
領域基礎科目	民俗学概説B
	博物館概論
	博物館教育論
領域基礎科目	社会調査法A
領域基礎科目	社会調査法B
	社会調査実習A
	社会調査実習B
	考古学実習A
	考古学実習B
	考古学実習C
	考古学実習D
	地理学実習A
	地理学実習B
	地理学実習C
	地理学実習D
	民俗学実習A
	民俗学実習B
	民俗学実習C
	民俗学実習D
	芸術論実習A
	芸術論実習B
	博物館情報・メディア論
	社会・地域文化基礎演習A
	社会・地域文化基礎演習B
	社会・地域文化基礎演習C
	社会・地域文化基礎演習D
	博物館経営論
	博物館資料保存論
	博物館展示論
領域科目	社会学A
領域科目	社会学B
	現代社会論A
	現代社会論B
領域科目	家族社会学
領域科目	社会意識論
	社会ネットワーク論
	地域社会学
領域科目	文化人類学A
領域科目	文化人類学B
	文化人類学特殊講義
	フィールドワーク
	日本原始社会論A
	日本原始社会論B
	日本文化起源論A
	日本文化起源論B
領域科目	地理空間論A
領域科目	地理空間論B
	民俗文化論A
	民俗文化論B
領域科目	民俗文化論C
領域科目	民俗文化論D
領域科目	日本芸能文化論A
領域科目	日本芸能文化論B
	博物館資料論
	博物館実習
	ミュージアム論
	社会学演習
	文化人類学演習
	民俗学演習
	考古学演習
	地理学演習
	芸術論演習
	卒業論文

自然環境科学プログラム	
領域学修科目パッケージ	主専攻プログラム提供の授業科目名
	環境科学スタディスキルズ
	数学基礎A
	数学基礎B
領域基礎科目	統計学基礎
領域基礎科目	物理学基礎D
	物理学入門
	物理学基礎A II
	物理学基礎C I
	物理学基礎B II
	物理学基礎C II
	化学基礎C
領域基礎科目	物理学基礎A I
	物理学基礎B I
	化学基礎A
	化学基礎B
	生物学基礎A
	生物学基礎B
	地学基礎A
	地学基礎B
領域基礎科目	地学基礎C
	自然環境科学概論A
	自然環境科学概論B
	自然環境科学概論C
	基礎物理学実験
	基礎化学実験
	基礎生物学実験
	基礎地学実験
	環境政策論
	環境経済システム論I
	科学史
	科学・技術と社会
	自然環境科学実験A
	自然環境科学実験B
	自然環境科学実験C
領域基礎科目	多様性生物学A
領域基礎科目	生態学
領域基礎科目	機能形態学A
領域基礎科目	機能形態学B
	多様性生物学B
領域科目	多様性生物学C
	物質科学A
領域基礎科目	環境分析化学
領域基礎科目	物質科学B
領域基礎科目	物質反応化学
領域基礎科目	物質科学C
領域基礎科目	地形学
	地圏環境変動論
領域基礎科目	基礎量子力学
領域科目	地球流体力学
領域基礎科目	環境気象学
	基礎数理演習I
	環境生物学演習
	基礎数理演習II
	環境生物学野外実習A
	環境生物学野外実習B
	環境生物学野外実習C
	環境地質学野外実習
	進化生物学
	保全生物学
領域科目	適応生物学
領域科目	気候システム論
	高層大気科学
領域科目	地形情報科学
領域科目	地球環境化学
領域科目	エネルギー物質科学
領域科目	環境汚染論
	自然科学実験法
領域科目	古環境学
	自然環境科学特論A
	自然環境科学特論B
	自然環境科学特論C
	自然環境科学特論D
	課題研究A
	課題研究B
	課題研究C

22の領域学修科目パッケージの履修を通じて養成される人材像の特徴

【選択する領域学修により育成される人材像の特徴】

創生学部教育プログラム全体で育成される共通の人材イメージ

社会の様々な分野で以下の役割を担う人材としての活躍が想定される。

- ・ 複数分野の知識を統合・デザインすることで、俯瞰的な視野からチームを牽引する人材
- ・ 業種・業界に拘わらず企画・調整能力を発揮して課題解決をサポートする人材
- ・ 柔軟な発想でステークホルダーと協働し、価値創造にむけてチャレンジする人材
- ・ 特徴的な学修スタイルを通じて研ぎ澄まされる感覚（創造性）を活かして新規領域・融合領域を開拓していく人材（研究者）

主にリテラシーコア科目、課題解決実践科目の学修を通して修得する能力

- ① 課題を発見し、その解決に向けて主体的に学修する態度・姿勢
- ② 課題解決に必要な分析力・論理的思考力
- ③ 他者と協働できる自己表現力を有し、問題解決をコーディネートする能力
- ④ 専門領域の知識を有するとともに、多面的な視点から複数分野の知識を選択的に統合し、課題解決の場をデザインする能力

主に領域学修科目の学修を通して修得する能力 【一般的表現】

- ④ 専門領域の知識を有するとともに、多面的な視点から複数分野の知識を選択的に統合し、課題解決の場をデザインする能力

上記の領域学修科目の学修を通して修得する能力に関連して、それぞれの領域学修科目パッケージで育成される人材の特徴と期待される学修成果を次ページ以降に示す。また、【資料 11】の履修例に対応した履修内容の選択理由などをそれぞれ例示する。なお、進路選択については、ここでは各領域学修科目に関連したものを中心に示すが、いずれの進路においても、**多面的な視点から主体的に問題を発見・分析し、専門性の異なる他者と協働できる人材としての活躍が期待される。**

22 の領域学修科目パッケージ

1. 社会・地域文化学領域学修科目パッケージ
2. 言語文化学領域学修科目パッケージ
3. 心理・人間・メディア表現文化学領域学修科目パッケージ
4. 歴史文化学領域学修科目パッケージ
5. 法学領域学修科目パッケージ
6. 経済学領域学修科目パッケージ
7. 経営学領域学修科目パッケージ
8. 数学領域学修科目パッケージ
9. 物理学領域学修科目パッケージ
10. 化学領域学修科目パッケージ
11. 生物学領域学修科目パッケージ
12. 地質科学領域学修科目パッケージ
13. 自然環境科学領域学修科目パッケージ
14. 機械システム工学領域学修科目パッケージ
15. 社会基盤工学領域学修科目パッケージ
16. 電子情報通信領域学修科目パッケージ
17. 知能情報システム領域学修科目パッケージ
18. 化学システム工学領域学修科目パッケージ
19. 材料科学領域学修科目パッケージ
20. 建築学領域学修科目パッケージ
21. 生物資源科学・流域環境学領域学修科目パッケージ
22. 応用生命科学・食品科学領域学修科目パッケージ

1. 社会・地域文化学領域学修科目パッケージ

領域学修により育成される人材の特徴		社会学，文化人類学，民俗学，考古学，人文地理学，芸能論の領域において，人間の営みを具体的な資料に基づいて広く深く理解する力を身に付け，地域文化学的観点から課題把握・解決プロセスを提案・実践できる人材
領域学修で期待される学修成果		・フィールドワークの重要性について理解し，フィールドワークに必要な技法を身につけ，実際に実施できる能力 ・フィールドワークによって得られた資料を整理し，分析することができる能力 ・過去から現在まで様々な地域において形成された社会と文化の多様なあり方について多角的に把握し，理解できる能力
履修例に対応した人材像	1-1	入学時：文系型一般入試（基礎学力があり，国内外の文化や経済に興味がある） スキル選択：S.P.A.C.E.を選択（国内外での活動を希望） 領域選択理由：国内外の文化的観点からの地域活性化を志向して 進路選択：地域を国外にも紹介し，活性化することを目指して観光関連企業で活躍
	1-2	入学時：推薦入試（高等学校での課題探求から，メディアと文化全般に関心がある） スキル選択：データサイエンス実践を選択（データの扱いや分析に関心） 領域選択理由：メディアによる産業活性化を志向して 進路選択：身につけたデータの分析力を活かして情報メディア関連企業で活躍

2. 言語文化学領域学修科目パッケージ

領域学修により育成される人材の特徴	言語文化の学習を通して、異なる価値観を持つ人々とも公正な立場で意志の疎通を図れるような、豊かな感受性、鋭い言語感覚および分析能力・表現能力を兼備し、言語文化学的観点から課題把握・解決プロセスを提案・実践できる人材
領域学修で期待される学修成果	・日本・アジア・西洋など幅広い地域の文化現象について一定の知識を身につけ、理解できる能力 ・過去の文化現象について、分析する方法を身につけ、活用する能力 ・新しい文化現象について、検証する手段・態度を身につけ、実施できる能力
履修例に対応した人材像	2-1 入学時：文系型一般入試（基礎学力があり、国際交流に興味がある） スキル選択：S.P.A.C.E.を選択（国内外での活動を希望） 領域選択理由：言語学的観点の興味が高まり、国際文化理解を志向 進路選択：言語や文化に関する知識を活かして教育・学習支援業で活躍
	2-2 入学時：推薦入試（高等学校での課題探求活動から、文化的な摩擦に関心を持つ） スキル選択：データサイエンス実践を選択（データの扱いや分析に関心） 領域選択理由：文化理解のための言語感覚の修得を志向 進路選択：文化理解を広めるために印刷・出版業で活躍

3. 心理・人間・メディア表現文化学領域学修科目パッケージ

領域学修により育成される人材の特徴		人間が直面する課題に対し、人間性の理解に裏づけられた客観的な分析と思考ができ、また、メディア論と表現文化論の分野における的確でバランスの取れた情報の受容、伝達、分析、処理ができ、それらの能力を活かして課題把握・解決プロセスを提案・実践できる人材
領域学修で期待される学修成果		・人間が、自分自身、世界、メディア環境等をどのように捉えてきたかについて、一定の知識を身につけ、理解する能力 ・人間の心理、思想、表現について、客観的に分析する方法を身につけ、活用する能力 ・自分自身と自分を取り巻く世界に関する漠然とした感覚を検証する手段・態度を身につけ、活用する能力
履修例に対応した人材像	3-1	入学時：文系型一般入試（基礎学力があり、メディアを含む文化全般に興味がある） スキル選択：S.P.A.C.E.を選択（国内外での活動を希望） 領域選択理由：表現文化的観点から、地域産業の国際発信を志向 進路選択：メディアに関する知識を活かした活躍を目指してマルチメディア・プランナーとして活躍
	3-2	入学時：推薦入試（高等学校での課題探求活動から、人間同士の関係に関心が強い） スキル選択：データサイエンス実践を選択（データの扱いや分析に関心） 領域選択理由：人の意識や行動に関する理解を志向 進路選択：環境心理学に関する研究をさらに進めるため心理学系大学院に進学

4. 歴史文化学領域学修科目パッケージ

領域学修により育成される人材の特徴		様々な地域の歴史的文化的背景を理解し、過去を学びつつ現代社会と未来を洞察する能力を持ち、歴史学と文化学的な観点から課題把握・解決プロセスを提案・実践できる人材
領域学修で期待される学修成果		・日本・アジア・西洋など幅広い地域の基本的な歴史的事項について身につけることができる能力 ・過去の出来事について、歴史学の方法を用い、分析することができる能力 ・今後起こる問題について、過去の出来事を参考に分析する態度を身につけることができる能力
履修例に対応した人材像	4-1	入学時：推薦入試（高等学校での課題探求活動から、国際関係に関心が強い） スキル選択：S.P.A.C.E.を選択（国内外での活動を希望） 領域選択理由：歴史的観点から国際問題を学び、国際関係の理解を志向 進路選択：国際関係改善を目指し国際交流団体で活躍
	4-2	入学時：文系型一般入試（基礎学力があり、地域の活性化に興味がある） スキル選択：データサイエンス実践を選択（データの扱いや分析に関心） 領域選択理由：学外学修などで地域を学び、歴史的観点から、地方再生を志向 進路選択：地域の歴史的文化的背景を分析し、教育現場からの地域活性を目指して都道府県職員（教育委員会）として活躍

5. 法学領域学修科目パッケージ

領域学修により育成される人材の特徴	リーガル・マインド（法学的な考え方）とともにリーガル・リテラシー（法の仕組みや考え方を理解し、それを活用する力）を身に付け、問題発見、課題処理、結果の評価といった局面において、法学・政治学的観点から課題把握・解決プロセスを提案・実践できる人材
領域学修で期待される学修成果	・ 法学，政治学の基礎的な用語を理解し，法体系や現行政治・行政制度の基本的構造を理解する能力 ・ 特定の法分野や政治学分野の対象及び構造を理解し，理念・運用について説明する能力 ・ 社会の課題に対して，法的な観点から，問題点を分析する能力（リーガル・マインドとリーガル・リテラシー） ・ 高い人権意識の修得
履修例に対応した人材像	5-1 入学時：文系型一般入試（基礎学力があり，国際関係に興味がある） スキル選択：S.P.A.C.E.を選択（国内外での活動を希望） 領域選択理由：ゼミでの学習から，法の観点からの国際協力を志向 進路選択：国際法の知識と語学力を活かしてN G O職員／国際公務員として活躍
	5-2 入学時：推薦入試（高等学校での課題探求活動から，地方活性化に関心が強い） スキル選択：データサイエンス実践を選択（データの扱いや分析に関心） 領域選択理由：地域での学外学修から，法律にも明るい公務員を志向 進路選択：行政に関わる分析力を活かして地方・国家公務員として活躍

6. 経済学領域学修科目パッケージ

領域学修により育成される人材の特徴	社会経済の基本的制度を学び、経済モデル（理論）分析と経済データ（実証）分析の方法を習得することにより、実践的分析能力を持ち、経済学的観点から課題把握・解決プロセスを提案・実践できる人材、若しくは、地球規模に拡大した経済活動（グローバル経済）に歴史的観点を入れながら様々な切り口から分析する科目を学ぶことにより、幅広い視野を持ち、経済学的観点から課題把握・解決プロセスを提案・実践できる人材				
領域学修で期待される学修成果	・経済学の基礎・応用理論にもとづいた論理的な問題認識能力，問題解決能力 ・日本経済の実情にもとづいた幅広く実用的な知識 ・世界各地域の社会経済の歴史，現状の正確な理解に基づいた広汎な視点				
履修例に対応した人材像	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="408 792 478 1155">6-1</td><td data-bbox="478 792 1369 1155"> 入学時：理系型一般入試（基礎学力があり，理系であるが国際関係に興味がある） スキル選択：S.P.A.C.E.を選択（国内外での活動を希望） 領域選択理由：経済的な観点から，国際関係理解を志向 進路選択：国際経済に関連した科目を履修し，語学力を活かし商社・貿易関連企業で活躍 </td></tr> <tr> <td data-bbox="408 1155 478 1518">6-2</td><td data-bbox="478 1155 1369 1518"> 入学時：推薦入試（高等学校での課題探求活動から，地域活性化に関心が強い） スキル選択：データサイエンス実践を選択（データの扱いや分析に関心） 領域選択理由：学外学修などにより，地域の経済活動の活性化を志向 進路選択：金融系を中心に履修し，それに関わるデータの分析力を活かして金融機関または地方・国家公務員として活躍 </td></tr> </table>	6-1	入学時：理系型一般入試（基礎学力があり，理系であるが国際関係に興味がある） スキル選択：S.P.A.C.E.を選択（国内外での活動を希望） 領域選択理由：経済的な観点から，国際関係理解を志向 進路選択：国際経済に関連した科目を履修し，語学力を活かし商社・貿易関連企業で活躍	6-2	入学時：推薦入試（高等学校での課題探求活動から，地域活性化に関心が強い） スキル選択：データサイエンス実践を選択（データの扱いや分析に関心） 領域選択理由：学外学修などにより，地域の経済活動の活性化を志向 進路選択：金融系を中心に履修し，それに関わるデータの分析力を活かして金融機関または地方・国家公務員として活躍
6-1	入学時：理系型一般入試（基礎学力があり，理系であるが国際関係に興味がある） スキル選択：S.P.A.C.E.を選択（国内外での活動を希望） 領域選択理由：経済的な観点から，国際関係理解を志向 進路選択：国際経済に関連した科目を履修し，語学力を活かし商社・貿易関連企業で活躍				
6-2	入学時：推薦入試（高等学校での課題探求活動から，地域活性化に関心が強い） スキル選択：データサイエンス実践を選択（データの扱いや分析に関心） 領域選択理由：学外学修などにより，地域の経済活動の活性化を志向 進路選択：金融系を中心に履修し，それに関わるデータの分析力を活かして金融機関または地方・国家公務員として活躍				

7. 経営学領域学修科目パッケージ

領域学修により育成される人材の特徴	企業経営に加えて、公共経営、会計・税務の領域に関する専門基礎知識および理論を体系的に学習し、経営学的観点から課題把握・解決プロセスを提案・実践できる人材
領域学修で期待される学修成果	・現代の企業社会の実情にもとづいた実用的な組織運営の知識 ・経営学の基礎・応用理論にもとづいた論理的な問題認識能力，問題解決能力 ・わが国の税制・会計制度の正確な理解に基づいた実務的知識
履修例に対応した人材像	7-1 入学時：文系型一般入試（基礎学力があり，行財政全般に興味がある） スキル選択：S.P.A.C.E.を選択（国内外での活動を希望） 領域選択理由：学外学習で，地方での企業活性化に興味 進路選択：国際的な経営力向上に貢献することを目指して人材コンサルタント企業で活躍
	7-2 入学時：推薦入試（高等学校での学習から，民間企業に興味強い） スキル選択：データサイエンス実践を選択（データの扱いや分析に関心） 領域選択理由：学外学修により，企業運営に興味 進路選択：経営に関するデータの分析力を活かして経営コンサルタント企業で活躍

8. 数学領域学修科目パッケージ

領域学修により育成される人材の特徴	数学の各専門分野の基礎と応用，また，数理科学の知識と考え方に基づいたプログラミングなどの情報科学の基礎とその活用法を学び，抽象的および論理的に考える力を身に付け，数学特有の観点から課題把握・解決プロセスを提案・実践できる人材
領域学修で期待される学修成果	・ 数学の基礎的事項についての理解の徹底と数学的柔軟な思考能力 ・ 諸問題の数学的手法による記述と解決の能力 ・ 数学独自の学問的要請に応えうる能力
履修例に対応した人材像	8-1 入学時：理系型一般入試（基礎学力があり，環境問題には興味があるが，専門性は後で決めたい） スキル選択：S.P.A.C.E.を選択（国内外での活動を希望） 領域選択理由：地球温暖化などの数学的予測に興味 進路選択：更に専門性を伸ばし，地球規模での予測ができるように大学院進学
	8-2 入学時：理系型一般入試（基礎学力があり，様々な分野の統計的扱いに興味がある） スキル選択：データサイエンス実践を選択（データの解析力向上を志向） 領域選択理由：より高度な統計的手法と理解と地域社会での活用を志向 進路選択：多くの地元企業のシステム化に貢献し，地域活性化に貢献できるようにシステムエンジニアとして活躍

9. 物理学領域学修科目パッケージ

領域学修により育成される人材の特徴	自然科学の基礎をなす物理学の修得により，論理的思考能力を身に付け，物理学的な思考から課題把握・解決プロセスを提案・実践できる人材
領域学修で期待される学修成果	・体系化された物理学を系統的に学ぶことにより修得する，様々な分野で貢献できる論理的思考能力及び能動的な問題解決能力 ・基礎的な物理学を学ぶことにより修得する，自然科学的現象をより深く精密に観察，理解する能力
履修例に対応した人材像	9-1 入学時：理系型一般入試（基礎学力があり，商品の開発に興味がある） スキル選択：S.P.A.C.E.を選択（国内外での活動を希望） 領域選択理由：ゼミなどでの学習から物理学的理論を活かした製品開発を志向 進路選択：国際競争に勝てる製品開発を志向し電気系メーカーで活躍
	9-2 入学時：理系型一般入試（基礎学力があり，理系全般に興味がある） スキル選択：データサイエンス実践を選択（データの扱いや分析に関心） 領域選択理由：領域概説の講義で物理的思考に興味を持ち，研究者を志向 進路選択：より専門性を高め，エネルギー関係の研究者を目指して大学院進学

10. 化学領域学修科目パッケージ

領域学修により育成される人材の特徴	化学の基本的な知識を根底にした幅広い理解力と応用力を身に付け、化学的な観点から課題把握・解決プロセスを提案・実践できる人材
領域学修で期待される学修成果	・ 化学の基本原則に基づき物質の物理的および化学的性質を理解できる能力 ・ 物質の反応の仕組みを理解できる能力 ・ 化学の一般的な知識に基づき、論理的に考える能力
履修例に対応した人材像	10-1 入学時：理系型一般入試（基礎学力があり、理学または工学に興味があり、課題学修から適性を決めたいと判断） スキル選択：S.P.A.C.E.を選択（国内外での活動を希望） 領域選択理由：ゼミなどで基礎的な原理の活用に興味を湧き、興味の高かった化学分野での活躍を志向 進路選択：化学合成に興味を持ち、国際競争に勝てる製品開発を希望し化学品合成メーカーで活躍
	10-2 入学時：推薦入試（高等学校での課題探求活動から、物質についての基礎原理とその応用に関心が強い） スキル選択：データサイエンス実践を選択（データの扱いや分析に関心） 領域選択理由：物質の化学的機能化に関する権利化の話に関心 進路選択：専門性を高め、より高度な環境安全性が確保された機能性物質の開発出来る人材になることを志向し、大学院進学

1 1. 生物学領域学修科目パッケージ

領域学修により育成される人材の特徴	変貌し続けている生物学の基礎を学んだ上で、分子・細胞レベルでの研究方法を理解し、生物学の観点から課題把握・解決プロセスを提案・実践できる人材
領域学修で期待される学修成果	・生物の形と機能の原点を理解し、説明することができる能力 ・生命現象を分子の働きから理解し、説明することができる能力 ・遺伝子とその働きを理解し、説明することができる能力
履修例に対応した人材像	11-1 入学時：理系型一般入試（基礎学力があり、高等学校では、数学・物理は選択せず、生物と化学を選択履修したので、漠然と生物・化学関係に関心がある） スキル選択：S.P.A.C.E.を選択（国内外での活動を希望） 領域選択理由：学外学修における企業（食品関係）での体験から広義の生物学分野を志向 進路選択：地域および地球の物質循環に対してよりインパクトの少ない食品生産活動を実現する方向での仕事を担当することを希望し、食品メーカーで活躍
	11-2 入学時：推薦入試（SSH での課題探求活動の結果を、多面的に把握したいと志望） スキル選択：データサイエンス実践を選択（データの扱いや分析に関心） 領域選択理由：特に、興味のある生命現象のより深い理解を志向 進路選択：分子細胞生物学分野の研究者を目指し大学院進学

12. 地質科学領域学修科目パッケージ

領域学修により育成される人材の特徴	地質現象と社会の関わりについての理解を踏まえ、種々の制約条件下で、自然界におけるデータの取得とその解析技術を学び、地質科学的な観点から課題把握・解決プロセスを提案・実践できる人材
領域学修で期待される学修成果	・地質学一般の基礎的な力量をつけ、学問の体系を知ることができる能力 ・地質学および科学技術と社会の関わりの歴史と課題を理解し説明できる能力 ・地質学を通して身につけた理学的な方法・考え方を、実務のあらゆる分野での問題処理能力の根本的な資質の形成に役立てることができる能力
履修例に対応した人材像	12-1 入学時：理系型一般入試（基礎学力があり、理系と文系の融合的な見方に興味がある） スキル選択：S.P.A.C.E.を選択（国内外での活動を希望） 領域選択理由：ゼミ活動などで地域の課題と地質現象の関連に興味 進路選択：地質科学も含む、広い視野から、地域の活性化を目指して地方公務員として活躍
	12-2 入学時：理系型一般入試（基礎学力があり、理系全般に興味がある。高等学校で履修しなかったが地球科学・災害に関心がある。） スキル選択：データサイエンス実践を選択（データの扱いや分析に関心） 領域選択理由：学外学修での地震対策の諸課題に接し、地質科学を選択 進路選択：より確かな地質科学的基盤に立って地域の地盤災害を考えることができ、社会の現場で活躍できる研究者を目指して大学院進学

13. 自然環境科学領域学修科目パッケージ

領域学修により育成される人材の特徴	物理学，化学，生物学，地学の基礎学力を身に付け，自然現象を多角的な視点から総合的に理解する能力を有し，多様で複雑な自然現象のメカニズムを正しく理解して，自然環境の観点から課題把握・解決プロセスを提案・実践できる人材
領域学修で期待される学修成果	・ 自然現象を多角的な視点から理解するために必要な理学に関する基礎知識を身につけ，地球環境システムを理解する能力 ・ 自然科学の各分野にまたがる現象を理解し，説明できる能力 ・ 自然環境と社会とのつながりについて説明することできる能力
履修例に対応した人材像	13-1 入学時：推薦入試（高等学校での課題探求活動から，自然，生物と文化の多様性に関心） スキル選択：S.P.A.C.E.を選択（国内外での活動を希望） 領域選択理由：理学全般の知識を活用して，地球規模の自然課題解決を志向 進路選択：フィールドワークの経験や語学力を活かして，いろいろな地域での生物多様性を考える人材として社会に貢献することを目指し，国際機関／環境NGOで活躍
	13-2 入学時：理系型一般入試（高等学校では学ばなかったが，気象とりわけ地球規模での気候変動に関心がある。） スキル選択：データサイエンス実践を選択（データの扱いや分析に関心） 領域選択理由：理学全般の見識を活用して，地域社会の活性化を志向 進路選択：地球規模での研究活動に参加する経験をとおして，専門的な学修を深め，専門研究者，あるいは技術者になるため大学院に進学（将来は，地方公務員技術職を目指す予定）

1 4. 機械システム工学領域学修科目パッケージ

領域学修により育成される人材の特徴	工学全体の観点から課題を識別でき、また、機械工学に関連した分野の基礎知識の習得と、テクノロジーの学習を通して、機械システム工学的観点から課題把握・解決プロセスを提案・実践できる人材
領域学修で期待される学修成果	・総合工学的観点から課題を識別できる ・機械を構成する部品の強度について評価することができる能力 ・機械を構成する部品の機能（流体力学的，熱力学的）が理解できる能力 ・機械の振動特性について理解することができる能力 ・その外，機械工学に関する基礎的な理論，技術を理解することができる能力
履修例に対応した人材像	14-1 入学時：理系型一般入試（基礎学力があり，商品と人との係わりに興味がある） スキル選択：S.P.A.C.E.を選択（国内外での活動を希望） 領域選択理由：ゼミなどでの課題の検討の中から，製品開発自体に興味 進路選択：人に優しい製品の国際共同開発を考え自動車メーカー技術者として活躍
	14-2 入学時：推薦入試（高等学校での課題探求活動から，製品デザインに関心を持っている） スキル選択：データサイエンス実践を選択（データの扱いや分析に関心） 領域選択理由：地域の独自商品の開発を知り，ものづくりを志向 進路選択：より高い機能性の付与を深く研究するため大学院に進学

15. 社会基盤工学領域学修科目パッケージ

領域学修により育成される人材の特徴	工学全体の観点から課題を識別でき、また、くらしを支える社会基盤施設に関する知識や技能ならびに都市・地域づくりや国土基盤整備のために必要な知識や技法を学び、自然環境との調和や人類の幸福を追求し実践でき、社会基盤工学的観点から課題把握・解決プロセスを提案・実践できる人材
領域学修で期待される学修成果	・総合工学的観点から課題を識別できる ・私たちの暮らしを支える社会基盤施設を計画・設計・建設し、長期にわたって維持・管理するための基礎技術を習得し活用する能力 ・安全・安心な市民生活や経済活動を持続的に営むためのまちづくり・地域づくりや基盤整備に必要な知識や技法を習得し活用する能力
履修例に対応した人材像	15-1 入学時：理系型一般入試（基礎学力があり、人々の生活に興味がある） スキル選択：S.P.A.C.E.を選択（国内外での活動を希望） 領域選択理由：ゼミなどによる地域社会の課題の検討から土木的な開発を志向 進路選択：都市計画についてより高度な知識を学び、国内外の社会で活用することを目指し大学院進学
	15-2 入学時：推薦入試（高等学校での課題探求活動から、地域の問題に関心が高い） スキル選択：データサイエンス実践を選択（データの扱いや分析に関心） 領域選択理由：学外学修で地域開発における土木整備の重要性を理解 進路選択：地域貢献を目指して地方・国家公務員として活躍

16. 電子情報通信領域学修科目パッケージ

領域学修により育成される人材の特徴	工学全体の観点から課題を識別でき、また、電力・エネルギー、電子デバイス、情報通信など、産業社会における高度な技術基盤を支える専門知識と総合的な学力を身につけ、電子情報通信観点から課題把握・解決プロセスを提案・実践できる人材
領域学修で期待される学修成果	・総合工学的観点から課題を識別できる ・数学、物理、コンピューター、プログラミング、電磁気学、電気回路、電子回路などの電子情報通信工学の基礎知識を修得し活用できる能力 ・電子情報通信工学の基礎知識が、エレクトロニクス、情報通信及び電力エネルギーなどの専門領域においてどのように応用されるかを理解でき、活用できる能力
履修例に対応した人材像	16-1 入学時：理系型一般入試（基礎学力があり、理系全般に興味がある） スキル選択：S.P.A.C.E.を選択（国内外での活動を希望） 領域選択理由：災害時の情報通信の有効活用を志向 進路選択：国際共同開発も視野に入れ通信会社で活躍
	16-2 入学時：推薦入試（高等学校での課題探求活動から、エネルギー問題に関心が強い） スキル選択：データサイエンス実践を選択（データの扱いや分析に関心） 領域選択理由：リテラシー基礎で環境と電力エネルギーの関係を学び、その分野での貢献を志向 進路選択：環境との関係をより深く研究するために大学院に進学

17. 知能情報システム領域学修科目パッケージ

領域学修により育成される人材の特徴	工学全体の観点から課題を識別でき、また、コンピューターのハードウェア、ソフトウェア、コンピューター利用技術および情報通信の基礎を修得し、創造性豊かな情報処理・情報通信系技術者として課題把握・解決プロセスを提案・実践できる人材
領域学修で期待される学修成果	・総合工学的観点から課題を識別できる ・知能情報システムの社会・自然・人類に及ぼす影響・効果を理解できる ・ソフトウェア、ハードウェア、ネットワークの基礎を修得する ・より専門性の高い知能情報システムの知識を修得する
履修例に対応した人材像	17-1 入学時：理系型一般入試（基礎学力があり、ゲームも含めソフトウェア全般に興味がある） スキル選択：S.P.A.C.E.を選択（国内外での活動を希望） 領域選択理由：課題解決に有効なソフトウェア自体の開発を志向 進路選択：国際的にも活用できるソフトウェア開発を目指してシステムエンジニアとして活躍
	17-2 入学時：推薦入試（高等学校での課題探求活動から、文化的な面も含めコンピューターの様々な応用に関心がある） スキル選択：データサイエンス実践を選択（データ解析力向上を志向） 領域選択理由：コンピューター自体の成り立ちを知った上での効果的な活用を志向 進路選択：機器の知能化に関する知識技術をより深く学びその応用性を考えるため大学院に進学（将来は研究者を目指す予定）

18. 化学システム工学領域学修科目パッケージ

領域学修により育成される人材の特徴	工学全体の観点から課題を識別でき、また、将来を含めた人類の福祉と地球生態系の保全に貢献できる「エンジニアリングセンスを持っている応用化学者」あるいは「ケミカルマインドを持っている化学工学者」として、化学的視点から課題把握・解決プロセスを提案・実践できる人材
領域学修で期待される学修成果	・総合工学的観点から課題を識別できる ・グローバル化した高度社会において生じる種々の問題に対して、それを解決するための科学技術、特に化学技術に関連する専門性 ・化学技術に関連するプロジェクトにおけるコミュニケーション能力と調整能力 ・新しい発想に基づく革新的技術の創生を企画して行動する能力
履修例に対応した人材像	18-1 入学時：推薦入試（SSH での課題探求活動から、科学全般の様々な活用に興味がある） スキル選択：S.P.A.C.E.を選択（国内外での活動を希望） 領域選択理由：ゼミなどの議論の中から、科学の中でも興味の高かった化学の分野で課題解決のできる研究者を志向 進路選択：バイオエネルギーの活用について、より深く研究し、より専門性を高める目的で大学院に進学
	18-2 入学時：理系型一般入試（基礎学力があり、環境問題に興味がある） スキル選択：データサイエンス実践を選択（データの分析力向上を志向） 領域選択理由：学外学修での地域の課題として、水質問題に触れて、化学的な知識の有効活用を志向 進路選択：水質問題などで地域に貢献したいと考え地方・国家公務員として活躍

19. 材料科学領域学修科目パッケージ

領域学修により育成される人材の特徴	工学全体の観点から課題を識別でき、また、高次機能を有する物質に関わる現象の原子・分子レベルからの理解とその本質を見抜く洞察力を身につけ、幅広い視点からの材料の開発に関連して、材料科学的観点から課題把握・解決プロセスを提案・実践できる人材
領域学修で期待される学修成果	・ 総合工学的観点から課題を識別できる ・ 物理と化学の基礎をしっかりと身につけることで、広い視野から材料科学を理解でき、活用する能力 ・ 電子工学・機械工学に関する知識を習得し、これを活用することができる能力 ・ 物質の特性を、それを構成する原子・分子の性質から予想できる能力
履修例に対応した人材像	19-1 入学時：理系型一般入試（基礎学力があり、理系のいくつかの分野に興味がある） スキル選択：S.P.A.C.E.を選択（国内外での活動を希望） 領域選択理由：物質に関する様々な観点を学び、その社会での活用も含め、より広い視野での材料開発を志向 進路選択：世界的な材料開発の現場での活躍を目指して化学プラント開発で活躍
	19-2 入学時：推薦入試（高等学校での課題探求活動から、人間生活と製品材料に関心がある） スキル選択：データサイエンス実践を選択（データの分析力向上を志向） 領域選択理由：物質開発側から、人の生活における問題を解決することを志向 進路選択：より高度な機能化商品の開発能力を高める目的で大学院に進学

20. 建築学領域学修科目パッケージ

領域学修により育成される人材の特徴	工学全体の観点から課題を識別でき、また、都市・建築および人間の安全性・健康性を確保するための建築構造物の構築、文化的で安全かつ健康な建築の計画と設計、さらには豊かで持続可能な都市・地域環境の創造に関連し、建築学的観点から課題把握・解決プロセスを提案・実践できる人材
領域学修で期待される学修成果	・総合工学的観点から課題を識別できる ・建築の計画と設計を進めるうえで必要となる基礎知識を有し、活用する能力 ・建築を設計するうえで必要となる環境・設備に関する基礎知識を有し、活用する能力 ・建築を設計するうえで必要となる材料・構造に関する基礎知識を有し、活用する能力
履修例に対応した人材像	20-1 入学時：入学時：推薦入試（高等学校での SSH 活動から、人の生活環境改善に関心がある） スキル選択：S.P.A.C.E. を選択（国内外での活動を希望） 領域選択理由：住居自体から、生活環境改善にアプローチすることを志向 進路選択：国内外の住居研究も含め、より高度な研究を進めるため大学院に進学
	20-2 入学時：理系型一般入試（基礎学力があり、地域の文化に興味がある） スキル選択：データサイエンス実践を選択（データの解析力向上を志向） 領域選択理由：地域にあった建造物の開発を志向 進路選択：建築学の知識を活用し、文化的な側面も含め、地域の人々の生活の充実に貢献するため地方公務員として活躍

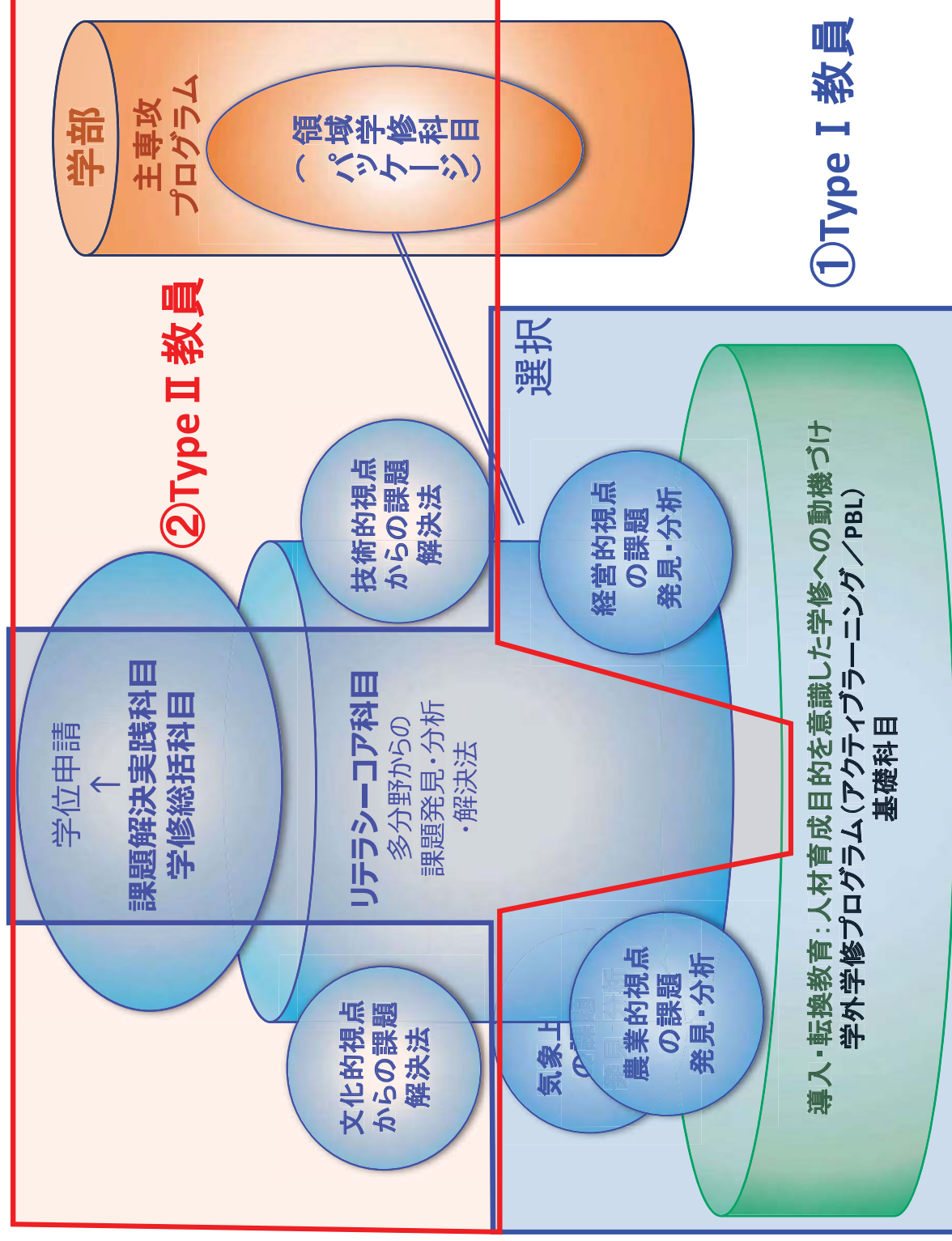
2 1. 生物資源科学・流域環境学領域学修科目パッケージ

領域学修により育成される人材の特徴	自然の生態系を重視した農業のあり方と生産力のさらなる向上を目指した農山村地域の発展，地域および地球規模での自然環境と調和した森林の管理・経営，地域の農業基盤の充実を通じて人間生活を豊かにするための農業工学に関連して，課題把握・解決プロセスを提案・実践できる人材
領域学修で期待される学修成果	・植物ならびに動物の生産を基盤とした経済活動である農業の基礎知識を習得し，地球規模から見た現在の農業について理解することができる能力 ・上流域の森林から中山間地を経て下流域の水田地帯に至る一連の流域における資源・環境・防災の諸問題を理解し，流域管理の視点を得る能力
履修例に対応した人材像	21-1 入学時：推薦入試（高等学校での課題探求活動から，新潟の産業振興に興味がある） スキル選択：S.P.A.C.E.を選択（国内外での活動を希望） 領域選択理由：新潟の特徴である農業を活性化することによる地域貢献を志向 進路選択：農業特区としての新潟の新しい農業の開発と生産物の世界展開を目指して農業指導員として活躍
	21-2 入学時：理系型一般入試（基礎学力があり，生態系や環境に興味がある） スキル選択：データサイエンス実践を選択（データの解析力向上を志向） 領域選択理由：学外学修などで植物と自然環境との関わりに興味が高まり，特に農林学と環境に関する学修を志向 進路選択：自然保全に加え，農業としての生産性も含めた改善策を研究するため大学院に進学

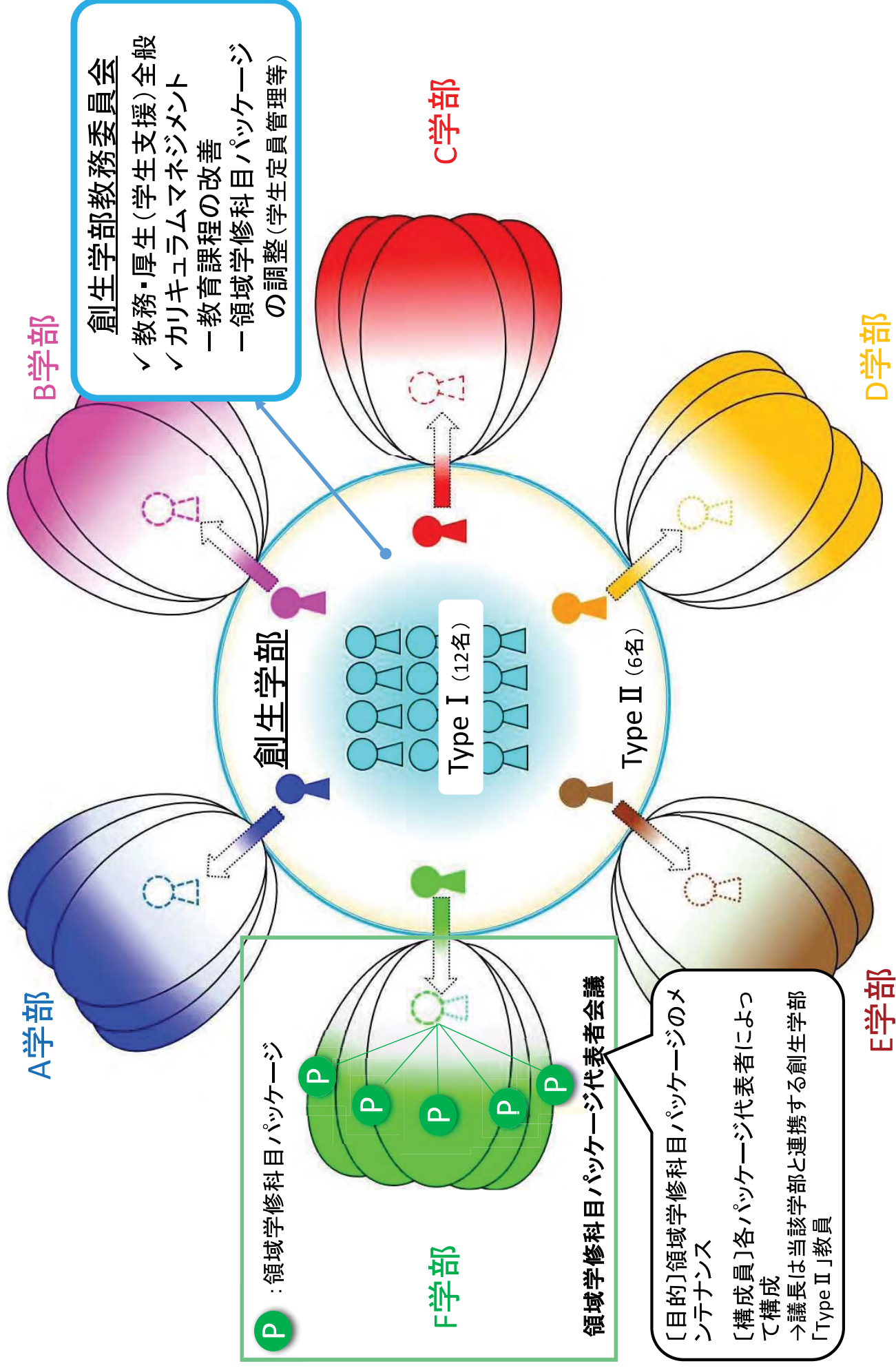
2.2. 応用生命科学・食品科学領域学修科目パッケージ

領域学修により育成される人材の特徴	農林畜産物の生産・利用や食品・環境・農業・医薬品等の広範囲の対象に関する生物・化学関連の研究・技術開発・教育等，および，食産業を中心として健康分野に関連して，課題把握・解決プロセスを提案・実践できる人材
領域学修で期待される学修成果	・微生物・植物・動物の生命現象を分子や細胞のレベルで理解し，生物の持つ様々な機能を開発・応用するための知識を身につけ，活用する能力 ・食品による人の健康維持を目指した，食品および栄養に関する幅広い知識を獲得し，活用できる能力 ・人間生活や地球環境保全に関連の深い土壌の働きや，植物生理と肥料，および植物成分の化学的利用などに関する知識を活用できる能力
履修例に対応した人材像	22-1 入学時：推薦入試（高等学校での課題探求活動により，人の生活の質（QOL）改善に興味がある） スキル選択：S.P.A.C.E.を選択（国内外での活動を希望） 領域選択理由：生活環境における薬品開発などの生物・化学的アプローチを志向 進路選択：分子生物学について，より深い知識とその活用を身につけるため大学院に進学
	22-2 入学時：理系型一般入試（基礎学力があり，新潟の文化に興味がある） スキル選択：データサイエンス実践を選択（データの解析力向上を志向） 領域選択理由：新潟の特徴である食文化を発展させることによる地域振興を志向 進路選択：高機能食品の開発による新潟県内の食産業の活性化を考えて新潟の食品メーカーで活躍

創生学部専任教員 (Type I / Type II) の担当イメージ



創生学部教育組織と既存学部との連携



S.P.A.C.E. (Skills Program for Academic and Content English)

新しい実践英語プログラム“S.P.A.C.E.”の紹介

新潟大学では、平成25年度からグローバル人材を育成するための新しい英語教育プログラムをスタートさせました。

本プログラムで集中的に英語を学習することにより、各自の専門領域で国境を超えて活躍できる素地を築くことができます。

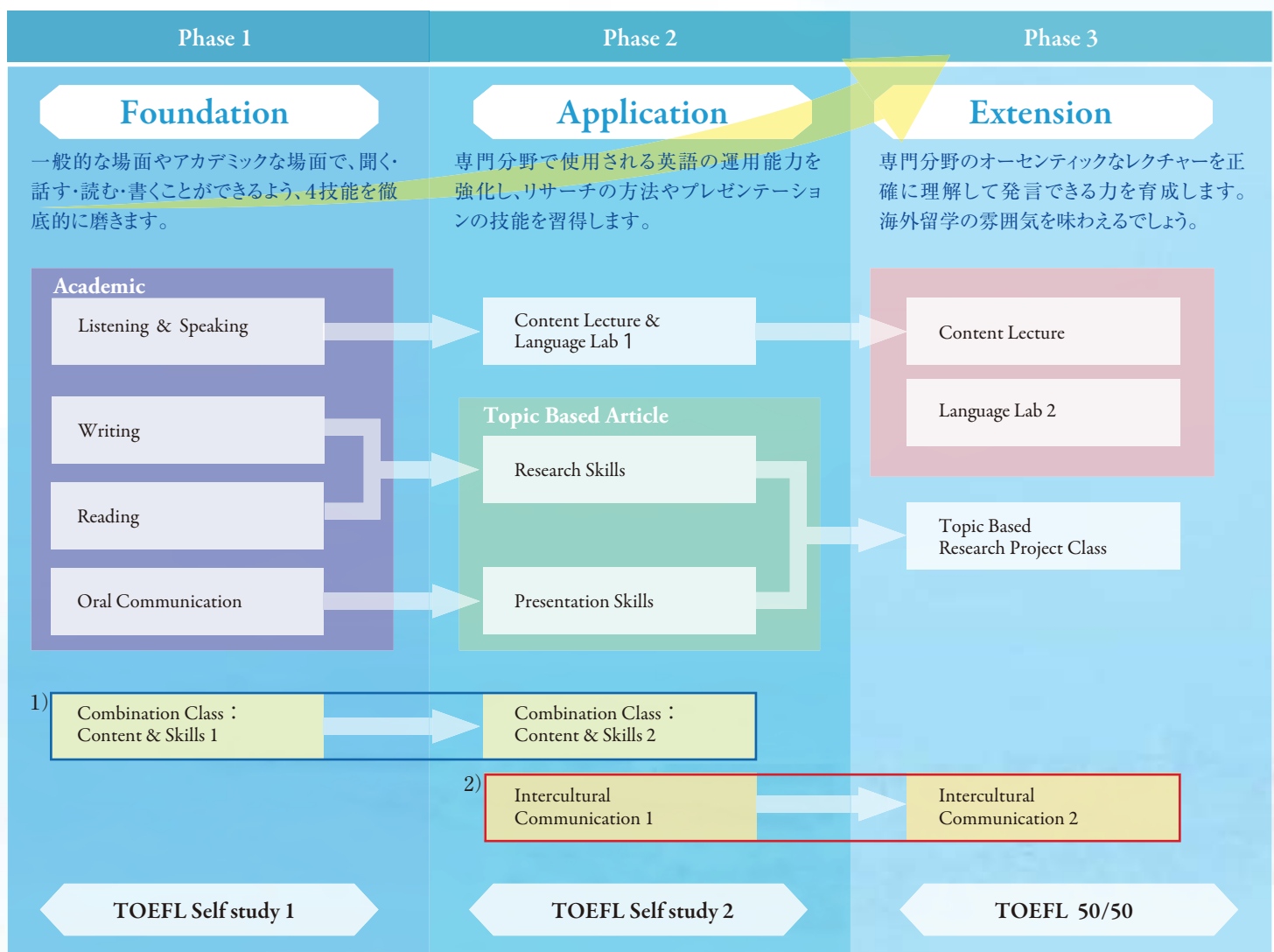
本プログラムでは、少人数クラスにて、主に英語教育を専門とするネイティブ教員から毎日英語を学びます。

3つのフェーズを段階的に学習することによって、3学期間で一般的な英語だけでなく、専門分野に特有な英語運用能力の強化を目指します。

同時に、留学先でも授業に積極的に参加し、グローバル社会で活躍することができる異文化間コミュニケーション能力を育成します。

Project for the Promotion of Global Competency - English Language Curriculum

S.P.A.C.E. (Skills Program for Academic and Content English)



1) は、学部の専門授業で必要となる英語を学びます。

2) は、英語による国際教養に関する授業です。

留学や海外での就業経験を持つ教員の指導のもと、国内外を問わず想定される文化摩擦への対処方法等を一緒に考えます。

※ S.P.A.C.Eプログラムは、平成26年度は法・医・工の3学部の希望者(学部定員の1割程度)のみを対象としますが、順次他学部にも拡大していく予定です。

少人数教育を通じた学生へのサポートと指導体制

資料17

学年	段階	ターム	ゼミなどの配属等	担任	担任教員の学生へのサポート内容と学生の選択等に関する検討・決定体制	履修中の主な科目
1年	大学での学習やPBLに慣れ、基礎的なスキルを身につける段階	1-2	基礎ゼミⅠ・Ⅱ年合同でのゼミ活動。教員2人のゼミに、学生26名程度。5人前後のグループで活動。ゼミの配属は、基本的に教員側で指定する。基礎ゼミⅠ～Ⅳの間でゼミを移動し、複数の教員の指導を経験する。	基礎ゼミⅠの担任教員2名が学生26名を担当(2年次まで継続)	・4年間の学修計画 →創生学修入門、リフレクションデザインⅠとあわせて、個々の学修計画への助言	創生学修入門 スタディスキルズ リフレクションデザインⅠ フィールドスタディーズ
		3-4	同上	基礎ゼミⅠの担任教員2名が学生26名を担当(2年次まで継続)／履修するゼミは変更する	・領域学修の選択 →TypeⅡ教員と連携し、履修領域等のアドバイスをを行う ⇒学部教員会議で確認、調整、決定 各領域学修科目パッケージの定員を超えないように、成績等を検討し、配属を決定 ・S.P.A.C.E./データサイエンス実践の選択 →学生の関心に沿って助言 ⇒学部教員会議で確認、調整、決定 成績等を検討し、履修を決定 ・到達目標の設定 →TypeⅡ教員と協働して助言 ⇒学部教員会議で確認、修正、決定	リテラシー基礎 リフレクションデザインⅡ 情報処理・データ分析、 領域概説
2年	より発展的に課題に取り組んで行く段階	1-2	同上	基礎ゼミⅠの担任教員2名が学生26名を担当(2年次まで継続)／履修するゼミは変更する	・リテラシー科目、領域学修科目の相談・助言 →学生の履修状況を見ながらサポートをする ⇒TypeⅡ教員、主専攻担任教員と連携、相談 ⇒学部教員会議に報告 ・到達目標のブラッシュアップ →担任教員が助言	データサイエンス基礎、 リテラシー応用 S.P.A.C.E. 領域学修 データサイエンス実践A、 リテラシー応用
		3-4	同上	基礎ゼミⅠの担任教員2名が学生26名を担当(2年次まで継続)／履修するゼミは変更する	・到達目標のブラッシュアップ →担任教員が助言 ⇒学部教員会議で確認	データサイエンス実践B S.P.A.C.E. 領域学修 データサイエンス実践C、 地域・国際交流
3年	ラボでの活動に向けた準備態勢を整えていく段階	1-2	プロジェクトゼミⅠ 3年生のみでのゼミ。基本的に教員2人1組で指導。 ゼミは、学生の希望に合わせて決定。各ゼミの学生は13人程度。希望が偏った場合は、面談、成績をもとに振り分け。	プロジェクトゼミの担任教員2名が学生13名を担当	・プロジェクトゼミの選択 →学生が関心を持つテーマ等をもとにアドバイス等を行う ⇒学部教員会議で最終決定(決定方法は左記) ・テーマの絞り込み →学生の関心領域を聞きながら、ソリューションラボのテーマ設定につながる学修計画を支援 ・到達目標のブラッシュアップ →担任教員が助言	リテラシー応用 領域学修 フィールドスタディーズコーディネート
		3-4	プロジェクトゼミⅡ 基本的には、プロジェクトゼミⅠからの継続。ただしプロジェクトゼミⅠの時とは異なるゼミへの移動は可。	プロジェクトゼミの担任教員2名が学生13名を担当	・ラボの選択 →ゼミでの発表等をもとに、所属ラボの決定を支援し、ラボの教員との橋渡しを行う ⇒学部教員会議で最終決定(希望と成績を検討) ・到達目標のブラッシュアップ →担任教員が助言 ⇒学部教員会議で確認	領域学修 地域・国際交流
4年	4年間の学習をまとめ、一つの研究をまとめて行く段階	1-2	ソリューションラボⅠ ラボは、基本的に学生の希望に合わせて決定。希望が偏った場合は、面談、成績をもとに振り分け。	ソリューションラボの担任教員が学生数名を担当	・進路に合わせた履修等 →進学希望者の履修指導等、卒業後の進路に合わせた対応 ・リフレクションデザインⅢでの領域学修の成果確認(TypeⅡ教員) ⇒学部教員会議で確認、単位取得決定	フィールドスタディーズコーディネート リフレクションデザインⅢ
		3-4	ソリューションラボⅡ 原則的にソリューションラボⅠから継続して履修。	同上	・4年間の総括と卒業後を見据えた指導 →リフレクションデザインⅣなどの科目とあわせて、4年間の学修をキャリアの中に位置づけるための指導・助言 ⇒学部教授会で確認、学位申請へ	リフレクションデザインⅣ

指導等に関連する体制

創生学部教授会 (=学部教員会議)	→	学位審査等、教学に関する重要事項の決定 学生指導全般の検討と実施事項の決定 (教育成果の確認)
教務委員会		
カリキュラム検討会議	→	リテラシーコア・課題解決実践科目を中心にカリキュラム全体の体系的検討・改善
領域学修科目パッケージ代表者会議(TypeⅡ教員が中心)	→	領域学修の調整・検討
担任の指導	→	個別学生への指導
教育戦略統括室(学修成果検証委員会)	→	学修成果の外部評価

新潟県と新潟大学との連携に関する協定書

新潟県（以下「甲」という。）と国立大学法人新潟大学（以下「乙」という。）は、次のとおり包括連携協定を締結する。

（目的）

第1条 本協定は、甲と乙が相互の緊密な連携と協力により、地域の課題に適切に対応し、活力ある個性豊かな地域社会の形成と発展に寄与することを目的とする。

（連携事項）

第2条 甲と乙は、前条の目的を達成するため、以下の事項について連携し協力する。

（1）甲と乙が有する知的資源、人的資源及び物的資源の活用に関すること。

（2）甲と乙が共同で実施する事業の企画、調整及び推進に関すること。

（3）その他前条の目的を達成するために必要な事項に関すること。

（連携協議会）

第3条 前条に掲げる連携を円滑に進めるため、甲と乙とで構成する連携協議会を設置する。

2 連携協議会に関し必要な事項は別に定める。

（有効期間）

第4条 本協定の有効期間は、締結日から3年間とする。ただし、有効期間満了の2ヶ月前までに、甲又は乙のいずれからも申し出がない場合は、さらに3年間更新するものとし、その後も同様とする。

（疑義の決定）

第5条 本協定に定めのない事項及びこの協定に関し疑義が生じた場合は、甲と乙が協議の上、決定する。

本協定の締結を証するため、本協定書2通を作成し、それぞれ1通を保有する。

平成20年9月9日

甲

乙

新潟県

国立大学法人新潟大学

新潟県知事

学長

永田 裕彦 下 條 文武

新潟市と新潟大学との連携に関する協定書

新潟市（以下「甲」という。）と国立大学法人新潟大学（以下「乙」という。）は、次のとおり包括連携協定を締結する。

（目的）

第1条 本協定は、甲と乙とが包括的な連携のもと、相互に協力し、地域社会の発展と人材の育成に寄与することを目的とする。

（連携・協力内容）

第2条 甲と乙は、前条の目的を達成するため、次に掲げる分野について、連携・協力するものとする。

- (1) 自然及び環境に関すること。
- (2) 教育及び文化に関すること。
- (3) 産業及び科学技術に関すること。
- (4) まちづくりに関すること。
- (5) 医療、保健及び福祉に関すること。
- (6) 国際交流に関すること。
- (7) 人材育成に関すること。
- (8) その他前条の目的を達成するため必要な分野に関すること。

（連携協議会）

第3条 前条に掲げる事項の円滑な推進を図るため、甲と乙とで構成する連携協議会を設置するものとする。

2 連携協議会に関し必要な事項は別に定める。

（有効期間）

第4条 本協定の有効期間は、締結日から5年間とする。ただし、本協定による有効期間満了の日の30日前までに、甲又は乙から何らかの申し出がないときは、さらに5年間更新するものとし、その後も同様とする。

（協議）

第5条 本協定に定める事項について疑義が生じたとき又は本協定に定めのない事項について定める必要があるときは、甲、乙が協議して定めるものとする。

本協定締結の証として本書2通を作成し、甲、乙それぞれ署名の上、各々1通を保有するものとする。

平成17年6月3日

甲 新潟市学校町通1番町602番地1

乙 新潟市五十嵐二の町8050番地
国立大学法人 新潟大学

新潟市長

学 長

藤田 昭

長谷川 彰

阿賀町と新潟大学教育・学生支援機構とのダブルホーム連携協定書

阿賀町（以下「甲」という。）と国立大学法人新潟大学教育・学生支援機構（以下「乙」という。）は次のとおり協定を締結する。

（目的）

第1条 本協定は、甲と乙とがダブルホームを中心とした教育活動において連携及び協力し、地域の活性化と学生の社会人としての汎用的能力の養成に寄与することを目的とする。

（協力内容）

第2条 甲と乙は、前条の目的を達成するため、ダブルホームに関わる次に掲げる事項について、連携及び協力する。

- (1) 地域と学生の交流に関すること。
- (2) 自然及び環境に関すること。
- (3) 教育及び文化に関すること。
- (4) その他甲と乙が必要と認めること。

（連携協議会）

第3条 前条に掲げる事項の円滑な推進を図るため、甲と乙とで構成する連携協議会を設置する。

2 連携協議会に関し必要な事項は別に定める。

（有効期間）

第4条 本協定の有効期間は、協定締結の日から3年間とする。ただし、本協定の有効期間満了の日の30日前までに、甲又は乙から書面による解約・変更の申し出がない場合は、さらに1年間更新するものとし、その後も同様とする。

（協議）

第5条 本協定に定めるもののほか、連携及び協力に関し必要な事項は、甲、乙が協議して別に定める。

本協定締結の証として本書2通を作成し、甲、乙それぞれ署名の上、各々1通を保有する。

平成23年3月5日

甲 新潟県東蒲原郡阿賀町
津川 580 番地

阿賀町長

神田敏彦

乙 新潟県新潟市西区
五十嵐2の町 8050 番地
国立大学法人 新潟大学
教育・学生支援機構
機構長

生田孝至

承 諾 書

新潟大学創生学部（仮称）における授業科目「フィールドスタディーズ（学外学修）」の実施に際し、下記のとおり、平成 29 年度から学生を受け入れることを承諾します。

記

受入機関 ：新潟市

学外学修先 ：新潟市西区役所

（自治会・町内会その他地域コミュニティ団体など）

受入可能人数：50名

平成28年3月16日

新潟市長

篠田

昭



国立大学法人新潟大学長 高橋 姿 様

学外学修先一覧

No	受入機関	所在地	学外学修先（フィールド）	授業科目	受入可能 人数
1	新潟市	新潟市中央区学校町通1番町 602番地1	新潟市西区役所 （自治会，町内会，その他地域コミュニ ティ団体など）	フィールドスタディ ーズ（学外学修）	50名
2	阿賀町	新潟県東蒲原郡阿賀町津川580 番地	阿賀町役場，その他阿賀町地域全域	同 上	20名
3	新日鉄住金ソリ ューションズ 株式会社	東京都中央区新川二丁目27-1 東京住友ツインビル東館	ソリ ューション企画・コンサルディング センター	同 上	5名

承 諾 書

新潟大学創生学部（仮称）における授業科目「フィールドスタディーズ（学
外学修）」の実施に際し、下記のとおり、平成 29 年度から学生を受け入れる
ことを承諾します。

記

受入機関　：阿賀町
学外学修先：阿賀町役場
 その他阿賀町地域全域
受入可能人数：20 名

平成 2 8 年 3 月 14 日

阿賀町長 神 田 敏 郎



国立大学法人新潟大学長　高 橋　姿　殿

学外学修先一覧

No	受入機関	所在地	学外学修先（フィールド）	授業科目	受入可能 人数
1	新潟市	新潟市中央区学校町通1番町 602番地1	新潟市西区役所 （自治会，町内会，その他地域コミュニ ティ団体など）	フィールドスタディー ズ（学外学修）	50名
2	阿賀町	新潟県東蒲原郡阿賀町津川580 番地	阿賀町役場，その他阿賀町地域全域	同 上	20名
3	新日鉄住金ソリ ューションズ 株式会社	東京都中央区新川二丁目27-1 東京住友ツインビル東館	ソリューション企画・コンサルティング センター	同 上	5名

承 諾 書

新潟大学創生学部（仮称）における授業科目「フィールドスタディーズ（学
外学修）」の実施に際し、下記のとおり、平成 29 年度から学生を受け入れる
ことを承諾します。

記

受入機関：新日鉄住金ソリューションズ株式会社
学外学修先：ソリューション企画・コンサルティングセンター
最大受入可能人数：5 名

平成 2 8 年 3 月 1 8 日

新日鉄住金ソリューションズ株式会社
ソリューション企画・コンサルティングセンター所長
法 兼 尚 志



国立大学法人新潟大学長 高 橋 姿 殿

学外学修先一覧

No	受入機関	所在地	学外学修先（フィールド）	授業科目	受入可能 人数
1	新潟市	新潟市中央区学校町通1番町 602番地1	新潟市西区役所 （自治会，町内会，その他地域コミュニ ティ団体など）	フィールドスタデュー ズ（学外学修）	50名
2	阿賀町	新潟県東蒲原郡阿賀町津川580 番地	阿賀町役場，その他阿賀町地域全域	同 上	20名
3	新日鉄住金ソリ ューションズ 株式会社	東京都中央区新川二丁目27-1 東京住友ツインビル東館	ソリューション企画・コンサルティン グセンター	同 上	5名

Point 2 ダブルホーム制による、地域の教育力を生かした学生支援

〈ダブルホーム〉は新潟大学独自の取り組みです

新潟大学では、学生がさまざまな場面で困難に直面しても適切に対処できるように、地域の教育力を生かして汎用的能力を養成する活動に取り組んでいます。

ダブルホーム制における第一のホームは、学生が入学し、卒業するまでの「学び」を支援する学部・学科です。本学は多様な学問分野・領域を有する総合大学ですが、学部・学科を横断して幅広く学生と教職員がつながりをもつような場はありませんでした。そこで、文系、理系、医歯系の学生が専門の慶をとり払って自由に参加できる居場所として第

二のホームを設けました。
第二のホームでは、本学の教員が地域と連携して取り組んでいるプロジェクトに参加します。ホームではメンバーと話し合いながら、多くの体験をすることによって、心を鍛え、自らのライフキャリアに生かすことを目的としています。

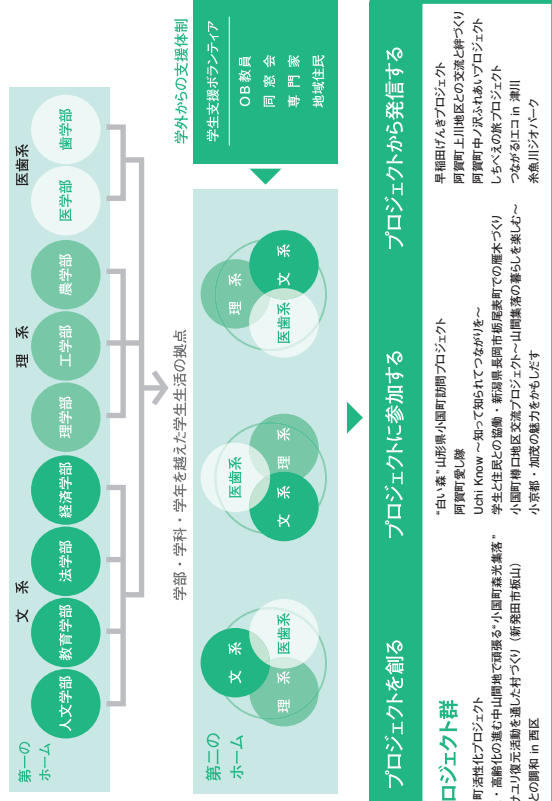
また、地域での活動を通して多様な価値観を持った人とのふれ合いから生まれるコミュニケーション能力の向上や、各自の専門性を生活者の立場からより深く認識することができ

〈ダブルホーム〉の活動

これまでにダブルホームでは様々なプロジェクトに参加して活動を行ってきました。過疎・高齢化の進む中山間地のプロジェクトに参加したホームは、限界集落の現状を学びつつ、稲作の手伝いをしたり、郷土料理を教えていただいたりしながら、地域の方と交流しています。

自然との調和 in 西区のプロジェクトに参加したホームは、大学近隣の自然を中心に現地調査を行い、その過程で関わる様々な立場の方と交流し、自分たちが暮らす地域について理解を深めています。

ダブルホーム構成



Eホーム アース・アース 自然との調和 in 西区

「地域の紹介・活動内容」

Eホーム（アース・アース）は新潟市西区赤塚にある佐潟で活動しています。白鳥をはじめとする水鳥や水生植物などが数多く生息する自然豊かな佐潟は、ラムサール条約登録湿地です。ラムサール条約の理念には、湿地を失うことなく賢く利用していくワイズユースという考えがあります。私たちはこの考えに基づいて、潟の自然に触れることのほか、潟の産物である葦を用いた紙すき体験やハスを利用した工作を行うなどの活動を行っています。

●参加者の声

ダブルホーム活動は、学部や学年を越えた様々な学生、大学内部の教職員、大学外部の地域の方々との幅広い交流を行うことができます。
この活動では、コミュニケーション能力を高めることや、広い視野で物事を考えることなど、社会の一員として必要な力を身につけることができます。また、活動は学生主体で行うことができるため、自主性や積極性、さらには企画力を磨くことができます。
私は人と話すことが苦手でしたが、この活動を続けるうちに様々な人とコミュニケーションをとることができるようになり、気が付くと初対面の人にも物怖じせず、話しかけることができるようになっていました。
ダブルホーム活動の多様な交流によって、人としての成長や人との出会いの大切さを覚えることができます。ぜひ皆さんにもこれらを感じてもらいたいと思います。

工学部 機能材料工学科
杉山 健太さん

Qホーム SunQ

早稲田げんきプロジェクト

「地域の紹介・活動内容」

Qホーム（SunQ）は新潟県村上市早稲田地区で活動しています。早稲田地区は豊かな自然と活力あふれる住民の方々が魅力の地域です。かつては養蚕業が盛んでしたが、現在はその当時に作られた桑畑が耕作放棄地となっており、私たちがQホームは桑の活用方法を考えることなどを通して、地域の方々と一緒に地区のさらなる活性化を目指しています。今までは地区の方に声をかけていただいて活動することが多かったのですが、今年度からはかわら版の作成や学生が企画した活動も行っています。

法学部 法学科
今井 奈津美さん

●参加者の声

私がダブルホーム活動に参加したのは、普段自分が関わることのできない方々と交流できるという点に魅力を感じたからです。他学部、他学年の学生はもちろん、教職員や訪問する地域の方々など、自分とは違う視点を持った方々と一緒に活動する機会は非常に貴重なものです。
実際に様々な考えを持つ方々と交流する中で、自分の意見を言うこと、異なる意見をすり合わせるなど、活動を行うために準備を行うこと、何か起きた時に臨機応変に対応すること、活動後の反省を次回に活かせるように話し合いをすることなど、拙いながらも自ら動かそうとすることで、これらの経験が少しずつ自身の力となっているように思います。
また、人との関わりを持つことだけではなく、これまで行ってきたことのない地域で、伝統工芸や郷土料理といった文化に触れることも可能です。ここでしか得られないくさんの出会いがダブルホーム活動にはあります。





タイトル「2015年度」、フォルダ「2015年度一学部一新潟大学個性化科目一自由主題」
シラバスの詳細は以下となります。



科目名(Course Title)	キャリアを共に考える-自己理解・他者理解		
担当教員(Instructor)	西條 秀俊		
対象学年(Targeted Student Year)		開講番号(Class Number)	150G3239
講義室(Room)	総合教育研究棟 B-355	開講学期(Semester)	第1学期
曜日・時限(Day/Period)	木3	単位数(Credit(s))	2
授業形態(Class Type)	講義・演習	資格(Qualifications)	
副専攻(Minor)			
分野(Academic Field)	75,74	水準(Academic Standard)	01
対象学部等(Designated Faculty)	全学部1年次学生対象		
聴講指定等(Designated Students)			
科目の概要(Course Outline)	この講義は、教育・学生支援機構キャリアセンターが全学部を対象に開講するキャリア意識形成科目である。 キャリアとは、単に仕事や職務のことではなく、一生を通して仕事や社会といかに向き合い、いかにかわっていくのかという仕事や人生の生き方すべてを包括する。大学は社会に出る前のひとつの大きな節目であるが、「大学生活に何をしたいかわからない」「やりたいことが見つからない」「将来にはっきりとした希望が持てない」といった初年次学生を対象とし、キャリア意識形成について学生が自ら「気づき」を得ることができるようにグループワークを交えながら、自分らしいキャリアとは何かを一緒に考えていく。 また、自己理解のメソッド「MBTI」（セルフアセスメント心理検査）を活用することで自己肯定観を高め、人の多様性も理解した上で、自分自身のキャリア形成に対し、興味や関心の動機についての「気づき」を得ることができる。 学生が自発的、積極的に参加することが大前提であり、将来を見据えた上で自分らしい生き方を模索して、これからの大学生活の具体的な目標設定を行い、グループワークでプレゼンテーションをおこなう。		
科目のねらい(Course Objectives)	人の数だけ生き方があるように、キャリアも人の数だけある。自分を見失わず自分の個性にあった納得いく人生を送るためには、まず自分を知ること（自己理解）、他者を知ること（他者理解）、お互いを理解すること（相互理解）により、これから進むべき方向性を見つけ、将来に向かって人生計画（キャリアデザイン）を策定できることをねらいとしている。		
学習の到達目標(Specific Learning Objectives)	・主体的に考え、行動する力を身につける ・自己理解・他者理解・相互理解ができる ・生き方・働き方の多様性を理解する ・グループワークで必要な力を身につける ・基本的なプレゼンテーションスキルを身につける		
登録のための条件(注意)			

(Prerequisites)	
学習方法・学習上の注意(Study Advice)	・社会人によるオムニバス講義や受講生どうしでのグループワークも交えながらおこなうので、実社会でのルールを求める。具体的には、全出席、時間厳守、受講態度(マナー)、オープンマインド、積極参加を原則とする。 ・日常生活の中で自分を理解し、人の多様性を知ることにより建設的な人間関係づくりに役立ち、世界45ヶ国以上で利用されている性格検査であるMBTIを利用する。検査にかかる費用1,600円程度は自己負担とする。
授業計画(Lesson Plans)	1. 自分らしい生き方とは、価値観の多様性を理解 2. チームワーク、問題解決能力、リーダーシップ理解 3. 自己理解、他者理解、相互理解のための心理検査<MBTI> 4. 私は「何がしたいのか」「できるのか」「すべきなのか」 5. 「キャリア(進路)決定の体験談」とグループワーク 6. 自分創り(自己分析)ワークと社会で必要とされる力 7. 「人生の転機とキャリアの体験談」とグループワーク 8. 自分創り(自己分析)ワークと職業理解 9. 具体的な目標設定と実行具体策を策定 10. プレゼンテーション発表とフィードバック
成績評価の方法と基準(Grading Criteria)	提出課題及び毎回講義後の課題(学務情報「アンケート」機能を使用)等(50%)、期末課題レポート(30%)、グループ学習の成果(20%)を基本評価とし、講義への参加意欲を加点の上、総合的に評価する。
使用テキスト(Textbook(s))	『MBTIタイプ入門』イザベル・ブリックス・マイヤース著 園田由紀訳JPP株式会社 定価2,000円(税別)(MBTIの検査にかかる費用は、別途1,600円程度) 『キャリアを共に考えるーワークシート』西條秀俊監修 新潟大学教育・学生支援機構キャリアセンター定価300円(税別) 『CANカード(価値観カード)』新潟大学教育・学生支援機構キャリアセンター 定価800円(税別) 『CANガイド』新潟大学教育・学生支援機構キャリアセンター(入学時配付資料)
参考文献(References)	講義中に適時紹介する。
関連リンク1(Link 1)	新潟大学 教育・学生支援機構 キャリアセンター
関連リンク2(Link 2)	日本MBTI協会 (Japan MBTI Association)
関連リンク3(Link 3)	
関連リンク4(Link 4)	
備考(Remarks)	文理融合科目 定員を超えた場合、第1回目の出席者を優先し、学部別受講人数を考慮の上、決定する。聴講希望者は、必ず、第1回目の講義に出席のこと。

